

兵庫県立 こども病院 年報 2014 VOL.45

兵庫県立こども病院年報

2014 VOL.45



HYOGO PREFECTURAL
KOBE CHILDREN'S HOSPITAL ANNUAL REPORT 14 VOL.45

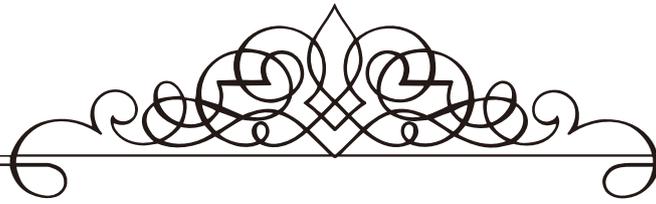


基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1 患者の権利を尊重した医療の実践
- 2 安全・安心と信頼の医療の遂行
- 3 高度に専門化されたチーム医療の推進
- 4 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
- 5 親とこどもが一体となった治療の推進
- 6 こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
- 7 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
- 8 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

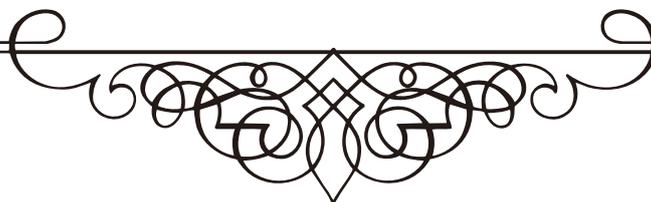


患者の権利

- 1 あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3 あなたとご家族には、治療方針について同意や拒否する権利及びセカンドオピニオンを受ける権利があります。
- 4 あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たちがお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう。今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。



はじめに

兵庫県立こども病院
病院長 長嶋 達也

「治す」「支える」「引き継ぐ」ことを担って

はじめに、兵庫県立こども病院に期待を寄せ、見守り応援してくださるすべての皆様に感謝申し上げます。2014年度の歩みを記録した年報をお届けいたします。年報を通じて当院の活動へのご理解が深まり、一層のご支援、ご指導を賜ることができれば幸いに存じます。

2014年4月に、集学的治療、思春期・若青年期の医療、緩和医療、晩期合併症予防、長期フォロー含む小児がんの包括的医療体制を有する「小児がん医療センター」を開設いたしました。こども病院に隣接して整備される「小児がんに重点を置いた新しい粒子線治療施設」の基本設計も進み、最先端の小児がん治療センターとしての全貌が明らかになってまいりました。同じく4月に小児心臓センターを開設することにより、先天性心疾患に対する胎児診断、手術、思春期・若成人期、成人にいたる連続した医療を地域の中で組織的に提供できる体制の整備を進めています。先天性心疾患の患者の過半数が成人に達するという現状にたいして、神戸大学と連携した新たな取り組みも進めています。周産期医療と小児救急医療というこども病院を支える2本の柱に二つの新しいセンターが加わり、こども病院を支える4本の大黒柱になります。極めてリスクの高い新生児の治療やあらゆる困難な外科的治療が可能であるという他にはない特性を生かして、広域を支える「最後の砦」として機能してまいります。

さて、新病院の建築は予定通り進みつつあります。2014年度末現在、鉄骨は立ち上がり、新病院の全体像が立ち現れてまいりました。現地にはモデル病室も設営されています。新しい医療情報システムの整備を行い、最後に人工呼吸器が必要な小さな赤ちゃん達の引っ越しという大仕事が待ち構えています。多くの期待を担って素晴らしいこども病院となるよう力を尽くしたいと存じます。

最も大切でそして最も困難な仕事は、新しい病院に魂を入れることです。1970年の開設から築き上げてきた実績に基づき、時代の要請にこたえて新しい医療をいかに展開して

いくかが問われています。あたりまえのことですが、こども病院に入院する患児・ご両親は「治る」ことを期待されます。したがって、私たちの第1の使命は「治す」ことであり、「治せるものは必ず治す」ことに全力を傾けます。しかし、いかに進歩した医学をもってしてもすべての病気を「治す」ことができるわけではなく、むしろ、「治らない」病気のこども達を受け入れることが私たちの使命でさえあります。病気や障害をもって育っていくこどもとその親を「支える」ことがますます大切になってまいりました。こども病院のかけがえのない価値は、第1に病気を「治す」ことにより生まれる「希望」であり、第2に病気や障害とともに生きていくこどもと親を「支える」ことにより生まれる「安心」にあります。「治す」ことと「支える」ことをこども病院の両輪としてまいります。そして、成長とともに責任をもって成人医療に「引き継ぐ」という大切な使命も果たしてまいります。

こども病院は、多くの方々の温かい支援を得ることにより初めてその力を発揮いたします。間もなく始まる2015年度は、こども病院にとって新築移転を控えた特別な1年となります。一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

I 病 院 概 要

| | |
|--------------------|----|
| 1 兵庫県立こども病院の設立目的 | 1 |
| 2 沿 革 | 1 |
| 3 業 務 図 | 4 |
| (1) 機構一覧表 | 4 |
| (2) 担当医師表 | 5 |
| (3) 外来診療スケジュール | 6 |
| 4 職 員 | 7 |
| (1) 職種別人員表 | 7 |
| 5 近畿厚生局長への届出に関する事項 | 8 |
| 6 研修・教育認定施設内容 | 9 |
| 7 委員会一覧 | 10 |

II 医 事 経 理 関 係

15

III 診 療 統 計

| | |
|----------------|----|
| 1 総合診療科 | 31 |
| 2 救急集中治療科 | 32 |
| 3 代謝・内分泌科 | 36 |
| 4 リウマチ科・アレルギー科 | 37 |
| 5 脳神経内科 | 38 |
| 6 血液・腫瘍科 | 40 |
| 7 循環器科 | 43 |
| 8 腎臓内科 | 45 |
| 9 精神神経科 | 46 |
| 10 小児外科 | 48 |
| 11 心臓血管外科 | 52 |
| 12 脳神経外科 | 55 |
| 13 形成外科 | 58 |
| 14 整形外科 | 59 |
| 15 眼科 | 60 |

| | | |
|----|----------------|-----|
| 16 | 耳鼻咽喉科 | 62 |
| 17 | 泌尿器科 | 66 |
| 18 | 小児歯科 | 68 |
| 19 | 麻酔科 | 69 |
| 20 | 新生児科 | 71 |
| 21 | 産科 | 74 |
| 22 | 放射線科 | 80 |
| 23 | 病理診断科 | 82 |
| 24 | 看護部 | 83 |
| 25 | 薬剤部 | 96 |
| 26 | 検査・放射線部（検査部門） | 100 |
| 27 | 検査・放射線部（放射線部門） | 108 |
| 28 | 栄養管理課 | 112 |
| 29 | 指導相談・地域医療連携部 | 117 |
| 30 | ME室 | 123 |
| 31 | 理学療法 | 124 |
| 32 | 医療安全室 | 125 |
| 33 | 感染対策管理室 | 127 |
| 34 | 褥瘡管理室 | 130 |
| 35 | がん相談支援室 | 131 |

IV 学会・研究・教育活動

| | | |
|---|---------------|-----|
| 1 | 書籍 | 133 |
| 2 | 雑誌 | 135 |
| 3 | 学会発表 | 146 |
| 4 | 報道関連 | 179 |
| 5 | 実習生・研修生受け入れ状況 | 180 |
| 6 | 院内・院外研修 | 185 |

| | | |
|---|--------|-----|
| V | ボランティア | 221 |
|---|--------|-----|

I 病 院 概 要

1. 兵庫県立こども病院の設立目的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行う小児専門病院の設置を望む社会的要請に応えて、県政 100 年の記念事業の一環として、昭和 45 年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
- (2) 小児に関する医療相談機関であること。
- (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
- (4) 小児医療従事者の育成研修期間であること。

などがあります。

平成 6 年 10 月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の 24 時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。

また、平成 14 年 10 月より県下の第 3 次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成 19 年 10 月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしました。

2. 沿革

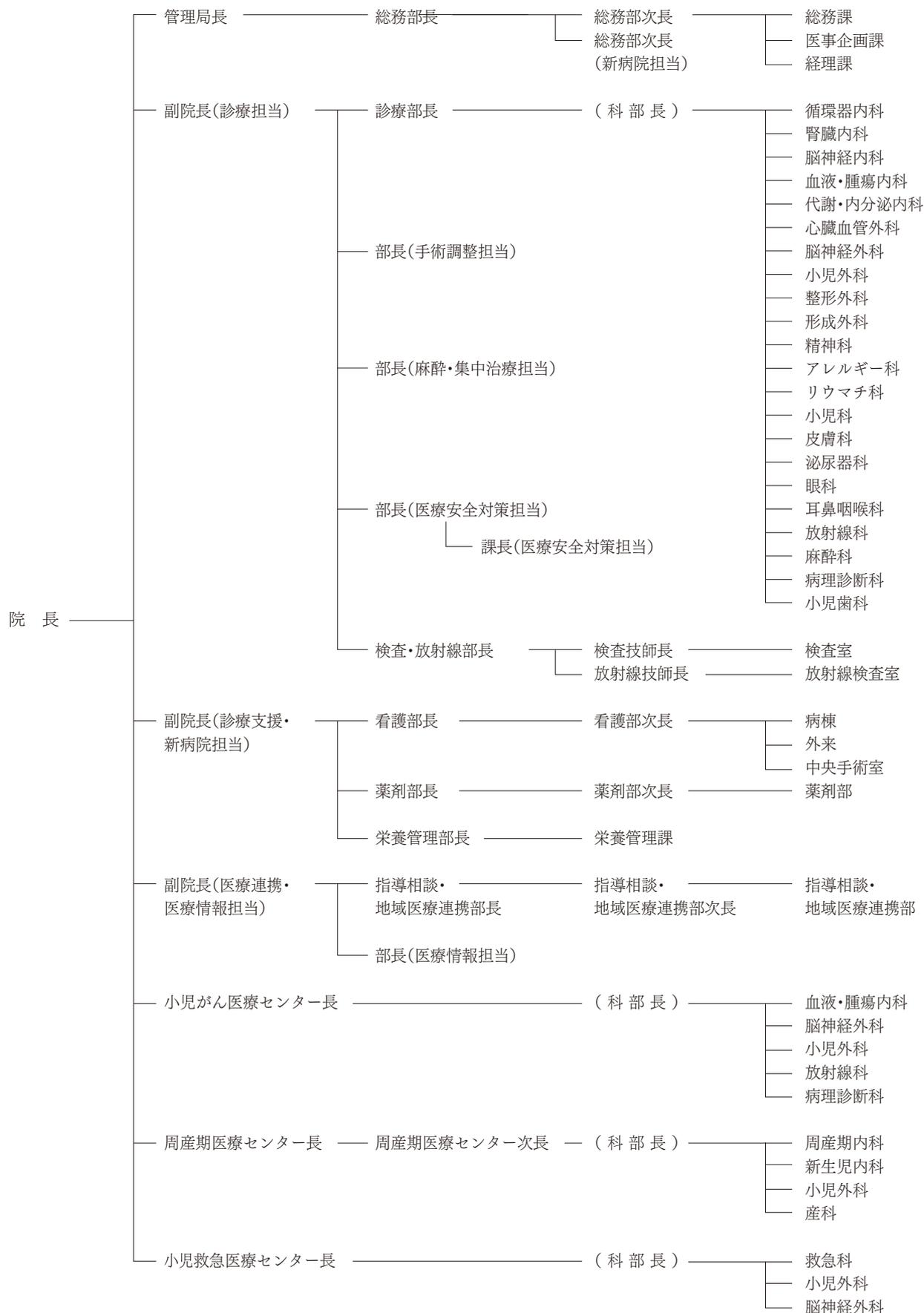
- | | | |
|-------|-------------------|---|
| (1) 名 | 称 | 兵庫県立こども病院 |
| (2) 開 | 設 | 昭和 45 年 4 月 1 日 (現管理者 長嶋 達也) |
| (3) 所 | 在 | 神戸市須磨区高倉台 1 丁目 1-1 TEL 078-732-6961(代表) |
| (4) 診 | 療 | 精神科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、代謝・内分泌内科、周産期内科、新生児内科、整形外科、形成外科、脳神経外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、心臓血管外科、産科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科、救急科、小児歯科 |
| (5) 病 | 床 | 数 一般 290 床 (稼働 266 床) |
| (6) 沿 | 革 | |
| | 昭和 45 年 4 月 1 日 | 病院開設 (管理者 平田 美穂) |
| | 昭和 45 年 4 月 30 日 | 病院本館完成 |
| | 昭和 45 年 5 月 8 日 | 診療開始 |
| | 昭和 45 年 7 月 23 日 | 基準寝具実施 (寝第 295 号) |
| | 昭和 45 年 9 月 17 日 | 基準給食実施 (食第 307 号) 基準看護実施 (看第 130 号) |
| | 昭和 46 年 12 月 28 日 | 母と子の指導教室完成現在は母と子の教室と呼称 |
| | 昭和 47 年 2 月 1 日 | 基準看護一般特類変更承認 (険第 98 号) |
| | 昭和 47 年 12 月 1 日 | 基準看護精神特類変更承認 (険第 219 号) |

| | |
|-------------------|--|
| 昭和 49 年 10 月 1 日 | 基準看護一般特二類変更承認（険第 108 号）基準看護精神特一類変更承認（険第 108 号） |
| 昭和 50 年 4 月 1 日 | 管理者変更受理（管理者児嶋喜八郎） |
| 昭和 54 年 3 月 31 日 | 全館防災設備工事完成 |
| 昭和 54 年 8 月 2 日 | 日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される |
| 昭和 55 年 4 月 1 日 | 昭和 55 年 3 月 26 日兵庫県条例第 11 号兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加 |
| 昭和 56 年 5 月 5 日 | シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携 |
| 昭和 56 年 10 月 7 日 | 日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される |
| 昭和 56 年 10 月 12 日 | 日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される |
| 昭和 56 年 12 月 6 日 | 日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される |
| 昭和 57 年 4 月 1 日 | 日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される |
| 昭和 58 年 4 月 1 日 | 日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される |
| 昭和 58 年 4 月 11 日 | 日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される |
| 昭和 58 年 10 月 1 日 | 日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される |
| 昭和 60 年 3 月 18 日 | プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携 |
| 昭和 60 年 3 月 28 日 | 日帰り手術棟完成 |
| 昭和 60 年 4 月 3 日 | 日本形成外科学会認定医研修施設として認定される |
| 昭和 60 年 4 月 15 日 | 日帰り手術棟手術開始 |
| 昭和 61 年 3 月 31 日 | 日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される |
| 昭和 61 年 4 月 1 日 | 管理者変更受理（管理者玉木健雄） |
| 昭和 61 年 4 月 1 日 | 日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される |
| 昭和 61 年 10 月 1 日 | 日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される |
| 昭和 62 年 1 月 22 日 | 自家発電設備改良工事完成 |
| 平成元年 2 月 1 日 | 外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される |
| 平成 3 年 5 月 1 日 | 基準看護一般特三類（一部）変更承認（険第 220 号） |
| 平成 4 年 4 月 1 日 | 基準看護一般特三類（260 床に）変更承認（険第 363 号）医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始 |
| 平成 4 年 5 月 9 日 | 週 40 時間制試行 |
| 平成 4 年 5 月 18 日 | 病床数 260 床に変更承認（精神病棟廃止） |
| 平成 4 年 7 月 6 日 | 病床数 290 床に変更承認（兵庫県指令医第 1 - 67 号） |
| 平成 4 年 7 月 29 日 | 周産期医療センター安全祈願祭 |
| 平成 4 年 11 月 7 日 | 週 40 時間制本格実施 |
| 平成 5 年 4 月 1 日 | 管理者変更受理（管理者竹峰久雄） |
| 平成 6 年 7 月 20 日 | 周産期医療センター定礎式 |
| 平成 6 年 9 月 1 日 | 管理者変更受理（管理者小川恭一） |
| 平成 6 年 9 月 30 日 | ドクターズカー購入 |
| 平成 6 年 9 月 30 日 | 周産期医療センター完成 |
| 平成 6 年 10 月 1 日 | 行政組織規則の改正（兵庫県規則第 66 号）により、周産期医療センターを設置 |

| | |
|---------------|---|
| 平成6年 10月 3日 | 周産期医療センター開設記念式典 |
| 平成6年 10月 4日 | 周産期医療センター診療開始 |
| 平成7年 1月 17日 | 阪神・淡路大震災 |
| 平成7年 9月 1日 | 本館改修工事に着手 |
| 平成8年 4月 1日 | 日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される |
| 平成10年 6月 30日 | 本館改修工事完了 |
| 平成11年 4月 2日 | 管理者変更受理（管理者山本節） |
| 平成12年 3月 1日 | 総合周産期母子総合医療センターとして指定される |
| 平成12年 4月 24日 | 慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）を開設 |
| 平成13年 10月 10日 | 駐車場立体化工事に着手 |
| 平成14年 2月 28日 | 立体駐車場完成 |
| 平成14年 4月 1日 | 臨床研修病院指定（厚生労働省発医政第 0401006） |
| 平成14年 4月 1日 | 地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行 |
| 平成14年 10月 15日 | 第3次小児救急開設（稼働病床 260床） |
| 平成15年 4月 2日 | 管理者変更（管理者中村肇） |
| 平成15年 10月 30日 | 臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第 1030005号 -511,519,526,533） |
| 平成15年 11月 28日 | 臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第 1128007号 -330） |
| 平成16年 3月 22日 | （財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.3.1） |
| 平成16年 4月 1日 | アレルギー科追加 |
| 平成18年 4月 1日 | 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設として認定される |
| 平成18年 4月 1日 | 日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）として認定される |
| 平成19年 10月 1日 | 小児救急医療センターを開設（稼働病床 266床） |
| 平成20年 4月 1日 | 管理者変更（管理者丸尾猛） |
| 平成21年 4月 1日 | 医療法施行令の改正に伴う診療科目標榜名変更 |
| 平成21年 7月 3日 | （財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.5.0） |
| 平成21年 12月 16日 | 地域医療支援病院の名称使用承認 |
| 平成21年 1月 4日 | 「母と子の指導教室」を「研修センター」に改修して供用開始 |
| 平成22年 4月 1日 | 駐車場の拡張（北駐車場増設）と有料化 |
| 平成23年 1月 4日 | 本館玄関周辺及び玄関ロビーを改修して供用開始 |
| 平成24年 4月 9日 | 中国福利会国際和平婦幼保健院と交流協定締結 |
| 平成25年 2月 8日 | 小児がん拠点病院として指定される |
| 平成25年 4月 1日 | 管理者変更（管理者 長嶋 達也） |
| 平成26年 4月 1日 | 小児がん医療センター設置 |
| 平成26年 12月 8日 | 新生児専用ドクターズカー運行開始 |

3. 業務図

(1) 機構一覧表 (2014.12.31 現在)



(2) 担当医師表 (2014.12.31 現在)

- (1) 小児科 宅見晃子、山崎武美 (非常勤)
- (2) 新生児内科 中尾秀人、芳本誠司、溝淵雅巳、坂井仁美、和田佳子、浅野貴大
秋田大輔
- (3) 脳神経内科 永瀬裕朗、丸山あずさ、藤田杏子
- (4) 循環器内科 城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川禎治
亀井直哉
- (5) 腎臓内科 田中亮二郎、中川拓
- (6) 代謝・内分泌内科 郷司克己、尾崎佳代
- (7) 血液・腫瘍内科 小阪嘉之、川崎圭一郎、長谷川大一郎、矢内友子、石田敏章、
神前愛子
- (8) 救急科 上谷良行、福原信一、竹田洋樹、山口善道、中岸保夫、神田杏子、
梶原伸介、楠元真由美
- (9) アレルギー・リウマチ科 三好麻里、笠井和子
- (10) 小児外科 前田貢作、横井暁子、尾藤祐子、福澤宏明、遠藤耕介、大片祐一
- (11) 心臓血管外科 大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典
- (12) 脳神経外科 長嶋達也、河村淳史、山元一樹、阿久津宣行
- (13) 形成外科 大山知樹
- (14) 整形外科 薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀
- (15) 泌尿器科 杉多良文、中川賀清、久松英治、奈良健平
- (16) 耳鼻咽喉科 大津雅秀、阪本浩一 (兼務)
- (17) 眼科 野村耕治、柳沢翠芳
- (18) 精神科 関口典子
- (19) 小児歯科 小本由美子
- (20) 産科 船越徹、佐本崇、喜吉賢二、高松祐幸、牧志綾、南谷智之
- (21) 放射線科 赤坂好宣、上原栄理子
- (22) 麻酔科 香川哲郎、鈴木毅、高辻小枝子、大西広泰、池島典之、野々村智子
上北郁男、山根悠、山路寛人、末田グリンドロド彩、木山亮介
- (23) 病理診断科 吉田牧子
- (24) フェロー・専攻医 田中司、古賀千穂、雪本千恵、三木康暢、祖父江俊樹、白鳥孝俊
日外祐理、齋藤敦郎、二野菜々子、高藤哲、植村優、横井健人
辻真之介、石田悠介、水田麻雄、生田寿彦、江口武志、武岡恵美子
角健司、富岡和美、中西啓太、上村和也、山口宏、橋本興人、
瓦野昌大、神納幸治 (小児科)
岩出珠幾、森田圭一、玉城昭彦、武本淳吉 (小児外科)
野田怜、岩城隆馬、松島峻介 (心臓血管外科)
大塚邦紀、山川皓 (脳神経外科)
森本萌恵、進來壘、(形成外科)
武岡由樹 (整形外科)
清末晶子 (泌尿器科)
前田祥史、廣瀬美樹 (眼科)
中澤浩志、内田明子 (産科)
法華真衣、青木保尚、加藤啓洋、納田早規子、柘植江里香 (麻酔科)

(3) 外来診療スケジュール (2014.12.1)

| 科目 | 曜日 | 月 | | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | |
|--------|--------------------------|------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------------|--|----------------------|-----------|---|
| | | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 |
| 内科 | 総合診療 | ◎神田 | 各担当医 | ◎上谷 | 各担当医 | ◎笠井 | 各担当医 | 1・3・5週 ◎宅見 各担当医 2・4週 ◎山崎 各担当医 | | ◎三好 | |
| | アレルギー | | | ◎三好 | | | | | 三好 | | |
| | リウマチ | | | 中岸 三好 | | ◎中岸 三好 | 中岸 三好 | | 中岸 三好 | | |
| | 予防接種 | 三好 | | | | | | | | | |
| | 脳神経 | ◎永瀬 | | | 丸山 | | | ◎永瀬 ◎永瀬 児玉 | | ◎丸山 | |
| | 循環器 | 田中(敏) | 城戸 | ◎田中(敏) | 田中(敏) | 城戸 ◎藤田(秀) | 藤田(秀) | ◎城戸 田中(敏) | 城戸 | ◎富永 | 富永 |
| | 腎臓 | 中川(拓) (神田) | 3週 田中(亮) | ◎田中(亮) ◎中川(拓) | | ◎田中(亮) ◎中川(拓) | 神田 | | | | ◎田中(亮) ◎中川(拓) |
| | 代謝内分泌 | | 1・2・4週 郷司 | | | ◎郷司 | | ◎郷司 | | ◎尾崎 | |
| | 新生児 | | | | ◎坂井 ◎和田 芳本 | | ◎中尾 ◎溝渕 坂井 | | ◎中尾 ◎芳本 和田 | | ◎芳本 ◎溝渕 |
| 血液 | ◎小阪 | 川崎 | | ◎小阪 | | | ◎小阪 | | ◎小阪 | 長谷川 | |
| 外科 | 一般 | 1.3.5週 ◎大片 2.4週 ◎横井 | 1.3.5週 福澤 2.4週 横井 | ◎福澤 | 福澤 | ◎尾藤 | 尾藤 | ◎前田(貢) | ◎前田(貢) | ◎横井 | |
| | ヘルニア外来 | 1.3.5週 ◎大片 2.4週 ◎横井 | | | | | | ◎福澤 尾藤 | | | |
| | 特殊外来 | | ストマ 尾藤 | | 在宅療法 | | | | | | |
| | 心臓 | | ◎大嶋 松久 圓尾 | | | | ◎大嶋 圓尾 長谷川 | | | | ◎大嶋 長谷川 松久 |
| | 脳神経 | ◎山元 | | | | ◎長嶋 | ◎阿久津 1・3週 ◎河村 2・4・5週 | | | ◎河村 | ◎河村 1・3週 二春(長嶋) 2・4週 二春(山元) |
| | 形成 | | ◎大山 森本 進来 言語療法 | | | | | ◎大山 森本 進来 言語療法 | | | |
| | 整形 | | ◎薩摩 ◎小林 | ◎薩摩 ◎衣笠 | ◎小林 ◎衣笠 (1週側湾外来) | ◎薩摩 ◎小林 | | | | | 二分脊椎 |
| 放射線科 | | | | | | | | | 副島 | | |
| 眼科 | ◎野村 柳沢 前田(祥) 広瀬 | | | 野村 柳沢 前田(祥) 広瀬 | ◎野村 柳沢 前田(祥) 広瀬 | 野村 柳沢 前田(祥) 広瀬 | ◎野村 柳沢 前田(祥) 広瀬 | 野村 柳沢 前田(祥) 広瀬 | | | |
| 泌尿器科 | ◎久松 | | ◎杉多 中川(賀) 久松 | 杉多 中川(賀) 久松 | ◎担当医 | | | 杉多 中川(賀) 久松 | ◎中川(賀) 久松 | 二分脊椎 | |
| 耳鼻咽喉科 | ◎大津 | 大津 1週・2週 補聴器 | ◎阪本 | 阪本 3週・4週 補聴器 | | | | ◎大津 | 大津 | ◎阪本 | 阪本 |
| | 言語聴覚 | | 言語聴覚 | | 言語聴覚 | | 言語聴覚 | | 言語聴覚 | | |
| 歯科 | ◎石原 | 石原 | | | | | | 1.3.週◎石原 2.4.週◎本郷 | 1.3.週 石原 2.4.週 本郷 | ◎本郷 | 本郷 |
| 精神科 | ◎長谷川(弘) ◎関口 | 関口 | ◎関口 | 関口 | ◎関口 | 関口 | 関口 | | | ◎松川 関口 | |
| ADHD外来 | | | 前田 | 前田 | | | | | | | |
| 卒煙外来 | | | | | | | ◎永瀬 | | | | |
| 発達行動 | | | | | | | ◎永瀬 | | | | |
| 産科 | ◎船越 佐本 | 超音波 検査 | ◎高松 喜吉 | 超音波 外来 | ◎佐本 牧志 | 超音波 検査 | ◎喜吉 高松 | 超音波 外来 | ◎牧志 船越 | 超音波 検査 | |

※急な学会・主張等で休診・代診になる場合がありますのでご了承下さい。◎印は新患受付曜日となります。

兵庫県立こども病院

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1-1-1

代表 TEL078-732-6961

予約センター直通 FAX 078-732-6980 (24時間対応)

4. 職 員

(1) 職種別人員表 (2014.12.31 現在)

| 職 種 別 | | 現 員 [人] |
|-----------|---------------|----------|
| 事 務 職 | | 17 |
| 技 術 職 | 医 師 ・ 歯 科 医 師 | 85 (46) |
| | 薬 剤 師 | 12 (1) |
| | 診 療 放 射 線 技 師 | 11 |
| | 臨 床 検 査 技 師 | 15 |
| | 栄 養 士 | 2 |
| | 看 護 師 | 488 (9) |
| | 視 能 訓 練 士 | 3 |
| | 心 理 判 定 員 | 2 |
| | 精 神 保 健 福 祉 士 | 1 |
| | 医 療 福 祉 相 談 員 | 1 |
| | 保 育 士 | 7 |
| | 言 語 聴 覚 士 | 3 |
| | 臨 床 工 学 技 士 | 4 (1) |
| | 理 学 療 法 士 | 1 |
| 小 計 | 652 (57) | |
| 技 能 労 務 職 | 調 理 員 | 10 |
| 合 計 | | 662 (57) |

注1 「医師・歯科医師」の現員数は、非常勤医師、研修医師を除く。

2 ()外書きは、臨時的任用職員

5. 近畿厚生局長への届出に関する事項（平成27年3月31日現在）

当院は診療報酬の請求に関し、近畿厚生局長へ以下の事項について届出を行っています。

【入院基本料等の施設基準】

一般病棟(7対1)入院基本料 (一般入院)第32号

【入院基本料等加算の施設基準】

臨床研修病院入院診療加算(協力型) (臨床研修)第95号
 救急医療管理加算 (救急加算)第46号
 妊産婦救急搬送入院加算 (妊産婦)第41号
 診療録管理体制加算2 (診療録)第52号
 医師事務作業補助体制加算(25対1) (事務補助)第63号
 急性期看護補助体制加算(25対1 5割以上) (急性看護)第100号
 看護職員夜間配置加算 (看夜配)第12号
 無菌治療室管理加算1 (無菌1)第8号
 重症者等療養環境特別加算 (重)第30号
 医療安全対策加算1 (医療安全)第428号
 感染防止対策加算1 (感染防止1)第5号
 感染防止対策加算地域連携加算 (感染防止1)第5号
 患者サポート体制充実加算 (患サポ)第25号
 褥そうハイリスク患者ケア加算 (褥創ケア)第35号
 ハイリスク妊娠管理加算 (ハイ妊娠)第36号
 ハイリスク分娩管理加算 (ハイ分娩)第3号
 新生児特定集中治療室退院調整加算1,2,3 (新生児退院)第13号
 救急搬送患者地域連携紹介加算 (救急紹介)第152号
 救急搬送患者地域連携受入加算 (救急受入)第151号
 データ提出加算2 (データ提)第10号

【特定入院料の施設基準】

特定集中治療室管理料1 (集1)第11号
 特定集中治療室管理料2 (集1)第6号
 総合周産期特定集中治療室管理料 (周)第1号
 母体・胎児集中治療室管理料 (周)第1号
 新生児特定集中治療室管理料 (周)第1号
 小児入院医療管理料1 (小入1)第1号
 食事療養費1 (食)第119075号

【医学管理等】

高度難聴指導管理料 (高)第124号
 がん性疼痛緩和指導料 (がん疼)第276号
 がん患者指導管理料1 (がん指1)第55号
 がん患者指導管理料2 (がん指2)第8号
 夜間休日救急搬送医学管理料 (夜救管)第169号
 開放型病院共同指導料 (開)第58号
 薬剤管理指導料 (薬)第253号
 医療機器安全管理料1 (機安1)第93号
 持続血糖測定器加算 (持血測)第16号

【検査】

造血器腫瘍遺伝子検査 (血)第34号
 検体検査管理加算(IV) (検IV)第43号
 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 (血内)第2号
 埋込型心電図検査 (埋心電)第44号
 胎児心エコー法 (胎心エコ)第16号

ヘッドアップティルト試験 (ヘッド)第44号
 皮下連続式グルコース測定 (皮グル)第23号
 補聴器適合検査 (補聴)第15号
 小児食物アレルギー負荷検査 (小検)第45号

【画像診断】

画像診断管理加算2 (画2)第82号
 CT撮影(64列以上)及びMRI撮影(1.5以上3テスラ未満) (C・M)第487号
 冠動脈CT撮影加算 (冠動C)第54号
 大腸CT撮影加算 (大腸C)第5号
 心臓MRI撮影加算 (心臓M)第5号

【投薬】

抗悪性腫瘍剤処方管理加算 (抗悪処方)第54号

【注射】

外来化学療法加算1 (外化1)第99号
 無菌製剤処理料 (菌)第55号

【リハビリテーション】

脳血管疾患等リハビリテーション料(I) (脳I)第332号
 集団コミュニケーション療法料 (集コ)第38号

【処置】

一酸化窒素吸入療法 (NO)第5号

【手術】

頭蓋骨形成手術 (頭移)第4号
 上顎骨形成術・下顎骨形成術 (顎移)第2号
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (ペ)第85号
 埋込型心電図記録計移植術及び埋込型心電図記録計摘出術 (埋記録)第36号
 大動脈バルーンパンピング法 (大)第53号
 経皮的動脈遮断術 (大遮)第13号
 ダメージコントロール手術 (ダメ)第17号
 胎児胸腔・羊水腔シャント術 (胎羊)第1号
 手術の通則の5及び6に掲げる手術 (通手)第23号
 胃瘻造設術 (胃瘻造)第28号
 輸血管理料I (輸血I)第269号
 人工肛門・人口膀胱造設術前処置加算 (造設前)第39号

【麻酔】

麻酔管理料(I) (麻管I)第15号
 麻酔管理料(II) (麻管II)第2号

【放射線治療】

高エネルギー放射線治療 (高放)第83号

【歯科関係】

歯科外来診療環境体制加算 (外来環)第303号
 歯科矯正診断料 (矯診)第131号

6. 研修・教育認定施設内容

| | |
|-------------|--|
| 厚生労働省認定病院等 | <p>◆ [厚生労働省認定] 厚生労働省認定臨床研修指定病院（小児） 厚生労働省認定外国医師臨床研修施設</p> <p>◆ [専門医教育病院学会指定] 日本小児科学会専門医研修施設 日本外科学会外科専門医訓練施設 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本眼科学会専門医研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本病理学会登録施設 日本麻酔学会麻酔指導病院 日本医学放射線学会専門医修練機関 日本胸部外科学会認定医指定施設 日本気管支学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本形成外科学会認定医指導施設 日本小児外科学会認定施設 日本産科婦人科学会専門医研修指導施設 日本内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本気管食道科学会認定日本気管食道科専門医研修施設（咽喉系） 日本周産期新生児医学会専門医研修施設 日本小児循環器学会専門医修練施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本小児血液・がん専門医研修施設 日本小児神経学会専門医研修施設</p> |
| 姉妹提携・交流協定病院 | <p>シアトル小児病院（アメリカ合衆国） プリンセスマーガレット小児病院（オーストラリア） 国福利会国際和平婦幼保健院（中華人民共和国）</p> |

7. 委員会一覧（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）

| 委員会名 | 開催回数 | 活動内容と結果 |
|-----------------|-----------------|--|
| 幹部会 | 毎月第 2 月曜日 | 病院の管理及び運営に関する基本方針等を審議 |
| 運営協議会・経営計画推進委員会 | 毎月第 4 月曜日 | 幹部会からの指示事項の調査、検討と職員への周知 |
| 保険診療対策委員会 | 毎月第 4 金曜日 | 減点内容の検討、返戻に対する対応の検討 |
| 作業部会 | 1 回 | 在宅気管切開患者の気切カニューレについて |
| 医療事故防止対策委員会 | 毎月第 2 月曜日 | リスクマネジメント部会からの報告、事故等案件の状況報告 |
| リスクマネジメント部会 | 毎月第 2 火曜日 | ①各部門の毎月のヒヤリハット発生状況の報告 ②医療安全研修会の開催 ③医療安全推進週間の啓蒙 ④平成 25 年度の重点取り組み課題の決定と実施、評価 |
| 医療事故対策部会 | 事故発生時 | ①事故原因の追及 ②再発防止策の策定 |
| 院内感染対策委員会 | 毎月第 2 金曜日 | ①病院の感染対策に関する審議 ②院内外における感染微生物の発生状況の把握 ③院内発生時の早急な対応と拡大防止 |
| ICT | 毎週木曜日 | ①院内感染に関する情報収集・相談・対策検討・評価 ②感染予防における職員への教育 ③院内ラウンド |
| 衛生委員会 | 月 1 回 | 職員の健康障害の防止対策等について審議 |
| 仕様策定委員会 | 2 回 | 200 万円以上の医療機器特定 |
| 診療材料委員会 | 6 回 | ①新規診療材料採用申請の審議 ② JITS システムデータに基づく診療材料変更提案の審議 |
| 薬事委員会 | 3 回 | 採用・中止薬品の検討、薬剤情報提供内容の追加 新規医薬品（28 品目）、中止医薬品（36 品目） |
| 手術運営委員会 | 隔月第 4 水曜日 | ①手術件数報告 ②効率的な手術室運営について ③機種保守点検、更新について ④安全、感染について |
| 医療用ガス安全管理委員会 | 1 回 | 医療用ガス設備に係る定期点検の報告 |
| 放射線安全委員会 | 1 回 | ①放射線業務従事者管理状況について ②放射線安全研修会開催について |
| 倫理委員会 | 3 回 | 詳細は別紙のとおり |
| 虐待防止委員会 | 事例発生時 定例 3 回 | 処遇検討 活動方針確認と結果報告 |
| 治験審査委員会 | 6 回 | 詳細は別紙のとおり |
| 化学療法レジメン委員会 | 2 回 | ①新規化学療法レジメンについて ②レジメン委員会の迅速審議方法について ③抗がん剤調製時のシリンジキャップ使用について ④来年度の委員増員について ⑤抗悪性腫瘍薬・分子標的薬の処方時の対応について |
| 褥瘡対策委員会 | 12 回 | ①院内の褥瘡に関する状況の報告 ②褥瘡に関する研修 ③褥瘡対策患者対象の回診 ④褥瘡に関するデータの共有とケアの評価や対策の検討。 |
| 輸血療法委員会 | 隔月第 1 水曜日 | ①血液製剤の使用状況報告 ②輸血に関連した副作用報告 ③安全な輸血に関する取り決め ④輸血に関する諸問題の対応 |
| 検査委員会 | 2 回 不定期 | ①検査項目、運用等の変更に関する承認 ②検査に関する諸問題の解決 ③検査に関する要望 |

| | | |
|-------------------|------|--|
| 栄養給食委員会 NST 部会 | 1 回 | ①平成 25 年度給食及び栄養指導実施状況報告 ②本年度の標準濃厚流動食の採用について ③平成 25 年度栄養サポート件数及び NST 勉強会実施報告 |
| 防災対策委員会 | 1 回 | 防災対策の推進について審議 |
| 省エネルギー推進委員会 | | 日常の省エネルギー活動の推進と活動結果の検証 |
| 医師の負担軽減等推進委員会 | 1 回 | 負担軽減計画の策定 |
| 広報委員会 | 5 回 | ①ニュースレター「がんきカエル」の発行（年 4 回） ② 2013 年報の発行 ③ホームページの一部更新 |
| IT 化推進委員会 | 1 回 | ① WindowsXP サポート終了に伴う対応について ②新病院移転までの端末配布について |
| 研修教育委員会 | 1 回 | ①各研修部会の前年度活動報告 ②研修教育委員会の新年度活動計画 |
| 診療記録等管理委員会 | 2 回 | 診療録記載ガイドラインの改定 看護記録などの様式変更 |
| 外来運営委員会 | 3 回 | 耳鼻科外来の午後枠の造設 ヘッドアップティルト試験の運用 循環器移行期外来などの診察枠の増設 |
| 病棟運営委員会 | 3 回 | ①夏休みのベッドコントロールについて ・各診療科のめやすベッドについて ・入院キャンセル等の対応について ②血液腫瘍科のベッドコントロールについて ・入院部署について ・日帰り手術室を使用するの処置実施の検討 ③ HCU の病棟運営について |
| クリニカルパス委員会 | 11 回 | ①クリニカルパスの広報・作成・運用・管理 ②院内クリニカルパス大会 2 回開催 ③新規クリニカルパス作成・改訂 ④地域医療連携パスカンファレンス 3 回 |
| 国際交流推進委員会 | 11 回 | ①シアトル小児病院研修派遣について ・第 7 回シアトル小児病院派遣研修について ・シアトル小児病院派遣研修申請・報告について |
| 緩和ケアチーム | 13 回 | 緩和ケアチームの立ち上げ 緩和ケアマニュアルの作成、ポスター作成 症例検討 |
| 在宅推進委員会 | 5 回 | ①在宅推進委員会の立ち上げ ②在宅推進委員会の活動内容の検討・計画実施 ・地域関係機関との連携、在宅医療の情報整理 ・退院支援システムの周知に関連する業務整理 ・地域連携パス委員会との連携 |

各種委員会（別紙）

| 名 称 | 委員長 | 開催日時 | 場 所 | 出席者数 | 議 題 |
|-----------|-------|--------------|-----|------|---|
| 倫 理 委 員 会 | 上谷 良行 | 5月22日 10:00～ | 応接室 | 5 | <ol style="list-style-type: none"> 1 小児開心術におけるメラ高分子子コーディング（SEC）人工心肺回路の有用性に関する検討＜長谷川心臓血管外科医長＞ 2 胆道閉鎖症における Indocyanine green（ICG）を使用した術中蛍光胆道造影＜横井小児外科部長＞ 3 小児心肺蘇生事例登録に関する多施設共同研究（共同研究機関としての参加）＜福原救急集中治療科＞ 4 小児急性骨髄性白血病を対象とした初回寛解導入後早期に微小残存病変の意義を検討する多施設共同シームレス第Ⅱ - Ⅲ相臨床試験（AML-12）＜小阪血液・腫瘍内科部長＞ 5 小児 B 前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同第Ⅱ相および第Ⅲ相臨床試験 JPLSG ALL-B12 付随研究：急性リンパ性白血病の日本人小児におけるチオプリン等の薬物代謝に関する薬理学的および分子生物学的検討＜同上＞ |
| 倫 理 委 員 会 | 上谷 良行 | 7月24日 10:00～ | 応接室 | 7 | <ol style="list-style-type: none"> 1 位相差 X 線 CT 法による先天性心疾患における刺激伝導系の走行異常ならびに動脈組織微細構造の研究＜大嶋心臓血管外科部長＞ 2 第一再発急性リンパ性白血病標準リスク群に対する第Ⅲ相国際共同研究 [International Study for Treatment of Standard Risk Childhood Relapsed ALL 2010(IntReALL SR 2000)]. A Randomized Phase III Study Conducted by the Resistant Disease Committee of the International BFM Study Group ＜小阪血液・腫瘍内科部長＞ 3 重症及び最重症再生不良性貧血者に対するウサギ抗胸腺細胞グロブリン（サイモグロブリン®）前方視的ランダム化用量比較多施設共同研究（APBMT AAWG-01）＜同上＞ 4 頻回再発型ネフローゼ症候群でシクロスポリン内服にても再発を抑制できない難治性ネフローゼ症候群に、ミゾリビン、ミコフェノール酸モフェチルを追加投与した症例に対する後方視的検討＜神田腎臓内科医長＞ 5 小児膜性腎症における PLA2R1 発現の有無に関する研究＜田中醫臓内科部長＞ 6 小児難治性頻回再発型 / ステロイド依存症ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ治療併用下でのミコフェノール酸モフェチルの多施設共同二重盲検ブラセボ対照ランダム化比較試験（JSKDC07）＜同上＞ 7 小児期発症難治性ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ＋ステロイドパルス療法の多施設共同単群臨床試験（JSKDC08）＜同上＞ |

| | | | | | |
|---------|-------|---------------|-----|----|--|
| 倫理委員会 | 上谷 良行 | 11月13日 10:00～ | 応接室 | 7 | <p>1 リッキマブ医師主導治験に参加した難治性ネフローゼ症候群患者の長期予後調査研究<田中腎臓内科部長></p> <p>2 髄芽腫に対する新リスク分類を用いた集学的治療のパイロット試験<小阪血液・腫瘍内科部長></p> <p>3 非定型奇形腫様ラズトイド腫瘍に対する髄注併用化学療法と遅延局所放射線治療のパイロット試験<同上></p> <p>4 小児 B 前駆細胞性急性リンパ性白血病 (B-ALL) に対する多施設共同第 II 相および第 III 相臨床試験 (JPLSG ALL-B12) の改正について<同上></p> <p>5 小児白血病研究会 (JACLS) 参加施設における ANLL91、AML99 治療を受けた急性骨髄性白血病経験者を対象にした晩期合併症と QOL に関する観察研究<同上></p> <p>6 小児急性リンパ性白血病の L-アスパラギナーゼ関連凝固異常に関する前向き観察研究<同上></p> |
| 倫理委員会 | 上谷 良行 | 11月26日 9:30～ | 応接室 | 7 | 1 先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡手術<福澤小児外科医長> |
| 治験審査委員会 | 中尾 秀人 | 5月16日 | 応接室 | 8 | 現在進行中の治験 4 課題の継続について審議した |
| 治験審査委員会 | 中尾 秀人 | 6月27日 | 応接室 | 7 | NP006 試験の実施の適否について審議、また現在進行中の治験 3 課題の継続について審議した |
| 治験審査委員会 | 中尾 秀人 | 8月29日 | 応接室 | 9 | NP006 試験の実施の適否について審議、また現在進行中の治験 3 課題の継続について審議した |
| 治験審査委員会 | 中尾 秀人 | 10月14日 | 応接室 | 10 | NP006 試験の実施の適否について審議、また現在進行中の治験 23 課題の継続について審議した |
| 治験審査委員会 | 中尾 秀人 | 1月16日 | 応接室 | 8 | 現在進行中の治験 3 課題の継続について審議した |
| 治験審査委員会 | 中尾 秀人 | 3月6日 | 応接室 | 7 | 現在進行中の治験 3 課題の継続について審議した |

II 医事経理関係

第1節 患者数統計

1. 総括

(1) 年度別

| 区 分 | | | | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|-------------|---|-------------------|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 外 来 | a | 診療日数 | 日 | 243 | 244 | 245 | 244 | 244 |
| | b | 新患者数 | 人 | 7,923 | 7,696 | 7,631 | 8,032 | 7,744 |
| | c | 一日平均新患者数 | 人 | 32.6 | 31.5 | 31.1 | 32.9 | 31.7 |
| | d | 延患者数 | 人 | 86,269 | 86,464 | 86,902 | 87,254 | 85,527 |
| | e | 一日平均延患者数 | 人 | 355.0 | 354.4 | 354.7 | 357.6 | 350.5 |
| | f | 平均通院日数 | 日 | 10.9 | 11.2 | 11.4 | 10.9 | 11.0 |
| 入 院 | g | 稼働日数 | 日 | 365 | 366 | 365 | 365 | 365 |
| | h | 稼働病床数 | 床 | 266 | 266 | 266 | 266 | 266 |
| | l | 入院患者数 | 人 | 5,261 | 5,425 | 5,290 | 5,271 | 5,406 |
| | j | 一日平均入院患者数 | 人 | 14.4 | 14.8 | 14.5 | 14.4 | 14.8 |
| | k | 退院患者数 | 人 | 5,294 | 5,422 | 5,302 | 5,279 | 5,392 |
| | l | 一日平均退院患者数 | 人 | 14.5 | 14.8 | 14.5 | 14.5 | 14.8 |
| | m | 延入院患者数 | 人 | 88,487 | 88,849 | 88,036 | 86,385 | 83,843 |
| | n | 一日平均延患者数 | 人 | 242.4 | 242.8 | 241.2 | 236.7 | 229.7 |
| | o | 病床利用率 | % | 91.1 | 91.3 | 90.7 | 89.0 | 86.4 |
| | p | 病床回転数 | 回 | 19.8 | 20.4 | 19.9 | 19.8 | 20.3 |
| | r | 日帰入院患者数 | 人 | 108 | 122 | 88 | 120 | 237 |
| | s | NICU・GCU 入院患者数 | 人 | 1,014 | 1,011 | 963 | 1,009 | 961 |
| | t | 平均在院日数 | 日 | 15.8 | 15.4 | 15.6 | 15.4 | 14.5 |
| | u | 外来入院比率 | % | 97.5 | 97.3 | 98.7 | 101.0 | 102.0 |
| v | 入院率 | % | 66.4 | 70.5 | 69.3 | 65.6 | 69.8 | |
| 計 算 式 | f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/(h × g)) × 100 p 病床回転率 = ((I+k)/2)/h t 平均在院日数 = (m-k)/((I+k)/2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100 | | | | | | | |

(2) 月別患者統計

H26 年度

| 区 分 | | | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 年度計 |
|-------------|---|------------------------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 外 来 | a | 診 療 日 数 | 日 | 21 | 20 | 21 | 22 | 21 | 20 | 22 | 18 | 19 | 19 | 19 | 22 | 244 |
| | b | 新 患 者 数 | 人 | 686 | 598 | 669 | 750 | 699 | 638 | 693 | 543 | 599 | 630 | 541 | 698 | 7,744 |
| | c | 一日平均新患者数 | 人 | 32.7 | 29.9 | 31.9 | 34.1 | 33.3 | 31.9 | 31.5 | 30.2 | 31.5 | 33.2 | 28.5 | 31.7 | 31.7 |
| | d | 延 患 者 数 | 人 | 7,216 | 6,571 | 6,907 | 7,662 | 7,938 | 7,251 | 7,238 | 6,112 | 7,080 | 6,919 | 6,347 | 8,286 | 85,527 |
| | e | 一日平均延患者数 | 人 | 343.6 | 328.6 | 328.9 | 348.3 | 378.0 | 362.6 | 329.0 | 339.6 | 372.6 | 364.2 | 334.1 | 376.6 | 350.5 |
| | f | 平均通院日数 | 日 | 10.5 | 11.0 | 10.3 | 10.2 | 11.4 | 11.4 | 10.4 | 11.3 | 11.8 | 11.0 | 11.7 | 11.9 | 11.0 |
| 入 院 | g | 稼 働 日 数 | 日 | 30 | 31 | 30 | 31 | 31 | 30 | 31 | 30 | 31 | 31 | 28 | 31 | 365 |
| | h | 稼 働 病 床 数 | 床 | 266 | 266 | 266 | 266 | 266 | 266 | 266 | 266 | 266 | 266 | 266 | 266 | 266 |
| | I | 入 院 患 者 数 | 人 | 432 | 404 | 447 | 493 | 464 | 408 | 494 | 431 | 436 | 468 | 428 | 501 | 5,406 |
| | j | 一日平均入院患者数 | 人 | 14.4 | 13.0 | 14.9 | 15.9 | 15.0 | 13.6 | 15.9 | 14.4 | 14.1 | 15.1 | 15.3 | 16.2 | 14.8 |
| | k | 退 院 患 者 数 | 人 | 429 | 427 | 444 | 446 | 496 | 383 | 511 | 435 | 494 | 409 | 422 | 496 | 5,392 |
| | l | 一日平均退院患者数 | 人 | 14.3 | 13.8 | 14.8 | 14.4 | 16.0 | 12.8 | 16.5 | 14.5 | 15.9 | 13.2 | 15.1 | 16.0 | 14.8 |
| | m | 延入院患者数 | 人 | 6,912 | 6,613 | 6,721 | 7,126 | 7,383 | 6,765 | 7,261 | 7,108 | 7,281 | 6,653 | 6,583 | 7,437 | 83,843 |
| | n | 一日平均延患者数 | 人 | 230.4 | 213.3 | 224.0 | 229.9 | 238.2 | 225.5 | 234.2 | 236.9 | 234.9 | 214.6 | 235.1 | 239.9 | 229.7 |
| | o | 病 床 利 用 率 | % | 86.6 | 80.2 | 84.2 | 86.4 | 89.5 | 84.8 | 88.1 | 89.1 | 88.3 | 80.7 | 88.4 | 90.2 | 86.4 |
| | p | 病 床 回 転 数 | 回 | 1.6 | 1.6 | 1.7 | 1.8 | 1.8 | 1.5 | 1.9 | 1.6 | 1.7 | 1.6 | 1.6 | 1.9 | 20.3 |
| | r | 日 帰 入 院 患 者 数 | 人 | 15 | 7 | 11 | 14 | 9 | 13 | 30 | 24 | 29 | 29 | 24 | 32 | 237 |
| | s | N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数 | 人 | 81 | 80 | 82 | 91 | 66 | 74 | 106 | 78 | 85 | 80 | 55 | 83 | 961 |
| | t | 平 均 在 院 日 数 | 日 | 15.1 | 14.9 | 14.1 | 14.2 | 14.3 | 16.1 | 13.4 | 15.4 | 14.6 | 14.2 | 14.5 | 13.9 | 14.5 |
| | u | 外 来 入 院 比 率 | % | 104.4 | 99.4 | 102.8 | 107.5 | 107.5 | 107.2 | 99.7 | 86.0 | 97.2 | 104.0 | 96.4 | 111.4 | 102.0 |
| v | 入 院 率 | % | 63.0 | 67.6 | 66.8 | 65.7 | 66.4 | 63.9 | 71.3 | 79.4 | 72.8 | 74.3 | 79.1 | 71.8 | 69.8 | |
| 計 算 式 | f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/(h × g)) × 100 p 病床回転率 = ((I+k)/2)/h t 平均在院日数 = (m-k)/((I+k)/2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100 | | | | | | | | | | | | | | | |

2. 月別科別外来患者数

H26年度

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|----------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 循環器内科 | 新患者数 | 37 | 36 | 50 | 50 | 46 | 44 | 62 | 38 | 36 | 41 | 30 | 42 | 512 |
| | 再来患者数 | 730 | 598 | 651 | 706 | 843 | 715 | 687 | 588 | 707 | 694 | 643 | 889 | 8,451 |
| | 延患者数 | 767 | 634 | 701 | 756 | 889 | 759 | 749 | 626 | 743 | 735 | 673 | 931 | 8,963 |
| 腎臓内科 | 新患者数 | 10 | 4 | 10 | 19 | 36 | 11 | 7 | 13 | 7 | 5 | 3 | 13 | 138 |
| | 再来患者数 | 249 | 220 | 245 | 280 | 321 | 278 | 242 | 253 | 286 | 265 | 218 | 311 | 3,168 |
| | 延患者数 | 259 | 224 | 255 | 299 | 357 | 289 | 249 | 266 | 293 | 270 | 221 | 324 | 3,306 |
| 脳神経内科 | 新患者数 | 21 | 9 | 14 | 8 | 10 | 12 | 8 | 10 | 10 | 9 | 13 | 14 | 138 |
| | 再来患者数 | 297 | 284 | 309 | 308 | 329 | 310 | 290 | 246 | 293 | 287 | 260 | 360 | 3,573 |
| | 延患者数 | 318 | 293 | 323 | 316 | 339 | 322 | 298 | 256 | 303 | 296 | 273 | 374 | 3,711 |
| 血液内科 | 新患者数 | 1 | 10 | 5 | 7 | 11 | 8 | 8 | 3 | 9 | 3 | 4 | 11 | 80 |
| | 再来患者数 | 305 | 272 | 266 | 304 | 385 | 276 | 282 | 227 | 318 | 302 | 272 | 358 | 3,567 |
| | 延患者数 | 306 | 282 | 271 | 311 | 396 | 284 | 290 | 230 | 327 | 305 | 276 | 369 | 3,647 |
| 代謝・内分泌内科 | 新患者数 | 20 | 15 | 10 | 23 | 15 | 4 | 15 | 9 | 8 | 14 | 11 | 23 | 167 |
| | 再来患者数 | 405 | 436 | 351 | 446 | 415 | 379 | 472 | 399 | 424 | 376 | 395 | 435 | 4,933 |
| | 延患者数 | 425 | 451 | 361 | 469 | 430 | 383 | 487 | 408 | 432 | 390 | 406 | 458 | 5,100 |
| 新生児内科 | 新患者数 | 52 | 45 | 45 | 45 | 38 | 41 | 62 | 46 | 46 | 47 | 33 | 41 | 541 |
| | 再来患者数 | 217 | 202 | 208 | 205 | 205 | 208 | 213 | 216 | 224 | 260 | 242 | 253 | 2,653 |
| | 延患者数 | 269 | 247 | 253 | 250 | 243 | 249 | 275 | 262 | 270 | 307 | 275 | 294 | 3,194 |
| 心臓血管外科 | 新患者数 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 5 |
| | 再来患者数 | 124 | 136 | 130 | 119 | 135 | 138 | 131 | 99 | 134 | 126 | 97 | 140 | 1,509 |
| | 延患者数 | 124 | 137 | 130 | 119 | 135 | 138 | 132 | 99 | 134 | 128 | 98 | 140 | 1,514 |
| 脳神経外科 | 新患者数 | 30 | 18 | 22 | 23 | 32 | 25 | 33 | 32 | 43 | 31 | 21 | 18 | 328 |
| | 再来患者数 | 346 | 276 | 323 | 370 | 374 | 368 | 313 | 231 | 330 | 295 | 246 | 340 | 3,812 |
| | 延患者数 | 376 | 294 | 345 | 393 | 406 | 393 | 346 | 263 | 373 | 326 | 267 | 358 | 4,140 |
| 小児外科 | 新患者数 | 54 | 49 | 66 | 61 | 52 | 43 | 48 | 47 | 49 | 61 | 49 | 55 | 634 |
| | 再来患者数 | 407 | 370 | 408 | 463 | 536 | 466 | 391 | 365 | 447 | 428 | 411 | 531 | 5,223 |
| | 延患者数 | 461 | 419 | 474 | 524 | 588 | 509 | 439 | 412 | 496 | 489 | 460 | 586 | 5,857 |
| 整形外科 | 新患者数 | 87 | 55 | 67 | 74 | 56 | 97 | 71 | 68 | 68 | 75 | 69 | 84 | 871 |
| | 再来患者数 | 502 | 365 | 386 | 531 | 465 | 525 | 416 | 321 | 399 | 430 | 291 | 536 | 5,167 |
| | 延患者数 | 589 | 420 | 453 | 605 | 521 | 622 | 487 | 389 | 467 | 505 | 360 | 620 | 6,038 |
| 形成外科 | 新患者数 | 29 | 33 | 40 | 50 | 36 | 37 | 43 | 34 | 36 | 32 | 33 | 34 | 437 |
| | 再来患者数 | 282 | 219 | 257 | 233 | 229 | 253 | 243 | 209 | 226 | 273 | 237 | 315 | 2,976 |
| | 延患者数 | 311 | 252 | 297 | 283 | 265 | 290 | 286 | 243 | 262 | 305 | 270 | 349 | 3,413 |
| 精神科 | 新患者数 | 11 | 5 | 7 | 10 | 11 | 4 | 9 | 7 | 9 | 5 | 5 | 4 | 87 |
| | 再来患者数 | 284 | 286 | 279 | 308 | 314 | 300 | 326 | 293 | 322 | 288 | 269 | 329 | 3,598 |
| | 延患者数 | 295 | 291 | 286 | 318 | 325 | 304 | 335 | 300 | 331 | 293 | 274 | 333 | 3,685 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| アレルギー科 内 | 新患者数 | 8 | 8 | 3 | 5 | 8 | 8 | 2 | 6 | 5 | 6 | 7 | 6 | 72 |
| | 再来患者数 | 113 | 116 | 113 | 131 | 128 | 100 | 128 | 104 | 124 | 113 | 117 | 137 | 1,424 |
| | 延患者数 | 121 | 124 | 116 | 136 | 136 | 108 | 130 | 110 | 129 | 119 | 124 | 143 | 1,496 |
| 小児科 | 新患者数 | 21 | 9 | 13 | 18 | 7 | 9 | 27 | 8 | 18 | 10 | 9 | 15 | 164 |
| | 再来患者数 | 109 | 115 | 125 | 130 | 113 | 103 | 100 | 100 | 89 | 98 | 91 | 107 | 1,280 |
| | 延患者数 | 130 | 124 | 138 | 148 | 120 | 112 | 127 | 108 | 107 | 108 | 100 | 122 | 1,444 |
| 泌尿器科 | 新患者数 | 51 | 55 | 62 | 68 | 68 | 67 | 54 | 51 | 39 | 62 | 63 | 74 | 714 |
| | 再来患者数 | 387 | 332 | 348 | 431 | 485 | 417 | 421 | 332 | 390 | 326 | 337 | 488 | 4,694 |
| | 延患者数 | 438 | 387 | 410 | 499 | 553 | 484 | 475 | 383 | 429 | 388 | 400 | 562 | 5,408 |
| 産科 | 新患者数 | 50 | 56 | 44 | 44 | 43 | 46 | 48 | 50 | 41 | 36 | 37 | 44 | 539 |
| | 再来患者数 | 218 | 202 | 247 | 200 | 200 | 206 | 257 | 190 | 214 | 198 | 179 | 215 | 2,526 |
| | 延患者数 | 268 | 258 | 291 | 244 | 243 | 252 | 305 | 240 | 255 | 234 | 216 | 259 | 3,065 |
| 眼科 | 新患者数 | 43 | 41 | 49 | 43 | 42 | 45 | 52 | 38 | 42 | 36 | 46 | 40 | 517 |
| | 再来患者数 | 811 | 797 | 818 | 876 | 888 | 809 | 861 | 734 | 780 | 779 | 787 | 948 | 9,888 |
| | 延患者数 | 854 | 838 | 867 | 919 | 930 | 854 | 913 | 772 | 822 | 815 | 833 | 988 | 10,405 |
| 耳鼻咽喉科 | 新患者数 | 38 | 38 | 32 | 48 | 44 | 39 | 30 | 24 | 34 | 35 | 33 | 41 | 436 |
| | 再来患者数 | 442 | 419 | 459 | 530 | 575 | 467 | 466 | 398 | 500 | 446 | 445 | 573 | 5,720 |
| | 延患者数 | 480 | 457 | 491 | 578 | 619 | 506 | 496 | 422 | 534 | 481 | 478 | 614 | 6,156 |
| 放射線科 | 新患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 再来患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 麻酔科 | 新患者数 | 2 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 10 |
| | 再来患者数 | 66 | 64 | 77 | 89 | 89 | 75 | 107 | 72 | 79 | 80 | 78 | 100 | 976 |
| | 延患者数 | 68 | 65 | 79 | 89 | 89 | 76 | 107 | 72 | 80 | 81 | 78 | 102 | 986 |
| 救急科 | 新患者数 | 47 | 54 | 50 | 55 | 47 | 44 | 45 | 39 | 45 | 70 | 38 | 52 | 586 |
| | 再来患者数 | 53 | 91 | 64 | 74 | 60 | 63 | 55 | 68 | 82 | 81 | 48 | 86 | 825 |
| | 延患者数 | 100 | 145 | 114 | 129 | 107 | 107 | 100 | 107 | 127 | 151 | 86 | 138 | 1,411 |
| 歯科 | 新患者数 | 74 | 56 | 78 | 99 | 97 | 53 | 68 | 20 | 53 | 49 | 36 | 85 | 768 |
| | 再来患者数 | 183 | 173 | 174 | 178 | 150 | 157 | 144 | 124 | 113 | 144 | 143 | 137 | 1,820 |
| | 延患者数 | 257 | 229 | 252 | 277 | 247 | 210 | 212 | 144 | 166 | 193 | 179 | 222 | 2,588 |
| 合計 | 新患者数 | 686 | 598 | 669 | 750 | 699 | 638 | 693 | 543 | 599 | 630 | 541 | 698 | 7,744 |
| | 再来患者数 | 6,530 | 5,973 | 6,238 | 6,912 | 7,239 | 6,613 | 6,545 | 5,569 | 6,481 | 6,289 | 5,806 | 7,588 | 77,783 |
| | 延患者数 | 7,216 | 6,571 | 6,907 | 7,662 | 7,938 | 7,251 | 7,238 | 6,112 | 7,080 | 6,919 | 6,347 | 8,286 | 85,527 |

3. 月別科別入院患者数

H26年度

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|----------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 循環器内科 | 新規入院患者数 | 28 | 24 | 35 | 30 | 38 | 34 | 39 | 26 | 21 | 30 | 23 | 39 | 367 |
| | 退院患者数 | 33 | 38 | 36 | 32 | 51 | 33 | 42 | 40 | 35 | 30 | 33 | 40 | 443 |
| | 延患者数 | 767 | 751 | 745 | 644 | 757 | 709 | 788 | 713 | 810 | 758 | 770 | 781 | 8,993 |
| 腎臓内科 | 新規入院患者数 | 3 | 3 | 3 | 5 | 11 | 6 | 4 | 7 | 3 | 6 | 2 | 10 | 63 |
| | 退院患者数 | 9 | 7 | 5 | 2 | 13 | 8 | 5 | 7 | 7 | 7 | 5 | 5 | 80 |
| | 延患者数 | 173 | 90 | 62 | 141 | 161 | 128 | 87 | 114 | 77 | 77 | 50 | 78 | 1,238 |
| 脳神経内科 | 新規入院患者数 | 12 | 2 | 3 | 1 | 6 | 3 | 4 | 4 | 3 | 1 | 2 | 4 | 45 |
| | 退院患者数 | 17 | 19 | 11 | 9 | 13 | 9 | 8 | 12 | 9 | 11 | 9 | 8 | 135 |
| | 延患者数 | 265 | 224 | 164 | 151 | 158 | 132 | 168 | 184 | 147 | 126 | 110 | 132 | 1,961 |
| 血液内科 | 新規入院患者数 | 38 | 43 | 44 | 50 | 43 | 40 | 46 | 48 | 49 | 57 | 51 | 60 | 569 |
| | 退院患者数 | 38 | 45 | 53 | 50 | 42 | 40 | 56 | 47 | 60 | 50 | 50 | 60 | 591 |
| | 延患者数 | 855 | 726 | 744 | 750 | 840 | 883 | 924 | 904 | 982 | 944 | 944 | 1,063 | 10,559 |
| 代謝・内分泌内科 | 新規入院患者数 | 2 | 3 | 3 | 2 | 7 | 2 | 5 | 1 | 5 | 2 | 5 | 4 | 41 |
| | 退院患者数 | 4 | 4 | 3 | 5 | 5 | 3 | 6 | 2 | 6 | 2 | 4 | 4 | 48 |
| | 延患者数 | 37 | 32 | 17 | 20 | 44 | 17 | 42 | 16 | 44 | 12 | 28 | 28 | 337 |
| 新生児内科 | 新規入院患者数 | 48 | 43 | 47 | 47 | 38 | 43 | 62 | 44 | 50 | 46 | 34 | 40 | 542 |
| | 退院患者数 | 46 | 52 | 38 | 47 | 41 | 32 | 57 | 51 | 51 | 46 | 31 | 47 | 539 |
| | 延患者数 | 1,594 | 1,548 | 1,400 | 1,678 | 1,545 | 1,472 | 1,715 | 1,716 | 1,804 | 1,677 | 1,579 | 1,821 | 19,549 |
| 心臓血管外科 | 新規入院患者数 | 10 | 10 | 6 | 15 | 19 | 9 | 8 | 15 | 11 | 12 | 9 | 12 | 136 |
| | 退院患者数 | 12 | 10 | 10 | 8 | 23 | 13 | 8 | 14 | 15 | 10 | 12 | 15 | 150 |
| | 延患者数 | 269 | 213 | 209 | 269 | 353 | 323 | 242 | 363 | 346 | 383 | 288 | 396 | 3,654 |
| 脳神経外科 | 新規入院患者数 | 26 | 10 | 17 | 25 | 17 | 11 | 11 | 12 | 13 | 12 | 12 | 14 | 180 |
| | 退院患者数 | 27 | 19 | 22 | 27 | 23 | 17 | 19 | 16 | 22 | 17 | 16 | 22 | 247 |
| | 延患者数 | 309 | 340 | 313 | 349 | 342 | 229 | 222 | 225 | 235 | 278 | 276 | 281 | 3,399 |
| 小児外科 | 新規入院患者数 | 47 | 39 | 52 | 66 | 68 | 53 | 70 | 72 | 62 | 69 | 67 | 76 | 741 |
| | 退院患者数 | 49 | 47 | 61 | 68 | 88 | 54 | 81 | 77 | 78 | 71 | 76 | 83 | 833 |
| | 延患者数 | 599 | 618 | 738 | 772 | 842 | 573 | 626 | 717 | 703 | 659 | 617 | 571 | 8,035 |
| 整形外科 | 新規入院患者数 | 19 | 22 | 20 | 24 | 19 | 23 | 24 | 14 | 23 | 16 | 21 | 24 | 249 |
| | 退院患者数 | 25 | 18 | 22 | 18 | 26 | 18 | 25 | 19 | 27 | 10 | 19 | 29 | 256 |
| | 延患者数 | 236 | 198 | 307 | 334 | 349 | 351 | 376 | 289 | 248 | 189 | 272 | 351 | 3,500 |
| 形成外科 | 新規入院患者数 | 17 | 15 | 21 | 21 | 12 | 23 | 30 | 22 | 20 | 24 | 26 | 26 | 257 |
| | 退院患者数 | 21 | 18 | 18 | 18 | 19 | 21 | 31 | 25 | 21 | 22 | 25 | 26 | 265 |
| | 延患者数 | 84 | 97 | 162 | 179 | 139 | 146 | 189 | 116 | 155 | 110 | 161 | 209 | 1,747 |
| 精神科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| アレルギー内科 | 新規入院患者数 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 5 | 4 | 1 | 1 | 3 | 22 |
| | 退院患者数 | 4 | 5 | 5 | 3 | 4 | 2 | 3 | 4 | 8 | 5 | 2 | 3 | 48 |
| | 延患者数 | 29 | 62 | 43 | 20 | 20 | 7 | 13 | 36 | 73 | 53 | 5 | 13 | 374 |
| 小児科 | 新規入院患者数 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 7 |
| | 退院患者数 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 6 |
| | 延患者数 | 98 | 151 | 150 | 155 | 150 | 151 | 157 | 147 | 151 | 169 | 168 | 192 | 1,839 |
| 泌尿器科 | 新規入院患者数 | 20 | 18 | 21 | 18 | 26 | 28 | 25 | 19 | 20 | 25 | 19 | 27 | 266 |
| | 退院患者数 | 23 | 20 | 21 | 22 | 25 | 24 | 31 | 15 | 24 | 21 | 23 | 27 | 276 |
| | 延患者数 | 149 | 129 | 115 | 94 | 130 | 137 | 150 | 87 | 102 | 90 | 104 | 121 | 1,408 |
| 産科 | 新規入院患者数 | 45 | 40 | 47 | 50 | 44 | 36 | 45 | 43 | 41 | 41 | 41 | 35 | 508 |
| | 退院患者数 | 39 | 45 | 46 | 43 | 45 | 34 | 48 | 46 | 52 | 33 | 38 | 40 | 509 |
| | 延患者数 | 817 | 804 | 875 | 915 | 963 | 986 | 966 | 875 | 760 | 552 | 623 | 780 | 9,916 |
| 眼科 | 新規入院患者数 | 28 | 37 | 44 | 43 | 42 | 34 | 42 | 25 | 33 | 27 | 39 | 42 | 436 |
| | 退院患者数 | 32 | 35 | 44 | 41 | 42 | 36 | 42 | 29 | 33 | 23 | 38 | 43 | 438 |
| | 延患者数 | 139 | 158 | 199 | 184 | 211 | 153 | 178 | 120 | 146 | 105 | 175 | 186 | 1,954 |
| 耳鼻咽喉科 | 新規入院患者数 | 12 | 10 | 11 | 16 | 12 | 9 | 11 | 10 | 7 | 8 | 10 | 12 | 128 |
| | 退院患者数 | 14 | 8 | 12 | 15 | 12 | 11 | 11 | 10 | 10 | 7 | 9 | 12 | 131 |
| | 延患者数 | 96 | 74 | 91 | 107 | 77 | 65 | 79 | 100 | 53 | 56 | 64 | 86 | 948 |
| 放射線科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 麻酔科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 救急科 | 新規入院患者数 | 73 | 82 | 73 | 80 | 61 | 51 | 68 | 63 | 71 | 89 | 66 | 72 | 849 |
| | 退院患者数 | 36 | 36 | 37 | 38 | 23 | 28 | 37 | 20 | 35 | 44 | 32 | 31 | 397 |
| | 延患者数 | 396 | 398 | 387 | 364 | 302 | 303 | 339 | 386 | 445 | 415 | 349 | 348 | 4,432 |
| 歯科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 新規入院患者数 | 432 | 404 | 447 | 493 | 464 | 408 | 494 | 431 | 436 | 468 | 428 | 501 | 5,406 |
| | 退院患者数 | 429 | 427 | 444 | 446 | 496 | 383 | 511 | 435 | 494 | 409 | 422 | 496 | 5,392 |
| | 延患者数 | 6,912 | 6,613 | 6,721 | 7,126 | 7,383 | 6,765 | 7,261 | 7,108 | 7,281 | 6,653 | 6,583 | 7,437 | 83,843 |

4. 年度別科別外来患者数

| | | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 循環器内科 | 新患者数 | 453 | 454 | 430 | 454 | 512 |
| | 再来患者数 | 6,939 | 7,107 | 7,301 | 7,749 | 8,451 |
| | 延患者数 | 7,392 | 7,561 | 7,731 | 8,203 | 8,963 |
| 腎臓内科 | 新患者数 | 162 | 163 | 152 | 157 | 138 |
| | 再来患者数 | 2,714 | 2,739 | 2,896 | 3,124 | 3,168 |
| | 延患者数 | 2,876 | 2,902 | 3,048 | 3,281 | 3,306 |
| 脳神経内科 | 新患者数 | 122 | 157 | 185 | 174 | 138 |
| | 再来患者数 | 2,731 | 3,315 | 3,512 | 3,515 | 3,573 |
| | 延患者数 | 2,853 | 3,472 | 3,697 | 3,689 | 3,711 |
| 血液内科 | 新患者数 | 73 | 79 | 70 | 64 | 80 |
| | 再来患者数 | 2,899 | 3,198 | 3,721 | 3,763 | 3,567 |
| | 延患者数 | 2,972 | 3,277 | 3,791 | 3,827 | 3,647 |
| 代謝・内分泌内科 | 新患者数 | 148 | 154 | 142 | 156 | 167 |
| | 再来患者数 | 4,756 | 4,741 | 4,668 | 5,091 | 4,933 |
| | 延患者数 | 4,904 | 4,895 | 4,810 | 5,247 | 5,100 |
| 新生児内科 | 新患者数 | 680 | 664 | 598 | 617 | 541 |
| | 再来患者数 | 3,466 | 3,042 | 3,213 | 3,160 | 2,653 |
| | 延患者数 | 4,146 | 3,706 | 3,811 | 3,777 | 3,194 |
| 心臓血管外科 | 新患者数 | 9 | 6 | 3 | 5 | 5 |
| | 再来患者数 | 1,391 | 1,484 | 1,530 | 1,509 | 1,509 |
| | 延患者数 | 1,400 | 1,490 | 1,533 | 1,514 | 1,514 |
| 脳神経外科 | 新患者数 | 247 | 270 | 223 | 301 | 328 |
| | 再来患者数 | 3,604 | 3,696 | 3,712 | 3,573 | 3,812 |
| | 延患者数 | 3,851 | 3,966 | 3,935 | 3,874 | 4,140 |
| 小児外科 | 新患者数 | 770 | 636 | 606 | 634 | 634 |
| | 再来患者数 | 5,192 | 5,212 | 5,486 | 5,239 | 5,223 |
| | 延患者数 | 5,962 | 5,848 | 6,092 | 5,873 | 5,857 |
| 整形外科 | 新患者数 | 733 | 819 | 835 | 868 | 871 |
| | 再来患者数 | 4,857 | 5,171 | 5,336 | 5,313 | 5,167 |
| | 延患者数 | 5,590 | 5,990 | 6,171 | 6,181 | 6,038 |
| 形成外科 | 新患者数 | 443 | 441 | 482 | 449 | 437 |
| | 再来患者数 | 3,656 | 3,504 | 3,620 | 3,272 | 2,976 |
| | 延患者数 | 4,099 | 3,945 | 4,102 | 3,721 | 3,413 |
| 精神科 | 新患者数 | 108 | 123 | 106 | 79 | 87 |
| | 再来患者数 | 3,633 | 2,583 | 2,859 | 3,273 | 3,598 |
| | 延患者数 | 3,741 | 2,706 | 2,965 | 3,352 | 3,685 |

| | | | | | | |
|---------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| アレルギー内科 | 新患者数 | 142 | 95 | 73 | 62 | 72 |
| | 再来患者数 | 2,629 | 2,687 | 1,447 | 1,383 | 1,424 |
| | 延患者数 | 2,771 | 2,782 | 1,520 | 1,445 | 1,496 |
| 小児科 | 新患者数 | 345 | 294 | 255 | 228 | 164 |
| | 再来患者数 | 1,924 | 1,599 | 1,556 | 1,614 | 1,280 |
| | 延患者数 | 2,269 | 1,893 | 1,811 | 1,842 | 1,444 |
| 泌尿器科 | 新患者数 | 794 | 776 | 724 | 710 | 714 |
| | 再来患者数 | 5,258 | 5,375 | 5,060 | 4,844 | 4,694 |
| | 延患者数 | 6,052 | 6,151 | 5,784 | 5,554 | 5,408 |
| 産科 | 新患者数 | 605 | 521 | 515 | 536 | 539 |
| | 再来患者数 | 3,269 | 2,967 | 2,773 | 2,987 | 2,526 |
| | 延患者数 | 3,874 | 3,488 | 3,288 | 3,523 | 3,065 |
| 眼科 | 新患者数 | 679 | 578 | 565 | 587 | 517 |
| | 再来患者数 | 9,863 | 10,226 | 10,502 | 10,049 | 9,888 |
| | 延患者数 | 10,542 | 10,804 | 11,067 | 10,636 | 10,405 |
| 耳鼻咽喉科 | 新患者数 | 476 | 442 | 436 | 437 | 436 |
| | 再来患者数 | 4,916 | 5,255 | 5,438 | 5,602 | 5,720 |
| | 延患者数 | 5,392 | 5,697 | 5,874 | 6,039 | 6,156 |
| 放射線科 | 新患者数 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 再来患者数 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 |
| 麻酔科 | 新患者数 | 4 | 9 | 8 | 3 | 10 |
| | 再来患者数 | 1,032 | 947 | 952 | 952 | 976 |
| | 延患者数 | 1,036 | 956 | 960 | 955 | 986 |
| 救急科 | 新患者数 | 633 | 645 | 632 | 591 | 586 |
| | 再来患者数 | 931 | 1,131 | 1,008 | 795 | 825 |
| | 延患者数 | 1,564 | 1,776 | 1,640 | 1,386 | 1,411 |
| 歯科 | 新患者数 | 297 | 369 | 591 | 920 | 768 |
| | 再来患者数 | 2,686 | 2,785 | 2,681 | 2,415 | 1,820 |
| | 延患者数 | 2,983 | 3,154 | 3,272 | 3,335 | 2,588 |
| 合計 | 新患者数 | 7,923 | 7,696 | 7,631 | 8,032 | 7,744 |
| | 再来患者数 | 78,346 | 78,768 | 79,271 | 79,222 | 77,783 |
| | 延患者数 | 86,269 | 86,464 | 86,902 | 87,254 | 85,527 |

5. 年度別科別入院患者数

| | | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 |
|----------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 循環器内科 | 新規入院患者数 | 296 | 318 | 321 | 327 | 367 |
| | 退院患者数 | 321 | 346 | 369 | 391 | 443 |
| | 延患者数 | 9,437 | 9,210 | 9,198 | 8,880 | 8,993 |
| 腎臓内科 | 新規入院患者数 | 67 | 73 | 84 | 81 | 63 |
| | 退院患者数 | 95 | 103 | 100 | 87 | 80 |
| | 延患者数 | 1,281 | 1,288 | 1,302 | 1,591 | 1,238 |
| 脳神経内科 | 新規入院患者数 | 27 | 31 | 42 | 56 | 45 |
| | 退院患者数 | 79 | 117 | 120 | 138 | 135 |
| | 延患者数 | 1,707 | 2,229 | 2,102 | 1,833 | 1,961 |
| 血液内科 | 新規入院患者数 | 462 | 566 | 581 | 606 | 569 |
| | 退院患者数 | 499 | 604 | 634 | 650 | 591 |
| | 延患者数 | 9,416 | 10,908 | 10,881 | 10,736 | 10,559 |
| 代謝・内分泌内科 | 新規入院患者数 | 72 | 38 | 29 | 45 | 41 |
| | 退院患者数 | 81 | 42 | 35 | 51 | 48 |
| | 延患者数 | 559 | 302 | 306 | 357 | 337 |
| 新生児内科 | 新規入院患者数 | 695 | 663 | 631 | 650 | 542 |
| | 退院患者数 | 659 | 612 | 582 | 595 | 539 |
| | 延患者数 | 23,701 | 23,512 | 22,868 | 22,769 | 19,549 |
| 心臓血管外科 | 新規入院患者数 | 148 | 147 | 145 | 138 | 136 |
| | 退院患者数 | 176 | 178 | 165 | 155 | 150 |
| | 延患者数 | 4,054 | 4,457 | 3,845 | 3,850 | 3,654 |
| 脳神経外科 | 新規入院患者数 | 165 | 152 | 165 | 150 | 180 |
| | 退院患者数 | 220 | 219 | 221 | 213 | 247 |
| | 延患者数 | 3,724 | 3,204 | 3,353 | 3,382 | 3,399 |
| 小児外科 | 新規入院患者数 | 574 | 580 | 586 | 541 | 741 |
| | 退院患者数 | 639 | 670 | 687 | 669 | 833 |
| | 延患者数 | 8,777 | 9,627 | 9,073 | 8,273 | 8,035 |
| 整形外科 | 新規入院患者数 | 241 | 232 | 239 | 228 | 249 |
| | 退院患者数 | 252 | 243 | 247 | 236 | 256 |
| | 延患者数 | 3,225 | 2,586 | 2,998 | 2,950 | 3,500 |
| 形成外科 | 新規入院患者数 | 289 | 270 | 259 | 242 | 257 |
| | 退院患者数 | 297 | 282 | 268 | 248 | 265 |
| | 延患者数 | 2,172 | 1,856 | 1,563 | 1,607 | 1,747 |
| 精神科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | |
|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| アレルギー内科 | 新規入院患者数 | 32 | 73 | 29 | 16 | 22 |
| | 退院患者数 | 37 | 76 | 28 | 24 | 48 |
| | 延患者数 | 194 | 283 | 354 | 152 | 374 |
| 小児科 | 新規入院患者数 | 17 | 4 | 3 | 5 | 7 |
| | 退院患者数 | 148 | 54 | 4 | 5 | 6 |
| | 延患者数 | 1,232 | 419 | 32 | 53 | 1,839 |
| 泌尿器科 | 新規入院患者数 | 273 | 315 | 260 | 272 | 266 |
| | 退院患者数 | 279 | 326 | 263 | 279 | 276 |
| | 延患者数 | 1,501 | 1,652 | 1,316 | 1,508 | 1,408 |
| 産科 | 新規入院患者数 | 597 | 587 | 524 | 523 | 508 |
| | 退院患者数 | 594 | 589 | 519 | 534 | 509 |
| | 延患者数 | 11,078 | 10,472 | 11,345 | 10,848 | 9,916 |
| 眼科 | 新規入院患者数 | 458 | 472 | 478 | 436 | 436 |
| | 退院患者数 | 453 | 476 | 477 | 433 | 438 |
| | 延患者数 | 2,104 | 2,284 | 2,193 | 2,002 | 1,954 |
| 耳鼻咽喉科 | 新規入院患者数 | 106 | 106 | 112 | 138 | 128 |
| | 退院患者数 | 108 | 108 | 113 | 137 | 131 |
| | 延患者数 | 793 | 845 | 836 | 960 | 948 |
| 放射線科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 麻酔科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 救急科 | 新規入院患者数 | 742 | 798 | 802 | 817 | 849 |
| | 退院患者数 | 357 | 377 | 470 | 434 | 397 |
| | 延患者数 | 3,532 | 3,715 | 4,471 | 4,714 | 4,432 |
| 歯科 | 新規入院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 退院患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延患者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 新規入院患者数 | 5,261 | 5,425 | 5,290 | 5,271 | 5,406 |
| | 退院患者数 | 5,294 | 5,422 | 5,302 | 5,279 | 5,392 |
| | 延患者数 | 88,487 | 88,849 | 88,036 | 86,385 | 83,843 |

6. 年齢別患者状況

H26年度

| 年齢区分 | 外 来 | | 入 院 | |
|-------------|--------|--------|--------|--------|
| | 患者数(人) | 構成比(%) | 患者数(人) | 構成比(%) |
| 0歳～1歳未満 | 2,457 | 10.4% | 985 | 24.1% |
| 1歳以上～3歳未満 | 3,242 | 13.8% | 609 | 14.9% |
| 3歳～6歳未満 | 4,358 | 18.5% | 700 | 17.1% |
| 6歳～13歳未満 | 8,570 | 36.4% | 967 | 23.7% |
| 13歳以上～16歳未満 | 2,447 | 10.4% | 230 | 5.6% |
| 16歳以上 | 2,488 | 10.6% | 595 | 14.6% |
| 合 計 | 23,562 | 100.0% | 4086 | 100.0% |

7. 地域別患者状況

(1) 外来

| 区 分 | 25年度 | | 26年度 | | |
|-------|------|--------|-------|--------|-------|
| | 患者数 | 構成比 | 患者数 | 構成比 | |
| 兵 庫 | 神戸市 | 11,043 | 46.6% | 11,054 | 46.9% |
| | 姫路市 | 1,161 | 4.9% | 1,181 | 5.0% |
| | 尼崎市 | 357 | 1.5% | 343 | 1.5% |
| | 明石市 | 2,254 | 9.5% | 2,273 | 9.6% |
| | 西宮市 | 846 | 3.6% | 799 | 3.4% |
| | 洲本市 | 193 | 0.8% | 170 | 0.7% |
| | 芦屋市 | 234 | 1.0% | 247 | 1.0% |
| | 伊丹市 | 220 | 0.9% | 201 | 0.9% |
| | 相生市 | 55 | 0.2% | 57 | 0.2% |
| | 豊岡市 | 273 | 1.2% | 252 | 1.1% |
| 兵 庫 県 | 加古川市 | 851 | 3.6% | 849 | 3.6% |
| | 赤穂市 | 126 | 0.5% | 126 | 0.5% |
| | 西脇市 | 159 | 0.7% | 164 | 0.7% |
| | 宝塚市 | 302 | 1.3% | 308 | 1.3% |
| | 三木市 | 429 | 1.8% | 399 | 1.7% |
| | 高砂市 | 298 | 1.3% | 298 | 1.3% |
| | 川西市 | 93 | 0.4% | 99 | 0.4% |
| | 小野市 | 257 | 1.1% | 217 | 0.9% |
| | 三田市 | 484 | 2.0% | 454 | 1.9% |
| | 加西市 | 135 | 0.6% | 113 | 0.5% |
| 兵 庫 県 | 篠山市 | 158 | 0.7% | 171 | 0.7% |
| | 養父市 | 89 | 0.4% | 86 | 0.4% |
| | 丹波市 | 360 | 1.5% | 344 | 1.5% |

(1) 入院

| 区 分 | 25年度 | | 26年度 | | |
|-------|------|-------|-------|-------|-------|
| | 患者数 | 構成比 | 患者数 | 構成比 | |
| 兵 庫 | 神戸市 | 1,791 | 45.2% | 1,900 | 46.5% |
| | 姫路市 | 207 | 5.2% | 189 | 4.6% |
| | 尼崎市 | 51 | 1.3% | 48 | 1.2% |
| | 明石市 | 324 | 8.2% | 364 | 8.9% |
| | 西宮市 | 160 | 4.0% | 130 | 3.2% |
| | 洲本市 | 30 | 0.8% | 31 | 0.8% |
| | 芦屋市 | 41 | 1.0% | 36 | 0.9% |
| | 伊丹市 | 30 | 0.8% | 29 | 0.7% |
| | 相生市 | 5 | 0.1% | 8 | 0.2% |
| | 豊岡市 | 62 | 1.6% | 47 | 1.1% |
| 兵 庫 県 | 加古川市 | 131 | 3.3% | 145 | 3.6% |
| | 赤穂市 | 21 | 0.5% | 17 | 0.4% |
| | 西脇市 | 29 | 0.7% | 34 | 0.8% |
| | 宝塚市 | 36 | 0.9% | 48 | 1.2% |
| | 三木市 | 92 | 2.3% | 74 | 1.8% |
| | 高砂市 | 40 | 1.0% | 47 | 1.1% |
| | 川西市 | 15 | 0.4% | 22 | 0.5% |
| | 小野市 | 45 | 1.1% | 42 | 1.0% |
| | 三田市 | 73 | 1.8% | 78 | 1.9% |
| | 加西市 | 27 | 0.7% | 19 | 0.5% |
| 兵 庫 県 | 篠山市 | 29 | 0.7% | 46 | 1.1% |
| | 養父市 | 12 | 0.3% | 16 | 0.4% |
| | 丹波市 | 72 | 1.8% | 58 | 1.4% |

| | | | | | |
|-------|--------|--------|--------|--------|------|
| 兵 庫 県 | 南あわじ市 | 214 | 0.9% | 197 | 0.8% |
| | 朝来市 | 117 | 0.5% | 114 | 0.5% |
| | 淡路市 | 250 | 1.1% | 227 | 1.0% |
| | 宍粟市 | 100 | 0.4% | 89 | 0.4% |
| | 加東市 | 220 | 0.9% | 199 | 0.8% |
| | たつの市 | 175 | 0.7% | 185 | 0.8% |
| | 猪名川町 | 25 | 0.1% | 24 | 0.1% |
| | 多可町 | 68 | 0.3% | 79 | 0.3% |
| | 稲美町 | 130 | 0.5% | 116 | 0.5% |
| | 播磨町 | 153 | 0.6% | 148 | 0.6% |
| | 市川町 | 28 | 0.1% | 29 | 0.1% |
| | 福崎町 | 45 | 0.2% | 53 | 0.2% |
| | 神河町 | 30 | 0.1% | 22 | 0.1% |
| | 太子町 | 87 | 0.4% | 76 | 0.3% |
| | 上郡町 | 25 | 0.1% | 27 | 0.1% |
| | 佐用町 | 25 | 0.1% | 26 | 0.1% |
| | 香美町 | 43 | 0.2% | 46 | 0.2% |
| | 新温泉町 | 28 | 0.1% | 31 | 0.1% |
| | その他 | 4 | 0.0% | 5 | 0.0% |
| 計 | 22,144 | 93.5% | 21,894 | 92.9% | |
| 近畿圏 | 872 | 3.7% | 854 | 3.6% | |
| 近畿圏外 | 662 | 2.8% | 813 | 3.5% | |
| 総 計 | 23,678 | 100.0% | 23,562 | 100.0% | |

| | | | | | |
|-------|-------|--------|-------|--------|------|
| 兵 庫 県 | 南あわじ市 | 35 | 0.9% | 50 | 1.2% |
| | 朝来市 | 15 | 0.4% | 16 | 0.4% |
| | 淡路市 | 34 | 0.9% | 44 | 1.1% |
| | 宍粟市 | 14 | 0.4% | 12 | 0.3% |
| | 加東市 | 31 | 0.8% | 30 | 0.7% |
| | たつの市 | 26 | 0.7% | 27 | 0.7% |
| | 猪名川町 | 2 | 0.1% | 1 | 0.0% |
| | 多可町 | 15 | 0.4% | 12 | 0.3% |
| | 稲美町 | 18 | 0.5% | 18 | 0.4% |
| | 播磨町 | 20 | 0.5% | 15 | 0.4% |
| | 市川町 | 2 | 0.1% | 3 | 0.1% |
| | 福崎町 | 6 | 0.2% | 4 | 0.1% |
| | 神河町 | 2 | 0.1% | 1 | 0.0% |
| | 太子町 | 10 | 0.3% | 10 | 0.2% |
| | 上郡町 | 2 | 0.1% | 3 | 0.1% |
| | 佐用町 | 7 | 0.2% | 3 | 0.1% |
| | 香美町 | 6 | 0.2% | 8 | 0.2% |
| | 新温泉町 | 2 | 0.1% | 7 | 0.2% |
| | その他 | 0 | 0.0% | 1 | 0.0% |
| 計 | 3,570 | 90.2% | 3,691 | 90.3% | |
| 近畿圏 | 169 | 4.3% | 168 | 4.1% | |
| 近畿圏外 | 221 | 5.6% | 227 | 5.6% | |
| 総 計 | 3,960 | 100.0% | 4,086 | 100.0% | |

※実患者数

8. 公費負担患者状況

H26 年度

| 公費負担制度 | 件数 | 構成比 |
|-------------|-------|--------|
| 1. 小児慢性特定疾患 | 1,164 | 48.8% |
| 2. 育成医療 | 113 | 4.7% |
| 3. 養育医療 | 200 | 8.4% |
| 4. 児童福祉（措置） | 51 | 2.1% |
| 5. 特定疾患 | 62 | 2.6% |
| 6. 生活保護 | 38 | 1.6% |
| 7. 精神保健 | 66 | 2.8% |
| 8. 自 費 | 691 | 29.0% |
| 合 計 | 2,385 | 100.0% |

9. 時間外患者状況

H26 年度

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|--------------|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 循環器内科 | 外来 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 3 | 0 | 19 |
| | 入院 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| | 計 | 1 | 2 | 3 | 2 | 2 | 3 | 3 | 5 | 3 | 1 | 3 | 0 | 28 |
| 腎臓内科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 脳神経内科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 血液内科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| 代謝・ 内分泌内科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 新生児内科 | 外来 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 4 |
| | 入院 | 19 | 8 | 16 | 18 | 12 | 20 | 16 | 15 | 17 | 23 | 12 | 10 | 186 |
| | 計 | 19 | 10 | 16 | 19 | 12 | 20 | 16 | 15 | 17 | 23 | 13 | 10 | 190 |
| 心臓血管外科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 脳神経外科 | 外来 | 0 | 4 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| | 入院 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 計 | 1 | 4 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 12 |
| 小児外科 | 外来 | 2 | 2 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 2 | 15 |
| | 入院 | 0 | 0 | 4 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| | 計 | 2 | 2 | 4 | 0 | 2 | 2 | 1 | 2 | 3 | 0 | 2 | 2 | 22 |
| 整形外科 | 外来 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 |
| | 計 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 4 |
| 形成外科 | 外来 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 5 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 5 |
| 精神科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-------|
| アレルギー科 | 外来 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 小児科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 泌尿器科 | 外来 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 5 | 3 | 2 | 1 | 0 | 2 | 1 | 17 |
| | 入院 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 計 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 5 | 3 | 3 | 1 | 0 | 2 | 1 | 19 |
| 産科 | 外来 | 1 | 0 | 3 | 0 | 4 | 3 | 10 | 4 | 11 | 6 | 3 | 8 | 53 |
| | 入院 | 9 | 4 | 7 | 8 | 4 | 6 | 4 | 6 | 6 | 10 | 3 | 6 | 73 |
| | 計 | 10 | 4 | 10 | 8 | 8 | 9 | 14 | 10 | 17 | 16 | 6 | 14 | 126 |
| 眼科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 耳鼻咽喉科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 放射線科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 麻酔科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 救急科 | 外来 | 47 | 76 | 55 | 56 | 53 | 52 | 50 | 67 | 77 | 78 | 39 | 65 | 715 |
| | 入院 | 19 | 30 | 29 | 23 | 14 | 21 | 23 | 16 | 26 | 36 | 17 | 23 | 277 |
| | 計 | 66 | 106 | 84 | 79 | 67 | 73 | 73 | 83 | 103 | 114 | 56 | 88 | 992 |
| 菌科 | 外来 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 入院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 外来 | 51 | 86 | 65 | 63 | 61 | 65 | 69 | 79 | 99 | 86 | 51 | 76 | 851 |
| | 入院 | 49 | 44 | 58 | 51 | 33 | 47 | 45 | 41 | 50 | 69 | 33 | 41 | 561 |
| | 計 | 100 | 130 | 123 | 114 | 94 | 112 | 114 | 120 | 149 | 155 | 84 | 117 | 1,412 |

| 区 分 | | 単 位 | 25 年度 決 算 | 26 年度 | | | | 決算評価 | | | |
|-----------------|-----------------|---------------------|--------------|---------|--------|---------|---------|---------|---------|---|---|
| | | | | 計 画 | 決 算 | 計 画 対 比 | 前 年 対 比 | 計 画 対 比 | 前 年 対 比 | | |
| 業 務 量 | 入 院 | 許 可 病 床 数 | 床 | 290 | 290 | 290 | 0 | 0 | | | |
| | | 稼 働 病 床 数 | 床 | 266 | 266 | 266 | 0 | 0 | | | |
| | | 病 床 利 用 率 | % | 89.0 | 91.7 | 86.4 | △ 5.3 | △ 2.6 | × | × | |
| | | 病 床 利 用 率 (一 般 の み) | % | 89.0 | 91.7 | 86.4 | △ 5.3 | △ 2.6 | × | × | |
| | | 延 入 院 患 者 数 | 人 | 86,385 | 89,066 | 83,843 | △ 5,223 | △ 2,542 | × | × | |
| | | 1 日 当 た り 患 者 数 | 人 / 日 | 237 | 244 | 230 | △ 14 | △ 7 | × | × | |
| | | 新 規 入 院 患 者 数 | 人 | 5,271 | 5,350 | 5,406 | 56 | 135 | ○ | ○ | |
| | | 平 均 在 院 日 数 | 日 | 15.4 | 15.6 | 14.5 | △ 1.1 | △ 0.9 | ○ | ○ | |
| | | 入 院 単 価 | 円 | 82,842 | 82,344 | 88,548 | 6,204 | 5,706 | ○ | ○ | |
| | 入 院 単 価 (一 般) | 円 | 82,842 | 82,344 | 88,548 | 6,204 | 5,706 | ○ | ○ | | |
| | 外 来 | 延 外 来 患 者 数 | 人 | 87,254 | 88,820 | 85,527 | △ 3,293 | △ 1,727 | × | × | |
| | | 1 日 当 た り 患 者 数 | 人 / 日 | 358 | 364 | 351 | △ 13 | △ 7 | × | × | |
| | | 外 来 単 価 | 円 | 19,778 | 19,082 | 20,122 | 1,040 | 344 | ○ | ○ | |
| | | 新 規 外 来 患 者 数 | 人 | 8,032 | 8,050 | 7,744 | △ 306 | △ 288 | × | × | |
| | | 紹 介 率 * | % | 95.4 | 100.0 | 96.5 | △ 3.5 | 1.1 | × | ○ | |
| | 手 術 件 数 | 件 | 3,836 | 4,000 | 3,747 | △ 253 | △ 89 | × | × | | |
| 救 急 車 搬 送 患 者 数 | 人 | 526 | 480 | 607 | 127 | 81 | ○ | ○ | | | |
| 収 支 | 入 院 収 益 | 百万円 | 7,156 | 7,334 | 7,424 | 90 | 268 | ○ | ○ | | |
| | 外 来 収 益 | 百万円 | 1,726 | 1,695 | 1,721 | 26 | △ 5 | ○ | × | | |
| | そ の 他 医 業 収 益 | 百万円 | 135 | 109 | 108 | △ 1 | △ 27 | × | × | | |
| | * 医 業 収 益 * | 百万円 | 9,017 | 9,138 | 9,253 | 115 | 236 | ○ | ○ | | |
| | 医 業 外 収 益 等 | 百万円 | 158 | 298 | 430 | 132 | 272 | ○ | ○ | | |
| | * * 収 益 計 * * | 百万円 | 9,175 | 9,436 | 9,683 | 247 | 508 | ○ | ○ | | |
| | 給 与 費 | 百万円 | 6,456 | 6,621 | 6,659 | 38 | 203 | | | | |
| | (うち退職給与金) | 百万円 | 193 | 271 | 186 | △ 85 | △ 7 | | | | |
| | 材 料 費 | 百万円 | 2,177 | 2,097 | 2,176 | 79 | △ 1 | | | | |
| | (うち薬品費) | 百万円 | 1,376 | 1,271 | 1,377 | 106 | 1 | | | | |
| | (うち診療材料費) | 百万円 | 728 | 722 | 729 | 7 | 1 | | | | |
| | 経 費 | 百万円 | 1,465 | 1,594 | 1,505 | △ 89 | 40 | | | | |
| | 減 価 償 却 費 | 百万円 | 517 | 587 | 590 | 3 | 73 | | | | |
| | そ の 他 の 医 業 費 用 | 百万円 | 73 | 77 | 60 | △ 17 | △ 13 | | | | |
| | * 医 業 費 用 * | 百万円 | 10,688 | 10,976 | 10,990 | 14 | 302 | | | | |
| | 医 業 外 費 用 等 | 百万円 | 225 | 200 | 208 | 8 | △ 16 | | | | |
| | * * 費 用 計 * * | 百万円 | 10,912 | 11,176 | 11,198 | 22 | 286 | | | | |
| 差 引 損 益 | 百万円 | △ 1,738 | △ 1,740 | △ 1,515 | 225 | 222 | ○ | | | ○ | |
| 一 般 会 計 繰 入 金 | 百万円 | 1,781 | 1,782 | 1,831 | △ 5 | 50 | - | | | - | |
| 当 期 純 損 益 | 百万円 | 44 | 96 | 316 | 220 | 272 | ○ | | | ○ | |
| 資 金 収 支 | 百万円 | 739 | 840 | 1,063 | 223 | 324 | ○ | | | ○ | |
| 経 営 指 標 | 医 業 収 益 比 率 | % | 71.6 | 72.5 | 72.0 | △ 0.5 | 0.4 | | | ○ | × |
| | 材 料 費 比 率 | % | 24.1 | 22.9 | 23.5 | 0.6 | △ 0.6 | | | × | ○ |
| | (うち薬品費比率) | % | 15.3 | 14.5 | 14.9 | 0.4 | △ 0.4 | × | ○ | | |
| | (うち診療材料費比率) | % | 8.1 | 7.6 | 7.9 | 0.3 | △ 0.2 | × | ○ | | |
| | 経 費 比 率 | % | 16.3 | 17.4 | 16.3 | △ 1.1 | 0.0 | ○ | ○ | | |
| | 医 業 収 支 比 率 | % | 84.4 | 83.3 | 84.2 | 0.9 | △ 0.2 | ○ | × | | |
| 経 常 収 支 比 率 | % | 100.6 | 100.9 | 102.9 | 2.0 | 2.3 | ○ | ○ | | | |

※紹介率＝地域支援病院の紹介率

決算の推移

| 区分 | 平成22年度 | | 平成23年度 | | 平成24年度 | | 平成25年度 | | 平成26年度 | | (単位:床、%、人、千円) | |
|-----------|--------|-------------|--------|-------------|--------|-------------|--------|-------------|--------|-------------|---------------|----------|
| | 決 | 算 | 決 | 算 | 決 | 算 | 決 | 算 | 決 | 算 | | |
| | 業 | 比 | 業 | 比 | 業 | 比 | 業 | 比 | 業 | 比 | | |
| 稼働病床数 | 床 | 266 | 100.0 | 266 | 100.0 | 266 | 100.0 | 266 | 100.0 | 266 | 100.0 | 前年度差引 |
| 病床利用率 | % | 91.1 | 101.7 | 91.3 | 100.2 | 90.7 | 99.6 | 89.0 | 97.5 | 86.4 | 97.1 | △ 2.6 |
| 平均在院日数 | 日 | 15.8 | 106.0 | 15.4 | 97.5 | 15.6 | 98.7 | 15.4 | 100.0 | 14.5 | 94.2 | △ 0.9 |
| 人間ドック | 人 | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 | | 0 |
| 延入院患者数 | 人 | 88,487 | 101.7 | 88,849 | 100.4 | 88,036 | 99.5 | 86,385 | 97.2 | 83,843 | 97.1 | △ 2,542 |
| (1日当り) | 人 | 242 | 101.7 | 243 | 100.4 | 241 | 99.6 | 237 | 97.5 | 230 | 97.0 | △ 7 |
| 新規入院患者数 | 人 | 5,261 | 96.0 | 5,425 | 103.1 | 5,290 | 100.6 | 5,271 | 97.2 | 5,406 | 102.6 | 135 |
| 延外来患者数 | 人 | 86,269 | 102.5 | 86,464 | 100.2 | 86,902 | 100.7 | 87,254 | 100.9 | 85,527 | 98.0 | △ 1,727 |
| (1日当り) | 人 | 355 | 102.0 | 354 | 99.7 | 355 | 100.0 | 358 | 101.1 | 351 | 98.0 | △ 7 |
| 新規外来患者数 | 人 | 7,923 | 97.8 | 7,696 | 97.1 | 7,631 | 96.3 | 8,032 | 104.4 | 7,744 | 96.4 | △ 288 |
| 入院収益 | 千円 | 6,879,319 | 81.0 | 7,049,609 | 102.5 | 7,235,953 | 79.4 | 7,156,347 | 101.5 | 7,424,137 | 80.2 | 267,790 |
| (1日1人) | 円 | 77,744 | 106.4 | 79,344 | 102.1 | 82,193 | 105.7 | 82,842 | 104.4 | 88,548 | 106.9 | 5,706 |
| 外来収益 | 千円 | 1,507,449 | 17.7 | 1,691,258 | 19.1 | 1,755,701 | 19.3 | 1,725,720 | 19.1 | 1,720,897 | 18.6 | △ 4,823 |
| (1日1人) | 円 | 17,474 | 101.1 | 19,560 | 111.9 | 20,203 | 115.6 | 19,778 | 101.1 | 20,121 | 101.7 | 343 |
| その他医業収益 | 千円 | 111,152 | 1.3 | 111,725 | 1.3 | 119,905 | 1.3 | 134,832 | 1.5 | 107,974 | 1.2 | △ 26,858 |
| * 医業収益計* | 千円 | 8,497,920 | 100.0 | 8,852,592 | 104.2 | 9,111,559 | 100.0 | 9,016,899 | 100.0 | 9,253,008 | 100.0 | 236,109 |
| 医業外収益 | 千円 | 170,435 | 2.0 | 151,667 | 1.7 | 138,529 | 1.5 | 155,866 | 1.7 | 429,262 | 4.6 | 275.4 |
| 特別利益 | 千円 | 599 | 0.0 | 27 | 0.0 | 43,082 | 0.5 | 1,926 | 0.0 | 1,263 | 0.0 | △ 663 |
| **収益合計** | 千円 | 8,668,954 | 102.0 | 9,004,286 | 103.9 | 9,293,170 | 102.0 | 9,174,691 | 101.7 | 9,683,533 | 104.7 | 508,842 |
| 給与費 | 千円 | 6,041,044 | 71.1 | 6,203,528 | 70.1 | 6,685,902 | 73.4 | 6,455,660 | 71.6 | 6,658,655 | 72.0 | 202,995 |
| うち退職給与金 | 千円 | (398,887) | 4.7 | (274,709) | 3.1 | (168,081) | 1.8 | (193,264) | 2.1 | (186,486) | 2.0 | △ 6,778 |
| うち退職給与引当金 | 千円 | | | (189,709) | | (178,185) | | (178,185) | 2.0 | (157,000) | 1.7 | △ 21,185 |
| 材料費 | 千円 | 1,993,138 | 23.5 | 2,192,863 | 24.8 | 2,179,583 | 23.9 | 2,176,781 | 24.1 | 2,176,205 | 23.5 | △ 576 |
| 経費 | 千円 | 1,349,899 | 15.9 | 1,417,049 | 16.0 | 1,430,088 | 15.7 | 1,465,310 | 16.3 | 1,505,218 | 16.3 | 39,908 |
| 減価償却費 | 千円 | 501,061 | 5.9 | 483,749 | 5.5 | 506,104 | 5.6 | 517,497 | 5.7 | 590,150 | 6.4 | 72,653 |
| 資産減耗費 | 千円 | 19,506 | 0.2 | 22,258 | 0.3 | 28,132 | 0.3 | 5,575 | 0.1 | 2,101 | 0.0 | △ 3,474 |
| 研究研修費 | 千円 | 46,518 | 0.5 | 54,752 | 0.6 | 59,989 | 0.7 | 67,032 | 0.7 | 57,766 | 0.6 | △ 9,266 |
| * 医業費用計* | 千円 | 9,951,166 | 117.1 | 10,374,199 | 117.2 | 10,889,798 | 119.5 | 10,687,855 | 118.5 | 10,990,113 | 118.8 | 302,258 |
| 医業外費用 | 千円 | 212,253 | 2.5 | 210,858 | 2.4 | 196,638 | 2.2 | 196,811 | 2.2 | 182,173 | 2.0 | △ 14,638 |
| 特別損失 | 千円 | 2,147 | 0.0 | 26,142 | 0.3 | 43,505 | 0.5 | 27,670 | 0.3 | 26,161 | 0.3 | △ 1,509 |
| **費用合計** | 千円 | 10,165,566 | 119.6 | 10,611,199 | 119.9 | 11,129,941 | 122.2 | 10,912,336 | 121.0 | 11,198,447 | 121.0 | 286,111 |
| 差引損益 | 千円 | △ 1,496,612 | △ 17.6 | △ 1,606,913 | △ 18.2 | △ 1,886,771 | △ 20.2 | △ 1,737,645 | △ 19.3 | △ 1,514,914 | △ 16.4 | 222,731 |
| 一般会計繰入金 | 千円 | 1,899,673 | 22.4 | 1,731,266 | 19.6 | 1,810,684 | 19.9 | 1,781,957 | 19.8 | 1,830,581 | 19.8 | 48,624 |
| 当期純損益 | 千円 | 403,061 | 4.7 | 124,353 | 1.4 | △ 26,087 | △ 0.3 | 44,312 | 0.5 | 315,667 | 3.4 | 271,355 |

※平成24年度費与引当金270,000千円を給与費に計上

(注1) 延入院患者数欄上段は、人間ドック分を外書き

| | | | | | | | | | | | | |
|--------|---|-------|-------|-------|------|------|------|-------|------|-------|-------|---|
| 経帯収支比率 | % | 104.0 | 101.1 | 101.4 | 97.5 | 99.8 | 95.9 | 100.6 | 99.2 | 103.0 | 102.4 | - |
| 医業収支比率 | % | 85.4 | 101.8 | 85.3 | 99.9 | 83.7 | 98.0 | 84.4 | 98.9 | 84.2 | 99.8 | - |

III 診 療 統 計

1. 総合診療科

総合診療科は(1) 専門各科における診療になじまない紹介患者への対応、(2) 院内各科からの相談対応、(3) セカンドオピニオンに準じた相談に応じることなどが主な業務である。症例としては発育・発達障害や感染症を中心に、各診療科にまたがるような疾患の全身管理や、様々な特殊な問題を抱えた common disease 症例が数多く紹介されてくる。

担当スタッフは2名である。研修医や専攻医の研修の受け皿となり、研修計画の立案や実際の研修を担当し、コーディネートする役割も担っている。

入院患者はスタッフの関係上、救急集中治療科スタッフが担当する体制になっている。多くが基礎疾患を持った児の合併症、特に感染症である。

新しい病院に向けて診療体制の見直しが進んでいるが、総合診療科は救急部門と連携して、救急総合診療という大きな枠組みの中で救急外来対応と院内の患者の内科的管理を担当するようなイメージで進めていければと考えている。

我が国のみならず世界中の小児科が抱えている大きな問題として小児期に発症した疾患が治癒せずそのまま成人まで医療を必要とする患者が年々増加しており、所謂小児期発症疾患を有する患者の移行期医療の問題が深刻になっている。内科で管理するにしても全くこれまで経験がなく、小児科が継続して管理するにしても成人期に特有の疾患についての経験がほとんどないことから、どこでだれが管理するのが最も良いのか答えの出ない状況である。おそらく全く新しい分野として取り組んでいかねばならない問題である。いずれにしてもその受け皿を整備する必要がある、そこに総合診療科がタッチしていくことが求められている。そのための環境整備を進めていくことが喫緊の課題である。

当院は各専門診療科に細分化されており、各々の診療科でのサブスペシャリティー研修を目的に応募する専攻医が多くを占めるが、専門医制度の大幅な改革に対応するためにも専攻医はまず小児医療の基礎を身に着けることが先決であり、その意味で総合診療の重要性をアピールし、研修体制を充実する必要があると思っている。

外来担当スタッフ:上谷良行、宅見晃子、山崎武美(阪神北広域こども急病センター)、笠井和子、森永杏子、神前愛子

小児救急医療センター開設後は救急センター退院患者のフォローを午後の総合診療科外来で実施し、主として専攻医が担当している。

2. 救急集中治療科

1. 診療活動

小児救急医療センターが平成19年10月1日に開設以来8年、当センターの前身である救急医療室が平成14年10月に開設され、三次救急医療がスタートしてから13年が経過した。当センターで診療の中心を担っているのは救急集中治療科である。

当センターは院外からの重症患者の受入や院内の急変患者、術後患者の受入など、多岐にわたる分野の患者を受け入れており、他院の医師をはじめ各関連診療科との連携と調整をおこないしなやかに対応している。

少子化に伴う小児入院患者の減少はあるものの、外来経由の重症患者の入院は増えており、他院では対応できない患者の受け入れは多く行われているといえる。

近隣の小児関連医療施設から当院への重症患者搬送の際に医師が同乗できないことから、重症にもかかわらず公的救急車による搬送を断られる例もある。安全な重症患者搬送のために、全日ではないが症例によっては当院ドクターカーによる迎え搬送する体制を組んでおり、その体制を24時間365日の体制でおこなえる様に整備している。

また成人救急に比べ機会の少ない高エネルギー外傷等の小児重症患者初療スキルアップのため看護師とも協力し定期的にシミュレーションをおこなっている。シミュレーションに限らず、普段の診療でも医師看護師間の連携を深め互いの役割を確認しつつチーム医療の文化を醸成している。

2. スタッフ

救急集中治療科：上谷良行、竹田洋樹、福原信一、山口善道、中岸保夫、神田杏子、楠元真由美、梶原伸介

兼任：三好麻里（部長・免疫アレルギー科）、田中亮二郎（腎臓内科）、永瀬裕朗（脳神経内科）
長谷川大一郎（血液腫瘍科）、尾崎佳代（代謝内分泌科）、丸山あずさ（脳神経内科）
笠井和子（免疫アレルギー科）、藤田杏子（脳神経内科）、中川拓（腎臓内科）

フェロー：辻真之介、石田悠介

専攻医：高藤 哲（平成26年1月～3月）
瓦野昌大（平成26年8月～11月）
山口 宏（平成26年10月～）
角 健司（平成26年6月～平成26年9月）
富岡和美（平成26年4月～7月）
神納幸治（平成26年4月～7月）
上村和也（平成26年1月～3月）

初期研修医：

| | | | |
|------|---------|--------|---------|
| 廣畑吉昭 | 神戸赤十字病院 | 7月～8月 | 救急集中治療科 |
| 甲斐智彦 | 県立西宮病院 | 9月～11月 | 救急集中治療科 |
| 中道龍哉 | 県立塚口病院 | 11月～1月 | 救急集中治療科 |

小児外科、脳神経外科、整形外科、形成外科など外科系各科はon callでback up体制をとっている。

兵庫県立こども病院 小児救急医療センター 統計 2014年1月～12月

【1】 救急医療センター 来院患者 全体統計

| 2014年 1月～12月 | 外来のみ | | | | 本館入院 | | | | 救急センター入院 | | | | 小計 | | | | 合計 | | |
|------------------------|------|------|------|-----|------|-----|-----|----|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|------|
| | 時間内 | | 時間外 | | 時間内 | | 時間外 | | 時間内 | | 時間外 | | 時間内 | | 時間外 | | | | |
| | 初診 | 再診 | 初診 | 再診 | 初診 | 再診 | 初診 | 再診 | 初診 | 再診 | 初診 | 再診 | 初診 | 再診 | 初診 | 再診 | | | |
| 救急集中 治療科 Dr 外来診察 | 44 | 205 | 108 | 671 | 7 | 51 | 10 | 58 | 76 | 91 | 248 | 389 | 36 | 25 | 127 | 383 | 366 | 1143 | 2019 |
| | 249 | 779 | | 68 | | 167 | | 61 | | 637 | | 865 | | 510 | | 1509 | | | |
| 小計 | 1028 | | 1154 | | 126 | | | | | | | | | | | | | | |
| 外科系 | 小児外科 | 3 | 25 | 1 | 18 | 4 | 32 | 1 | 5 | | | | | | 7 | 57 | 2 | 23 | 89 |
| | 脳外科 | 1 | 40 | | 14 | 6 | 11 | 1 | 4 | | | | | | 7 | 51 | 1 | 18 | 77 |
| | 泌尿器科 | 5 | 7 | 8 | 11 | 1 | 3 | 2 | 6 | | | | | | 6 | 10 | 10 | 17 | 43 |
| | 形成外科 | 2 | 30 | | 11 | | | | | | | | | | 2 | 30 | 0 | 11 | 43 |
| | その他 | 1 | 1 | | 3 | | 1 | 1 | 1 | | | | | | 1 | 2 | 0 | 4 | 7 |
| 心外・循環器科 | | 45 | | 20 | 1 | 19 | 1 | 6 | | | | | | 1 | 64 | 1 | 26 | 92 | |
| 新生児科 | | 12 | | 5 | | 10 | | 1 | | | | | | 0 | 22 | 0 | 6 | 28 | |
| 他の内科系 | 2 | 46 | | 19 | 12 | 19 | | 1 | | | | | | 14 | 65 | 0 | 20 | 99 | |
| 小計 | 14 | 206 | 9 | 101 | 24 | 95 | 5 | 24 | | | | | | 38 | 301 | 14 | 125 | | |
| | 220 | 110 | | 119 | | 29 | | | | 339 | | 139 | | | | | | | |
| | 330 | | 478 | | 148 | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 58 | 411 | 117 | 772 | 31 | 146 | 15 | 82 | 76 | 91 | 248 | 389 | 36 | 25 | 849 | 1648 | | 2497 | |
| | | 1632 | | 865 | | | | | | | | | | | | | | | |

【2】救急センター外来・入院患者の内訳（救急集中治療科診察）2014年1月～12月

1) 総内訳

| | |
|------|-------------------------|
| 外来患者 | 1154 (本館入院 126 帰宅 1028) |
|------|-------------------------|

| | | | | |
|------|-----|-----|------|-----|
| 入院患者 | 死亡 | 21 | PICU | 286 |
| | 最重症 | 252 | | |
| | 重症 | 592 | 救病棟 | 579 |
| | 計 | 865 | 計 | 865 |

2) 来院患者重症度別

① 重症度

| 来院患者 | | 初診 | 再診 | 計 | % |
|------|-----|-----|------|------|------|
| | 死亡 | 12 | 8 | 20 | 1.0 |
| | 最重症 | 108 | 145 | 253 | 12.5 |
| | 重症 | 204 | 388 | 592 | 29.3 |
| | 外来 | 169 | 985 | 1154 | 57.2 |
| | 計 | 493 | 1526 | 2019 | 100 |

② 事故・疾病別 重症度

| 来院患者 | | 事故 | % | 疾病 | % | 計 | % |
|------|-----|-----|------|------|------|------|-------|
| | 死亡 | 5 | 25.0 | 15 | 75.0 | 20 | 1.0 |
| | 最重症 | 28 | 11.1 | 225 | 88.9 | 253 | 12.5 |
| | 重症 | 104 | 17.6 | 488 | 82.4 | 592 | 29.3 |
| | 外来 | 170 | 14.7 | 984 | 85.3 | 1154 | 57.2 |
| | 計 | 307 | 15.2 | 1712 | 84.8 | 2019 | 100.0 |

3) 来院方法別

| | | 小計 | 計 | % |
|--------------|--------|------|------|-------|
| 自家用車・タクシー・徒歩 | | 1733 | 1733 | 69.4 |
| 救急車 | 公共 | 679 | 696 | 27.9 |
| | Dr car | 7 | | |
| | 災害医療 | 2 | | |
| | 中央市民 | | | |
| | その他 | 8 | | |
| ヘリ | | 7 | 7 | 0.3 |
| 転棟 | | 61 | 61 | 2.4 |
| 計 | | 2497 | | 100.0 |

ヘリでの搬送例

- 1/12 7m 心肺停止蘇生後 県立柏原病院より
- 1/17 0ヵ月 先天性気管狭窄、脳腫瘍
県立広島病院より
- 4/20 1歳 先天性気管狭窄症、VSD
北海道立こども総合医療・保健センターより
- 5/3 10歳 交通外傷、下顎骨骨折
県立加古川医療センターより
- 5/17 2ヵ月 てんかん 県立柏原病院より
- 6/7 1歳 墜落外傷(マンション3階)、頭部打撲、
四肢打撲 現場直送
- 12/2 4歳 交通外傷、外傷性くも膜下出血
岡本病院(篠山市)より

4) 主な症例

| | | |
|---|----------|-----|
| 1 | 人工換気療法 | 109 |
| 2 | 緊急手術 | 53 |
| | 消化器系 | 31 |
| | 脳神経系 | 15 |
| 3 | 交通外傷 | 25 |
| 4 | 脳低温・平温療法 | 19 |
| 5 | 血液浄化 | 14 |
| 6 | 到着時心肺停止 | 11 |

5) 外科系緊急協力科(含重複)

| | | | |
|-------|-----|----------|----|
| 小児外科 | 246 | 泌尿器科 | 58 |
| 脳外科 | 119 | 放射線科 | 69 |
| 麻酔科 | 46 | 耳鼻科 | 22 |
| 形成外科 | 31 | 眼科 | 6 |
| 整形外科 | 28 | 精神科・指導相談 | 1 |
| 心外循環器 | 89 | 歯科 | 1 |

6) 救急センター入院 最重症患者住所

| | 2014年 | |
|-------|-------|-------|
| | 数 | % |
| 神戸・三田 | 145 | 53.1 |
| 阪神 | 20 | 7.3 |
| 東播磨 | 37 | 13.6 |
| 北播磨 | 18 | 6.6 |
| 西播磨 | 11 | 4.0 |
| 但馬 | 3 | 1.1 |
| 丹波 | 7 | 2.6 |
| 淡路 | 6 | 2.2 |
| 県外 | 26 | 9.5 |
| 不明 | 0 | 0.0 |
| 計 | 273 | 100.0 |

3. 代謝・内分泌科

1. 診療活動

| | |
|--------|-------|
| 部長(科長) | 郷司 克己 |
| 部医長 | 尾崎 佳代 |
| 部フェロー | 日外 祐理 |

本年度はスタッフ2名、フェロー1名の3名体制で診療をおこなった。

2. 診療活動

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟にかかわる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。本年度の新規外来患者数は247名であった。施設としては日本内分泌学会の認定教育施設に認定され、内分泌専門医を目指す小児科医の研修支援を行なっている。

当科においては遺伝工学的手法を駆使して診療にあたるのが社会的要請に合致することと考え分子生物学的技術の確立に努めている。本年度は先天性副腎過形成、偽性低アルドステロン症、副甲状腺機能低下症などに関する遺伝子解析において臨床と直結する成果が得られた。今後も神戸大学小児科とも協力しながら、分子生物学的手法を用いた解析、研究を臨床の場に役立てたいと考えている。

代謝内分泌科 2014 年度

外来患者（新患）

| | 患者数 |
|--------------------|-----|
| 低身長症 | 87 |
| 甲状腺疾患 | 25 |
| 性腺疾患 | 41 |
| 副腎 | 1 |
| 糖代謝異常 | 12 |
| 肥満 | 3 |
| マススクリーニング クレチン症 | 23 |
| 先天代謝異常症 | 11 |
| 先天性副腎過形成 | 3 |
| その他 | 41 |
| 計 | 247 |

入院患者

| | 患者数 |
|-------|-----|
| 低身長症 | 12 |
| 糖代謝異常 | 15 |
| 性腺疾患 | 6 |
| 甲状腺疾患 | 4 |
| 副腎疾患 | 2 |
| その他 | 15 |
| 計 | 54 |

4. リウマチ・アレルギー科

リウマチ・アレルギー科は、三好麻里、中岸保夫、笠井和子、水田麻雄の4名で診療を担当した。

【診療活動】

リウマチ性疾患の対象としては、若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎、自己炎症性疾患などがある。不明熱を主訴とした紹介もあり、その鑑別診断も重要な役割と考えており、診断・治療が日進月歩であるリウマチ性疾患のこどもへより良い対応をするように努力を続けている。リウマチ性疾患の患者数も徐々に蓄積され、近畿各地からの紹介や相談も増えてきている。JIAに対する生物学的製剤の診療実績も積み重ねられてきており、地域の中心的病院としての役割を果たしていると考えている。今後診療に努力を続けるとともに後進の育成にも力を尽くしたい。

一方、アレルギー性疾患の対象としては、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、じんましん、などがあり、ガイドラインに沿ったスタンダードな治療を地域の病医院と連携して行っている。今後は地域との連携をさらに充実させつつ、キャリアオーバーの年齢に達した患者様に関して、それぞれに適した将来を考えていく取り組みにも引き続き努力していきたいと考えている。

1) 外来初診患者数

| | |
|-------------|----|
| 1. アレルギー疾患 | |
| 気管支喘息 | 4 |
| アトピー性皮膚炎 | 16 |
| 好酸球性胃腸症 | 2 |
| 食物アレルギー | 28 |
| その他のアレルギー疾患 | 15 |

| | |
|-------------|----|
| 2. リウマチ性疾患 | |
| 若年性特発性関節炎 | 27 |
| <うち、精査して否定> | 13 |
| SLE | 1 |
| 皮膚筋炎 | 2 |
| <うち、精査して否定> | 1 |
| 不明熱・周期熱 | 6 |
| 血管炎症候群 | 6 |
| 他のリウマチ性疾患 | 3 |
| 強皮症 | 3 |

2) 入院患者数

| | |
|------------|---|
| 1. アレルギー疾患 | |
| アトピー性皮膚炎 | 1 |
| 好酸球性胃腸症 | 1 |

| | |
|------------|----|
| 2. リウマチ性疾患 | |
| 若年性特発性関節炎 | 12 |
| SLE | 3 |
| 若年性皮膚筋炎 | 1 |
| 強皮症 | 1 |
| 高安動脈炎 | 4 |
| 川崎病 | 18 |
| 不明熱 | 3 |

5. 脳神経内科

1. 人事異動

【スタッフ】

| | |
|--------|----------------|
| 医長（科長） | 永瀬 裕朗 |
| 医長 | 丸山あずさ |
| 医長 | 藤田 杏子（4月 - 休職） |

【フェロー】

| | |
|-----|-------|
| -3月 | 西山 将広 |
| | 田中 司 |

【専攻医】

| | | |
|-------|-------|--------|
| 2014年 | 1月 | 二野 菜々子 |
| | 4月 | 角 健司 |
| | 8-10月 | 富岡 和美 |
| | 11月 | 神納 幸治 |
| | 12月 | 上村 和也 |

本年は西山が3月末で大学院に進学、藤田が留学のため休職となり、スタッフ2名、フェロー1名の3名体制となった。児玉荘一先生に引き続き週1回スーパーバイズをお願いしている。

2. 活動状況

診療活動は、脳神経内科外来初診259名・発達行動小児科外来初診患者は36名、外来延べ人数3724名であった。また入院患者延べ人数は2030名であった。県内の中核機関としての役割を引き続き担って行きたい。

当科で重点的に取り組んでいる集中治療領域における連続脳波モニタリングは96例に対して行った。意識障害の評価には必須の管理であるが全国的に見ても、有数の件数である。引き続き急性脳症や重症頭部外傷などの重篤な症例の管理の質の向上に取り組んでいく予定である。またビデオ下発作時脳波検査は8例に行った。

小児で対応できる機関の限られている神経伝導速度検査にも対応できる体制を整え、検査体制を充実させてきている。

学術活動についても引き続き尽力している。急性脳症に対する県下多施設での共同研究のデータを学会報告し、publicationの準備をしている。その他の業績については別項を参照していただきたい。

一般的な診療・学術活動に加え、脳死判定委員会、虐待防止委員会の活動にも積極的に参与している。永瀬は本年も引き続き兵庫県の虐待防止委員を務めた。また県下の医療機関、保健所、児童相談所、児童養護施設、学校などの多職種で構成される虐待防止研究会の事務局を引き続き担当している。こどもを取り巻く環境に関する社会的活動にも積極的に貢献している。

脳神経内科外来

初診患者 259 例
(疑い疾患名を含む、一部重複あり。)

発作性疾患 159

| | |
|----------|----|
| てんかん | 79 |
| ウエスト症候群 | 5 |
| 熱性けいれん | 41 |
| 泣き入りひきつけ | 5 |
| 不随意運動 | 9 |

感染性・炎症性疾患 22

| | |
|---------|----|
| 急性脳炎・脳症 | 18 |
|---------|----|

自己免疫性神経疾患 11

| | |
|---------|---|
| 多発性硬化症 | 2 |
| ADEM | 2 |
| Bell 麻痺 | 3 |

発達障害 42

| | |
|---------|----|
| 精神遅滞 | 34 |
| 広汎性発達障害 | 6 |
| ADHD | 2 |

心身症 等 39

| | |
|-------|----|
| チック | 4 |
| 頭痛 | 15 |
| 摂食障害 | 3 |
| 睡眠障害 | 6 |
| 転換性障害 | 6 |

その他

| | |
|---------|---|
| 脳性麻痺 | 8 |
| 大頭症・小頭症 | 6 |
| 脳血管疾患 | 4 |
| 神経皮膚症候群 | 4 |
| 神経筋疾患 | 7 |
| 頭部外傷 | 3 |

検査

| | |
|------------|------|
| 連続脳波モニタリング | 96 件 |
| ビデオ下発作時脳波 | 8 件 |

発達行動小児科外来初診患者 36 例

| | |
|----------|----|
| 広汎性発達障害 | 8 |
| 精神遅滞 | 10 |
| 注意欠陥多動障害 | 4 |
| その他 | 14 |

(疑い疾患名を含む、一部重複あり)

6. 血液・腫瘍内科

【人事】

フェローの越智聡史医師と宮田憲二医師がそれぞれ奈良県立医科大学、愛知医科大学へ転出したが、植村優、高藤哲、二野菜々子、横井健人の4人の医師が新たにフェローとして採用され、スタッフの合計人数は2人増となった。短期ローテーターは割愛する。

| | |
|--------|------------------|
| 部長（科長） | 小阪嘉之 |
| 部長 | 川崎圭一郎 |
| 部長 | 長谷川大一郎 |
| 医長 | 矢内友子 |
| 医長 | 石田敏章 |
| 医長 | 神前愛子 |
| フェロー | 斎藤敦郎 |
| フェロー | 植村優（大阪赤十字病院より転入） |
| フェロー | 高藤哲（当院専攻医より） |
| フェロー | 二野菜々子（当院専攻医より） |
| フェロー | 横井健人（市立豊中病院より転入） |

【診療活動】

本年4月1日に小児がん医療センターが開設され、小阪嘉之科長がセンター長に就任した。専属のCRC(Clinical Research Coordinator)及びがん登録クラークが配置された。また、がん相談支援室が設置され、専任の看護師、MSWも配置されるなど整備は進んでいるが、マンパワーや待遇面などで課題は多い。

新患数と造血細胞移植数に関してはそれぞれ表1、表2を参照されたい。新患数は血液腫瘍性疾患、固形腫瘍性疾患、非悪性の血液疾患いずれも昨年とほぼ同数で総計もほぼ同数となっており、やはり全国屈指の症例数である。造血細胞移植症例は昨年より若干減少したが、小児科単科の施設の移植数としてはやはり多い。特に1歳未満の乳児3例に対し同種移植を施行し、いずれも無病生存を維持し得ている。当科の移植技術の確かさとともに救急集中治療科を初めとする各診療科や看護部等の協力の結果であり、院内各部署に深く感謝申し上げる次第です。

外来面で、昨年発足した長期フォローアップ外来は月1回矢内友子医師が担当し、主に造血細胞移植後の症例を対象に代謝・内分泌科や循環器内科他の協力を得て行っている。小児がん拠点病院としてこの分野も当院への期待は大きく、今後も徐々に対象疾患を広げる等、拡充に努めたい。

このような多忙な臨床の業務と並行して、積極的に内外の学会・研究会で発表を行っている。詳細は業績の項目を参照されたい。また、毎週腫瘍カンファレンスを開催し各科と一体になった集学的医療を推進するとともに、県内の小児がん診療病院会議、近畿ブロックの小児がん拠点病院会議、中国四国ネットワーク会議等を通して各施設との緊密な連携を図っている。

表 1 新患一覧

| 血液腫瘍性疾患 | | |
|---------|---------------------|----|
| | 急性リンパ性白血病 | |
| | BCP | 6 |
| | 急性骨髄性白血病 | |
| | AML (M4) | 1 |
| | AML (M7) | 1 |
| | 慢性骨髄性白血病 (CML) | 2 |
| | 若年性骨髄単球性白血病 | 1 |
| | 悪性リンパ腫 | |
| | ALCL | 1 |
| | T-lymphoblastic | 2 |
| | Burkitt | 2 |
| | DLBCL | 3 |
| | 骨髄異形性症候群 (MDS) | |
| | RCC | 2 |
| | Down 症 TAM | 1 |
| | Castlman | 1 |
| | ランゲルハンス細胞組織球症 | 2 |
| | 血球貪食性リンパ増殖性疾患 (HLH) | 8 |
| | | 33 |

| 血液疾患 | | |
|------|---------------------|----|
| | 溶血性貧血 | 1 |
| | 自己免疫性溶血性貧血 (AIHA) | 1 |
| | 特発性血小板減少性紫斑病 | 11 |
| | 血友病 A | 5 |
| | 先天性赤血球形成異常性貧血 (CDA) | 1 |
| | 先天性赤芽球ろう (DBA) | 1 |
| | 重症複合型免疫不全症 (SDID) | 1 |
| | 自己免疫性好中球減少症 | 4 |
| | アンチトロンビンⅢ欠乏症 | 2 |
| | カサバツハ・メリット症候群 | 1 |
| | 慢性肉芽腫症 | 1 |
| | 血液その他 | 22 |
| | (ドナー) | 18 |
| | | 69 |

| 固形腫瘍性疾患 | | |
|---------|-------------------|----|
| | 髄芽腫 | 1 |
| | 上衣腫 | 1 |
| | 過誤腫 | 1 |
| | 頭蓋内胚細胞腫瘍 | 2 |
| | 原始神経外胚葉性腫瘍 (PNET) | 1 |
| | 脳幹神経膠腫 | 3 |
| | 星細胞腫 | 2 |
| | 脳腫瘍その他 | 3 |
| | 神経芽腫 | 5 |
| | 網膜芽細胞種 | 7 |
| | 肝芽腫 | 3 |
| | 腎腫瘍 | |
| | wilms 腫瘍 | 3 |
| | 横紋筋肉腫 | 2 |
| | 頭蓋外胚細胞腫瘍 | |
| | 卵黄のう癌 | 1 |
| | mature teratoma | 4 |
| | immature teratoma | 1 |
| | 骨肉腫 | 2 |
| | 腭腫瘍 | 1 |
| | 固形その他 | 20 |
| | | 63 |

表 2 造血細胞移植一覧

| | 疾患名 | 年齢／性 | 病期 | 移植の種類 | 転帰 |
|----|-------|------|-------|--------|------|
| 1 | NBL | 1/M | 1stPR | APBSCT | 担癌生存 |
| 2 | ALL | 0/M | 1stCR | CBT | 無病生存 |
| 3 | MDS | 6/F | | RBMT | 無病生存 |
| 4 | FHL | 0/M | | CBT | 無病生存 |
| 5 | CAEBV | 15/M | | UBMT | 無病生存 |
| 6 | ALCL | 14/M | 3rdCR | APBSCT | 無病生存 |
| 7 | GCT | 11/M | 1stCR | APBSCT | 無病生存 |
| 8 | NBL | 7/M | 3rdPR | UBMT | 腫瘍死 |
| 9 | FHL | 0/M | | CBT | 無病生存 |
| 10 | AA | 10/M | | RBMT | 無病生存 |
| 11 | ALL | 20/F | 2ndCR | RBMT | 無病生存 |
| 12 | AML | 4/F | 3rdCR | CBT | 無病生存 |
| 13 | MBL | 4/M | 2ndCR | APBSCT | 無病生存 |
| 14 | MBL | 4/F | 1stCR | APBSCT | 無病生存 |

7. 循環器内科

【スタッフ・フェロー】

| | | | |
|------|-------|-----|--------|
| スタッフ | 城戸佐知子 | 専攻医 | 宇仁田 亮 |
| | 田中 敏克 | | 二野 菜々子 |
| | 藤田 秀樹 | | 橋本 興人 |
| | 富永 健太 | | 上村 和也 |
| | 佐藤 有美 | | 富岡 和美 |
| | 小川 禎治 | | 瓦野 昌大 |
| | 亀井 直哉 | | |
| フェロー | 古賀 千穂 | | |
| | 雪本 千恵 | | |
| | 三木 康暢 | | |
| | 祖父江俊樹 | | |

スタッフ7名、フェロー4名、他に専攻医数名。専攻医は1-4ヶ月ごとのローテーションで、主に入院患者管理、カテーテル検査の補助などに従事。心疾患患者の扱いに慣れ、心疾患の診断技術として主として心エコーの基礎を習得し、カテーテル検査の結果を読み、軽症では診断から手術適応の判断ができることを主なる目的とする。またフェローは1年単位の比較的長期間循環器診療に携わり、できる限りカテーテル検査、心エコー検査を単独でこなし、軽症から重症の疾患までの治療方針を自身の判断で立てられることが目標である。

【診療活動】

- (1) 外来：月曜日から金曜日まで週5日、午前・午後、基本1診。外来総患者数はのべ8690名、新規患者数は月曜日以外の毎日受け入れており、2014年の総新規患者数は589名（うち430名に心疾患・不整脈など経過観察を要する疾患あり）で、新患・再診とも昨年と比べ増加傾向であった。外来での有疾患患者の主体は比較的軽症の疾患であり、内訳は心室中隔欠損（114）、心房中隔欠損（82）、肺動脈狭窄（35）、動脈管開存（19）、川崎病（既往含む）（17）、ファロー四徴症（8）、両大血管右室起始（5）、不整脈（98）、意識消失（28）など。カテーテル治療相談外来（木曜午前、担当：田中医師）や成人先天性心疾患外来（月曜午後、経過観察、妊娠・分娩の相談など、担当：城戸）、不整脈外来（金曜午後、担当：小川）など専門外来も紹介患者が増加傾向である。当院では外来枠の制限があるため、地域の病院での先天性心疾患外来が充実されることが望ましいが、従事可能な小児科循環器医の数が少なく、今後の大きな課題である。新病院に移転後、2診で診療できるようになれば、さらに受診患者数が増加すると予想される。成人に達した患者については、地域との医療連携の必要性を考慮に入れ、兵庫県立姫路循環器病センターなどでの診療応援（外来応援）を続ける一方、2013年1月からは神戸大学附属病院循環器内科において成人先天性心疾患部門を立ち上げ、協力体制を強化している。また胎児心疾患診断についても、産科外来において胎児心エコーを行っているほか、他院にて診療の応援を行い、医療連携にも重点を置いて取り組んでいる。
- (2) 入院：1年間の総入院患者数は337名で、昨年と比べやや減少していた。カテーテル検査・治療目

的の入院が多数を占めるが、新生児・乳児期の重症疾患患者は昨年引き続き、入院患者の半数を占めている。新生児・乳児期の新規患者の入院は99名（内訳下表）で、心疾患の他に他疾患を合併する症例も多く、ICU滞在期間・入院期間は必然的に長くなっており、昨年に引き続き病棟運営上の問題となっている。

- (3) 生理検査:総心電図件数5013件、Master負荷心電図件数1585件、Holter心電図件数282件、トレッドミル負荷心電図は184件と昨年までと比べ、Master以外は大幅に増加している。心エコーは5143件（ICUや手術室、カテ室でのエコー件数を除く）、胎児心エコーは288件（担当：佐藤医師、亀井医師 主として木曜日）。また、9月から失神の精査としてヘッドアップチルト検査を導入し、12月までで20件施行した。今後、件数の増加が予想される。
- (4) 心臓カテーテル検査:総件数252件で、昨年より減少したが、近年、心臓CTの精度が高まり、またMRIの件数も増加し、それらが侵襲的な検査であるカテーテル検査にとって代わりつつある傾向がみられた。一方、カテーテル治療の件数は87件と昨年と同等であり、カテーテルに占める治療の割合は年々増加傾向となっている。

【その他の活動】

- (1) カンファレンス:月曜日に心臓外科との合同カンファレンス、木曜日にカテーテル検査および心エコー検討会、木曜日朝に心臓外科と合同の抄読会・検討会を行い、討議の時間をもっている。
- (2) 学会参加:小児循環器病学会、JPIC研究会、胎児循環器学会、成人先天性心疾患研究会、HOT研究会、川崎病研究会、日本循環器学会などへの参加。

【新規患者内訳】

| | | | | |
|----------------------------|-----|---|-------------------------|----|
| 1. 入院患者総数 | 337 | 名 | | |
| A. 新生児期・乳児期 | 99 | | 両大血管右室起始 | 34 |
| 心室中隔欠損・心内膜症欠損 | 10 | | 大動脈弓離断・大動脈縮窄 | 13 |
| 心房中隔欠損（肺高血圧） | 1 | | 房室中隔欠損 | 3 |
| 大動脈離断複合・縮窄複合 | 5 | | 大血管転位 | 15 |
| 両大血管右室起始 | 15 | | 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖 | 6 |
| 大血管転位 | 6 | | 重症肺動脈狭窄 | 2 |
| 肺動脈閉鎖・心室中隔欠損 | 1 | | 心筋疾患 | 7 |
| ファロー四徴症、 | 4 | | 大動脈弁疾患（狭窄・逆流） | 2 |
| 左心低形成症候群 | 4 | | 川崎病・冠動脈後遺症 | 8 |
| その他の単心室系疾患 | 12 | | 総肺静脈環流異常 | 9 |
| 総肺静脈還流異常 | 5 | | 両大血管右室起始・房室中隔欠損 | 1 |
| エプスタイン奇形 | 2 | | 感染性心内膜炎 | 2 |
| 大動脈肺動脈窓 | 1 | | 不整脈 | 7 |
| 三心房心 | 1 | | エプスタイン奇形 | 2 |
| 総動脈幹症 | 1 | | 総動脈幹症 | 3 |
| 肺動脈閉鎖（心室中隔欠損を伴わない） | 2 | | 僧帽弁閉鎖不全 | 1 |
| 重症肺動脈弁狭窄 | 2 | | 肺動脈弁欠損 | 2 |
| 不整脈・心不全 | 9 | | 肺高血圧 | 2 |
| 大動脈弁狭窄 | 1 | | 大動脈・肺動脈瘻 | 1 |
| 大動脈縮窄 | 7 | | 修正大血管転位 | 3 |
| 修正大血管転位 | 1 | | その他 | 10 |
| 心筋疾患 | 3 | | C. カテーテル治療（カテーテル総数252件） | 87 |
| 高安病 | 1 | | 弁形成（大動脈弁・肺動脈弁） | 9 |
| B. 全入院患者の疾患内訳（カテーテル検査入院含む） | 337 | | 血管形成 | 30 |
| フォンタン型手術関連疾患（いわゆる単心室型心臓） | 84 | | ステント留置術 | 3 |
| ファロー四徴症 | 33 | | コイル塞栓術（動脈管開存） | 6 |
| 肺動脈閉鎖・心室中隔欠損 | 26 | | コイル塞栓術（側副血管・動静脈瘻） | 10 |
| 心室中隔欠損 | 18 | | バルーン心房中隔裂開術 | 8 |
| 心房中隔欠損 | 32 | | 心房中隔欠損閉鎖術（Amplatzer） | 17 |
| 動脈管開存 | 11 | | 動脈管開存閉鎖術（Amplatzer） | 4 |

8. 腎臓内科

外来／入院診療については、白鳥孝俊医師（4月～、フェロー）、中川拓医師、神田杏子医師と田中亮二郎医師が担当した。また専攻医の神納幸治医師（9月）、中西啓太医師（1～3月）が研修した。平成26年の外来初診患者数189名、入院患者数は73名であった。

【活動状況】

ネフローゼ症候群、急性腎炎、IgA腎症、紫斑病性腎炎、遺伝性腎炎、その他慢性腎炎、全身性エリテマトーデス、溶血性尿毒症症候群などの急性腎不全、慢性腎不全、高血圧、尿路感染症、先天性尿路奇形、腎臓移植後、夜尿症等を対象としている。本年度はネフローゼ症候群や腎炎などに対して28例の腎生検を施行した。急性腎不全の患児に対しては集中治療科と協力して診療にあたった。低形成腎による慢性腎不全の患児2名に対して新規に腹膜透析を導入し、現在5名の慢性腎不全患児が外来維持腹膜透析を受けている。腎移植に関しては他院にお願いし、現在計5名の患者さんが外来にてフォロー中である。今後急性腎不全に対する血液浄化や慢性腎不全に対する在宅腹膜透析を積極的に押し進めたいと考えている。一方平成15年度より厚生労働科学研究「小児難治性腎疾患に対する薬物療法ガイドライン作成のための多施設協同研究」に参加し、巣状メサンギウム増殖を示す小児IgA腎症、初発ネフローゼ症候群、頻回再発型ネフローゼ症候群、ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を対象とした多施設協同非盲検ランダム化比較試験を行ってきた。また平成20年より厚生労働科学研究「小児保存期慢性腎臓病患者の長期予後の解明と腎不全進行抑制の治療法の確立」に参加し、本邦小児の新たな診断基準による小児慢性腎臓病（CKD）の実態把握のための調査研究や保存期の小児慢性腎臓病を対象とした多施設協同非盲検ランダム化比較試験を行ってきた。さらに平成20年度より小児期発症の難治性ネフローゼ症候群に対するIDEC-C2B8の多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験を医師主導治験として実施し、治験を終了した。治験結果に基づき平成26年8月にリツキシマブが難治性頻回再発型／ステロイド依存性ネフローゼ症候群に対して保険適用薬として承認された。現在は、「初発寛解後早期に再発する小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群患者を対象とした標準治療と標準治療＋高用量ミゾリピン併用治療の多施設共同オープンランダム化比較試験」と「頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象としたタクロリムス治療とシクロスポリン治療の多施設共同非盲検ランダム化比較試験」の臨床研究に参加している。また平成25年より神戸市と協力して、「3歳児検尿の効果的方法と腎尿路奇形の早期発見に関する研究」を行っている。当科では臨床研究・治験と疫学的研究を通して新しいエビデンス構築に向けて貢献している。また院内活動としては、週1回英文抄読会を行い、最新の情報の収集に努めている。また平成18年度より日本腎臓学会の研修教育施設にも指定されている。臨床研究のできる小児腎臓医を育てることを目標としている。

平成26年腎臓内科入院患者

| | |
|----------|-----|
| ネフローゼ症候群 | 36名 |
| IgA腎症 | 4名 |
| 紫斑病性腎炎 | 5名 |
| IgA血管炎 | 3名 |
| 急性腎不全 | 1名 |
| 慢性腎不全 | 7名 |

| | |
|-----------|----|
| 複雑型尿路感染症 | 5名 |
| 溶血性尿毒症症候群 | 1名 |
| 腎血管性高血圧 | 3名 |
| 逆流性腎症 | 2名 |
| SLE | 4名 |
| 腎移植後 | 2名 |

計73名

9. 精神神経科

【スタッフ】

常勤 関口典子

非常勤 長谷川弘子（神戸市こども家庭センター）、松川悦之（松川診療所）

スタッフの体制は昨年に引き続き、常勤1名、非常勤2名である。関口が月曜日から金曜日まで毎日外来診療を行い、長谷川（月曜日）と松川（金曜日）が週1回半コマ外来を担当している。

今年度から、精神科所属の臨床心理士（月2日）、言語聴覚士（月1回）が活動開始しており、より細やかな対応が可能となってきた。

【活動内容】

- 1) 対象疾患は、器質に起因する精神障害から、発達障害、ストレス関連障害、統合失調症など多岐にわたる。ICD-XにおけるF-code（精神および行動の障害）にてF1（精神作用物質使用による精神および行動の障害）以外のすべての項目を網羅している。
- 2) 診療活動は外来診療が主である。再来患者増加のため、新患枠を増やすことができず、新規患者の予約待ちは2か月近くになっている（院内紹介の急ぎの場合は随時対応している）。来年度は、職員体制の充実により解消される見込みである。
- 3) 入院患者に対するリエゾンは、虐待、産後うつなど精神科医が必要とされている分野は多い。また、がんや救急患者の家族への支援を期待されることもある。病棟との連携を密にしていきたい。今後の課題である。
- 4) 精神科領域での啓蒙、教育研修として、神戸大学発達科学部の精神科講義を行った。児童精神科領域に興味を持つ精神科医の見学を受け入れている。

平成 26 年 新患分布

| | | | 幼児 前期 | 幼児 後期 | 学童 前期 | 学童 後期 | 中学 高校 | 18歳 以上 | 計 |
|----|-----|---------------------------------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|----|
| F0 | F02 | 他に分類されるその他の疾患の認知症 | | | | 1 | 1 | | 2 |
| | F04 | 器質性健忘症候群、アルコールその他の精神作用物質によらないもの | | | | 1 | | | 1 |
| | F05 | せん妄、アルコールおよび他の精神作用物質によらないもの | | | | | | 1 | 1 |
| | F07 | 脳の疾患、損傷及び機能不全による人格及び行動の障害 | | | | 1 | | | 1 |
| F2 | F20 | 統合失調症 | | | | | 1 | | 1 |
| | F25 | 統合失調感情障害 | | | | | | 1 | 1 |
| F3 | F34 | 持続性気分[感情]障害 | | | | | 1 | 1 | 2 |
| F4 | F41 | 他の不安障害 | | | 1 | 1 | 3 | 1 | 6 |
| | F42 | 強迫性障害 | | | 1 | 3 | 2 | | 6 |
| | F43 | 重度ストレス反応 [重度ストレスへの反応]および適応障害 | | 3 | 2 | 5 | 8 | 1 | 19 |
| | F44 | 解離性[転換性]障害 | | | 1 | 3 | 5 | | 9 |
| | F45 | 身体表現性障害 | | 2 | 8 | 9 | 10 | 1 | 30 |
| F5 | F50 | 摂食障害 | | | | 2 | 3 | | 5 |
| | F51 | 非器質性睡眠障害 | | 1 | | | 2 | 2 | 5 |
| | F53 | 産褥に関連した軽症の精神および行動の障害、他に分類できないもの | | | | | | 3 | 3 |
| F7 | F70 | 軽度精神遅滞[知的障害] | | | 1 | 2 | 3 | | 6 |
| | F71 | 中度[中等度]精神遅滞[知的障害] | | | | | 1 | | 1 |
| F8 | F84 | 広汎性発達障害 | 3 | 13 | 15 | 24 | 9 | 1 | 65 |
| F9 | F90 | 多動性障害 | | 1 | 4 | | 3 | | 8 |
| | F91 | 行為障害 | | | 1 | 2 | 1 | | 4 |
| | F92 | 行為及び情緒の混合性障害 | | 1 | | | | | 1 |
| | F94 | 小児期および青年期に特異的に発症する社会的機能の障害 | | | | | 1 | | 1 |
| | F95 | チック障害 | | | 2 | 3 | | | 5 |
| 他 | G40 | てんかん | | | 1 | | | | 1 |
| | Q90 | ダウン症 | | | | | 2 | | 2 |
| | | その他 | 1 | | | 1 | | | 2 |
| 計 | | 3 | 21 | 37 | 55 | 53 | 12 | 188 | |

10. 小児外科

小児外科スタッフ

前田貢作（副院長 昭和 54 年卒 4 月～）
 横井暁子（平成 2 年卒）
 尾藤祐子（平成 5 年卒）
 福澤宏明（平成 11 年卒）
 遠藤耕介（平成 15 年卒 4 月～）
 大片祐一（平成 16 年卒）

小児外科フェロー・専攻医

岩出珠幾（平成 16 年卒）
 森田圭一（平成 17 年卒 4 月～）
 玉城昭彦（平成 21 年卒 4 月～）
 武本淳吉（平成 21 年卒 4 月～）

中尾 真（平成 3 年卒 ～3 月）

園田真理（平成 17 年卒 ～3 月）
 谷本光隆（平成 17 年卒 ～3 月）
 吉田拓哉（平成 19 年卒 ～3 月）
 岩城隆馬（平成 19 年卒 ～3 月）

【診療活動】

入院患者数 850 名（前年度 919 名）に対して 814 件、日帰り手術患者数 227 名（前年度 267 名）に対して 227 件の手術を行った。全手術件数 1041 件（前年度 1149 件）であった。うち新生児患者数 47 名（前年度 50 名）に対して 55 件の手術を行った。鏡視下手術は 55 件（前年度 62 件）であった。

手術待ち時間は入院手術で 1 ヶ月、日帰り手術で約 2~3 週間であった。

【教育活動】

例年通り神戸大学と熊本大学の 5-6 年生を臨床実習生として受け入れた。本年は海外からの留学生の受け入れはなかった。

【学会活動】

日本小児外科学会、太平洋小児外科学会、小児がん学会、日本内視鏡手術手技研究会、日本小児呼吸器外科研究会等で発表した。発表論文は邦文 3 編、英文 2 編であった。

入院手術

| 部位 | 術式 | 件数 | | | 件数 |
|-----|------------------|----|-------------|---------------|----|
| 頭頸部 | リンパ管腫摘出術 | 2 | 肺 | 声門下嚢胞開大術 | 1 |
| | 巨大リンパ管腫動脈塞栓術 | 1 | | 気管狭窄症 | |
| | 甲上舌管嚢腫摘出術 | 2 | | スライド気管形成術 | 4 |
| | 下咽頭梨状窩瘻 | 1 | | 気管形成術（切除端々吻合） | 1 |
| | 舌下型巨大がま腫 | | | 気管軟化症 | |
| | 内視鏡検査 | 1 | | 大動脈つり上げ術 | 3 |
| | 開窓術 | 1 | | 気管切開術 | 27 |
| | 摘出術 | 1 | | 気管切開孔閉鎖術 | 6 |
| | 嚢胞切除術 | 1 | | 気管切開孔形成術 | 7 |
| | 異所性軟骨切除 | 1 | | 喉頭気管分離術 | 6 |
| 気道 | 声門開大術 | 1 | 腕頭動脈離断術 | 1 | |
| | 声門下腔狭窄症 | | 肺部分切除術 | 3 | |
| | 喉頭前方切開 | 1 | 胸腔鏡補助下肺葉切除術 | 1 | |
| | 喉頭前方切開 T-tube 留置 | 4 | 肺葉切除術 | 6 | |
| | 喉頭形成術（肋軟骨グラフト） | 1 | 胸壁 | 漏斗胸 | |
| | | | Nuss bar 挿入 | 3 | |

| | | | | | |
|-------|-----------------------|----|---------------|--------------------|-----|
| 横隔膜 | Nuss bar 抜去 | 4 | 直腸・肛門 | 脾温存脾体尾部切除術 | 1 |
| | Ravitch | 1 | | 鎖肛 | |
| | 術後創肉芽切除、再縫合 | 1 | | PSARP | 4 |
| | 羊水胸腔シャントカテーテル摘出術 | 3 | | カットバック | 1 |
| | 先天性横隔膜ヘルニア | | | 人工肛門造設術 | 4 |
| | 横隔膜ヘルニア修復術(直接閉鎖) | 1 | | 人工肛門閉鎖術 | 6 |
| | 横隔膜ヘルニア修復術(パッチ閉鎖) | 3 | | 肛門形成術 | 4 |
| | 横隔膜ヘルニア修復術(腹筋利用閉鎖) | 2 | | preanal groove 切除術 | 2 |
| | サイロ形成術 | 2 | | 腹腔鏡下直腸固定術 | 1 |
| | 腹壁閉鎖術 | 1 | | 直腸粘膜脱ガント三輪法 | 1 |
| | 再修復術(経胸的) | 1 | | 直腸出血・人工肛門造設術 | 1 |
| | 胸腔鏡下横隔膜ヘルニア手術 | 1 | | 痔核・痔瘻手術 | 2 |
| 食道 | 食道閉鎖症 | | 肛門形成・拡張術 | 2 | |
| | 食道食道吻合術 | 2 | 肛門ポリープ切除術 | 1 | |
| | 気管食道瘻離断術 胃瘻造設術 | 2 | 肛門重複症瘻孔切除 | 1 | |
| | 胸壁外食道延長術 | 1 | 便秘症 直腸生検 | 5 | |
| | 腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア修復術 | 1 | | | |
| 胃 | 腹腔鏡補助下・胃瘻造設術 | 14 | 腹壁 | 臍帯・臍帯内ヘルニア | |
| | 胃瘻閉鎖術 | 2 | | 臍帯ヘルニア根治術 | 1 |
| | 噴門形成術 | 3 | | サイロ形成術 | 1 |
| | 腹腔鏡下噴門形成術 | 6 | | サイロ後腹壁閉鎖術 | 1 |
| | 肥厚性幽門狭窄症手術 | 7 | | 鼠径ヘルニア・陰嚢水腫手術 | 125 |
| | 幽門閉鎖 ダイアモンド吻合術 | 1 | | 臍ヘルニア手術 | 6 |
| | 胃穿孔縫合閉鎖・ドレナージ術 | 1 | | 腹壁瘢痕ヘルニア | 1 |
| 十二指腸 | 十二指腸閉鎖・狭窄症手術 | 4 | 泌尿・生殖器 | 腎摘出術 | 2 |
| | 十二指腸閉鎖術後縫合不全・再縫合 | 1 | | 付属器切除術・卵巣腫瘍核出術 | 4 |
| 小腸・大腸 | 腹腔鏡下/腸回転異常症手術 | 1 | | 卵巣嚢腫開窓術 | 2 |
| | 腹腔鏡下/腸重積観血の整復術 | 5 | | 尿管管遺残摘出術 | 2 |
| | イレウス解除術・腸管切除術 | 13 | 精巣固定術 | 2 | |
| | 先天性小腸閉鎖症 | 2 | 腫瘍 | 生検 | 8 |
| | 腸瘻造設術 | 2 | | 切除術 | 8 |
| | Hirschsprung 病 / 類縁疾患 | | 処置・検査 | 胸腔鏡下/縦隔・胸腔ドレナージ | 4 |
| | 直腸・結腸生検 | 1 | | 腹腔鏡検査 | 1 |
| | 人工肛門造設 | 1 | | 試験開胸・開腹術 | 1 |
| | 内肛門括約筋切開術 | 1 | | 開腹・開胸止血術 | 3 |
| | 経肛門 Soave 手術 | 3 | | 腹腔鏡下・腹腔ドレナージ | 2 |
| | 腸瘻造設・閉鎖・吻合 | | | 切開排膿・ドレナージ | 5 |
| | 胎便性腹膜炎 | 2 | | 試験穿刺 | 1 |
| | 特発性腸穿孔 | 3 | | ピシバニール・エタノール注入 | 7 |
| | 壊死性腸炎 | 7 | | 摘便 | 3 |
| | 腹腔鏡補助下重複腸管手術 | 2 | | ストマポリープ切除 | 1 |
| | 腹腔鏡下/虫垂切除術 | 20 | | 食道異物除去 | 1 |
| | 臍腸管遺残切除術 | 1 | | 右副耳切除術 | 1 |
| 肝胆脾 | 総胆管拡張症 | | | 肛門チューブ入れ替え瘻孔造影 | 2 |
| | 嚢腫切除肝管空腸吻合術 | 4 | | 神経刺激 | 1 |
| | 腹腔鏡下嚢腫切除肝管空腸吻合術 | 1 | | 中心静脈カテーテル留置・抜去 | 106 |
| | 胆道閉鎖症手術 | 2 | | テコフカテーテル挿入、抜去 | 8 |
| | 腹腔鏡下胆嚢摘出術 | 1 | | 気管支鏡検査・処置 | 172 |
| | 肝生検 | 2 | 上部消化管内視鏡検査・処置 | 44 | |
| | 総胆管切石術・胆嚢摘出術 | 1 | ERCP 検査処置 | 1 | |
| | 開腹肝生検・胆道造影 | 2 | 下部消化管内視鏡検査・処置 | 17 | |
| | 肝腫瘍核出術 | 1 | 膀胱鏡検査 | 3 | |
| | 拡大右葉切除術・心房内腫瘍摘出術 | 1 | 計 | 814 | |
| | 脾腫瘍 | | | | |

日帰り手術

| 術式 | 件数 |
|------------|-----|
| 鼠径ヘルニア手術 | 183 |
| 臍ヘルニア | 15 |
| 陰唇癒合剥離術 | 9 |
| 腫瘍切除 | 5 |
| 経肛門のポリープ切除 | 4 |
| 痔瘻根治術 | 1 |

| | |
|-----------|-----|
| 三輪-Gant s | 3 |
| 精巣固定術 | 1 |
| 上部消化管内視鏡 | 2 |
| 肉芽切除術 | 1 |
| 会陰部形成術 | 2 |
| 試験穿刺 | 1 |
| 計 | 227 |

新生児手術

| 病名 | 術式 | 件数 |
|-------------------|-----------------------|----|
| 先天性気管狭窄症 | スライド気管形成術 | 1 |
| 胎児胸腔羊水腔シャントチューブ遺残 | シャントチューブ抜去 | 2 |
| 先天性食道閉鎖症 | 一期的吻合術 | 2 |
| | TEF 離断術・胃瘻造設術 | 2 |
| 先天性横隔膜ヘルニア | 横隔膜ヘルニア修復術 | 7 |
| | 胸腔鏡下横隔膜ヘルニア修復術 | 1 |
| | 腹壁閉鎖 | 1 |
| | 術後消化管穿孔、腸切除術 | 1 |
| 先天性幽門閉鎖症 | ダイヤモンド吻合術 | 1 |
| 肥厚性幽門狭窄症 | 幽門筋切開術 | 4 |
| 先天性十二指腸閉鎖症・狭窄症 | ダイヤモンド吻合術 | 4 |
| | 縫合不全再吻合 | 1 |
| 腸回転異常症 | Ladd 手術 | 1 |
| 壊死性腸炎 | 腸瘻造設術 | 2 |
| | ドレナージ術 | 1 |
| | 試験開腹 | 1 |
| 特発性腸穿孔 | 腸瘻造設術 | 3 |
| 胎便関連性腸閉塞 | 腸瘻造設術 | 1 |
| 先天性小腸閉鎖症 | 小腸小腸吻合術 | 1 |
| 腸管重複症 | 腹腔鏡補助下腸管膜嚢胞切除術 | 1 |
| ヒルシュスプルング病類縁疾患 | Leveling biopsy 腸瘻造設術 | 1 |
| 臍腸管遺残 | 臍腸管遺残切除術 | 1 |
| 鎖肛 | 人工肛門造設術 | 4 |
| | カットバック術 | 1 |
| 臍帯ヘルニア | 閉鎖術 | 1 |
| 卵巣嚢腫 | 嚢腫開窓術 | 2 |
| 鼠径ヘルニア | 左鼠径ヘルニア根治術 | 1 |
| 処置・検査 | 腹膜透析カテーテル留置術 | 2 |
| | 気管支鏡 | 2 |
| | 下部消化管内視鏡 | 1 |
| | 中心静脈カテーテル留置術 | 1 |
| | 計 | 55 |

気管支鏡検査・処置

| 術式 | 件数 |
|-----------------|-----|
| 気管支鏡のみ | 144 |
| 生検・BAL | 3 |
| 気管異物摘出術 | 4 |
| KTP レーザーによる肉芽焼灼 | 9 |
| 肉芽切除 | 3 |
| T-tube 交換・留置・抜去 | 8 |
| レティナ抜去 | 1 |
| 計 | 172 |

鏡視下手術

| 術式 | 件数 |
|----------------------|----|
| Nuss bar 挿入 | 3 |
| 胸腔鏡下肺部分切除術 | 1 |
| 胸腔鏡下剥皮術・ドレナージ術 | 1 |
| 胸腔鏡下横隔膜ヘルニア根治術 | 1 |
| 胸腔鏡下胸腔内バスケットカテーテル留置術 | 1 |
| 胸腔鏡下リンパ節摘出術 | 1 |
| 腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア修復術 | 1 |
| 腹腔鏡下噴門形成術 | 6 |
| 腹腔鏡下胃瘻造設術 | 5 |
| 腹腔鏡下胆道拡張症手術 | 1 |
| 腹腔鏡下胆嚢摘出術 | 1 |
| 腹腔鏡下腸重積症手術 | 3 |
| 腹腔鏡下虫垂切除術 | 17 |
| 腹腔鏡下膿瘍ドレナージ術 | 1 |
| 腹腔鏡下洗浄ドレナージ術 | 1 |
| 腹腔鏡補助下腸管重複症手術 | 1 |
| 腹腔鏡補助下鼠径ヘルニア手術 | 8 |
| 腹腔鏡補助下リンパ管腫摘出術 | 1 |
| 腹腔鏡検査 | 1 |
| 計 | 55 |

消化管内視鏡検査・処置

| 術式 | 件数 |
|-------------|----|
| 上部消化管内視鏡 | |
| 検査のみ | 23 |
| 食道バルーン拡張術 | 13 |
| 異物摘出術 | 2 |
| EIS/EVL | 5 |
| イレウス管留置術 | 1 |
| ERCP | 1 |
| 生検 | 1 |
| ステント抜去 | 1 |
| 下部食道内視鏡 | |
| 検査のみ | 13 |
| 内視鏡的ポリープ切除術 | 4 |
| 計 | 64 |

2014 年度 研修医記録

武本 淳吉

| 術式 | 症例数 | | うち | |
|-------------------|---------|----|-----------|-----------|
| | 執刀 医 | 助手 | 新生児 執刀 | 新生児 助手 |
| <気道・頸胸部> | | | | |
| 内視鏡下バルーン拡張術 | | 5 | | |
| 内視鏡の食道静脈瘤結紮術 | | | | |
| スライド気管形成術 | | 3 | | |
| 輪状軟骨前方切開術 | | 2 | | |
| 気管切開 | 5 | 1 | | |
| 喉頭気管分離術 | 1 | 1 | | |
| 正中頸嚢胞手術 | 1 | | | |
| 先天性横隔膜ヘルニア・サイロ形成 | | 1 | | 1 |
| 先天性横隔膜ヘルニア修復術 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 横隔膜ヘルニア再修復術 | | 1 | | |
| 右肺下葉切除術 | | 1 | | |
| 左肺上葉切除術 | | 1 | | |
| 漏斗胸手術 (Nuss 法) | | 1 | | |
| 漏斗胸手術 (バー抜去) | 1 | | | |
| 硬性気管支鏡検査 | | 30 | | |
| 硬性気管支鏡検査、KTP レーザー | | 4 | | |
| 硬性気管支鏡検査、T チューブ留置 | | 1 | | |
| 気管支ファイバー下異物摘出術 | 1 | | | |

| <上腹部手術> | | | | |
|--------------------|---|---|---|---|
| 幽門筋切開術 | 2 | | 1 | |
| 開腹噴門形成術 | | 3 | | |
| 腹腔鏡下噴門形成術 | 1 | 1 | | |
| 開腹胃瘻造設術 | 1 | | | |
| 腹腔鏡補助下胃瘻造設術 | 1 | | | |
| 胃瘻閉鎖術 | | 1 | | |
| 先天性十二指腸閉鎖・ダイヤモンド吻合 | 1 | | 1 | |
| 先天性小腸閉鎖症・小腸切除術 | | 1 | | 1 |
| 小腸閉鎖術後・小腸切除再吻合 | | 1 | | |
| 上部消化管内視鏡検査 | 4 | 3 | | |
| 上部消化管内視鏡検査・EIS | | 1 | | |

| <肝・胆・膵> | | | | |
|---------|---|---|--|--|
| 胆道拡張症手術 | 1 | | | |
| 胆道閉鎖症手術 | | 2 | | |

| <下腹部手術> | | | | |
|----------|---|---|--|--|
| 腹腔鏡下虫垂切除 | 6 | 1 | | |

| | | | | |
|------------------------|---|---|---|---|
| 人工肛門造設術 | 2 | 1 | 2 | 1 |
| 人工肛門閉鎖術 | 2 | 1 | | |
| ヒルシュスプルング病手術 (Soave 法) | 1 | | | |
| 鎖肛手術 (カットバック) | 1 | | 1 | |
| perineal groove 切除術 | 1 | | | |
| 腹腔鏡下直腸固定術 | | 1 | | |
| 直腸全層生検 | 3 | | | |
| 大腸ポリープ切除術 | | 3 | | |
| 下部消化管内視鏡 | | 2 | | |
| 下部消化管内視鏡下ポリープ切除 | | 1 | | |
| Gant- 三輪手術 | 1 | | | |
| 肛門用手拡張 | 2 | 1 | | |
| イレウス解除術 | 1 | 1 | | |
| 回盲部切除術 | 1 | | 1 | |
| 卵巣腫瘍開窓術 | 1 | | 1 | |

| <ヘルニア> | | | | |
|---------|----|---|---|--|
| 臍ヘルニア手術 | 7 | | | |
| ソケイヘルニア | 64 | 1 | | |
| 腹壁破裂 | 1 | | 1 | |

| <その他> | | | | |
|------------------|----|---|---|--|
| 開腹腫瘍生検 | 1 | 1 | | |
| 腫瘍摘出 (開腹 or 開胸) | | 1 | | |
| 乳房腫瘍摘出術 | | 1 | | |
| IVH 挿入 (Browiac) | 2 | 1 | 1 | |
| IVH 挿入 (Hickman) | 10 | | | |
| IVH 抜去 | 3 | | | |
| 陰唇癒合 | 1 | | | |
| リンパ管腫切除術 | | 1 | | |
| 切開排膿 | 1 | | | |
| 皮下腫瘍摘出術 | 1 | | | |
| 臍腫瘍切除 | 1 | | | |
| 尿管摘出術 | | 1 | | |
| CAPD カテーテル挿入 | 1 | | | |
| 試験穿刺 | 1 | | | |

| | | | | |
|----------|-----|----|----|---|
| 合計 | 137 | 85 | 10 | 4 |
| うち鼠径ヘルニア | 64 | | | |
| 臍ヘルニア | 7 | | | |
| IVH 関連 | 15 | | | |

11. 心臓血管外科

【スタッフ紹介】

部長（手術部長兼任） 大嶋 義博（昭和 57 年神戸大卒）、

神戸大学医学研究科医科学専攻外科系講座客員教授、

心臓血管外科専門医、同 修練指導者

医長 圓尾 文子（平成 7 年神戸大卒）心臓血管外科専門医

医長 長谷川 智巳（平成 8 年京都府立医大卒）心臓血管外科専門医

医長 松久 弘典（平成 11 年神戸大卒）心臓血管外科専門医

専攻医（心臓血管外科修練医）

野田 伶（平成 17 年神戸大卒）日本外科学会専門医

松島 峻介（平成 20 年大阪大卒）日本外科学会専門医

岩城 隆馬（平成 19 年愛媛大卒）日本外科学会専門医

【診療体制】

外来：月、水、金の午後 2 診

手術：月～金。

4 月より心臓センターが開設され、外科・内科のより緊密な連携を目指し、さらに、地域連携、救急医療の強化も含め、新たな体制づくりに乗り出した。25 年 12 月からは心臓センター運営委員会を定期的に関き、26 年 1 月には、センター開設を記念して、診療科・看護部、各々の立場から講演する、新しい形式の勉強会を開催した。今後も、定期的に行う予定。25 年 4 月より、岩城先生が当院小児外科から転向、心臓外科専攻医として勤務を始めた。全体の手術件数は前年度を上回った。胎児診断症例の紹介が増加、それに伴って新生児症例が増加している。2014 年の体外循環を用いた手術は 189 例（新生児 21 例）、体外循環非使用の心臓手術は 61 例（新生児 36 例）、その他 30 例であった。在院死亡は 4 例で、極小未熟児 PDA(2) や冠動脈瘤破裂(1) など、救命困難例であった。心臓センター発足の効果か、体外循環の症例数は前年を上回った。毎朝の麻酔科との術前カンファレンス、ICU カンファレンス、毎週月曜朝の術前検討会、夕方の循環器カンファレンス、金曜の術後検討会に加え、循環器科および複数科との Audit meeting も定期的に行っている。

【学会活動】

英文、邦文論文が掲載あるいは投稿中で、海外学会、胸部外科学会、心臓血管外科学会、小児循環器学会、その他、多数の学会、研究会にて発表した。

III 診療統計

| 術式 (疾患) | 28日未満 | | | ～1歳未満 | | | 1歳～17歳 | | | 18歳以上 | | | 総数 | | |
|----------------------------|-------|----|------|-------|----|------|--------|----|------|-------|----|------|-----|----|------|
| | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 |
| PDA | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| CoA (simple) | | | | 3 | | | | | | | | | 3 | 0 | 0 |
| +VSD | 1 | | | 4 | | | | | | | | | 5 | 0 | 0 |
| +DORV | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +AVSD | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| +TGA | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +SV | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +others | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| IAA (simple) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +VSD | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| +DORV | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +Truncus | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +TGA | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +SV | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +others | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| Vascular ring | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| PS | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| PPA or critical PS | 1 | | | 3 | | | 2 | | | | | | 6 | 0 | 0 |
| TAPVR | 5 | | | 1 | | | | | | | | | 6 | 0 | 0 |
| asplenia | 3 | | | 4 | | | | | | | | | 7 | 0 | 0 |
| PAPVR ± ASD | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| ASD | | | | 1 | | | 23 | | | | | | 24 | 0 | 0 |
| Cor triatriatum | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| AVSD (partial) | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| AVSD (complete) | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| +TF or DORV | | | | | | | 2 | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| +others | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| VSD (I) | | | | | | | 4 | | | | | | 4 | 0 | 0 |
| VSD (II or IV) | | | | 28 | | | 12 | | | 1 | | | 41 | 0 | 0 |
| VSD (III) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| VSD + PS | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| DCRV ± VSD | | | | 2 | | | | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| Aneurysm of sinus Valsalva | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| TF | | | | 2 | | | 5 | | | | | | 7 | 0 | 0 |
| (SP shunt) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| PA + VSD (Rastelli) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| (SP shunt) | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| (UF ± shunt) | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| DORV | 2 | | | 4 | | | 4 | | | | | | 10 | 0 | 0 |
| TGA (simple) | 3 | | | 1 | | | | | | | | | 4 | 0 | 0 |
| + VSD | 1 | | | 1 | | | | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| + VSD + PS | | | | | | | 2 | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| corrected TGA | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| Truncus arteriosus | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| SV (SP shunt) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| (BDG) | | | | 10 | | | | | | | | | 10 | 0 | 0 |
| (Fontan) | | | | 1 | | | 2 | | | | | | 3 | 0 | 0 |
| TA (SP shunt) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| (BDG) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| (Fontan) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| HLHS (Norwood) | 2 | | | 4 | | | | | | | | | 6 | 0 | 0 |
| (BDG) | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| (Fontan) | | | | | | | 2 | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| Aortic valve lesion (形成) | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| (弁置換) | | | | | | | 2 | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| SAS | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| supra AS | | | | 2 | | | | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| Mitral valve lesion (MR形成) | | | | | | | 2 | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| (MR 弁置換) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| (MS 形成) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| (MS 弁置換) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| Ebstein | 1 | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | 2 | 1 | 1 |
| Coronary disease | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| その他 | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| 再手術 VSD 再閉鎖 | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| PS 解除 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| RV-PA 導管再置換 | | | | 1 | | | 2 | | | | | | 3 | 0 | 0 |
| (PVR を伴う) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| その他 | | | | 1 | | | 6 | | | | | | 7 | 0 | 0 |
| 総数 | 21 | 0 | 0 | 86 | 1 | 1 | 81 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 189 | 1 | 1 |

| 術式 (疾患) | 28 日未満 | | | ～ 1 歳未満 | | | 1 歳～ 17 歳 | | | 18 歳以上 | | | 総数 | | |
|----------------------------|--------|----|------|---------|----|------|-----------|----|------|--------|----|------|----|----|------|
| | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 | 症例 | 死亡 | 在院死亡 |
| PDA | 18 | 1 | 1 | 5 | 1 | 1 | | | | | | | 23 | 2 | 2 |
| CoA (simple) | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| +VSD | 2 | | | | | | | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| +DORV | 2 | | | | | | | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| +AVSD | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +TGA | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +SV | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +others | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| IAA (simple) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +VSD | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| +DORV | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +Truncus | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +TGA | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +SV | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +others | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| Vascular ring | 1 | | | | | | 1 | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| PS | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| PPA or critical PS | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| TAPVR | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| asplenia | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| PAPVR ± ASD | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| ASD | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| Cor triatriatum | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| AVSD (partial) | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| AVSD (complete) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +TF or DORV | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| +others | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| VSD (I) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| VSD (II or IV) | 1 | | | 5 | | | | | | | | | 6 | 0 | 0 |
| VSD (III) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| VSD + PS | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| DCRV ± VSD | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| Aneurysm of sinus Valsalva | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| TF | | | | 2 | | | | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| PA + VSD | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| DORV | 3 | | | 5 | | | | | | | | | 8 | 0 | 0 |
| TGA (simple) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| + VSD | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| + VSD + PS | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| corrected TGA | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| Truncus arteriosus | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| SV (SP shunt) | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| (PAB) | 4 | | | | | | | | | | | | 4 | 0 | 0 |
| TA (SP shunt) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| (BDG) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| (Fontan) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| HLHS (bil.PAB) | 2 | | | | | | | | | | | | 2 | 0 | 0 |
| (SP shunt 追加) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| Aortic valve lesion (形成) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| (弁置換) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| SAS | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| supra AS | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| Mitral valve lesion (MR形成) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| (MR 弁置換) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| (MS 形成) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| (MS 弁置換) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| Ebstein | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| Coronary disease | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| その他 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| 再手術 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| VSD 再開鎖 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| PS 解除 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| RV-PA 導管再置換 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| (PVR を伴う) | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 |
| その他 | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 0 | 0 |
| 総数 | 36 | 1 | 1 | 23 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 61 | 2 | 2 |

| | 症例数 | 死亡 | 在院死亡 |
|------------------|-----|----|------|
| 皮下膿瘍、デブリードメント | 2 | 0 | 0 |
| ペースメーカー植え込み | 3 | 0 | 0 |
| ペースメーカー電池交換 | 5 | 0 | 0 |
| 心嚢ドレナージ | 3 | 0 | 0 |
| 胸腔ドレナージ | 1 | 0 | 0 |
| ECMO 装着 (冠動脈瘤破裂) | 3 | 1 | 1 |

| | 症例数 | 死亡 | 在院死亡 |
|------------------|-----|----|------|
| ECMO 装着 (気管形成術等) | 5 | 0 | 0 |
| 左房ベント挿入 | 1 | 0 | 0 |
| 気管腕頭動脈瘻 | 1 | 0 | 0 |
| 縦隔炎手術 | 1 | 0 | 0 |
| 大動脈/肺動脈吊上げ | 5 | 0 | 0 |
| 総計 | 30 | 1 | 1 |
| 総計 | 30 | 1 | 1 |

12. 脳神経外科

2014年度の脳神経外科スタッフは長嶋達也(院長)、河村淳史(診療科長)、山元一樹(部長)、阿久津宣行(院長)の指導医と専門医1名で診療に従事した。

ローテーション専攻医として、2014年1月1日—3月31日は藤本陽介(医員)、2014年4月1日—9月30日は藤田祐一(医員)、2014年10月1日から山川皓(医員)が脳神経外科専門医研修の一環として着任した。また、10月1日より東京医科大学八王子医療センター脳神経外科から大塚邦紀(フェロー)を国内留学医として迎えた。

診療活動では外来患者数の増加と共に、兵庫県下のみならず他府県からの紹介及びセカンドオピニオン例も増加している。当施設脳神経外科の特色は複数科との連携によるチーム医療であり、血液腫瘍内科・放射線治療科・臨床病理部との集学的治療を必要とする脳脊髄腫瘍症例、整形外科・泌尿器科・育児内科との治療および管理が必要な二分脊椎症例、形成外科合同の外科的治療を要する頭蓋顔面奇形症例、救急集中治療科をはじめ多数科との協力が必要な頭部外傷・多発外傷症例などを中心に積極的な治療に取り組んでいる。各症例においては地域小児医療各方面と密な連絡・連携を保ちながら長期の追跡を行い、成人した時点でのQOLの向上を目指しており、神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する手術・治療成績を積み重ねていく所存である。

脳神経外科手術ナビゲーションが順調に稼働し、新型顕微鏡も導入したので困難な手術を支える施設面も充実した。今後も24時間365日、あらゆる小児の脳神経外科手術に対応するという体制を維持し続けたい。

その他の活動

- (1) カンファレンス：毎週水曜日 腫瘍治療検討会、月1回 二分脊椎カンファレンス
- (2) 学会参加；日本小児神経外科学会、脳神経外科学会学術総会、日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、日本二分脊椎研究会、日本こども病院神経外科医会、日本脳卒中学会総会、日本脳腫瘍学会、神経内視鏡学会などへの参加

件数

| | 脳神経外科的手術の総数 | 157 |
|---|-------------|-----|
| 1 | 脳腫瘍 | |
| | 摘出術 | 23 |
| | 開頭生検術 | 1 |
| | 経蝶形骨洞手術 | |
| 2 | 脳血管障害 | |
| | バイパス手術 | 9 |
| | 開頭血腫除去術 | |
| 3 | 外傷 | |
| | 急性硬膜外血腫 | 1 |
| | 急性硬膜下血腫 | 4 |
| | 減圧開頭術 | |
| | 慢性硬膜下血腫 | |
| 4 | 奇形 | |
| | 頭蓋・脳 | 17 |
| | 脊髄・脊椎 | 29 |

| | | |
|---|---------|----|
| 5 | 水頭症 | |
| | 脳室シャント術 | 37 |
| | 内視鏡手術 | 2 |
| 6 | 脊髄・脊椎 | |
| | 腫瘍 | 13 |
| | 脊髄空洞症 | |
| 7 | その他 | 20 |
| 8 | 血管内手術 | 1 |

日本脳神経外科学会の分類に準ずる

脳神経外科 専攻医指導記録
 専攻医 藤本陽介
 研修期間 2014.1.1-3.31
 指導医 長嶋 達也、河村淳史、山元一樹

| 症例 | 執刀 | 第1助手 | 第2助手 |
|--------------|----|------|------|
| 脳腫瘍摘出術 | | 3 | |
| 動脈瘤・脳動静脈奇形ほか | | 0 | |
| 開頭脳内血腫 | | 0 | |
| バイパス手術 | | 3 | |
| 急性硬膜外血腫 | | 2 | |
| 急性硬膜下血腫 | | 0 | |
| 慢性硬膜下血腫・水腫 | | 0 | |
| 頭蓋・脳奇形 | | 2 | |
| 脊椎・脊髄奇形 | | 7 | |
| 水頭症脳室シャント | | 8 | |
| 神経内視鏡手術 | | 0 | |
| 脊椎・脊髄腫瘍 | | 2 | |
| 脊髄空洞症 | | 0 | |
| その他 | | 6 | |
| 血管内手術 | | 0 | |
| 計 | 0 | 33 | |

専攻医 藤田 祐一
 研修期間 2014.4.1-9.30
 指導医 長嶋 達也、河村淳史、山元一樹、阿久津宣行

| 症例 | 執刀 | 第1助手 | 第2助手 |
|--------------|----|------|------|
| 脳腫瘍摘出術 | | 4 | |
| 動脈瘤・脳動静脈奇形ほか | | 0 | |
| 開頭脳内血腫 | | 0 | |
| バイパス手術 | | 3 | |
| 急性硬膜外血腫 | | 0 | |
| 急性硬膜下血腫 | | 0 | |
| 慢性硬膜下血腫・水腫 | | 0 | |
| 頭蓋・脳奇形 | | 3 | |
| 脊椎・脊髄奇形 | | 9 | |
| 水頭症脳室シャント | | 20 | |
| 神経内視鏡手術 | | 2 | |
| 脊椎・脊髄腫瘍 | | 1 | |
| 脊髄空洞症 | | 1 | |
| その他 | | 6 | |
| 血管内手術 | | 0 | |
| 計 | 0 | 49 | |

医員 大塚 邦紀
 研修期間 2014.10.1-12.31
 指導医 長嶋 達也、河村淳史、山元一樹、阿久津宣行

| 症例 | 執刀 | 第1助手 | 第2助手 |
|--------------|----|------|------|
| 脳腫瘍摘出術 | | 2 | |
| 動脈瘤・脳動静脈奇形ほか | | 0 | |
| 開頭脳内血腫 | | 0 | |
| バイパス手術 | | 0 | |
| 急性硬膜外血腫 | | 0 | |
| 急性硬膜下血腫 | | 0 | |
| 慢性硬膜下血腫・水腫 | | 0 | |
| 頭蓋・脳奇形 | | 1 | |
| 脊椎・脊髄奇形 | | 2 | |
| 水頭症脳室シャント | 1 | 3 | |
| 神経内視鏡手術 | | 0 | |
| 脊椎・脊髄腫瘍 | | 1 | |
| 脊髄空洞症 | | 0 | |
| その他 | 1 | 2 | |
| 血管内手術 | | 0 | |
| 計 | 2 | 11 | |
| 合計 | | | |

脳神経外科 専攻医指導記録

専攻医 山川 皓

研修期間 2014.10.1-12.31

指導医 長嶋 達也、河村淳史、山元一樹、阿久津宣行

| 症例 | 執刀 | 第1助手 | 第2助手 |
|--------------|----|------|------|
| 脳腫瘍摘出術 | | 2 | |
| 動脈瘤・脳動静脈奇形ほか | | 0 | |
| 開頭脳内血腫 | | 0 | |
| バイパス手術 | | 0 | |
| 急性硬膜外血腫 | | 0 | |
| 急性硬膜下血腫 | | 1 | |
| 慢性硬膜下血腫・水腫 | | 1 | |
| 頭蓋・脳奇形 | | 2 | |
| 脊椎・脊髄奇形 | | 2 | |
| 水頭症脳室シャント | | 5 | |
| 神経内視鏡手術 | | 0 | |
| 脊椎・脊髄腫瘍 | | 1 | |
| 脊髄空洞症 | | 0 | |
| その他 | | 2 | |
| 血管内手術 | | 0 | |
| 計 | 0 | 16 | |

13. 形成外科

形成外科スタッフは7月1日付で木矢孝一郎医師が大阪大学形成外科に転出し、進来壘医師が大分医科大学形成外科より転入した。

赤あざ用のV-beamレーザーが設置されたことにより、日帰り手術での照射患者が増加しつつあるが、手術枠の関係で約3ヶ月待ちである。

小耳症、上顎骨切などの長時間手術が増加傾向にあるため、手術件数は微減しているが単価は増加している。入院手術は約4ヶ月待ちで、手術至適時期を逸する患者がでてきている。メイン診療である口唇口蓋裂では、言語聴覚士不足、外来枠不足のため訓練必要人数の約1/3しか施行できていない。

年間の患者数及び手術件数

2014年1月1日～12月31日

形成外科新患者数 435名
 形成外科入院患者数 244名（延べ人数ではない）

形成外科手術件数

入院手術 全身麻酔 250件（合計251件）
 腰麻・伝達麻酔 0件
 局所麻酔・その他* 1件
 外来手術 全身麻酔 158件（合計239件）
 腰麻・伝達麻酔 0件
 局所麻酔・その他* 81件 *その他には無麻酔や分類不明を入れる

手術内容区分

| 区 分 | 件 数 | | | | | | 計 |
|-----------------------------|---------|---------|----------|---------|---------|----------|-----|
| | 入 院 手 術 | | | 外 来 手 術 | | | |
| | 全身麻酔 | 腰麻・伝達麻酔 | 局所麻酔・その他 | 全身麻酔 | 腰麻・伝達麻酔 | 局所麻酔・その他 | |
| I. 外傷 | 6 | | | | | | 6 |
| 熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で全身管理を要する非手術例 | | | | | | | |
| 熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例 | 3 | | | | | | 3 |
| 顔面軟部組織損傷 | | | | | | | 0 |
| 顔面骨折 | 3 | | | | | | 3 |
| 頭部・頸部・体幹の外傷 | | | | | | | 0 |
| 上肢の外傷 | | | | | | | 0 |
| 下肢の外傷 | | | | | | | 0 |
| 外傷後の組織欠損（2次再建） | | | | | | | 0 |
| II. 先天異常 | 177 | | | 70 | | 1 | 248 |
| 唇裂・口蓋裂 | 99 | | | 5 | | | 104 |
| 頭蓋・顎・顔面の先天異常 | 24 | | | 62 | | 1 | 87 |
| 頸部の先天異常 | 2 | | | | | | 2 |
| 四肢の先天異常 | 35 | | | 3 | | | 38 |
| 体幹（その他）の先天異常 | 17 | | | | | | 17 |
| III. 腫瘍 | 51 | | 1 | 48 | | 4 | 104 |
| 良性腫瘍（レーザー治療を除く） | 51 | | 1 | 48 | | 4 | 104 |
| 悪性腫瘍 | | | | | | | 0 |
| 腫瘍の統廃症 | | | | | | | 0 |
| 腫瘍切除後の組織欠損（一次再建） | | | | | | | 0 |
| 腫瘍切除後の組織欠損（二次再建） | | | | | | | 0 |
| IV. 癬痕・癬痕拘縮・ケロイド | 11 | | | | | | 11 |
| V. 難治性潰瘍 | 2 | | | | | | 2 |
| 褥瘡 | 2 | | | | | | 2 |
| その他の潰瘍 | | | | | | | 0 |
| VI. 炎症・変性疾患 | | | | | | | 0 |
| VII. 美容（手術） | | | | | | | 0 |
| VIII. その他 | | | | | | | 0 |
| Extra. レーザー治療 | 3 | | | 40 | | 76 | 119 |
| 良性腫瘍でのレーザー治療例 | 3 | | | 40 | | 76 | 119 |
| 美容処置でのレーザー治療例 | | | | | | | 0 |
| 大分類計 | 250 | 0 | 1 | 158 | 0 | 81 | 490 |

14. 整形外科

2014年度は3月末に蒲田悦子医師が転出し武岡由樹医師が赴任した。武岡医師は特に小児脊椎疾患に興味を示し精力的に研修を行った。手術件数は269件とほぼ横ばいであった。新病院ではリハビリテーションが充実する予定であり整形外科医としてこの新たな分野でも活動を広げていきたいと考えている。

手術

| | 病名 | 術式 | 手術数 |
|-------|---------------------|--|-----|
| 体 幹 | 斜 頸 | 切腱術 | 4 |
| | 側 弯 症 後 弯 症 | 矯正術、ロッド延長、病巣搔爬など | 6 |
| | 脊 椎 疾 患 (側 弯 を 除 く) | 頸椎固定術 ハロー装着など | 2 |
| 股 関 節 | 先天性股関節脱臼など(麻痺性除く) | | |
| | | SA(with or without OR and femoral osteotomy) | 7 |
| | ペ ル テ ス 病 | 大腿骨骨きり術 | 2 |
| | 骨 頭 す べ り | | |
| | | ピンニング | 5 |
| | 麻痺性股関節脱臼、DDH以外の疾患など | 筋解離術 (含む観血的整復術) | 4 |
| | | 骨盤骨切り術など (含む DVO 合併) | 0 |
| | | 大腿骨内反骨切り術 (with or without 筋解離術) | 2 |
| | | 観血整復 | 1 |
| 足 部 | 先 天 性 内 反 足 | アキレス腱切腱 (Ponseti) | 37 |
| | | 軟部組織解離術 腱移行術 エバンス | 28 |
| | 麻 痺 性 変 形 (症 候 性) | | |
| | | 観血的整復術など | 17 |
| | 下 肢 先 天 性 疾 患 な ど | | |
| | | 延長, 矯正 (イリザロフ (含む Taylor Frame)) | 8 |
| | | 成長抑制術 (含む 8 プレート) | 12 |
| | 脚 長 差 変 形 な ど | 短管骨延長 | 4 |
| | | 変形矯正 (回旋含む 創外固定以外) | 3 |
| | 足 根 骨 癒 合 症 | 癒合部切除 | 2 |
| | 膝 蓋 骨 脱 臼 | 整復術 | 1 |
| 上 肢 | 上 肢 疾 患 | 矯正術など | 1 |
| 外 傷 | 上腕骨の骨折 (顆上、外顆など) | 整復固定術 | 13 |
| | 下 肢 骨 折 | 整復 固定 | 5 |
| | 骨 折 後 偽 関 節 | 骨接合術など | 2 |
| | 骨 折 な ど | 鋼線牽引 | 3 |
| 炎症 | 化膿性関節炎 脊椎炎 | 病巣搔爬、洗浄 穿刺 | 1 |
| | 腫瘍 骨髓炎, LCH, 病態不明など | 生検術 病巣搔爬 | 3 |
| 腫瘍 | 腫 瘍 | 骨 | 7 |
| | | 軟部 | 3 |
| その他 | 多・合指 (趾) 症 | 余剩指 (趾) 切除 | 24 |
| | | 指 (趾) 間形成 | 7 |
| | 癭 痕 拘 縮 | 形成術 | 2 |
| | 剛 直 母 指 | 腱鞘切開 | 8 |
| | そ の 他 | | 53 |
| | | | |
| | | | |
| 合 計 | | | 277 |
| 関節造影 | 部 位 | 方法 | |
| | 股 関 節 | アルトロ | 24 |
| | そ の 他 | アルトロ | 4 |

15. 眼 科

本年の眼科医師の異動は以下の通り。3月末に井上結香子医師と金井友範専攻医が1年間の勤務を終え、それぞれ大学院と新たな研修先に異動した。後任として4月に柳沢翠芳医師と前田祥史専攻医が着任した。6月末に金井美智子研修医が9ヶ月間の研修を終えて異動、後任として広瀬美樹研修医が着任した。

本年は国内において眼科の大きな国際学会が立て続けに開催され、この内、二学会にエントリー出来た。4月、日本では数十年ぶり2回目の開催となる眼科最大の学会、World Ophthalmology Congress があり、昨年、短期間の研修ではあったが意欲的に取り組んでいた中野先生に希少疾患であるメビウス症候群の長期治療成績について報告して貰った。皇太子殿下の臨席を賜ったオープニングセレモニーや普段の学会では味わえない多彩なプログラムなど、国際学会の雰囲気をも十分に楽しんだ様である。秋には斜視分野では最大の学会である Meeting of the International Strabismological Association に参加、前田先生に先天性眼振の治療成績について報告して貰った。筆頭演者のみならず参加した研修医らにとっても貴重な経験となり、診療への刺激になったはずである。

2014年新患者数

| 病名 | 新生児 | 乳 児 | | 幼 児 | | 学 童 | | 思春期 | 合計（眼） |
|----------------|-------|-------|--------|------|------|------|--------|-------|-------|
| | | 前 期 | 後 期 | 前 期 | 後 期 | 前 期 | 後 期 | | |
| | 1ヶ月未満 | 1～5ヶ月 | 6～11ヶ月 | 1～3歳 | 4～6歳 | 7～9歳 | 10～12歳 | 13歳以上 | |
| 屈折異常 | 0 | 8 | 10 | 154 | 142 | 85 | 34 | 24 | 457 |
| 斜視及び疑い | 0 | 13 | 27 | 152 | 86 | 46 | 12 | 7 | 343 |
| 未熟眼底 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 未熟児網膜症 | 0 | 11 | 2 | 4 | 1 | 3 | 0 | 0 | 21 |
| 眼瞼疾患 | 0 | 11 | 10 | 32 | 41 | 6 | 0 | 1 | 101 |
| 涙器疾患 | 0 | 4 | 3 | 11 | 1 | 1 | 2 | 0 | 22 |
| 結膜疾患 | 1 | 1 | 0 | 7 | 4 | 4 | 1 | 0 | 18 |
| 角膜・強膜疾患 | 3 | 3 | 5 | 10 | 6 | 3 | 0 | 2 | 32 |
| ブドウ膜疾患 | 1 | 7 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 |
| 網膜・硝子体疾患 | 1 | 22 | 11 | 19 | 5 | 6 | 2 | 1 | 67 |
| 水晶体疾患 | 6 | 15 | 7 | 7 | 4 | 1 | 1 | 3 | 44 |
| 眼窩疾患 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 5 |
| 遺伝性疾患 | 0 | 3 | 0 | 4 | 12 | 0 | 0 | 1 | 10 |
| 神経及び視路の障害（眼振他） | 0 | 5 | 5 | 12 | 15 | 10 | 7 | 9 | 63 |
| 緑内障 | 1 | 2 | 0 | 9 | 11 | 3 | 7 | 2 | 35 |
| 外傷 | 0 | 2 | 1 | 2 | 1 | 5 | 0 | 0 | 11 |
| 症候群 | 0 | 3 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 2 | 10 |
| 心因性視力障害 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 7 | 2 | 1 | 13 |
| 腫瘍 | 0 | 2 | 1 | 5 | 3 | 3 | 2 | 0 | 16 |
| その他 | 1 | 5 | 0 | 13 | 6 | 4 | 3 | 1 | 33 |
| 合計（眼） | 14 | 117 | 87 | 447 | 332 | 187 | 78 | 54 | 1316 |

(2) 入院手術

| | 新生児 | 乳児 | | 幼児 | | 学童 | | 思春期 | 計 |
|-----------|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| 斜視 | 0 | 0 | 2 | 28 | 57 | 58 | 132 | 14 | 291 |
| 内反症 | 0 | 0 | 0 | 5 | 17 | 6 | 9 | 0 | 37 |
| 眼瞼下垂 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 眼瞼・眼窩疾患 | 0 | 1 | 0 | 3 | 12 | 4 | 4 | 2 | 26 |
| 結膜疾患(腫瘍) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 3 |
| 角膜疾患 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 網膜疾患(腫瘍) | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 硝子体 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 鼻涙管閉鎖及び異常 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 2 | 1 | 0 | 9 |
| 眼瞼形成 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 緑内障 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 6 | 0 | 10 |
| 白内障 | 0 | 4 | 4 | 2 | 4 | 4 | 9 | 3 | 30 |
| 未熟児網膜症 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 眼球振盪症 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 4 | 1 | 8 |
| 外傷・検査・その他 | 0 | 2 | 4 | 1 | 2 | 1 | 4 | 2 | 16 |
| 合計 | 1 | 11 | 10 | 46 | 99 | 80 | 171 | 22 | 440 |

(3) 日帰り手術

| | 新生児 | 乳児 | | 幼児 | | 学童 | | 思春期 | 計 |
|-----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|----|
| | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | |
| 内反症 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 霰粒腫 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 斜視 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 5 | 7 | 25 | 10 | 9 | 2 | 58 |
| 合計 | 0 | 0 | 5 | 7 | 25 | 10 | 9 | 2 | 58 |

2014年 訓練及び検査人数(727名)

| | |
|-----------------------|------------|
| P A T (プ リ ズ ム 検 査) | 135名 |
| 矯正・その他の検査 | 25名 |
| P L 検 査 ・ T A C | 371名 |
| 弱視訓練 | 5名 |
| 視野検査 | 199名(393眼) |

2014年 実習生、受入れ状況(6名)

| 学 校 名 | 人 数 | 期 間 | 実習場所 |
|---------------|-----|-------------|-------------|
| 大阪滋慶学園 大阪滋慶学園 | 2名 | 4月7日～5月9日 | 外来及び手術室(見学) |
| 神戸総合医療専門学校 | 4名 | 5月12日～6月13日 | |

16. 耳鼻咽喉科

1. 外来診療

今年も常勤医師1名(大津)、兼任医師1名(火・金曜、阪本)は変わらず診療を行った。新患の内訳としては、例年同様、滲出性中耳炎、反復性中耳炎、扁桃・アデノイド肥大、言葉の遅れの精査依頼などが多い。3歳児健診からの言葉の遅れの精査依頼が増えている。診察室の耳鼻科診療ユニットは1台しかないため、1診体制での診療であり、年間の外来診察患者数6000人余はほぼ限界に達している。

2. 手術・入院診療

他科の学会出張による手術枠の空情報を周知していただけるようになったことで、当科入院手術症例は127例となり、他科入院中の併施症例や日帰り手術を合わせると391例で、4年連続300件を超えた。引き続き増加傾向にある地域の医療機関からの紹介による手術対象例に対応すべく、手術枠増に努力したい。年少児の重症睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出、アデノイド切除術は周術期の呼吸管理が重要であり術後数日間挿管管理を要することもあり、麻酔科各医師とHCU看護スタッフの多大の協力に支えられている。今後も限られたスタッフであるが医療安全に十分配慮しつつ手術治療に取り組みたい。

手術統計（併施を含む）：

入院手術（併施を含む）

| 入院手術（併施を含む） | |
|-------------|----|
| 扁桃摘出術 | 94 |
| アデノイド切除術 | 91 |
| 鼓膜チューブ挿入術 | 48 |
| 鼓膜穿孔閉鎖 | 2 |
| 後鼻孔ポリープ摘出 | 1 |
| 副鼻腔内視鏡手術 | 2 |
| 膿瘍切開排膿術 | 2 |
| 鼻涙管チューブ挿入 | 4 |
| その他 | 15 |

日帰り手術（併施を含む）：

| 日帰り手術（併施を含む） | 件数 |
|---------------|-----|
| 鼓膜チューブ挿入術 | 202 |
| 鼓膜肉芽切除術、鼓膜切開等 | 25 |
| 鼓膜穿孔閉鎖術 | 6 |
| 合計症例数 | 233 |

3. 言語聴覚療法について

【人員】

4月に正規職員が1名増となり、言語聴覚士（以下 ST）は正規職員3名、日々雇用1名となった。うち正規職員1名は柏原病院との兼務であるため、当院としては合計3.6名体制で業務をおこなった。

【主な業務】

①聴力検査（耳鼻科外来）②補聴器外来（耳鼻科外来）③言語評価および訓練（耳鼻科および形成外科外来、入院）④摂食機能療法（入院）である。

【診療保険点数、業務上の変化】

脳血管リハビリテーション（以下脳リハ）の施設基準Ⅰを維持できている。昨年大きな伸びを示した摂食機能療法については本年度から脳リハとして算定し、件数は減っているが、その分脳リハの件数、単位数が大幅増になっている。

【業務詳細】

①聴力検査

一般病院では行うことの難しい聴性行動反応聴力検査や条件詮索反応聴力検査、遊戯聴力検査などをケースに合わせて実施している。さまざまな検査の結果、補聴器適応となれば、補聴器外来での予約をとるよう勧めている。

②補聴器外来

週一度実施している。新生児聴覚スクリーニング検査の普及により、早期からの補聴器装着ケースが増えているのにくわえ、これまで補聴器装用を勧めてこなかった軽度の難聴であっても学習面での困難さが指摘されるようになり、補聴器適応となる患者は増加傾向にある。各人の予約時間を長めに設定し、慎重な評価、親への心理面を含めたサポート、難聴児通園施設や聴覚特別支援学校など適切な機関への橋渡しがタイミングよく行えるように心がけている。

③言語評価・訓練

<耳鼻科>「ことばの遅れ」や「発音の異常」を主訴に来院されるケースに対して評価を行い、保護者へのアドバイスを行っている。症状の多くは、全般的な発達遅滞によることばの遅れや器質的な異常を持たない機能性構音障害である。近年は、発達に偏りのある広汎性発達障害と考えられるケースも増えているが、当院は医療機関であるため、療育指導については各関連機関へ紹介させていただいている。

<形成外科>唇顎口蓋裂児に対して週2日外来訓練日を設けている。発音指導だけでなく、適切な時期に教育機関に移行できるよう保護者へのアドバイスや、学校への連絡等、外部機関との連携も行っている。

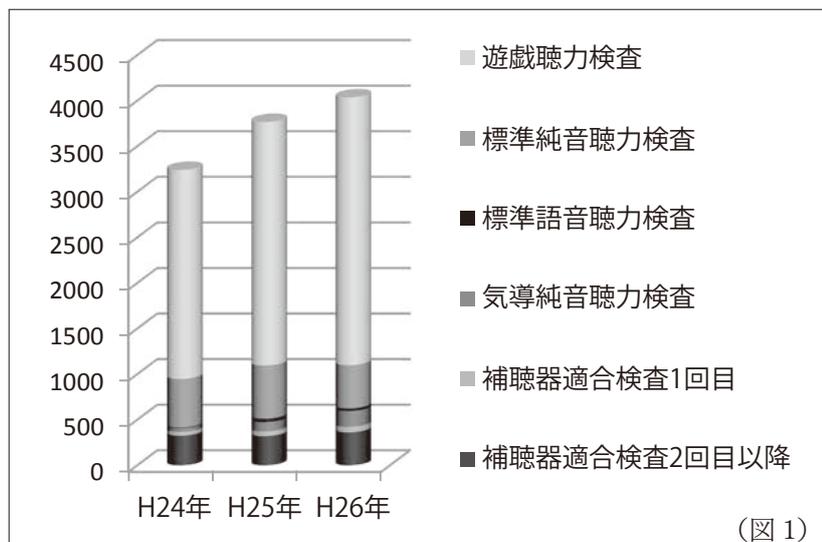
<入院>脳損傷後の高次脳機能障害や構音障害の評価および訓練、気管切開カニューレ使用中（または抜管後）の発声・構音訓練、その他言語・コミュニケーションに遅れや困難さをもつ児に対してサイン言語導入訓練や語彙力向上を目的にした訓練等を実施している。退院後のフォローについては地域の訓練機関を紹介させていただいている。

④摂食嚥下訓練

入院児を対象に行っている。食事を開始したが上手く進まない、何から始めていいのか悩む、試行錯誤しているような症例は依頼いただければ可能な限り対応している。訓練だけでなく、食具の選定、食形態の検討、姿勢のアドバイス等も行っている。関連職種と連携をとりながら嚥下チームの一員として取り組み、さらに精進していくつもりである。

昨年から長年の課題であった入院患者への介入拡充もなされつつあり、平成26年はさらに入院児への ST

介入例が増加している。業務内容・量が拡充した中で、質の高いリハビリテーションを提供していくためにも、スタッフの資質向上は不可欠であり、更なる知識・技術習得に努めたい。

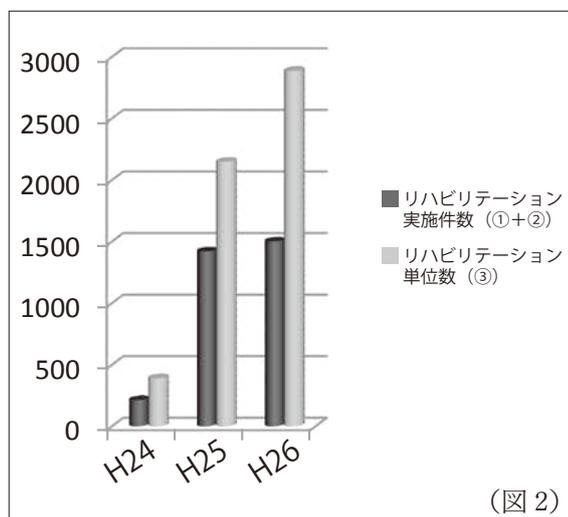


【聴力検査関連業務件数の推移】 (表 1、図 1)

| | H24年 | H25年 | H26年 |
|--------------|------|------|------|
| 遊戯聴力検査 | 2293 | 2671 | 2938 |
| 標準純音聴力検査 | 533 | 585 | 475 |
| 標準語音聴力検査 | 6 | 37 | 28 |
| 気導純音聴力検査 | 42 | 102 | 174 |
| 補聴器適合検査1回目 | 42 | 52 | 60 |
| 補聴器適合検査2回目以降 | 325 | 320 | 362 |
| 高度難聴管理料 | 28 | 20 | 17 |
| 総件数 | 3269 | 3787 | 4050 |

【リハビリテーション関連業務件数の推移】 (表 2、図 2)

| | H24年 | H25年 | H26年 |
|----------------------|------|------|------|
| ①摂食機能療法 (件) | 0 | 401 | 113 |
| ②脳血管リハビリテーション実施 (件) | 213 | 1019 | 1388 |
| ③脳血管リハビリテーション実施 (単位) | 390 | 2148 | 2886 |
| リハビリテーション総実施件数 (①+②) | 213 | 1420 | 1501 |
| リハビリテーション総実施単位数 (③) | 390 | 2148 | 2886 |



2014年度耳鼻咽喉科新患集計

| | 症例数 | 院内 | 耳鼻科 | 小児科 | 産科 | 健診 | 聾学校 | その他 | なし |
|--------------|------|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|----|
| 言語発達遅滞 | 86 | 28 | 30 | 11 | 1 | 10 | 4 | 1 | 1 |
| 構音障害 | 29 | 11 | 11 | 3 | 1 | 3 | | | |
| ダウンス症 | 14 | 8 | 2 | 3 | | | 1 | | |
| 耳介奇形・小耳症 | 11 | 1 | 3 | 3 | 3 | | 1 | | |
| 外耳道閉鎖・狭窄 | 7 | 3 | | 1 | 2 | | 1 | | |
| 副耳 | 3 | 1 | 1 | | 1 | | | | |
| 先天性耳ろう孔 | 8 | 2 | 2 | 1 | 3 | | | | |
| 耳垢栓塞 | 10 | 7 | 3 | | | | | | |
| 急性中耳炎 | 13 | 9 | 4 | | | | | | |
| 反復性中耳炎 | 2 | 1 | | | 1 | | | | |
| 滲出性中耳炎 | 246 | 57 | 153 | 22 | 1 | 6 | 4 | 3 | |
| 真珠腫性中耳炎 | 5 | 1 | 4 | | | | | | |
| 癒着性中耳炎 | 2 | | 2 | | | | | | |
| 先天性難聴(疑い含む) | 150 | 39 | 47 | 24 | 27 | 8 | 4 | 1 | |
| ムンプス難聴 | 2 | 1 | 1 | | | | | | |
| 心因性難聴 | 24 | 2 | 22 | | | | | | |
| 突発性難聴 | 3 | | 3 | | | | | | |
| 高音障害型難聴 | 2 | 1 | 1 | | | | | | |
| 低音障害型難聴 | 1 | | 1 | | | | | | |
| 難聴 | 110 | 30 | 63 | 5 | | 6 | 5 | | 1 |
| 難聴(疑い) | 28 | 15 | 5 | 5 | 2 | 1 | | | |
| 後迷路性難聴 | 2 | 1 | 1 | | | | | | |
| 聾 | 3 | | 2 | | 1 | | | | |
| 内耳奇形 | 10 | 1 | 8 | | | | 1 | | |
| 側頭骨骨折・耳小骨離断 | 5 | 5 | | | | | | | |
| 耳鳴 | 1 | | 1 | | | | | | |
| めまい | 8 | 4 | 4 | | | | | | |
| 顔面神経麻痺・下口唇麻痺 | 8 | 3 | 1 | 4 | | | | | |
| 慢性鼻・副鼻腔炎 | 76 | 20 | 45 | 5 | 1 | 1 | | 3 | 1 |
| 急性鼻・副鼻腔炎 | 8 | 4 | 3 | 1 | | | | | |
| アレルギー性鼻炎 | 56 | 12 | 33 | 9 | | | | 1 | 1 |
| 鼻出血 | 1 | 1 | | | | | | | |
| 鼻咽腔閉鎖不全 | 3 | 1 | | | 1 | | 1 | | |
| 後鼻孔閉鎖・狭窄 | 1 | 1 | | | | | | | |
| 鼻骨骨折 | 2 | | 1 | | | 1 | | | |
| アデノイド肥大 | 172 | 24 | 114 | 25 | 2 | 2 | 1 | 4 | |
| 扁桃肥大 | 115 | 13 | 74 | 23 | | 2 | | 3 | |
| 扁桃炎 | 13 | 1 | 4 | 8 | | | | | |
| 睡眠時無呼吸症候群 | 125 | 15 | 80 | 24 | 1 | 2 | | 3 | |
| 急性咽頭炎 | 1 | 1 | | | | | | | |
| 舌腫瘍 | 1 | | 1 | | | | | | |
| 咽頭のう胞 | 1 | 1 | | | | | | | |
| 口唇粘液のう胞 | 5 | 1 | 3 | 1 | | | | | |
| 舌小帯短縮症 | 4 | | 2 | 2 | | | | | |
| がま腫 | 1 | | 1 | | | | | | |
| 耳下腺腫瘍 | 3 | | 3 | | | | | | |
| 咽・喉頭異物 | 2 | 1 | 1 | | | | | | |
| 喉頭軟化症 | 37 | 23 | 4 | 10 | | | | | |
| 反回神経麻痺 | 40 | 38 | 1 | | | 1 | | | |
| 声帯ポリープ | 2 | | 1 | | | | | 1 | |
| 先天性声門下狭窄 | 7 | 6 | 1 | | | | | | |
| 急性声門下喉頭炎 | 2 | 2 | | | | | | | |
| 嚥下障害 | 34 | 30 | 3 | 1 | | | | | |
| 正中頰のう胞・側頰のう胞 | 6 | | 4 | 2 | | | | | |
| 頰部リンパ節炎 | 6 | | 2 | 2 | | | | 2 | |
| 口蓋裂 | 16 | 6 | 7 | 2 | | | 1 | | |
| 顔面外傷 | 1 | 1 | | | | | | | |
| 感染症チェック | 12 | 12 | | | | | | | |
| 健診 | 11 | | 1 | 1 | | 9 | | | |
| 新スク後精密検査 | 32 | 5 | 6 | 6 | 14 | 1 | | | |
| 小計 | 1589 | 450 | 770 | 204 | 62 | 53 | 24 | 22 | 4 |
| その他症例 | 39 | 31 | 4 | 2 | | 1 | | 1 | |
| 合計症例数 | 1628 | 481 | 774 | 206 | 62 | 54 | 24 | 23 | 4 |
| 新患者数(重複除く) | 788 | | | | | | | | |

17. 泌尿器科

2014年3月に神野雅（専攻医）が退職し、4月からは奈良健平（正規医師）、清末晶子（専攻医）が着任したので、2014年は3月まで4人体制、4月から5人体制（杉多、中川、久松、奈良、清末）で診療を行った。前年と同様に風邪等で手術キャンセルがあり、入院手術・日帰り手術ともに手術件数に大きな変化はなかった。

2014年8月から従来の開放手術に取って代わる鏡視下手術（腹腔鏡下腎盂形成術、気膀胱下膀胱尿管逆流防止術）を開始した。今後も適応となる症例があれば、積極的に行っていききたい。

例年通り、学術活動に関しては、国内学会は日本泌尿器科学会（神戸）、日本小児外科学会（大阪）、日本小児泌尿器科学会（東京）等において、小児泌尿器科疾患の診断・治療に関する当院の手術成績などを発表した。国際学会においても、ヨーロッパ小児泌尿器科学会（オーストリア、インスブルック）、アジア太平洋小児泌尿器科学会（日光）において当院の尿道下裂に対する治療成績など発表した。（杉多記）

尿路系

計

| | | |
|----------------|-----------------------|-----|
| VUR | cohen（うち cloaca1 例含む） | 34 |
| | 気膀胱 cohen | 1 |
| | Lich-Gregoir | 8 |
| | デフラックス | 10 |
| 巨大尿管、 | 膀胱尿管新吻合 尿管形成 | 2 |
| 完全重複腎盂尿管 尿管瘤 | 膀胱尿管新吻合 | 1 |
| VUR、巨大尿管、水腎症術後 | DJ カテーテル抜去 | 20 |
| 水腎症 | 腎盂形成術 | 12 |
| | 腹腔鏡下腎盂形成 | 3 |
| 後部尿道弁、尿道狭窄 | 内視尿道切開術 | 1 |
| 水腎症 | 逆行性腎盂尿管造影 | 1 |
| 異型性腎、腎血管性高血圧など | 腎尿管切除 | 2 |
| 外尿道狭窄 | 外尿道口切開 | 1 |
| 水腎症その他 | 腎瘻造設 | 3 |
| ガードナー管嚢胞 | 内視鏡下尿道カテーテル留置 | 1 |
| 膣狭窄疑い、異所開口尿管など | 内視鏡（膀胱鏡、膣鏡） | 3 |
| 膀胱結石、尿失禁術後 | 膀胱鏡 | 2 |
| 重複腎盂尿管 | 下部尿管尿管吻合 | 1 |
| 異所開口尿管、神経因性膀胱 | 膀胱頸部閉鎖 腹壁導尿路 | 1 |
| 膀胱（尿道）結石 | 経尿道的切石術 | 5 |
| 膀胱結石 | 開腹切石 | 1 |
| 尿管瘤 | 尿管瘤開窓 | 3 |
| 神経因性膀胱 | 膀胱瘻造設 | 6 |
| | 膀胱瘻閉鎖 | 1 |
| | 腸管利用膀胱拡大 | 2 |
| 尿膜管遺残 | 尿膜管遺残切除 | 2 |
| 水腎症 尿管結石 外傷 | DJ カテーテル留置 | 4 |
| 腹壁導尿路導尿困難 | 導尿路再増設 | 1 |
| 膀胱頸部術後瘻孔 | 瘻孔閉鎖 | 1 |
| 導尿路尿失禁 | デフラックス注入 | 1 |
| VUR 術後 通過障害 | 膀胱尿管再吻合 | 1 |
| 完全重複腎盂尿管 | 半腎切除 | 1 |
| 術後カテーテル迷入 | カテーテル除去 | 1 |
| | 計 | 137 |

| 性器系 | | 計 |
|-------------------|----------------------|-----|
| CAH | 外陰部形成 | 1 |
| cloaca | 内視鏡検査 | 2 |
| BXO 包茎 | 包皮環状切除 | 12 |
| 包皮炎 尿閉 | 背面切開 カテーテル留置 | 1 |
| 尿道下裂 | free graft | 38 |
| | Koyanagi | 5 |
| | 陰茎形成 | 8 |
| | TIP | 3 |
| | 口腔粘膜二期的一期 | 1 |
| | 口腔粘膜二期の二期 | 1 |
| そけいヘルニア | ヘルニア手術 | 20 |
| | 腹腔鏡下ヘルニア手術 | 3 |
| 陰嚢水腫 | 陰嚢水腫根治術 | 19 |
| 精索静脈瘤 | 顕微鏡下精索静脈低位結紮術 | 7 |
| 停留精巣 | 精巣固定術 | 100 |
| 精巣捻転 | 精巣摘除 | 2 |
| | 捻転整復 | 3 |
| 精巣垂捻転 | 精巣垂切除 | 1 |
| 停留精巣 / vanishing | 精巣摘除 | 15 |
| 停留精巣 / 腹腔内 | 腹腔鏡下精巣血管結紮 (F-S1 期目) | 5 |
| | 腹腔鏡下精巣固定術 (F-S2 期目) | 4 |
| | Jones 法による固定 | 1 |
| 埋没陰茎 | 包皮形成術 (逆 Byars flap) | 10 |
| 尿道下裂 | 瘻孔閉鎖術 | 4 |
| 遊走精巣 | 精巣固定術 (transscrotal) | 25 |
| 尿道下裂術後 | 外尿道口形成 | 1 |
| | 外尿道口切開 | 2 |
| 陰茎縫線嚢腫 | 嚢腫切除 | 3 |
| 膣口狭窄 | 口腔粘膜利用膣口形成 | 1 |
| 前置陰嚢 | 陰嚢形成 | 2 |
| 外尿道口嚢腫 | 切除 | 1 |
| 尖圭コンジローマ | 焼灼 | 1 |
| 精巣腫瘍 | 高位切除 | 1 |
| 陰嚢出血 (下裂術後、新生児副腎) | 陰嚢切開、血腫除去 | 2 |
| 交叉性精巣転位 | 腹腔鏡、精巣生検、精巣固定 | 1 |
| 精巣上体炎、精巣捻転疑い | 試験切開 | 2 |
| | 計 | 308 |

| | |
|-----|-----|
| 入院 | 265 |
| 日帰り | 180 |

| | |
|---|-----|
| 計 | 445 |
|---|-----|

18. 小児歯科

診療内容として、全身疾患を有する患児や心身障害児の齲蝕予防・治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。特に院内において先天性の疾患を有する患児に対しては低年齢（乳前歯萌出時期）からの定期受診により歯科疾患予防を積極的に行っている。また、周術期における口腔管理が保険に組み込まれた背景より、歯科衛生士による口腔ケア介入、形成外科と共同で取り組んでいる唇顎口蓋裂児のホッツ床、術前顎矯正治療の患児の成長後の歯列矯正治療の症例は増加傾向にある。一方、摂食嚥下外来については現在休診中である。

人事面には変わりはなく、小児歯科は常勤歯科医師一名（曾根由美子）の体制をとっているが、11月より産休に入り、外来診療は本郷孝子歯科医師、石原順子歯科医師による非常勤体制となり、手術実施が困難となり、手術数は半減し、11月以降は待機となった。

| 新患内訳 (2014) | | 院内紹介 | 院外紹介 | | 紹介なし | 計 |
|-------------|---------|------|------|----|------|-----|
| | | | 歯科 | 医科 | | |
| 小児歯科関連 | 口腔内検診希望 | 19 | 0 | 0 | 1 | 20 |
| | 齲蝕 | 14 | 28 | 3 | 0 | 45 |
| | 乳歯晚期残存 | 4 | 2 | 0 | 0 | 6 |
| | 先天性歯 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| | その他 | 3 | 0 | 1 | 0 | 4 |
| 矯正歯科関連 | 不正咬合 | 6 | 3 | 2 | 0 | 11 |
| | 術前顎矯正 | 13 | 0 | 0 | 0 | 13 |
| 口腔外科関連 | 外傷 | 5 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| | 埋伏歯・過剰歯 | 0 | 6 | 0 | 0 | 6 |
| 周術期口腔機能管理 | | 39 | 0 | 0 | 0 | 39 |
| その他（小児歯科以外） | | 5 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 計 | | 109 | 39 | 7 | 1 | 156 |

| 全身麻酔下処置 | 歯科単独 | 他科合同 | 計 |
|---------|------|---------|----|
| 入院手術 | 0 | 8（顎矯正6） | 8 |
| 外来手術 | 27 | 1 | 28 |
| 計 | 27 | 9 | 36 |

19. 麻酔科

1. 人事異動

常勤医である土居医師が高槻病院に転出した。2年間、スタッフとして麻酔科業務を行い、さらに各種委員会等を通じて病院の運営に貢献していただいたことに感謝したい。

専攻医の異動としては、神戸大学からは柘植医師を迎えた。香川大学からは斎田医師、ついで納田医師を迎えた。兵庫県立病院麻酔科総合研修システムからは久保田医師が淡路医療センターに転出し、山路医師、木山医師を迎えた。

公募採用医師は、京都医療センターから加藤医師、豊田厚生年金病院から青木医師を迎えた。小嶋医師が愛知県の総合青山病院へ、川瀬医師が災害医療センターに転動した。そのほか、短期研修として県立西宮病院から武山医師、平野医師、萩原医師を迎えた。

2014年12月の時点では香川、鈴木、高辻、大西、池島、野々村、上北、末田、山根、法華、青木、加藤、山路、納田、木山、柘植の16名が従事している。

2. 活動状況と反省

2014年の総麻酔件数は4304件であった。これは手術室、放射線部門、病棟での麻酔件数の総計であるが、こうした麻酔業務以外に、中心静脈カテーテル挿入65件、病棟での気管挿管23件、その他18件の依頼があった。

症例の内容として新生児開心術、気管形成術、複数の合併症を持つ症例など、重症例が一定数あることは例年と変わりなく、高い専門性とマンパワーを必要とする状態が続いている。

一方、麻酔科では症例に対する麻酔の質の向上のために、麻酔関連イベント（インシデント）を減らすことや、術後鎮痛の質を上げることなどを重点的に取り組むべき項目として挙げている。2014年は覚醒時興奮を減少させることを課題の一つとした。覚醒時興奮とは麻酔が終了した後に患児が興奮したり暴れたりすることであり、これにより看護の負担が増加し、親の満足度が低下すると言われている。その原因や対策は多岐にわたるが、対応策として鎮痛法や麻酔法の改善に取り組み、一定の成果が得られている。

学術面では、例年通り麻酔科関連学会にて発表を行ってきた。またシンポジウムや教育講演、海外での学会発表も行うなど、各麻酔科医が学術活動に積極的に関わることができた一年であった。

3. 展望

「患者様に安全かつ快適に手術・麻酔を受けていただく」ことが麻酔科の理念である。重症例が一定数ある一方で、麻酔科医の半数近くは研修目的であり、1年以下で転動していく。2014年は合計10人が転入、10人が転出し、常勤スタッフの負担は大きい。このような状況で一定レベルの知識や技術を継承し持続していくために、これまで同様、麻酔科医の教育、コミュニケーションの向上、業務の標準化や効率化、そして麻酔科医の確保により、安全・快適な麻酔を提供し続けたい。

麻酔科 診療統計

総麻酔件数（麻酔科管理症例数） 2014.1.1 ～ 12.31

| |
|--------|
| 4304 件 |
|--------|

手術室で行われた局所麻酔・無麻酔症例：108 件

手術室で行われた麻酔科管理症例＋局所麻酔症例：3681 件

入院区分および麻酔の場所による内訳

| | |
|----------------------|------|
| 入院手術の麻酔（手術室 1～7 室） | 2638 |
| 日帰り手術の麻酔（日帰り手術室） | 935 |
| 病棟での麻酔 | 396 |
| 放射線部門（アンギオ室、透視室）での麻酔 | 309 |
| MR I 検査時の麻酔 | 26 |
| 計 | 4304 |

麻酔法による内訳

| | |
|-----------------|------|
| 全身麻酔・吸入麻酔 | 2988 |
| 全身麻酔・静脈麻酔 | 474 |
| 全身麻酔・吸入麻酔＋硬膜外麻酔 | 623 |
| 全身麻酔・静脈麻酔＋硬膜外麻酔 | 51 |
| 脊椎麻酔（脊髄くも膜下麻酔） | 164 |
| 硬膜外麻酔 | 1 |
| 硬膜外麻酔＋脊椎麻酔 | 0 |
| その他 | 3 |
| 全身麻酔 小計 | 4136 |
| 合計 | 4304 |

年齢別内訳

| | |
|--------|------|
| 1ヶ月まで | 138 |
| 12ヶ月まで | 691 |
| 5歳まで | 1731 |
| 18歳まで | 1496 |
| 65歳まで | 248 |
| 66歳以上 | 0 |
| 計 | 4304 |

病棟での関連業務

| | |
|---------------|-----|
| 内容 | 件数 |
| 中心静脈カテーテル挿入 | 65 |
| 気管挿管・チューブ入れ替え | 23 |
| その他 | 18 |
| 合計 | 106 |

20. 新生児科

1. 医師の異動

前年より引き続いて岩谷 壮太、和田 佳子、坂井 仁美、溝渕 雅巳、芳本 誠司、中尾 秀人が在任し、以前フェローとして勤務した浅野 貴大医師がスタッフとして着任した。岩谷医師は4月に神戸大学大学院入学、研究活動のため離任した。9月には以前スタッフとして勤務した秋田 大輔医師が愛仁会高槻病院より着任した。岡山大学産婦人科より新生児管理研修のために渋谷 昇平医師が4月から9月、江口 武志医師が10月より在籍した。後期研修医の武岡 恵美子医師は4月に産休に入り11月にフェローとして復職し育児と研修を両立させている。神戸大学小児科医局から後期研修医の生田 寿彦医師が4月に着任し専攻医として新生児専門医をめざした研修を開始した。ローテート専攻医（後期研修医）として橋本 興人、瓦野 昌大、山口 宏、角 健司、紙納 幸治各医師が4-6か月研修をおこなった。

24時間365日の診療業務とフェロー、専攻医の研修教育を行うという当施設に課せられた使命を全うするにはスタッフの負担はやや過剰となっており、持続可能な診療教育体制の確保が急務である。

2. 診療活動

新生児病棟の診療統計は別表の通りであるが、2014年の特徴としては在胎28週未満の超早産児、出生体重1kg未満の超低出生体重児がそれぞれ38例（前年比1.8倍）、44例（同1.5倍）であり、入院期間が長期化傾向となった。また、二次医療機関からの集学的治療を必要とする重症児の入院も引き続き多く、当施設の大きな使命と考え、積極的に受け入れて診療にあたった。結果として満床以上で診療をおこなわざるを得ない状況もあったが、関連各科、看護部門の協力、協働により安全でハイレベルな診療水準の維持につとめることができた。

課題としては急性期以降も医療的ケアの継続を必要とする児の増加がある。在宅医療へのスムーズな移行のためには新生児部門だけでなく病院全体、地域医療機関、福祉施設、行政部門などとの連携が不可欠であるのは明らかであるが具体的な解決策はみいだせていないのが現状である。新病院に向けた大きな課題の1つである。

3. 学会活動

日常診療における疑問の解決、稀な疾患管理、治療法の工夫などをエビデンスとして世界に発信するために臨床研究として医療チーム全体で取り組んでいる。それらの結果は順次、国内外の多くの学会での発表や、英文、邦文論文投稿として積極的に行っている。

2014年新生児科統計

I. 新生児病棟統計

1) 月別入院数

| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| 43 | 44 | 34 | 46 | 40 | 43 | 46 | 35 | 40 | 58 | 43 | 47 | 519 |

2) 診療科別入院数

| 新生児科入院 | 501 | 新生児科からの転科 | 70 |
|--------|-----|-----------|----|
| 循環器内科 | 16 | 循環器内科 | 43 |
| 代謝内分泌科 | 1 | 一般外科 | 15 |
| 脳神経外科 | 1 | 脳神経外科 | 9 |
| | | 血液腫瘍科 | 2 |
| | | 代謝内分泌科 | 1 |

3) 入院形態と紹介医療機関地域

| | 神戸 | 阪神南 | 阪神北 | 東播磨 | 中播磨 | 西播磨 | 北播磨 | 淡路 | 丹波 | 但馬 | 県外 | |
|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|
| 院外出生 | 148 | 98 | 6 | 1 | 30 | 4 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 5 |
| 一次搬送 | 114 | 81 | 5 | 0 | 28 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (14日以上) | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 二次搬送 | 34 | 17 | 1 | 1 | 2 | 4 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 5 |
| 院内出生 | 371 | 221 | 18 | 1 | 55 | 9 | 0 | 22 | 11 | 5 | 3 | 26 |
| 緊急母体 | 123 | 83 | 10 | 1 | 19 | 0 | 0 | 1 | 6 | 3 | 0 | 0 |
| 非緊急母体 | 247 | 137 | 8 | 0 | 36 | 9 | 0 | 21 | 5 | 2 | 3 | 26 |
| 院内出生 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 日齢14未満一次搬送+院内出生 | 481 | 298 | 23 | 1 | 83 | 9 | 0 | 22 | 11 | 5 | 3 | 26 |

II. 新生児科統計

対象：新生児科入院（日齢14未満一次搬送入院及び院内出生470症例，転科例を含む）

1) 院内出生と院外出生

| 出生体重 | 患者数 | 院内 | 率 | 帰院 | 産科 |
|---------------|-----|-----|-------|----|----|
| 500 g 未満 | 3 | 3 | 100% | 0 | 0 |
| 500-749 g | 19 | 19 | 100% | 0 | 0 |
| 750-999 g | 22 | 22 | 100% | 0 | 0 |
| 1,000-1,499 g | 37 | 37 | 100% | 0 | 0 |
| 1,500-1,999 g | 77 | 70 | 90.9% | 0 | 1 |
| 2,000-2,499 g | 104 | 88 | 84.6% | 3 | 11 |
| 2,500 g 以上 | 208 | 122 | 58.7% | 11 | 49 |
| 計 | 470 | 361 | 76.8% | 14 | 61 |

| 週数 | 患者数 | 院内 | 率 | 帰院 | 産科 |
|--------|-----|-----|-------|----|----|
| 22, 23 | 8 | 8 | 100% | 0 | 0 |
| 24, 25 | 14 | 14 | 100% | 0 | 0 |
| 26, 27 | 16 | 16 | 100% | 0 | 0 |
| 28, 29 | 15 | 15 | 100% | 0 | 0 |
| 30, 31 | 28 | 28 | 100% | 0 | 0 |
| 32, 33 | 35 | 34 | 97% | 0 | 0 |
| 34-36 | 128 | 107 | 83.6% | 4 | 12 |
| 37以上 | 226 | 139 | 61.5% | 10 | 49 |
| 計 | 470 | 361 | 76.8% | 14 | 61 |

2) 分娩方法・出生前ステロイド

| 出生体重 | 患者数 | 帝切 | 率 | ANS | 率 |
|---------------|-----|-----|-------|-----|-----|
| 500 g 未満 | 3 | 1 | 33.3% | 2 | 67% |
| 500-749 g | 19 | 11 | 57.9% | 14 | 74% |
| 750-999 g | 22 | 17 | 77% | 17 | 77% |
| 1,000-1,499 g | 37 | 27 | 73.0% | 17 | 46% |
| 1,500-1,999 g | 77 | 49 | 63.6% | 15 | 19% |
| 2,000-2,499 g | 104 | 70 | 67.3% | 6 | 6% |
| 2,500 g 以上 | 208 | 92 | 44.2% | 3 | 1% |
| 計 | 470 | 267 | 56.8% | 74 | 16% |

| 週数 | 患者数 | 帝切 | 率 | ANS | 率 |
|--------|-----|-----|-------|-----|-----|
| 22, 23 | 8 | 0 | 0.0% | 5 | 63% |
| 24, 25 | 14 | 10 | 71% | 9 | 64% |
| 26, 27 | 16 | 15 | 94% | 13 | 81% |
| 28, 29 | 15 | 8 | 53.3% | 12 | 80% |
| 30, 31 | 28 | 19 | 67.9% | 13 | 46% |
| 32, 33 | 35 | 22 | 62.9% | 10 | 29% |
| 34-36 | 128 | 96 | 75.0% | 7 | 5% |
| 37以上 | 226 | 97 | 42.9% | 5 | 2% |
| 計 | 470 | 267 | 56.8% | 74 | 16% |

3) 生存率, 死亡率

| 出生体重 | 患者数 | 死亡数 | 生存率 |
|---------------|-----|-----|-------|
| 500 g 未満 | 3 | 1 | 67% |
| 500-749 g | 19 | 3 | 84% |
| 750-999 g | 22 | 2 | 91% |
| 1,000-1,499 g | 37 | 1 | 97% |
| 1,500-1,999 g | 77 | 2 | 97% |
| 2,000-2,499 g | 104 | 0 | 100% |
| 2,500 g 以上 | 208 | 2 | 99% |
| 計 | 470 | 11 | 97.7% |

| 週数 | 患者数 | 死亡数 | 生存率 |
|--------|-----|-----|-------|
| 22, 23 | 8 | 1 | 88% |
| 24, 25 | 14 | 1 | 93% |
| 26, 27 | 16 | 3 | 81% |
| 28, 29 | 15 | 0 | 100% |
| 30, 31 | 28 | 2 | 93% |
| 32, 33 | 35 | 2 | 94% |
| 34-36 | 128 | 0 | 100% |
| 37 以上 | 226 | 2 | 99% |
| 計 | 470 | 11 | 97.7% |

4) 多胎割合 (品胎 2 組)

| 出生体重 | 患者数 | 多胎 | 率 | 品胎 |
|---------------|-----|----|-------|----|
| 500 g 未満 | 3 | 0 | 0.0% | 0 |
| 500-749 g | 19 | 7 | 36.8% | 2 |
| 750-999 g | 22 | 9 | 40.9% | 0 |
| 1,000-1,499 g | 37 | 9 | 24.3% | 0 |
| 1,500-1,999 g | 77 | 21 | 27.3% | 3 |
| 2,000-2,499 g | 104 | 39 | 37.5% | 0 |
| 2,500 g 以上 | 208 | 10 | 4.8% | 0 |
| 計 | 470 | 95 | 20.2% | 5 |

| 週数 | 患者数 | 多胎 | 率 | 品胎 |
|--------|-----|----|-------|----|
| 22, 23 | 8 | 2 | 25.0% | 0 |
| 24, 25 | 14 | 2 | 14.3% | 2 |
| 26, 27 | 16 | 9 | 56.3% | 0 |
| 28, 29 | 15 | 6 | 40.0% | 0 |
| 30, 31 | 28 | 4 | 14.3% | 0 |
| 32, 33 | 35 | 9 | 25.7% | 3 |
| 34-36 | 128 | 48 | 37.5% | 0 |
| 37 以上 | 226 | 15 | 6.6% | 0 |
| 計 | 470 | 95 | 20.2% | 5 |

5) 人工呼吸管理の割合

| 出生体重 | 患者数 | MV | 率 | HFO | CPAP |
|---------------|-----|-----|-------|-----|------|
| 500 g 未満 | 3 | 3 | 100% | 3 | 2 |
| 500-749 g | 19 | 17 | 89% | 8 | 17 |
| 750-999 g | 22 | 20 | 91% | 3 | 19 |
| 1,000-1,499 g | 37 | 18 | 48.6% | 0 | 25 |
| 1,500-1,999 g | 77 | 29 | 37.7% | 0 | 21 |
| 2,000-2,499 g | 104 | 13 | 12.5% | 0 | 18 |
| 2,500 g 以上 | 208 | 31 | 14.9% | 4 | 35 |
| 計 | 470 | 131 | 27.9% | 18 | 137 |

| 週数 | 患者数 | MV | 率 | HFO | CPAP |
|--------|-----|-----|-------|-----|------|
| 22, 23 | 8 | 8 | 100% | 6 | 7 |
| 24, 25 | 14 | 14 | 100% | 5 | 13 |
| 26, 27 | 16 | 15 | 94% | 3 | 14 |
| 28, 29 | 15 | 10 | 67% | 0 | 13 |
| 30, 31 | 28 | 11 | 39.3% | 0 | 17 |
| 32, 33 | 35 | 16 | 45.7% | 1 | 17 |
| 34-36 | 128 | 21 | 16.4% | 0 | 29 |
| 37 以上 | 226 | 36 | 15.9% | 3 | 27 |
| 計 | 470 | 131 | 27.9% | 18 | 137 |

6) 特殊治療

| | | | |
|---------|------------------|-------------|-----|
| PDA 閉鎖術 | 12例 (+ 二次搬送 7 例) | 生後ステロイド全身投与 | 31例 |
| NO 吸入療法 | 21例 | ステロイド吸入 | 0例 |
| PD | 2例 | 在宅酸素療法 | 17例 |
| CHDF | 1例 | ROP レーザー | 4例 |
| ECMO | 2例 | | |

7) 新生児搬送出動回数 44 回

| | | | |
|----|----|-------|----|
| 入院 | 54 | 分娩立合い | 2 |
| 転院 | 7 | 時間外搬送 | 13 |

8) 双胎生存率, 死亡率

| 出生体重 | 患者数 | 死亡数 | 生存率 |
|---------------|-----|-----|------|
| 500 g 未満 | 0 | 0 | — |
| 500-749 g | 5 | 1 | 80% |
| 750-999 g | 9 | 1 | 89% |
| 1,000-1,499 g | 9 | 0 | 100% |
| 1,500-1,999 g | 18 | 0 | 100% |
| 2,000-2,499 g | 39 | 0 | 100% |
| 2,500 g 以上 | 10 | 0 | 100% |
| 計 | 90 | 2 | 98% |

| 週数 | 患者数 | 死亡数 | 生存率 |
|--------|-----|-----|------|
| 22, 23 | 2 | 0 | 100% |
| 24, 25 | 0 | 0 | — |
| 26, 27 | 9 | 2 | 78% |
| 28, 29 | 6 | 0 | 100% |
| 30, 31 | 4 | 0 | 100% |
| 32, 33 | 6 | 0 | 100% |
| 34-36 | 48 | 0 | 100% |
| 37 以上 | 15 | 0 | 100% |
| 計 | 90 | 2 | 98% |

21. 産 科

本年も大きなトラブルや事故もなく無事1年を終えることができ、産科スタッフ一同ならびに関連・関係各位に感謝致します。

当科は総合周産期母子医療センターとしてハイリスク妊産婦のみを受け入れる紹介型医療施設で、MFICU 6床を含めて32床、陣痛室2室、分娩室3室、産科専用手術室1室を有しています。4D超音波断層装置が3台あり、2人当直制（第2当直は院外医師）を行っています。また、「近畿ブロック周産期医療広域連携事業」における兵庫県の拠点病院として他府県からの母体搬送にも対応しています。

入院理由の上位は切迫早産、胎児形態異常、子宮内胎児発育不全、前期破水、多胎です。高年妊娠の増加に伴い羊水検査が増加しております(65例)。なお、当院は新型出生前診断(NIPT)実施施設ではありませんのでNIPT希望者には実施施設である神戸大学病院、兵庫医大病院、県立塚口病院をご紹介します。

2014年臨床成績：分娩数 338(22週未満の単胎2例の死産含む)、総出産児数387、生産数372、死産数15、多胎47(双胎45、品胎2)、帝切数193(率57.4%)、早産率58.0%、出生体重1,000g未満の児数42(率11.3%)、母体搬送依頼受け入れ150件(受け入れ率67.9%)。

2010～2013年の厚労省周産期母子医療センター評価で4年連続産科、新生児科共にAでした。

当院は兵庫県の周産期医療の最後の砦として診療レベルの維持・向上に努め、また、空床がある限り母体搬送入院を受け入れております。2014年の病床稼働率は86.6%でした。「胎児機能不全」等の適応があれば手術決定から15分以内の児の娩出を目指す「超緊急帝王切開」を関連部門・スタッフの協力を得て行っており、2014年の超緊急帝王切開は14件でした。

また、産科の病床稼働率が高くなれば、満床またはオーバーベッドの日が多くなるためベッドコントロールの困難な日が増加し、結果として緊急母体搬送を受け入れることができません。また、外来紹介を受け即日入院が必要と判断されても入院ベッドがないこともあります。当科はこども病院に併設された周産期母子医療センターですので、他科のベッドを借りることができません。従って、当科が満床となれば搬送依頼をお断りし、他院を紹介せざるを得ないこともあります。そのため、病状が落ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へ戻っていただいております。2014年のバックトランスファー(紹介元へ戻れた方)は290名でした(外来レベルで行われたものも含む)。また、産科以外の成人を継続して診る常勤の専門医がおりませんので、母体合併症に関しては神戸大学医学部附属病院や神戸市立医療センター中央市民病院等をご紹介します。

当科も常にマンパワー不足傾向にあり、現在のスタッフの退職や病気・事故で長期休暇を取得すると、たちまち診療レベルや当直体制を維持することができなくなってしまいます。総合周産期母子医療センターは産科医師2名の当直体制が必要です。現在第1当直は院内医師、第2当直は院外医師(神戸大、医師会)に応援をいただいております。年末年始、5月の連休、学会シーズン等では第2当直医の確保に困難があり、院外医師の第2当直が見つからなければ院内医師が行わざるを得ません(その分、院内医師の負担が増えます)。また、症例が重なった時の応援業務と第2当直医来院までの居残り・翌早朝帰院後の早出のためオンコールの医師を立てています。医師公募も常に行っておりますが、産科医師不足のため苦戦を強いられています。

診療統計は次ページ以降の表をご覧ください。限られた医療資源の中で高いパフォーマンスを示すことができました。

学術活動では本誌の該当頁に掲載されておりますように多くの output を行いました。

喜吉賢二医長が3月の4週間、当院の姉妹病院であるシアトル小児病院とその協力病院であるワシントン大学病院産婦人科へ出張し、米国の周産期医療を研修してきました。

船越が4月に開催された第66回日本産科婦人科学会学術集会ランチョンセミナー27で神戸大学大学院医学研究科外科学講座産科婦人科学分野山田秀人教授を座長にいただき「当科における切迫早産管理」を発表しました。当科の切迫早産の治療薬である硫酸マグネシウムの使用量が過去十数年間国内トップクラスであったため依頼されたとのことでした。

12月14日に兵庫県医師会館で「平成26年度兵庫県周産期医療研修会」を周産期医療センターで開催し、神戸大学大学院医学研究科特命教授の森岡一朗先生に「ウイルス母子感染の臨床～インフルエンザウイルスとサイトメガロウイルス～」の特別講演をいただきました。

今年も神戸赤十字病院から秋山慎介(5月)、中村俊宏(6月)、坂井淳(11月)、廣畑吉昭(12月)、宮崎はる香(2015年1月)、庄野阿侑(2015年2月)(敬称略)の6名が臨床研修医(2年目)として各1ヶ月間当科で研修を行いました。1ヶ月という短い期間ですが、大学病院のBSLでは経験できない貴重な研修ができたと思います。また、当院の姉妹病院である中国福利会国際平和平幼保健院(上海)から看護師・助産師が二人ずつ2か月交替で計6人産科と新生児科の研修に来られました。

放射線科医師と胎児MRIを撮影した症例の経過とMRIの読影、その後の経過を検討する「MRIカンファレンス」を月1回隔月で開催しております。読影報告書からだけでは伺えないMRIの読み方についてリアルに研修することができます。

また、管理に難渋した症例のふりかえりと今後の対応について検討する「症例検討会」を不定期ですが開催しております。

2014年人事

2014年は、船越 徹周産期医療センター次長、産科科長兼部長、佐本 崇周産期内科部長、喜吉賢二医長、高松祐幸医長、牧志 綾医長、南谷智之医長、中澤浩志専攻医の7人で始まりました。

4月1日神戸大学医学部附属病院から内田明子専攻医が入職し、8人体制になりました。

12月末に内田明子専攻医が神戸赤十字病院へ異動しました。

1) 平成25年産科診療状況

| | |
|--------------------|-----|
| 入院患者数* | 510 |
| うち緊急母体搬送によるもの | 150 |
| 紹介元へ戻すまたは他院紹介*** | 290 |
| 分娩母体数(22週以降)** | 336 |
| 正期産 | 141 |
| 早産 | 195 |
| 過期産児 | 0 |
| 多胎妊娠 | 47 |
| うち双胎 | 45 |
| うち品胎 | 2 |
| うち要胎 | 0 |
| 経膈分娩 | 143 |
| うち鉗子・吸引分娩 | 24 |
| うち骨盤位牽出術 | 1 |
| 帝王切開術 | 193 |
| 出産児数(22週以降、死産含む)** | 385 |
| 正期産児 | 149 |
| 早産児 | 236 |
| 過期産児 | 0 |
| 低出生体重児(2500g未満) | 258 |
| 巨大児(4000g以上) | 1 |
| その他 | |
| 22週未満死産**** | 2 |
| 子宮内胎児死亡 | 13 |
| D I C | 1 |
| 自己血貯血回数 | 10 |

* 入院患者数は2014.1-12入院したもの

** 分娩母体数、出産児数は2014.1-12に出産したもの

*** 紹介元へ戻すまたは他院紹介は、外来レベルで行われたものも含む

**** 単胎2

2) 紹介元施設所在地別入院件数

| 大分類 | 地区 | 件数 | 率 | 大分類 | 地区 | 件数 | 率 | |
|------|-----|-----|-----|------|-------|------|----|----|
| 阪神南 | 尼崎市 | 3 | 1% | 中播磨 | 姫路市 | 29 | 6% | |
| | 西宮市 | 16 | 3% | | 神崎郡 | 0 | 0% | |
| | 芦屋市 | 5 | 1% | | 小計 | 29 | 6% | |
| | 小計 | 24 | 5% | 西播磨 | 相生市 | 0 | 0% | |
| 阪神北 | 宝塚市 | 1 | 0% | | たつの市 | 0 | 0% | |
| | 三田市 | 1 | 0% | | 赤穂市 | 0 | 0% | |
| | 川西市 | 0 | 0% | | 揖保郡 | 0 | 0% | |
| | 伊丹市 | 0 | 0% | | 赤穂郡 | 0 | 0% | |
| | 川辺郡 | 0 | 0% | | 佐用郡 | 0 | 0% | |
| | 小計 | 2 | 0% | | 宍粟市 | 1 | 0% | |
| 神戸市 | 須磨区 | 49 | 10% | | 小計 | 1 | 0% | |
| | 中央区 | 78 | 15% | | 但馬 | 豊岡市 | 4 | 1% |
| | 西区 | 101 | 20% | | | 美方郡 | 0 | 0% |
| | 垂水区 | 18 | 4% | 養父市 | | 0 | 0% | |
| | 灘区 | 5 | 1% | 朝来市 | | 0 | 0% | |
| | 東灘区 | 20 | 4% | 小計 | 4 | 1% | | |
| | 北区 | 26 | 5% | 丹波 | 篠山市 | 2 | 0% | |
| | 兵庫区 | 0 | 0% | | 丹波市 | 3 | 1% | |
| | 長田区 | 15 | 3% | | 小計 | 5 | 1% | |
| | 小計 | 312 | 61% | 淡路 | 洲本市 | 13 | 3% | |
| | 東播磨 | 明石市 | 55 | | 11% | 淡路市 | 0 | 0% |
| 加古川市 | | 17 | 3% | | 南あわじ市 | 1 | 0% | |
| 高砂市 | | 6 | 1% | | 小計 | 14 | 3% | |
| 加古郡 | | 0 | 0% | 他府県 | 大阪 | 7 | 1% | |
| 小計 | | 78 | 15% | | 東京 | 2 | 0% | |
| 北播磨 | 西脇市 | 10 | 2% | | 鳥取 | 2 | 0% | |
| | 三木市 | 1 | 0% | | 神奈川 | 2 | 0% | |
| | 小野市 | 11 | 2% | | その他 | 4 | 1% | |
| | 加西市 | 1 | 0% | 小計 | 17 | 3% | | |
| | 加東市 | 0 | 0% | 海外 | 0 | 0% | | |
| | 多可郡 | 0 | 0% | 院内紹介 | 1 | 0% | | |
| | 小計 | 23 | 5% | 計 | 510 | 100% | | |

救急隊はその所属地域にカウントした

3) 取り扱い疾患（重複あり）

| 疾患名* | 件数 | 率 |
|--------------------|-------|------|
| 切迫早産 | 217 | 15% |
| 胎児形態異常 | 172 | 12% |
| 高年妊娠(35歳以上) | 168 | 12% |
| 子宮内胎児発育不全 | 69 | 5% |
| 羊水検査 | 65 | 5% |
| 多胎 | 64 | 5% |
| 既往帝王切開 | 47 | 3% |
| 羊水過多・過少 | 60 | 4% |
| 前期破水 | 58 | 4% |
| B群溶連菌保菌者 | 57 | 4% |
| 絨毛膜羊膜炎・子宮内感染 | 45 | 3% |
| 妊娠高血圧症候群 | 40 | 3% |
| 胎児機能不全 | 39 | 3% |
| 子宮筋腫合併 | 26 | 2% |
| 胎位異常 | 21 | 1% |
| 妊娠糖尿病 | 17 | 1% |
| 他科合併症(GDM,甲状腺疾患以外) | 17 | 1% |
| 頸管無力症 | 15 | 1% |
| 甲状腺疾患合併 | 15 | 1% |
| 胎児水腫 | 14 | 1% |
| 双胎胎児発育不均衡 | 14 | 1% |
| 常位胎盤早期剥離 | 12 | 1% |
| その他 | 169 | 12% |
| 計 | 1,421 | 100% |

入院時、入院中に診断された疾患名

4) 入院時間帯

| 時間帯 | 件数 | 率 |
|-------|-----|------|
| 時間内 | 391 | 77% |
| 平日日勤帯 | | |
| 時間外 | 119 | 23% |
| 平日夜勤帯 | 65 | 13% |
| 休日日勤帯 | 29 | 6% |
| 休日夜勤帯 | 25 | 5% |
| 計 | 510 | 100% |

6) 分娩時間帯（流産、死産含む）

| 時間帯 | 件数 | 率 |
|-------|-----|------|
| 時間内 | 191 | 57% |
| 平日日勤帯 | | |
| 時間外 | 147 | 43% |
| 平日夜勤帯 | 87 | 26% |
| 休日日勤帯 | 22 | 7% |
| 休日夜勤帯 | 38 | 11% |
| 計 | 338 | 100% |

5) 入院時妊娠週数（母）

| 週数 | 件数 | 率 | 累積率 |
|--------|-----|------|------|
| ～21週 | 78 | 15% | 15% |
| 22～24週 | 46 | 9% | 24% |
| 25～28週 | 80 | 16% | 40% |
| 29～32週 | 94 | 18% | 58% |
| 33～36週 | 109 | 21% | 80% |
| 37週～ | 96 | 19% | 99% |
| 不明 | 0 | 0% | 99% |
| 産後 | 7 | 1% | 100% |
| 非妊娠 | 0 | 0% | 100% |
| 計 | 510 | 100% | |

7) 帝王切開時間帯

| 時間帯 | 件数 | 率 |
|-------|-----|------|
| 時間内 | 143 | 74% |
| 平日日勤帯 | | |
| 時間外 | 50 | 26% |
| 平日夜勤帯 | 29 | 15% |
| 休日日勤帯 | 10 | 5% |
| 休日夜勤帯 | 11 | 6% |
| 計 | 193 | 100% |

8) 分娩時妊娠週数（流産、死産含む）

| 週数 | 件数 | 率 | 累積率 |
|--------|-----|------|------|
| ～21週 | 2 | 1% | 1% |
| 22～24週 | 14 | 4% | 5% |
| 25～28週 | 27 | 8% | 13% |
| 29～32週 | 50 | 15% | 28% |
| 33～36週 | 104 | 31% | 58% |
| 37～41週 | 141 | 42% | 100% |
| 42週～ | 0 | 0% | 100% |
| 不明 | 0 | 0% | 100% |
| 計 | 338 | 100% | |

9) 出産時児体重（流産、死産含む）

| 児体重 | 件数 | 率 | 累積率 |
|------------|-----|------|------|
| ～499g | 8 | 2% | 2% |
| 500～999g | 45 | 12% | 14% |
| 1000～1499g | 40 | 10% | 24% |
| 1500～1999g | 72 | 19% | 43% |
| 2000～2499g | 95 | 25% | 67% |
| 2500～2999g | 74 | 19% | 86% |
| 3000～3499g | 41 | 11% | 97% |
| 3500～3999g | 11 | 3% | 100% |
| 4000～4499g | 1 | 0% | 100% |
| 計 | 387 | 100% | |

10) 緊急母体搬送依頼電話受信状況

| 月 | 依頼件数 | 受け入れ不能件数 | 受け入れ不能率 |
|----|------|----------|---------|
| 1 | 14 | 4 | 29% |
| 2 | 16 | 12 | 75% |
| 3 | 19 | 6 | 32% |
| 4 | 22 | 2 | 9% |
| 5 | 17 | 2 | 12% |
| 6 | 17 | 0 | 0% |
| 7 | 18 | 8 | 44% |
| 8 | 21 | 10 | 48% |
| 9 | 20 | 12 | 60% |
| 10 | 19 | 7 | 37% |
| 11 | 19 | 6 | 32% |
| 12 | 18 | 5 | 28% |
| 不明 | 1 | 0 | 0% |
| 計 | 221 | 74 | 33% |

依頼件数には、結果的に外来受診となったものも含む

11) 年次別搬送受け入れ不能状況

| 年 | 依頼件数 | 受け入れ不能件数 | 受け入れ不能率 | 備考 |
|-------|------|----------|---------|--------------|
| 平成6年 | 66 | 12 | 18% | 10月開設(22床) |
| 平成7年 | 240 | 38 | 16% | 阪神・淡路大震災 |
| 平成8年 | 312 | 76 | 24% | |
| 平成9年 | 340 | 111 | 33% | |
| 平成10年 | 324 | 105 | 32% | |
| 平成11年 | 326 | 55 | 17% | フルオープン(32床) |
| 平成12年 | 362 | 100 | 28% | 総合周産期センターに指定 |
| 平成13年 | 328 | 60 | 18% | |
| 平成14年 | 394 | 110 | 28% | |
| 平成15年 | 367 | 140 | 38% | |
| 平成16年 | 298 | 126 | 42% | |
| 平成17年 | 285 | 120 | 42% | MFICU6床整備 |
| 平成18年 | 316 | 124 | 39% | 空床情報ネットワーク整備 |
| 平成19年 | 285 | 91 | 32% | |
| 平成20年 | 259 | 65 | 25% | |
| 平成21年 | 279 | 88 | 32% | |
| 平成22年 | 276 | 85 | 31% | |
| 平成23年 | 256 | 96 | 38% | |
| 平成24年 | 225 | 83 | 37% | |
| 平成25年 | 232 | 74 | 33% | |
| 平成26年 | 221 | 71 | 32% | 病床稼働率 86.6% |

12) 搬送依頼施設所在地別受信件数

| 大分類 | 地区 | 件数 | 率 | 大分類 | 地区 | 件数 | 率 |
|-----|------|-----|-----|------|-------|----|----|
| 阪神南 | 尼崎市 | 1 | 0% | 中播磨 | 姫路市 | 0 | 0% |
| | 西宮市 | 13 | 6% | | 神埼郡 | 0 | 0% |
| | 芦屋市 | 4 | 2% | | 小計 | 0 | 0% |
| | 小計 | 18 | 8% | | 相生市 | 0 | 0% |
| 阪神北 | 宝塚市 | 1 | 0% | 西播磨 | 赤穂市 | 0 | 0% |
| | 三田市 | 0 | 0% | | 宍粟市 | 0 | 0% |
| | 川西市 | 0 | 0% | | たつの市 | 0 | 0% |
| | 伊丹市 | 0 | 0% | | 揖保郡 | 0 | 0% |
| | 川辺郡 | 0 | 0% | | 赤穂郡 | 0 | 0% |
| | 小計 | 1 | 0% | | 佐用郡 | 0 | 0% |
| 神戸市 | 須磨区 | 23 | 10% | 但馬 | 小計 | 0 | 0% |
| | 中央区 | 27 | 12% | | 豊岡市 | 0 | 0% |
| | 西区 | 44 | 19% | | 養父市 | 0 | 0% |
| | 垂水区 | 10 | 4% | | 朝来市 | 0 | 0% |
| | 灘区 | 6 | 3% | | 美方郡 | 0 | 0% |
| | 東灘区 | 9 | 4% | 小計 | 0 | 0% | |
| | 北区 | 14 | 6% | 丹波 | 篠山市 | 2 | 1% |
| | 兵庫区 | 0 | 0% | | 丹波市 | 0 | 0% |
| | 長田区 | 17 | 7% | | 小計 | 2 | 1% |
| | 小計 | 150 | 65% | 淡路 | 洲本市 | 10 | 4% |
| 東播磨 | 明石市 | 30 | 13% | | 南あわじ市 | 0 | 0% |
| | 加古川市 | 2 | 1% | | 淡路市 | 2 | 1% |
| | 高砂市 | 0 | 0% | 小計 | 12 | 5% | |
| | 加古郡 | 1 | 0% | 他府県 | 京都府 | 1 | 0% |
| 小計 | 33 | 14% | 鳥取県 | | 1 | 0% | |
| 他府県 | 0 | 0% | 他 | | 0 | 0% | |
| 北播磨 | 西脇市 | 1 | 0% | 小計 | 2 | 1% | |
| | 三木市 | 0 | 0% | 海外 | 0 | 0% | |
| | 小野市 | 2 | 1% | 院内紹介 | 0 | 0% | |
| | 加西市 | 0 | 0% | 不明 | 0 | 0% | |
| | 加東市 | 0 | 0% | 計 | 221 | | |
| | 多可郡 | 0 | 0% | | | | |
| 小計 | 3 | 1% | | | | | |

救急隊はその所属地域にカウントした

13) 搬送依頼元施設種類別

| 施設種類 | 件数 | 率 |
|-------------|-----|------|
| 総合周産期医療センター | 7 | 3% |
| 地域周産期医療センター | 21 | 10% |
| 一般病院 | 109 | 49% |
| 診療所 | 75 | 34% |
| 助産院 | 2 | 1% |
| 救急隊 | 7 | 3% |
| 他 | 0 | 0% |
| 不明 | 0 | 0% |
| 計 | 221 | 100% |

14) 搬送依頼電話受信時刻

| 勤務帯 | | 件数 | 率 |
|-----|--------|-----|------|
| 時間内 | 平日・日勤帯 | 110 | 50% |
| | 平日・夜勤帯 | 60 | 27% |
| 時間外 | 休日・日勤帯 | 32 | 14% |
| | 休日・夜勤帯 | 18 | 8% |
| 不明 | | 1 | 0% |
| 計 | | 221 | 100% |

15) 搬送電話依頼時理由

| 搬送理由 | 件数 | 率 |
|-----------|-----|------|
| 切迫早産 | 119 | 54% |
| 前期破水 | 31 | 14% |
| 妊娠高血圧症候群 | 20 | 9% |
| 胎盤早期剥離 | 8 | 4% |
| 既往帝切 | 4 | 2% |
| 子宮内胎児発育不全 | 4 | 2% |
| 胎児形態異常 | 3 | 1% |
| 切迫流産 | 2 | 1% |
| 胎児機能不全 | 2 | 1% |
| 未受診 | 2 | 1% |
| 出血多量 | 1 | 0% |
| 胎児死亡 | 1 | 0% |
| その他 | 19 | 9% |
| 不明 | 5 | 2% |
| 計 | 221 | 100% |

主たる理由で分類

18) 受け入れ不能の理由

| 理由 | 件数 | 率 |
|---------|----|------|
| NICU 満床 | 39 | 55% |
| 産科満床 | 19 | 27% |
| 両方満床 | 0 | 0% |
| 対象外 | 5 | 7% |
| その他 | 6 | 8% |
| 不明 | 2 | 3% |
| 計 | 71 | 100% |

その他：手術中、搬送受入中等

16) 搬送電話依頼時妊娠週数

| 妊娠週数 | 件数 | 率 |
|-----------|-----|------|
| 22 週未満 | 12 | 5% |
| 22 ～ 24 週 | 39 | 18% |
| 25 ～ 28 週 | 44 | 20% |
| 29 ～ 32 週 | 60 | 27% |
| 33 ～ 36 週 | 48 | 22% |
| 37 ～ 40 週 | 12 | 5% |
| 41 週以降 | 0 | 0% |
| 分娩後 | 0 | 0% |
| 不明 | 6 | 3% |
| 非妊娠 | 0 | 0% |
| 計 | 221 | 100% |

17) 受け入れ可否返事所要時間

| 所要時間 | 件数 | 累積率 |
|---------|-----|------|
| ～ 1 分 | 172 | 78% |
| ～ 3 分 | 21 | 87% |
| ～ 10 分 | 21 | 97% |
| ～ 20 分 | 1 | 97% |
| ～ 30 分 | 2 | 98% |
| ～ 60 分 | 1 | 99% |
| ～ 120 分 | 1 | 99% |
| ～ 240 分 | 1 | 100% |
| 不明 | 1 | 100% |
| 計 | 221 | 100% |

22. 放射線科

1. 人事異動

2014年度の人事異動は、スタッフの杉岡勇典医師が転出し上原栄理子医師が転入となった。従来通り放射線治療担当で副島俊典医師ががんセンターと兼務で週1回の診療にあたる。

非常勤医師として藤本雄介医師に月曜、木曜の週2日超音波検査の応援をいただいている。

開院以来、消化管造影検査で応援いただいていた西山章次医師が2014年3月をもって引退することになった。

2. 2014年の動向

年間の読影件数は全体としてほぼ前年通りであるが、本年はCTがやや減少していた。MDCTによる技術の進歩が臨牀に役に立つ反面、被爆を伴うだけに昨今の原発事故も少なからず影響しているかもしれない。

その一方、被爆のない超音波検査は年々増加を続け、ついに5000件を突破した。1日平均25件であるが、今後もますます増えることとおもわれる。新病院では現在の2列稼働から3列稼働になる予定である。

院内、院外の小児科医を対象とした放射線研修も軌道に乗り、本年は塚口病院からも常時1名ずつ計3名の応募があった。

課題としては、新病院に向けて周辺関連施設との協力や連携を進めていく必要がある。

放射線科読影件数 (2014 年)

CT 2757 件

MRI 2193 件

RI 333 件

他院持込画像の読影
283 件

超音波 5017 件

研修医・専攻医指導記録

専攻医：祖父江俊樹 (小児科)

研修科：放射線科

研修期間：2013.12.1. ~ 2014.1.31

指導医：赤坂好宣

読影件数

CT：177

MRI：58

RI：4

透視検査：7

超音波検査：115

専攻医：石田悠介 (小児科)

研修科：放射線科

研修期間：2014.1.1. ~ 2014.3.31

指導医：赤坂好宣

読影件数

CT：205

MRI：182

RI：6

透視検査：6

超音波検査：199

専攻医：中西啓太 (小児科)

研修科：放射線科

研修期間：2014.10.1. ~ 2014.12.31

指導医：赤坂好宣

読影件数

CT：149

MRI：158

RI：12

透視検査：0

超音波検査：215

専攻医：中橋 達 (塚口病院小児科)

研修科：放射線科

研修期間：2014.4.1. ~ 2014.7.31

指導医：赤坂好宣

読影件数

CT：192

MRI：189

RI：30

透視検査：15

超音波検査：290

単純写真 19 件

透視 379 件

IVR 2 件 (エコー下肝生検)

放射線治療 (照射) 26 人

専攻医：松永卓明 (塚口病院小児科)

研修科：放射線科

研修期間：2014.8.1. ~ 2014.11.30

指導医：赤坂好宣

読影件数

CT：199

MRI：182

RI：0

透視検査：4

超音波検査：366

専攻医：高橋知也 (塚口病院小児科)

研修科：放射線科

研修期間：2014.12.1. ~ 2015.3.31

指導医：赤坂好宣

読影件数 (2014.12.31 まで)

CT：38

MRI：48

RI：2

透視検査：0

超音波検査：42

研修医：岡澤藍夏 (尼崎病院)

研修科：放射線科

研修期間：2014.6.1. ~ 2014.7.31

指導医：赤坂好宣

読影件数

CT：57

MRI：48

RI：0

透視検査：0

超音波検査：95

研修医：荒木亮佑 (塚口病院)

研修科：放射線科

研修期間：2014.2.1. ~ 2014.3.31

指導医：赤坂好宣

読影件数

CT：92

MRI：97

RI：0

透視検査：2

超音波検査：129

23. 病理診断科

病理診断科では、胎盤病理・死産児の剖検などの周産期の病理診断、ヒルシュスプルング病や嚢胞性肺疾患などの小児外科領域の病理診断、小児期の固形腫瘍の病理診断を主体として、小児期の病理診断全般を行っている。小児固形腫瘍は国立成育医療センターを中心とする小児固形腫瘍観察研究に登録、参加して、中央病理診断や分子生物学的診断を受けている。腎生検は、凍結検体を用いた蛍光免疫染色や電子顕微鏡の所見を加えた最終診断は腎臓内科が行っている。病理診断科では、検体のマクロ検索からミクロ検索までを一連の業務として取り組み、一例一例を大切に丁寧に診断することを心がけている。必要に応じて免疫染色や特殊染色、外部委託や小児固形腫瘍観察研究による分子生物学的検索、他施設へのコンサルテーション依頼等を行い、客観的で再現性のある標準化に則った病理診断を目指している。臨床カンファレンスを通じて、診断名のみならず所見の詳細を臨床に伝えることで診療に病理診断結果を活かしてもらえるように努めている。また病理診断は一時期の病変部のみを検索であるが、診療過程の全体を把握して病理診断にフィードバックしたいと考えている。

2014年の動向

2014年8月11～15日の5日間、成育医療センター病理診断科で研修をさせて頂き、大変勉強になった。今後も定期的な研修を希望している。

2014年12月20日（土）大阪市立総合医療センター3階大会議室で開催された第72回関西小児病理研究会の世話人を兵庫県立こども病院病理診断科が担当した。

2013年から当院腎臓内科の主催で、神戸大学医学部附属病院病理部の原重雄先生を講師に招いた腎生検カンファレンスを開催している。2014年も4回の腎生検カンファレンスが行われた。

脳腫瘍の髄芽腫と上衣腫について日本脳腫瘍学会と日本小児神経外科学会を中心とした小児頭蓋内悪性腫瘍の遺伝子診断に病院として参加することとなり、今後髄芽腫と上衣腫については腫瘍遺伝子的な診断も確立される。

2014年3月27日にCPCが行われ、臨床報告は新生児科中西啓太先生が担当された。

2014年の件数

組織診断件数 1036件（うち迅速有り33件、胎盤335件、腎生検27件、その他）

細胞診断件数 164件

剖検件数 6件（産科死産児2件、新生児科3件、循環器内科1件）

24. 看護部

看護部理念

命を守り、育てることに努力し、安心と満足が得られる看護の提供に努めます。

看護部のスローガン

「小児看護」→「笑児看護（しょうにかんご）」

「みる・まもる・つなぐ・つたえる」で、こどもと家族の輝く笑顔を引き出そう！！

看護部方針

- こどもの権利を守り、患者・家族の思いを尊重した看護を提供します。
- 看護の質の向上を目指し、安全と安心に繋がる看護を提供します。
- 患者を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動します。
- 真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い、自己研鑽に努めます。

看護の体制

- より安全で質の高い看護を提供することを目的とし、パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）看護提供方式への変更に取り組む、全部署日勤帯での PNS から導入を図っています。
- 患者様が治療や検査を理解し、確実に行えるように、プリパレーションやディストラクションを取り入れた看護を実践しています。
- 保育士と協働し、患者様の成長発達に応じた療育への支援を行っています。
- 患者様に少しでも快適で豊かな入院生活を送っていただけるよう様々なボランティアの皆様と季節折々の行事を実施しています。
- 看護系大学との事例検討会や共同研究を推進し、看護の向上に向けて取り組んでいます。

看護部目標

★「共育・共働・共創」の3拍子

共に育ち、共に働き、共に創り出す

★看護師確保・定着対策（県立病院全体）

- ・実習生への関わり・・・学生が働きたいと思える病院作り
- ・教育担当看護師長の配置・・・採用前からの継続した関わり

★診療報酬の改訂を取り入れた組織運営

- ・チーム医療・在宅医療の推進
- ・地域連携
- ・小児がん拠点病院としての活動推進

★ベットコントロール（こどもと親にとって「最後の砦」）

患者を迎える、歓迎する気持ちで患者をうけ入れる。看護師長間の調整、相互支援をしながら、お互いに知恵を出し合い共創する組織となって、目の前の患者の入院を受け入れる

1. 働きやすい職場作りと看護実践能力・看護の質の向上
 - 1) 無資格者（看護事務補助・看護補助）との業務の役割分担と協働・連携
 - ・業務整理——委譲できる業務と看護の専門業務
 - ・無資格者の育成と協働
 - 2) 業務委譲によりできた時間で、看護実践能力・看護の質の向上をはかる

2. 看護のやりがい・おもしろさの探求とチーム医療の推進
 - 1) 専門職チームとしての事例検討の推進
 - ・医師・保育師・薬剤師・栄養士・PT・放射線技師・検査部門
 - 2) 部署間の連携と事例検討
 - ・病棟—外来、病棟・外来—OP、病棟・外来—指導相談部等
 - 2) 地域の看護職とのチーム作り

3. 新病院（実設計）へ向けて基盤整備
 - 1) 人も育て自分も育つ
 - 2) 外へ目を向け、外部から学ぶ
 - 3) 電子カルテを見据えた看護記録・看護基準・標準看護計画の見直しとクリニカルパスの推進

看護部の活動

看護部

新病院では重症集中系病床の増床に伴い、看護師も増員が必要で、新規採用看護師の育成と定着促進のために、教育担当看護師長と共に精神リエゾン専門看護師や臨床心理士が精神的フォローを行う体制作りをしました。また現在の業務の振り返りを行い、新病院での業務フロー作成を行いました。

一般外科主体病棟

在宅療養へ移行する患者・家族に、指導相談・地域医療連携部など多職種と積極的にカンファレンスを実施し退院支援を行った。安全・感染・防災の視点から、週1回のKYTカンファレンスの定着、KYT新聞による周知を行いリスク感性の向上に努めました。

循環器 A 病棟

循環器、心臓血管外科、血液腫瘍科を主体とした患者が入院する病棟である。心臓センター及び小児がんセンターの開設に伴い、より専門的な治療への対応が求められた。看護師の教育体制の充実のために、日々の業務でパートナーシップ方式を取り入れた。

循環器 B 病棟

ベッドサイドケアの時間の確保と教育支援の充実を目的に看護提供方式（日勤PNS）を変更しケアの時間の確保はできた。教育支援の充実は、OJTの強化を図りアセスメント力の向上を目指し努力している。

混合 A 病棟

在宅支援を継続し、慢性呼吸器患者、乳児期の腹膜透析患者を在宅に移行することが出来た。また、がん患者を受け入れ化学療法の実施、脳腫瘍ターミナル期の患者の看取りなど安全を第一に考えた看護が実践できた。

混合 B 病棟

脳腫瘍患者を受入れ、初発時から多職種カンファレンスを行い、ターミナル期にある患者の在宅支援につ

なげることができた。またヒヤリハットの減少と人材育成を目的に PNS を導入し、導入前に比較してヒヤリハットは減少した。

血液主体病棟

抗がん剤の副作用対策として、持ち込み食のシステムを確立することができた。また、看護記録の質向上のため SOAP 記録に取り組み、アセスメント力の向上が図れた。ビーズオブカレッジの定着や小児がん看護学会への演題発表など、小児がん拠点病院としての看護の発信にも取り組んだ。

ICU

ICU の看護実践能力の向上を目指し、入室患者が増加している新生児に対する管理マニュアルや ICU に必要な特殊治療に対するマニュアルの改訂、標準予防策遵守率向上にむけた感染対策をチーム活動として取り組んだ。また、業務整理を行い、PNS が導入できた。

HCU・外科系一般病棟

ICU の後方病棟の役割を強化し、心臓外科術後の心臓血管外科や循環器科の患者を安全に受け入れた。在宅支援を強化し、家族とともに目標を共有しながら在宅への移行をすすめることができた。

NICU

PNS を導入し 1 年が経過した。今年度は年間パートナーを設定し、主に人材育成に取り組んだ。また、看護師長補佐・教育委員をリーダーとした 3 チームとし、「ケアマップ作成・災害・安全・看護基準・5S」の活動に取り組んだ。

GCU

受け持ち看護師の役割を通し、患者・家族によりよい看護の提供に努めた。長期入院患児や在宅医療を必要とする児も多く、退院スクリーニングシートを活用し、入院後早期から地域連携室と連携をとり、継続した退院支援に取り組んだ。

産科

外来通院中から受け持ち看護師が関わり、入院・分娩・育児と継続した看護を実践している。母乳外来では、当院だけでなく、他院で分娩した母親も対象とし、母乳栄養指導だけでなく母親の精神面での支援や、育児不安の緩和に努めることができた。

手術室

WHO 指針の手術室安全チェックリストを用い、安全な手術への取り組みを他部門と連携し、チーム医療として取り組んでいる。また、周手術期の家族看護に視点を置き、術前・術中・術後訪問の検討を行い、推進している。

外来

安全な外来診療・看護の提供を目標とし、教育や、ヒヤリハットの共有、再発防止の取り組みを行なっている。在宅療養支援では、他部署との連携の強化と、看護相談外来の拡大を図り、個々のニーズに合わせた支援の取り組みを行なっている。

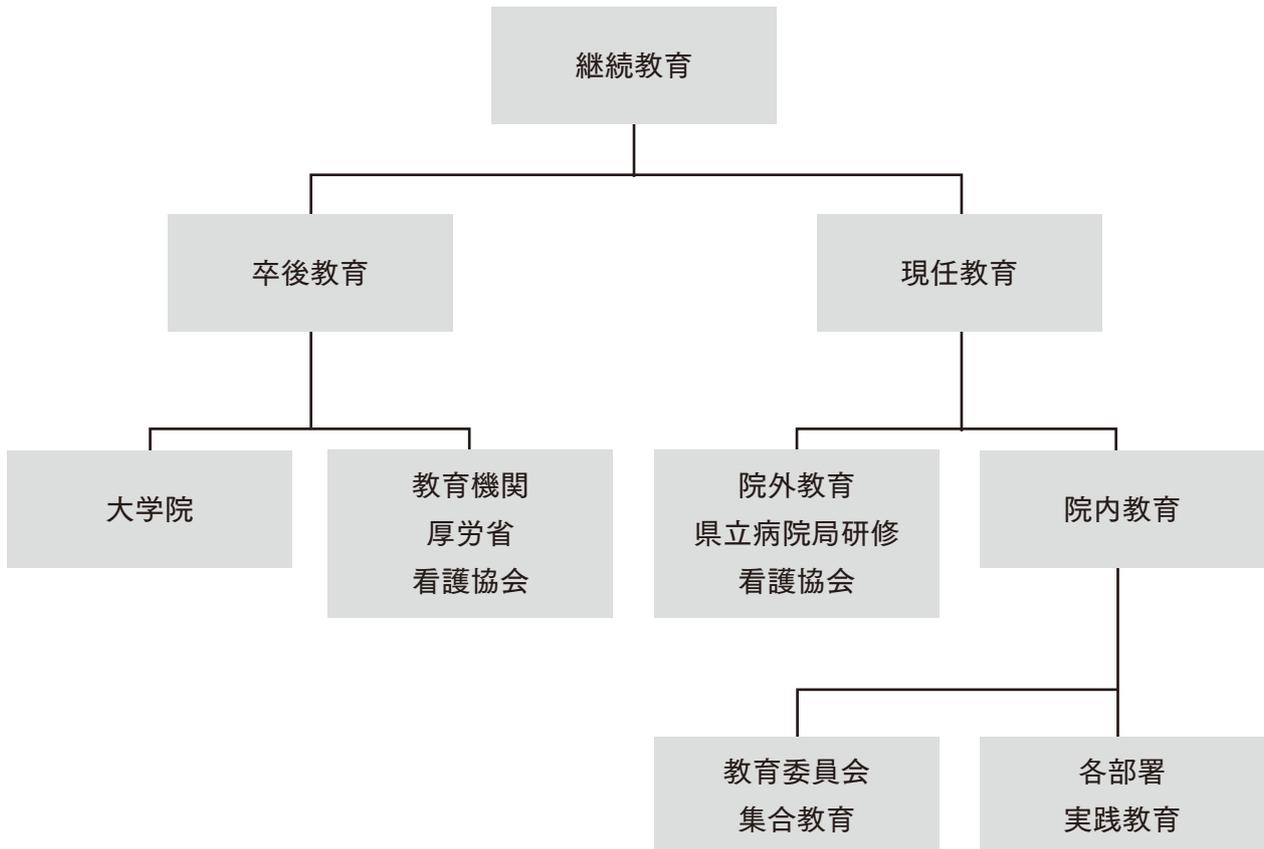
小児救急センター

高度集学的救急医療と同時に「子どもと家族を中心とした救急医療」をテーマに「つなぐ看護」を目指した。「カンファレンスの定着」「重症初療シミュレーション」「PNS 導入」に取り組んだ。

こども病院看護部教育方針

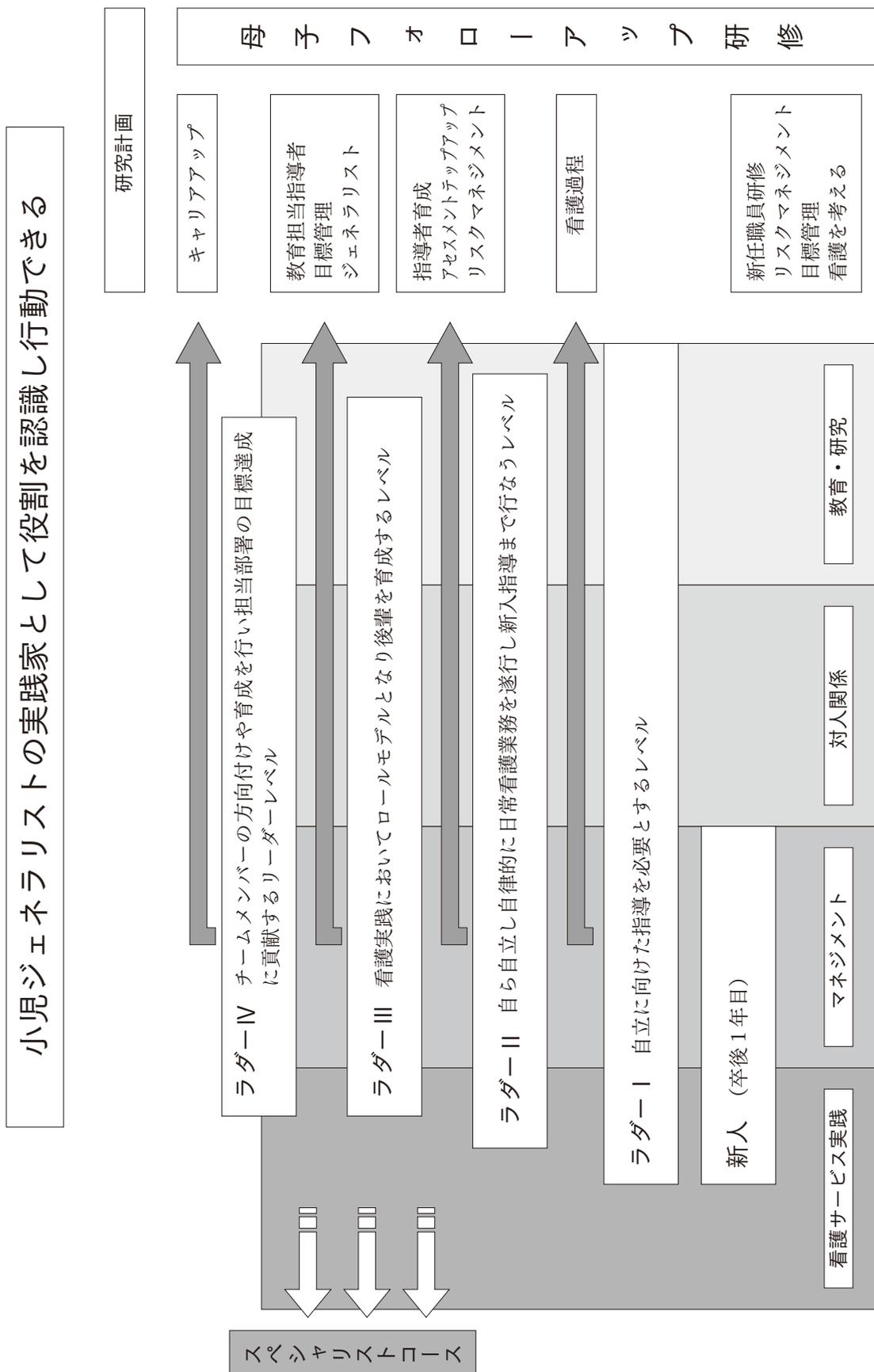
1. 高度専門的な母子看護の知識・技術をもち、エビデンスに基づいた看護実践ができる看護師の育成
2. こどもの権利を守り、患者家族の思いを尊重できる看護師の育成
3. チーム医療の調整役として行動できる看護師の育成
4. 研究的視点で看護実践の改善がはかれる看護師の育成

こども病院看護部継続教育の位置づけ



こども病院看護部教育方針

こども病院看護部継続教育の位置づけ



看護部委員会

| 委員会名 | 開催回数 | 目標と活動内容 |
|-----------|------|---|
| 看護師長補佐会 | 11回 | <p><目的> 各看護単位の円滑な運営と看護の質の向上をはかる</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院としての課題達成に向けて率先して実行できる 2. 看護師として責任ある行動が取れるように人材育成する 3. 看護部委員会での活動を共有し各部署で周知できるようにする <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会活動が各病棟で円滑に実践できるように情報共有と支援を実施 2. 看護基準の修正 3. 1) 看護補助者マニュアルの作成 2) 看護補助者研修の企画、運営 4. 1) インターンシップの企画、運営 2) ふれあい看護体験の企画、運営 3) トライアルウィークの企画、運営 4) 看護師募集パンフレットの作成 5. 看護実践報告会の企画、運営 6. 1) 院内における看護提供方式変更の推進 2) P N S 実践ガイド作成 |
| 看護部教育委員会 | 12回 | <p><目的> 看護職員のキャリア開発を支援するとともに、良質な看護を提供するための教育体系を整備、実践する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年間計画に沿って、集合教育を実施し、看護のおもしろさ・やりがい感を発見することができる研修を企画する 2. 教育委員が元気で、各病棟の教育支援ができるとともに、委員としての成長ができる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTとリンクした継続性のある教育の検討と実施 3. 看護師個々のキャリアに応じた支援の検討と実施 |
| 看護部教育担当者会 | 14回 | <p><目的> 新人看護師を支援する教育体制を整備し、実践する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新人看護師が現場に順応し、各自のペースに合わせて目標を達成していけるよう支援できる 2. 教育担当者が、新人看護師やプリセプターへの指導・教育、研修企画・運営、問題解決に関する知識やスキルを高め、成長できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新人看護師の院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJT での継続性のある新人看護師教育の検討と実施 3. 実施指導者・教育担当者の支援・育成 4. 全スタッフで新人看護師を育成する風土づくり・体制整備 |

| | | |
|-----------------|---------------------|---|
| <p>臨床指導者会</p> | <p>隔月開催で 6回</p> | <p><目的> 臨床指導者の育成と学生の効果的な臨床実習ができる</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生指導を通して指導スキルの向上をはかり自己の成長につなげる 2. 患者の安全を確保し有効な実習を行える環境が提供できる。 3. 学生の目標となる看護師を目指す <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スキルアップをはかる方法の一つとして積極的に研修会参加ができた。対象の理解と学生の学びを支えるための支援者の姿勢などについて学んだ 2. 実習予定に関しては、事前に病棟会・連絡ノート・申し送りノート・カンファレンス・休憩室での掲示など行う、実習担当者に直接働きかけるなど告知につとめることでスタッフを巻き込むための工夫ができた 3. 「つぶやき版」は継続し、学生が起こしたヒヤリハット・個人情報保護・実習に出来ない学生への対応など話し合え、活発な意見交換ができた 4. 患者の安全については、実習前のオリエンテーションや日々の指導の中で安全に関する説明や、指導にあたるスタッフに安全に関する注意喚起を行った。また、家族に対する言葉遣いなど接遇面での指導も行った。 5. 学生カンファレンスへの参加や学生との振り返り時に、自分の看護観を話す事で、学生に看護の楽しさややり甲斐を伝えるように努めた。 |
| <p>業務・手順委員会</p> | | <p><目的> 業務を見直し、当院で必要な看護業務基準・手順を作成し、安全で安楽な標準化したケアを提供する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護業務の見直しと改善策の検討 2. 各委員会と連携を図り、看護業務手順の作成及び修正を図る <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 標準化を目的として各病棟間の手順の相違の修正 2. マニュアルや指針の変更にあわ看護業務手順の修正 3. 業務改善 4. 必要手順の作成 |

| | | |
|----------------|------------|---|
| <p>感染対策委員会</p> | <p>11回</p> | <p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各看護単位での感染対策の中心的役割を担う。 2. 各看護単位の感染対策を検討・改善し、感染対策に関する看護の質を向上させる。 3. ICC や ICT、ICN と連携し、院内の感染対策を推進する。 <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染対策に対するスタッフの知識・技術が向上する。 2. 流行性感染症、耐性菌などのアウトブレイクが発生しない。 3. 勉強会、研修会、学会参加などをおして実践モデルとしての役割がとれる。 <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スタッフが、感染対策マニュアルを視覚的に理解して使用できるよう、標準予防策と感染経路別予防策マニュアルの可視化に取り組んだ。 2. スタッフに手指衛生の正しい知識、技術が浸透し、実践できるよう、直接観察法を用いて監査を行い、遵守率向上に向けて取り組んだ。 3. 個人防護具の着用率の向上と正しい着脱方法が浸透するよう、チェックリストによる評価と啓発ポスターの作成をおこなった。 4. ICT と密に連携し、問題発生時に早期対処した。 5. 病棟の感染対策に還元できるよう、ICT ラウンドに同行して自己の学びを深めた。 6. リンクナースとして必要な知識、技術を習得するためチェックリストによる自己評価を年2回実施した。院外研修会にも自主的に参加した。 |
| <p>安全対策委員会</p> | <p>11回</p> | <p><目的></p> <p>看護事故防止対策を検討し、全看護職員のリスク感性向上に向けて取り組むことを目的とする</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒヤリハット報告・事件事例を分析し対応策を検討することができる 2. 安全文化の醸成に向けた活動を推進することができる 3. 安全な療養環境が提供できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒヤリハットの情報共有 2. 看護部安全マニュアルの改正 3. 安全ニュースの発行 4. 転倒・転落アセスメントシートの活用と看護基準・計画の導入 5. 安全な与薬に向け、チェックリストの活用と周知 |

| | | |
|-------------------|------------|--|
| <p>看護記録委員会</p> | <p>11回</p> | <p><目的> 電子カルテを見据え、看護の可視化と質評価につながる看護記録ができる</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記録の監査を行うことでスタッフ全員が看護の見える記録ができるようになる 2. 看護基準・基準計画を見直し、適切な用語や表現に統一できる 3. 電子カルテに向けて帳票類を検討し整備する 4. 他部門と連携し院内略語集を改訂する <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 質的監査・機械的監査の日程表を作成し、全病棟に配布した 2. 機械的監査ツールを用いて2回/年スタッフ全員を対象に監査を行った 3. 「記録の日」を活用し、質的監査を項目を決めて行った 4. 監査結果について、ポスターにし病棟での啓蒙活動に活用した 5. 昨年度作成された看護基準・基準計画について、メディス・アウトカムマスターを使用し、用語の見直しを行った 6. 全病棟を回り、現在使用中の帳票類の確認を行った 7. 現在使用中の「院内略語集」について、削除するもの、新たに追加するもの、残すものと選別を行った |
| <p>クリニカルパス委員会</p> | <p>11回</p> | <p><目的> 電子カルテを見据え、院内クリニカルパス委員会と連動し、クリニカルパスを推進する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電子カルテに向け、パス用語の標準化が出来る 2. バリエーション集計内容の質が向上する 3. 既存パスのアウトカム修正を行う事により適切なバリエーション分析を行う <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クリニカルパスモデルの作成に向けて、3つのパスの見直しに取り組んだ。 2. アウトカム設定方法について院内パス委員会と連携し、手順の文章化を進めた。 3. MEDIS標準マスターとBOMを用いて、パスに使われている用語の適合性を検討し、あいうえお順にした用語集を作成した。 4. 院内パスの方針を受けて、「適応基準」「除外基準」欄を設けたフォーマットの検討し考案できた。 5. 入院患者台帳の記載方法について啓蒙活動を行い、記入不備の減少に取り組んだ。 6. バリエーション集計を各部署で実施できるよう支援し、分析内容を委員会で定期的に報告できた。 |
| <p>看護部地域連携委員会</p> | <p>11回</p> | <p><目的> 在宅療養支援に関する院内外の現状を知り、地域連携推進に取り組む</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 退院支援システムを理解し、早期から院内連携を図り、スムーズな退院支援ができる 2. 看護サマリーによる情報提供を行い、継続看護に活用できる 3. 子どもの健康生活を支援する地域関係機関との連携充実を図る 4. 退院支援に関する課題を共有し、病棟へ還元できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 退院支援スクリーニングシートの使用を診療部にも働きかけ、入院時のスクリーニングが定着した。 2. 看護師の意見を反映させた看護サマリーを作成、看護連絡票として活用できた 3. 訪問看護師研修を2回開催し、訪問看護ステーション実地研修を1回実施した 4. 事例検討会を3回実施し、各病棟で情報共有を行った |

| | | |
|--------------|-----|---|
| 看護部専門・認定看護師会 | 11回 | <p><目的> 医療・看護の質向上に向け、専門看護師・認定看護師が連携して問題解決への取り組みや支援を行う</p> <p><目標> 1. 各専門・認定看護師の活動を共有し連携をはかる 2. 各専門分野もしくは共通している問題について、ともに検討し解決につなげる 3. 専門・認定看護師が協働して教育活動を行う 4. 専門・認定看護師の支援体制を整える</p> <p><活動内容> 1. 各自の年間計画、月間・年間活動報告の共有 2. 活動の中で発見した問題提起と検討、互いの支援 3. 専門・認定看護師が協働する勉強会の企画・運営 4. 活動に関する看護部との調整・交渉</p> |
| 看護部研究支援委員会 | 8回 | <p><目的> スタッフが看護研究を意欲的かつ適切に実施できるように、研究の全過程にわたって支援する</p> <p><目標> 1. 看護研究の計画や実施において、スタッフが適切な倫理的配慮を行えるよう支援する 2. スタッフが、看護に関して科学的方法を用いて探求し、新しい知見を得るために、適切な指導と支援を行う</p> <p><活動内容> 1. 看護研究の倫理的配慮に対する指導・教育 2. 看護研究の計画・実施プロセスにおけるスタッフの支援</p> |
| 皮膚・排泄ケア部会 | 11回 | <p><目的> 皮膚排泄における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標> 1. ストーマケア、失禁ケア、創傷ケアなどの専門知識、技術を共有する 2. 各部署におけるストーマケア、失禁ケア、創傷ケアの現状や課題を検証し改善する</p> <p><活動内容> 1. WOCケア習得チェックリストの結果をふまえ、勉強会を開催し、各部署委員の知識・技術のレベルアップを図った。 2. 褥瘡予防リスクアセスメント用紙を活用し、アセスメント内容を分析し、日常生活自立度のめやすを作成した。正しいアセスメントができ、日々の看護に活用できるようにスタッフに周知した。 3. ストーマケア・C I Cの指導用のDVDを作成し、アンケートを行い、評価、修正を行った。今後、家族指導、スタッフの教育に使用していく。</p> |
| 呼吸障害ケア部会 | 11回 | <p><目的> 1. 呼吸障害における専門知識を習得する 2. 呼吸障害におけるケアの質の向上を図る</p> <p><目標> 1. 呼吸障害に関する最新知識・技術を学び、共有する 2. 各部署における呼吸ケアの現状や課題を検証し改善する</p> <p><活動内容> 1. 呼吸ケアに関するヒヤリハットの共有と対策の検討と実施 2. MEと協力し、呼吸器関連物品の管理方法の検討や統一、 3. 呼吸療法マニュアルの修正と項目（新マニュアル）の追加 4. 在宅療養マニュアルの呼吸ケアに関する項目の修正 5. 排痰装置の使用基準・マニュアルの作成 6. 勉強会の計画・実施</p> |

| | | |
|----------|-----|--|
| 摂食障害ケア部会 | 11回 | <p><目的></p> <ol style="list-style-type: none">1. 摂食に関する最新の知識を学び、共有する2. 事例検討を行い、質の高い看護を提供する <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none">1. 事例検討を通じて摂食ケアの考え方について学び、適切なケアを提供できる2. 各委員が各部署における摂食ケアのレベルアップ方法を計画し、実践できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none">1. 委員が、摂食ケアについての基礎知識を習得できるよう上半期計画的に勉強会を行った2. 毎月各部署から事例をあげ検討し、各部署での摂食に対する意識の向上につなげた3. 摂食嚥下障害児への看護基準の評価修正を行った4. S Tや病棟間の連携を行い、継続した摂食援助につなげた |
|----------|-----|--|

平成26年度 院内研修

| | 研修会名 | 日程 | 時間 | ねらい | 参加数 | 講師 | |
|-------------|-----------------------|--------------|----------|--|--------|--|--------------------------------------|
| 新人 | フォロー研修① 子どもの看護・感染 | 4月3日 (水) | 1日 | <p>1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけることができる</p> <p>2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲を高める</p> <p>3. 看護実践についての振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる</p> | 55名 | 風次長、熊谷CNS、鳴滝CN、茨木補佐、ネルゴア、フィリップス、教育担当者 | |
| | フォロー研修② 安全・清潔ケア | 4月4日 (木) | 1日 | | 57名 | 藤田医療安全課長、大北正三CNS (淡路医療センター)、教育担当者 | |
| | フォロー研修③ 記録・与薬システム | 4月7日 (月) | 1日 | | 53名 | 武田看護師長、田原看護師長、教育担当者 | |
| | フォロー研修④ 輸液管理 | 4月18日 (金) | 1日 | | 56名 | アエルモ、教育担当者 | |
| | フォロー研修⑤ 呼吸生理・周手術・小児麻酔 | 5月19日 (月) | 1日 | | 56名 | 藤原CN、野々村麻酔科医、千田検査技師、鳥井管理栄養士、教育担当者 | |
| | フォロー研修⑥ 救急蘇生・放射線科 | 5月30日 (金) | 1日 | | 55名 | 藤原CN、放射線技師、教育担当者 | |
| | フォロー研修⑦ 子どもの権利・摂食・褥瘡他 | 6月27日 (金) | 1日 | | 55名 | 鎌田CN、森本CN、熊谷CNS、大北正三CNS (淡路医療センター)、教育担当者 | |
| | フォロー研修⑧ 多重業務・薬剤管理 | 7月18日 (金) | 1日 | | 49名 | 福井薬剤部次長、教育担当者 | |
| | フォロー研修⑨ 家族看護・理学療法・輸血 | 8月15日 (金) | 1日 | | 53名 | 浅井CNS、中田PT、教育担当者 | |
| | フォロー研修⑩ 継続看護・ストーマケア | 9月19日 (金) | 1日 | | 55名 | 橋本次長、鎌田CN、深江看護師長、山本補佐、大北正三CNS (淡路医療センター)、教育担当者 | |
| | フォロー研修⑪ 看護過程 | 10月17日 (金) | 1日 | | 50名 | 中谷CNS、鳴滝CN、藤田医療安全課長、教育担当者 | |
| | フォロー研修⑫ 看護を考える | 3月4日 (水) | 1日 | | 44名 | 教育担当者 | |
| | 外来研修 | | 6～8月 | | 0.5～1日 | 45名 | 中谷CNS、外来看護師、麻酔科医、新生児科医師、放射線技師、教育担当者他 |
| | 夜勤・交代制勤務セルフマネジメント | | 7～8月 | | 各3時間 | 48名 | 風次長、濱田看護師長 |
| | 他部署研修 | | 10～1月 | | 各1～2日 | 38名 | 教育担当者他 |
| | 既卒 | 高機能シミュレーター研修 | 1～2月 | | 各1日 | 1. 他部署における子どもと家族の思いや体験が理解できる 2. 自部署と他部署の違いや連携が分かる、自部署で実践する看護につなげられる 3. 自部署では経験の少ない看護技術の見学、実践を通して習得できる など | 44名 |
| 既卒者交流会① | | 6月27日 (金) | 0.5 (PM) | 1. 自己の役割を認識する機会となる 2. 同期の既卒者との交流を図る | 8名 | 藤久保看護部長、奈須・圓尾・鞠補佐 | |
| 既卒者交流会② | | 8月15日 (金) | 0.5 (PM) | 1. 先輩看護師や同期との交流を深め、リフレッシュの機会となる 2. 同期の既卒者との交流を図る | 6名 | 先輩看護師、奈須・圓尾・鞠補佐 | |
| 既卒者交流会③ | | 11月21日 (金) | 0.5 (PM) | 1. 同期と交流を深めリフレッシュの機会となる 2. 入職後半年を経過し、研修①で立案した目標の達成状況と今後の課題を認識する機会とする | 8名 | 奈須・圓尾・鞠補佐 | |
| 看護過程 | | 6月3日 (火) | 1日 | 1. 根拠に基づいた看護ケアを自立して実践できる能力を養う 2. ストレスマネジメントの方法が分かる | 36名 | 中谷CNS、教育委員 | |
| リフレッシュと看護倫理 | | 9月3日 (水) | 1日 | 1. 日々の実践を振り返り、倫理問題に気づくことができる 2. 同期との交流を深め、現状での悩みやストレスを表面化できる | 35名 | 風次長、熊谷CNS、教育委員 | |
| リーダー | ケーススタディ発表 | 10月31日 (金) | 1日 | 1. 看護過程・家族看護・倫理を踏まえ、自分の大切に行っている看護を明確化する 2. 他者承認を得ることで自身のモチベーションに繋げることができる | 35名 | 藤久保看護部長、教育委員 | |
| | ストレスマネジメント① | 11月21日 (金) | 0.5 (AM) | 1. ストレスマネジメントの方法が分かる 2. ストレスフルが自覚でき、ストレスコーピングができる | 35名 | 大北正三CNS (淡路医療センター)、教育委員 | |
| | リーダーシップ (基礎編) | 12月2日 (火) | 0.5 (AM) | 1. デイリーリーダーとしての基本的な役割を理解することができる 2. チームメンバーとしての役割、責任を果たすことができる | 33名 | 内海看護師長、教育委員 | |
| | 家族看護① | 7月29日 (火) | 1日 | 1. 家族看護の基本的な考え方や、理念を知ることができる 2. 問題点に気づくことができる 3. 家族の全体像をとらえることができる | 40名 | 浅井CNS、教育委員 | |
| リーダー・II | 後輩指導 (プリセプターシップ導入編) | 2月20日 (金) | 0.5 (AM) | 1. プリセプターとしての役割を理解する 2. 次年度新規採用者の各部署での教育計画を教育担当者とともに立案する | 30名 | 本田CNS、教育委員 | |

| | | | | | | |
|-----------|------------------|--------------------------------|---------|--|-----|-------------------------|
| ラダーII | 看護実践と看護倫理 | 6月24日(火) | 1日 | <ol style="list-style-type: none"> 患者の権利・倫理綱領を理解し、倫理面に配慮した看護を実践する能力を養う 今後の看護の根底となる看護観を養う | 23名 | 熊谷CNS、教育委員 |
| | プリセプターフォロー② | 9月30日(火) | 0.5(AM) | <ol style="list-style-type: none"> 自己の関わりを振り返り、課題や今後の方向性を明確にできる プリセプターの成長に合わせたかかわりができる | 33名 | 竹井看護師長、先輩看護師、教育委員 |
| ラダーII以上 | プリセプターフォロー③(発表会) | 2月20日(金) | 0.5(PM) | <ol style="list-style-type: none"> 自己の関わりを振り返ることができる プリセプターの成長に合わせたかかわりができる 自己の看護を振り返り、語る事ができる | 32名 | 教育委員 |
| | リーダーシップ発表会 | 12月2日(火) | 0.5(PM) | <ol style="list-style-type: none"> 日々のリーダーの役割を遂行し、リーダーシップについて自己の考えをまとめる 実践場面において、状況に応じたリーダーシップが発揮できる | 15名 | 教育委員 |
| ラダーII以上 | 看護研究①② | 5月1日(木) | 1日 | <ol style="list-style-type: none"> 看護研究としての基礎知識を得る 研究的視点で実践をみることができ 研究計画書について理解することができ | 28名 | 中谷・本田・二星CNS、濱田看護師長、教育委員 |
| | 看護研究③ | 9月8日(月) | 1日 | <ol style="list-style-type: none"> 効果的なプレゼンテーションの方法を知ることができる 取り組んでいる研究の相談ができる | 22名 | 二星CNS、教育委員 |
| ラダーII・III | 看護研究①' | 2月13日(金) | 1日 | <ol style="list-style-type: none"> 看護研究としての基礎知識を得る 研究的視点で実践を見ることができ | 22名 | 中谷・本田・二星CNS、教育委員 |
| | アソプリ・プリセプターフォロー① | 6月13日(金) | 0.5(AM) | <ol style="list-style-type: none"> 自己の関わりを振り返り、課題や今後の方向性を明確にできる プリセプターの成長に合わせた関わりができる 自己の看護を振り返り、語る事ができる | 48名 | 佐藤看護師長、教育委員 |
| ラダーIII | リーダーシップ研修(他部署研修) | 11~1月 | 1~2日 | <ol style="list-style-type: none"> デイリーダーとしての基本的なコミュニケーションスキルが分かる 事例検討を通してデイリーダーの具体的な役割について理解できる | 8名 | 教育委員他 |
| | アソプリフォロー② | 9月30日(火) | 0.5(PM) | <ol style="list-style-type: none"> 新人やプリセプターの成長を助けるための有効なかかわり方が理解できる アソリエイトプリセプターとしての関わりを振り返り、今後に活かすことができる | 15名 | 本田CNS、教育委員 |
| ラダーIII・IV | ストレスマネジメント② | 11月21日(金) | 0.5(PM) | <ol style="list-style-type: none"> ストレスマネジメント方法が理解、実施でき、今後どんな自分になりたいか、看護師としてどう生きようかについて考えることができる チームのストレスを最適化し、チームを活性化させるコミュニケーション方法が体得できる | 18名 | 大北正三CNS(淡路医療センター)、教育委員 |
| | 家族看護② | 10月7日(火) | 1日 | <ol style="list-style-type: none"> 家族看護の基本的な考え方が理解できる 自分の家族観を理解した上で、家族看護における家族のとらえ方を学ぶ | 23名 | 浅井CNS、教育委員 |
| 役割研修 | 教育担当者研修① | 12月19日(金) | 0.5(PM) | <ol style="list-style-type: none"> 新人研修ガイドラドンを理解し、管理者とともに新人教育計画の立案、実施、評価ができる 教育担当者、アソプリとしての自己の役割を理解し、管理者の指導を受けながら新人の支援と教育ができる | 34名 | 三宅一代准教授(兵庫県大)、副次長 |
| | 教育担当者研修② | 1月15日(木) | 0.5(PM) | <ol style="list-style-type: none"> 小児のストーマケアが適切にできるようにするために、小児のストーマ造設をすする疾患や術前後のケア、ストーマ器具・皮膚保護材、スキンケアの原則とスキントラブル、社会保障について理解する | 34名 | 三宅一代准教授(兵庫県大) |
| スキルアップ研修 | 皮膚・排泄ケア | | 0.5(AM) | <ol style="list-style-type: none"> 看護師の生理学的異常に対するアセスメント力及び初期対応力を培い、もって早期の治療介入・患児の状態悪化防止につなげる | 7名 | 鎌田CN |
| | 小児救急看護 | | 0.5(AM) | <ol style="list-style-type: none"> 摂食嚥下の基本的なメカニズムについて知り、子どもにとっての食の意味や食行動の理解を深めることができる | 6名 | 藤原CN |
| スキルアップ研修 | 摂食嚥下障害看護 | 7月2日(水) 9月2日(火) 1月16日(金) | 0.5(PM) | <ol style="list-style-type: none"> 当院に入院中の子どもたちの摂食・嚥下障害の原因について理解・推測し、必要時、看護計画を立案及び実施・展開することができる 各所属部署のリンクナーズの役割を担い、必要時、認定看護師へのコンサルテーションをし、共同して取り組むことができる | 6名 | 森本CN |
| | 新生児看護 | | 0.5(PM) | <ol style="list-style-type: none"> 新生児期の生理学的適応過程を理解し、必要な看護について理解する 親子の始まりを支えるための看護を理解する 母乳育児支援の実践について理解する デベロップメンタルケアやポジティブニッキングなど、新生児の神経発達援助を理解する 1)~4)をふまえ、疾病新生児の看護の実践について考えられる | 8名 | 伊達CN |

25. 薬剤部

1 薬剤部員異動

(平成26年4月1日付)

| | | | | | |
|-------|----|----|-----|-------------|--------------|
| 【転出者】 | 次長 | 塩田 | 恵 | 県立淡路医療センター | (平成26年4月1日付) |
| | 主任 | 上野 | 陽介 | 県立淡路医療センター | (平成26年4月1日付) |
| 【転入者】 | 次長 | 福井 | 由美子 | 県立西宮病院 | (平成26年4月1日付) |
| | 職員 | 三輪 | 祐太郎 | 県立加古川医療センター | (平成26年4月1日付) |
| | 職員 | 中山 | 淳司 | 新規採用者 | |

2 平成26年活動報告

本年の主な取り組み概要を下記に記す。

(1) 薬剤部内での医薬品に係わるヒヤリハット防止への取組

薬剤業務が適正に実施されているかを確認する目的で実践検証を実施、また医療事故防止のための薬剤業務マニュアルの輪読や若手職員を対象にリスク防止対策等の研修を実施し、部員全員でヒヤリハット防止に取り組んでいる。

(2) 治験への取組

院内治験審査委員会事務局として新規治験や継続中の治験の適否に携わった。さらに、小児治験ネットワークを介した治験（中央治験審査委員会で審議）にも積極的に参加し、より充実した治験業務（10件）が展開できた。

(3) 薬学生の長期実務実習及びレジデントの受け入れ

2名の薬学生及び1名のレジデントを受け入れ、実務実習モデル・コアカリキュラムやレジデント研修マニュアル等を作成し、病院薬剤師として必要な知識等を指導した。

(4) 部員の育成

薬剤部の活性化と個々の部員のモチベーションを高めるため、部内勉強会や薬剤管理指導症例報告会を定期的に行い、さらに学会等での発表（4演題）や認定薬剤師等への取得（3名）を支援した。

(5) 新病院構想への対応

こども病院建替整備に向けて、薬剤部員の意見等を集約し、薬剤部門及び医療情報システム等の仕様書策定等に携わった。また、設備関係においても詳細且つ継続的な検討を行っている。

3 来年の展望と予定

昨年度に引き続き、医療事故防止対策の充実やチーム医療の促進という観点から病棟薬剤師業務等を含め、今後新たな業務等について検討していきたい。

また新病院建替整備においても、より充実したシステムや設備等を部員の意見等を踏まえ提案していきたい。

(1) 調剤件数

| 区 分 | 処方箋枚数 | 合 計 | | | 内 用 薬 | | | 外 用 薬 | | |
|------|--------|--------|---------|---------|--------|---------|---------|--------|--------|--------|
| | | 処方数 | 調剤数 | 延調剤数 | 処方数 | 調剤数 | 延調剤数 | 処方数 | 調剤数 | 延調剤数 |
| 入 院 | 37,631 | 66,025 | 75,324 | 345,867 | 51,203 | 60,502 | 310,988 | 14,822 | 14,822 | 34,879 |
| 外 来 | 7,348 | 16,919 | 55,002 | 363,635 | 13,971 | 52,054 | 342,667 | 2,948 | 2,948 | 20,968 |
| 計 | 44,979 | 82,944 | 130,326 | 709,502 | 65,174 | 112,556 | 653,655 | 17,770 | 17,770 | 55,847 |
| 一日平均 | 185.9 | 342.7 | 538.5 | 2,931.8 | 269.3 | 465.1 | 2,701.1 | 73.4 | 73.4 | 230.8 |

(2) 注射薬取扱件数

| 区 分 | 注 射 薬 | |
|------|---------|---------|
| | 処方箋枚数 | 延本数 |
| 入 院 | 104,134 | 601,491 |
| 外 来 | 6,298 | 12,269 |
| 計 | 110,432 | 613,760 |
| 一日平均 | 456.3 | 2,536.2 |

(3) 薬剤管理指導料 件数

| 診療科 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 産 科 | 96 | 96 | 85 | 115 | 107 | 125 | 123 | 133 | 111 | 139 | 106 | 107 | 1,343 |
| 心外・循内 | 27 | 25 | 41 | 35 | 42 | 38 | 41 | 64 | 45 | 52 | 45 | 41 | 496 |
| 血 内 | 55 | 61 | 58 | 51 | 57 | 69 | 68 | 57 | 73 | 59 | 63 | 67 | 738 |
| N I C U | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 69 | 63 | 72 | 82 | 64 | 64 | 414 |
| 腎 内 | 14 | 9 | 14 | 15 | 6 | 7 | 15 | 18 | 13 | 8 | 13 | 7 | 139 |
| 眼 科 | 37 | 32 | 27 | 26 | 30 | 33 | 35 | 37 | 31 | 29 | 20 | 25 | 362 |
| 泌尿器科 | 12 | 17 | 26 | 14 | 12 | 19 | 16 | 19 | 15 | 20 | 13 | 17 | 200 |
| 耳鼻科 | 8 | 9 | 9 | 10 | 9 | 10 | 14 | 9 | 8 | 9 | 10 | 7 | 112 |
| 整形外科 | 12 | 12 | 10 | 9 | 10 | 17 | 16 | 17 | 18 | 19 | 11 | 20 | 171 |
| 形成外科 | 20 | 15 | 22 | 12 | 13 | 20 | 19 | 10 | 20 | 25 | 20 | 15 | 211 |
| 計 | 281 | 276 | 292 | 287 | 286 | 338 | 416 | 427 | 406 | 442 | 365 | 370 | 4,186 |

(4) 退院指導料 件数

| 診療科 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| 産 科 | 22 | 25 | 20 | 26 | 22 | 36 | 25 | 25 | 18 | 34 | 28 | 43 | 324 |
| 心外・循内 | 3 | 6 | 15 | 12 | 15 | 9 | 12 | 12 | 6 | 12 | 14 | 5 | 121 |
| 血 内 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 3 | 1 | 0 | 1 | 2 | 2 | 2 | 17 |
| 腎 内 | 3 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 19 |
| 眼 科 | 29 | 27 | 28 | 26 | 28 | 32 | 30 | 38 | 29 | 29 | 22 | 22 | 340 |
| 整形外科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 計 | 57 | 59 | 65 | 69 | 68 | 82 | 68 | 78 | 55 | 79 | 68 | 74 | 822 |

(5) 薬剤情報提供料 件数

| 診療科 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 全 科 | 441 | 417 | 469 | 423 | 403 | 445 | 437 | 478 | 464 | 452 | 429 | 516 | 5,374 |

(6) 無菌製剤調製業務 件数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 抗がん剤 | 133 | 128 | 125 | 124 | 99 | 114 | 129 | 126 | 135 | 118 | 126 | 116 | 1,473 |
| 高カロリー | 80 | 62 | 68 | 105 | 65 | 53 | 43 | 87 | 64 | 117 | 105 | 81 | 930 |
| 計 | 213 | 190 | 193 | 229 | 164 | 167 | 172 | 213 | 199 | 235 | 231 | 197 | 2,403 |

(7) 薬物の血中濃度測定 件数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|
| メソトレキセート | 34 | 24 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 62 |

(8) 院内D I 業務

① 電子メールによる情報提供

| 送 信 日 | 件 名 |
|-------------|---|
| 2014. 1 .29 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.309 |
| 2014. 2 .27 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.310 |
| 2014. 3 .26 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.311 |
| 2014. 4 .17 | ゼプリオン®水懸筋注 25mg、50mg、75mg、100mg、150mg シリンジの使用中の死亡症例について |
| 2014. 4 .30 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.312 |
| 2014. 5 .27 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.313 |
| 2014. 7 .29 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.314 |
| 2014. 8 .26 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.315 |
| 2014. 9 .30 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.316 |
| 2014.10.28 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.317 |
| 2014.11.25 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.318 |
| 2014.12.24 | 医薬品・医療機器等安全性情報 No.319 |

② 主な問い合わせ内容

| 問 い 合 わ せ 内 容 | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 注射薬配合変化について・ 注射薬溶解後の安定性について・ 注射薬のフィルター透過性について・ 食品と薬剤の相互作用について・ 内服薬の飲み易い飲み方について・ 冷所保存医薬品の常温での安定性について | <ul style="list-style-type: none">・ 抗がん剤の適切な投与方法について・ 医薬品の副作用について・ 血液製剤の投与方法について・ 小児薬用量について・ 錠剤の粉碎可否について |

(9) 院内製剤

① 内用液剤

| 製剤名 | 製剤量 (単位 /mL) |
|----------|--------------|
| 内服用ルゴール液 | 290 |

② 軟膏

| 製剤名 | 製剤量 (単位 /g) |
|-----------------|-------------|
| バリアー | 165,000 |
| 10% テストステロン軟膏 | 1,100 |
| 0.4% エストラジオール軟膏 | 1,800 |

③ 外用液剤

| 製剤名 | 製剤量 (単位 /mL) |
|---------------|--------------|
| アセモトール | 12,000 |
| 1/2 カプトドロップ | 720 |
| 0.5% アトロピン点眼 | 40 |
| 25% グリセリン液 | 28,300 |
| 食塩重曹液 | 180 |
| 20% 硝酸銀 | 30 |
| 30% 硝酸銀 | 130 |
| 40% 硝酸銀 | 40 |
| 10% ピオクタニン青液 | 250 |
| 1% ピオクタニン青液 | 40 |
| 0.2% ピオクタニン青液 | 100 |
| 30% アルコール | 260 |
| 50% アルコール | 260 |
| ツェンテール液 | 20 |

④ 予製剤

| 製剤名 | 製剤量 (単位 /g) | 製剤名 | 製剤量 (単位 /g) |
|-----------------|-------------|-----------------|-------------|
| (倍散→倍散) | | ドルナー散 (× 50000) | 13,000 |
| 0.01% ジゴシン散 | 1,500 | ニュートライド散 (× 10) | 625 |
| (錠→散) | | フラジール散 (× 4) | 200 |
| イムラン散 (× 10) | 50 | ポラキス散 (× 100) | 2,200 |
| インデラル散 (× 100) | 1,000 | レバチオ散 (× 50) | 3,240 |
| グリチロン散 | 570 | ロングス散 (× 100) | 3,600 |
| コートリル散 (× 20) | 1,500 | ワーファリン散 (× 500) | 13,500 |
| デカドロン散 (× 1000) | 250 | | |

26. 検査・放射線部（検査部門）

1. 人事異動

【転出者】

| | | | |
|--------|---------|------------|--------------------|
| 検査技師長 | 近平 佳美 | 県立淡路医療センター | (平成 26 年 4 月 1 日付) |
| 主任検査技師 | 入野 博文 | 県立塚口病院 | (平成 26 年 4 月 1 日付) |
| 課長補佐 | 末道 愛子 | 県立尼崎病院 | (平成 26 年 4 月 1 日付) |
| 課長補佐 | 下佐田 久実代 | 県立西宮病院 | (平成 26 年 4 月 1 日付) |

【転入者】

| | | | |
|--------|--------|--------------|--------------------|
| 検査技師長 | 松尾 美也子 | 県立がんセンター | (平成 26 年 4 月 1 日付) |
| 主任検査技師 | 山岸 真代 | 県立柏原病院 | (平成 26 年 4 月 1 日付) |
| 課長補佐 | 藤本 恵子 | 県立姫路循環器病センター | (平成 26 年 4 月 1 日付) |
| 職員 | 大島 佳那子 | 新規採用 | (平成 26 年 4 月 1 日付) |

2. 活動報告

本年の主な取り組み概要を以下に示す

(1) 院内感染対策

- ・感染管理加算 I 取得の継続
- ・感染対策委員会事務局として、本委員会を定期開催（年 1 2 回）
- ・JANIS 検査部門に参加

(2) 安全な輸血医療

- ・輸血管理料 I 取得の継続
- ・輸血療法委員会事務局として、本委員会を定期開催（年 6 回）
- ・輸血療法マニュアルの一部改訂
- ・輸血用血液製剤の有効利用（赤血球製剤廃棄率の低減化推進）

(3) 医療事故防止の強化

- ・医療安全目標の作成と推進
テーマ：「結果確認の徹底」（結果を送信する前にもう一度確認する）

(4) 検査委員会活動

- ・臨床検査機器（多項目自動血球分析装置・血液培養装置）の更新
- ・血中薬物濃度 3 項目の測定を新規に実施
- ・第 1 回検査部研修会（院内全体研修）の開催

(5) 人材育成

- ・学会や研修会への積極的な参加
- ・兵庫県立病院の相互利用による研修を実施
- ・業務達成度チェックリストの活用開始（時間外検査領域）

(6) 検査技術科学専攻学生臨地実習の受け入れと指導

| | | |
|------------------|-------------|-------|
| 神戸常盤大学保健科学部 | (3年次臨地実習 | : 2名) |
| 香川県立保険医療大学 | (3年次体験実習 | : 1名) |
| 神戸大学医学部 | (1年次初期体験実習: | 7名) |
| 岡山大学医学部保健学科 | (3年次体験実習 | : 1名) |
| 神戸大学医学部保健学科検査技術科 | (4年次臨地実習 | : 2名) |
| 神戸学院大学 | (4年次臨地実習 | : 1名) |

〈認定資格〉

| | | | |
|----------------------|----|-------------|----|
| 超音波検査士(消化器) | 2名 | 超音波検査士(循環器) | 2名 |
| 認定血液検査技師 | 1名 | 認定輸血検査技師 | 1名 |
| 日本糖尿病療養指導士 | 1名 | 細胞検査士 | 1名 |
| 特定化学物質及び四アルカリ鉛等作業主任者 | 3名 | | |
| 第一種衛生管理者 | 1名 | | |
| 衛生工学衛生管理者 | 1名 | | |

3. 平成27年の課題

- ・新病院建て替えに向けて
 - 遺伝子検査など新規導入検査の知識・技術の修得と運用について情報の収集
 - 検査部門システム開発の推進
 - 業務フローやマニュアルの作製
- ・小児がん拠点病院に対応する臨床検査部門の充実(人材育成を中心に)
- ・輸血用血液製剤の効率的利用、赤血球製剤廃棄率の低減化推進
- ・感染対策に関する情報の発信と院内周知の強化
- ・高度専門医療や救急・災害時の対応を考慮した検査部門の構築

(1) 平成 26 年臨床検査実施状況

メディスコードを用いた集計に変更

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 一 般 | 2,165 | 2,066 | 2,780 | 2,791 | 2,488 | 2,327 | 2,828 | 3,322 | 2,574 | 2,915 | 2,373 | 2,589 | 31,218 |
| 血 液 | 10,093 | 9,081 | 10,603 | 10,806 | 10,087 | 10,164 | 10,874 | 11,696 | 10,520 | 10,396 | 9,929 | 11,643 | 125,892 |
| 細 菌 | 2,551 | 2,119 | 2,433 | 2,646 | 2,585 | 2,397 | 2,502 | 2,509 | 2,384 | 2,576 | 2,394 | 2,699 | 29,795 |
| 血 清 | 4,521 | 4,062 | 4,650 | 4,814 | 4,514 | 6,307 | 5,413 | 5,136 | 4,797 | 4,509 | 4,705 | 5,279 | 58,707 |
| 生 化 学 | 40,450 | 36,428 | 41,943 | 42,654 | 40,326 | 40,839 | 44,194 | 49,067 | 41,646 | 42,075 | 39,884 | 46,105 | 505,611 |
| 病 理 | 111 | 97 | 148 | 135 | 153 | 152 | 156 | 191 | 158 | 148 | 162 | 159 | 1,770 |
| 生 理 | 1,323 | 1,153 | 1,577 | 1,534 | 1,283 | 1,401 | 1,538 | 1,922 | 1,538 | 1,432 | 1,203 | 1,429 | 17,333 |
| 職員検診 | 37 | 40 | 36 | 39 | 39 | 3,200 | 70 | 66 | 67 | 68 | 40 | 62 | 3,764 |
| 外部委託 | 2,749 | 2,585 | 3,195 | 3,101 | 2,720 | 2,819 | 2,985 | 3,182 | 2,945 | 2,956 | 2,579 | 3,192 | 35,008 |
| 合 計 | 64,000 | 57,631 | 67,365 | 68,520 | 64,195 | 69,606 | 70,560 | 77,091 | 66,629 | 67,075 | 63,269 | 73,157 | 809,098 |

(2) 平成 26 年時間外（日、当直）検査実施状況

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 年度累計 |
|------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 項目数 | 2,530 | 1,968 | 2,353 | 2,768 | 2,677 | 2,520 | 2,404 | 2,666 | 2,520 | 2,649 | 2,705 | 3,235 | 30,995 |
| 対前年比 | 103.9% | 99.9% | 105.8% | 104.3% | 89.2% | 104.7% | 92.6% | 116.4% | 94.8% | 124.2% | 109.4% | 102.8% | 103.4% |
| 患者数 | 1,021 | 781 | 954 | 1,117 | 1,030 | 1,024 | 972 | 1,092 | 1,008 | 1,036 | 1,084 | 1,326 | 12,445 |
| 対前年比 | 105.7% | 114.3% | 109.9% | 106.2% | 86.6% | 105.2% | 92.5% | 118.3% | 94.2% | 124.1% | 109.5% | 106.1% | 105.0% |

(3) 平成 26 年血液製剤使用状況

| 製剤 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|-----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-------|-------|
| RCC | 購入数 単位数 | 213 | 139 | 200 | 221 | 180 | 169 | 223 | 262 | 198 | 186 | 141 | 251 | 2,383 |
| | 使用量 単位数 | 203 | 131 | 198 | 219 | 174 | 167 | 219 | 256 | 194 | 180 | 133 | 247 | 2,321 |
| | 廃棄量 単位数 | 10 | 8 | 2 | 2 | 6 | 2 | 4 | 6 | 4 | 6 | 8 | 4 | 62 |
| | 廃棄率 % | 4.5 | 5.4 | 1.0 | 0.9 | 3.2 | 1.2 | 1.8 | 2.2 | 2.0 | 3.1 | 5.4 | 1.6 | 2.6 |
| FFP | 購入数 単位数 | 135 | 86 | 91 | 136 | 92 | 91 | 117 | 181 | 124 | 111 | 92 | 153 | 1,409 |
| | 使用量 単位数 | 135 | 86 | 90 | 136 | 92 | 90 | 116 | 180 | 121 | 111 | 91 | 149 | 1,397 |
| | 廃棄量 単位数 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 3 | 0 | 1 | 4 | 12 |
| | 廃棄率 % | 0.0 | 0.0 | 1.1 | 0.0 | 0.0 | 1.1 | 0.8 | 0.5 | 2.4 | 0.0 | 1.1 | 2.5 | 0.9 |
| PC | 購入数 単位数 | 715 | 655 | 845 | 930 | 885 | 635 | 850 | 1,070 | 955 | 715 | 510 | 1,005 | 9,770 |
| | 使用量 単位数 | 715 | 655 | 845 | 920 | 885 | 635 | 850 | 1,070 | 955 | 715 | 510 | 995 | 9,750 |
| | 廃棄量 単位数 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 20 |
| | 廃棄率 % | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.0 | 0.2 |

細菌培養材料別検査件数 (H26 年)

| 材料 | 依頼件数 |
|-------------------|-------|
| 喀痰 | 698 |
| 気管洗浄液 | 891 |
| 咽頭粘液 | 951 |
| 鼻腔粘液 | 1163 |
| その他(呼吸器系) | 107 |
| 口腔、気道又は呼吸器からの検体合計 | 3810 |
| 尿・カテーテル尿 | 893 |
| 膣分泌物 | 631 |
| 悪露 | 189 |
| 子宮腔内 | 192 |
| その他(泌尿器系) | 84 |
| 泌尿器又は生殖器からの検体合計 | 1989 |
| 便 | 266 |
| G B S 増菌 | 439 |
| その他(消化器系) | 36 |
| 消化管からの検体合計 | 741 |
| 血液 | 2115 |
| 髄液 | 178 |
| 胸・腹水 | 93 |
| その他(穿刺液) | 41 |
| 血液又は穿刺液検体合計 | 2427 |
| I V H 先端 | 279 |
| ドレーンチューブ | 168 |
| 膿(開放・非開放) | 148 |
| A ライン先端 | 43 |
| 耳漏 | 10 |
| 皮膚 | 350 |
| 眼脂 | 26 |
| その他 | 326 |
| その他の部位からの検体合計 | 1350 |
| トリコモナス | 4 |
| 培養合計 | 10321 |

病棟別検査件数 (H26 年)

| 病棟 | 依頼件数 |
|-------------|------|
| 一般外科病棟 4 B | 313 |
| 循環器 A 病棟 5A | 195 |
| 循環器 B 病棟 5B | 224 |
| 混合病棟 6 A | 75 |
| 混合病棟 6 B | 132 |
| 血液病棟 7 F | 908 |
| 救急病棟 | 1492 |
| 産科病棟 | 1191 |
| ICU | 724 |
| HCU | 489 |
| NICU | 2482 |
| GCU | 1082 |
| 総合診療科 | 5 |
| アレルギー科 | 6 |
| 脳神経内科 | 16 |
| 循環器科 | 42 |
| 腎臓内科 | 40 |
| 新生児科 | 16 |
| 血液・腫瘍科 | 45 |
| 小児外科 | 75 |
| 形成外科 | 2 |
| 整形外科 | 6 |
| 泌尿器科 | 56 |
| 耳鼻咽喉科 | 15 |
| 産科外来 | 478 |
| 心臓血管外科 | 3 |
| 救急集中治療科 | 420 |
| 眼科 | 3 |
| 代謝内分泌科 | 8 |
| 脳神経外科 | 4 |

その他検査件数 (H26 年)

| | |
|-------------|------|
| ウイルス迅速検査 | 1373 |
| ウイルス以外の迅速検査 | 121 |
| | |
| M R S A 検査 | 6702 |

分離菌内訳 (H26 年)

| 菌種 | | 菌名 | 総件数 | 感受性報告件数 |
|----------------|-----------|---------------------|------|---------|
| グラム陽性菌 | ブドウ球菌 | S.aureus | 622 | 551 |
| | | S.aureus(MRSA) | 510 | 449 |
| | | S.epidermidis | 35 | 35 |
| | | S.epidermidis(MRSE) | 307 | 307 |
| | | その他の CNS | 1713 | 115 |
| | 連鎖球菌 | S.agalactiae | 168 | 164 |
| | | S.pneumoniae | 54 | 54 |
| | | Group G Strep | 7 | 6 |
| | | Group A Strep | 10 | 8 |
| | | その他の Viridans strep | 893 | 24 |
| | | その他の Streptococcus | 11 | 4 |
| | 腸球菌 | E.faecalis | 234 | 234 |
| | | E.faecium | 14 | 14 |
| | | その他の腸球菌 | 336 | 14 |
| | その他 | Bacillus sp. | 36 | 11 |
| | | Corynebacterium sp. | 557 | 1 |
| | | Lactobacillus sp. | 641 | 0 |
| グラム陰性菌 | 腸内細菌 | K.pneumoniae | 181 | 168 |
| | | E.coli | 233 | 215 |
| | | E.cloacae | 88 | 85 |
| | | E.aerogenes | 17 | 17 |
| | | S.marcescens | 255 | 253 |
| | | K.oxytoca | 127 | 124 |
| | | P.mirabilis | 17 | 16 |
| | | C.freundii | 16 | 14 |
| | | M.morganii | 16 | 15 |
| | 非発酵ブドウ糖菌 | P.aeruginosa | 442 | 442 |
| | | A.baumann/haem | 94 | 94 |
| | | B.cepacia | 0 | 0 |
| | | S.maltophilia | 47 | 47 |
| | その他 | H.influenzae | 45 | 44 |
| | | M.(B)catarrhalis | 65 | 65 |
| | | Neiseria sp. | 305 | 0 |
| | | G.vaginalis | 57 | 0 |
| C.albicans | | 155 | | |
| C.glabrata | | 52 | | |
| C.parapsilosis | | 40 | | |
| C.tropicalis | | 4 | | |
| 真菌 | Mucor sp. | 7 | | |

のべ件数

耐性菌検出状況（H26年）

| 菌名 | 件数 |
|--------------------------|------|
| S.aureus(MRSA) | 510 |
| S.epidermidis(MRSE) | 307 |
| その他の MRCNS | 1428 |
| St.pneumoniae(PISP) | 0 |
| St.pneumoniae(PRSP) | 3 |
| H.influenzae(BLNAR) | 1 |
| H.influenzae(BL P A C R) | 0 |
| E.coli ESBL | 19 |
| K.pneumoniae ESBL | 0 |
| K.oxytoca ESBL | 0 |
| P.mirabilis ESBL | 0 |
| Paeruginosa MBL | 0 |
| E.coli MBL | 0 |
| K.pneumoniae MBL | 0 |
| K.oxytoca MBL | 0 |
| M.morganii MBL | 1 |

のべ件数

MRSA サーベイ（(H26年）

| 科・病棟 | 件数 | 陽性 | 陰性 | 陽性率 |
|-------------|------|-----|------|-------|
| 一般外科病棟 4B | 63 | 13 | 50 | 20.6% |
| 循環器 A 病棟 5A | 95 | 28 | 67 | 29.5% |
| 循環器 B 病棟 5B | 124 | 53 | 71 | 42.7% |
| 混合 A 病棟 6A | 104 | 16 | 88 | 15.4% |
| 混合 B 病棟 6B | 119 | 62 | 57 | 52.1% |
| 血液病棟 7F | 152 | 2 | 150 | 1.3% |
| 救急病棟 | 0 | 0 | 0 | 0.0% |
| I C U | 59 | 15 | 44 | 25.4% |
| H C U | 141 | 53 | 88 | 37.6% |
| N I C U | 361 | 10 | 351 | 2.8% |
| G C U | 733 | 20 | 713 | 2.7% |
| 合計 | 1951 | 272 | 1679 | 13.9% |

無菌材料検出菌（H26年）

| 材 料 | 件数 | 陽性件数 | 陽性率 |
|---------|------|------|-------|
| 静脈血 | 1383 | 71 | 5.1% |
| 動脈血 | 318 | 12 | 3.8% |
| プロピアック血 | 346 | 32 | 9.2% |
| ポート血 | 14 | 1 | 7.1% |
| 臍帯血 | 1 | 0 | 0.0% |
| 髄液 | 182 | 14 | 7.7% |
| IVH先端 | 279 | 35 | 12.5% |
| Aライン先端 | 43 | 13 | 30.2% |
| 胸水 | 47 | 4 | 8.5% |
| 腹水 | 40 | 13 | 32.5% |
| 関節液 | 8 | 0 | 0.0% |
| 穿刺液 | 27 | 1 | 3.7% |
| 組織 | 8 | 1 | 12.5% |
| 羊水 | 1 | 0 | 0.0% |

| 血液培養検出菌 | 件数 |
|---------------------|----|
| S.epidermidis(MRSE) | 31 |
| S.aureus | 15 |
| S.aureus(MRSA) | 9 |
| その他 CNS | 12 |
| S.pneumoniae | 4 |
| 腸球菌 | 2 |
| E.coli | 2 |
| K.pneumoniae | 11 |
| その他腸内細菌 | 2 |
| Paeruginosa | 5 |
| H.influenzae | 1 |
| Candida | 5 |

| IVH先端培養検出菌 | 件数 |
|---------------------|----|
| S.epidermidis(MRSE) | 22 |
| S.aureus | 1 |
| S.aureus(MRSA) | 5 |
| その他 CNS | 10 |
| 腸球菌 | 4 |
| 腸内細菌 | 5 |
| Paeruginosa | 1 |
| Candida | 2 |

| 髄液検出菌 | 件数 |
|---------------------|----|
| S.epidermidis(MRSE) | 2 |
| S.aureus(MRSA) | 8 |
| MRCNS | 1 |
| E.coli | 1 |
| K.pneumoniae | 1 |

細菌別薬剤感受性率

グラム陽性球菌

| 菌名 | 株数 | ABPC | CEZ | CDTR | CMZ | MEP | GM | AMK | ABK | EM | CAM | AZM | CLDM | MINO | LVFX | VCM | TEIC | ST | LZD |
|---------------------|-----|------|------|------|------|------|-----|-----|------|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|
| S.aureus | 167 | 0% | 99% | 100% | 99% | 100% | 76% | 99% | 100% | 71% | 71% | 70% | 90% | 99% | 91% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| S.aureus(MRSA) | 171 | 0% | 0% | 0% | - | 0% | 68% | 91% | 98% | 7% | 7% | 7% | 23% | 51% | 10% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| S.epidermidis | 32 | 6% | 100% | 100% | 100% | 100% | 97% | 97% | - | 71% | 71% | 71% | 94% | 100% | 94% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| S.epidermidis(MRSE) | 242 | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 49% | 89% | - | 30% | 30% | 30% | 67% | 99% | 46% | 100% | 100% | 93% | 100% |
| E.faecalis | 94 | 100% | - | - | - | 78% | - | - | - | 7% | - | - | - | 14% | 100% | 100% | 100% | - | 100% |
| E.faecium | 12 | 42% | - | - | - | - | - | - | - | 33% | - | - | - | 67% | 42% | 100% | 100% | - | 100% |

肺炎球菌

| 菌名 | 株数 | PCG | ABPC | A/S | CTM | CTX | CFPM | CFIX | CDTR | MEP | EM | CAM | CLDM | LVFX | VCM | ST |
|--------------------|----|------|------|-----|-----|------|------|------|------|-----|----|-----|------|------|------|------|
| S.pneumoniae(PSSP) | 37 | 100% | - | - | 78% | 100% | 100% | - | 97% | 89% | 8% | - | 24% | 100% | 100% | 92% |
| S.pneumoniae(PISP) | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| S.pneumoniae(PRSP) | 2 | 0% | - | - | 0% | 50% | 100% | - | 100% | 50% | 0% | - | 0% | 100% | 100% | 100% |

グラム陰性桿菌

| 菌名 | 株数 | ABPC | PIPC | CEZ | CTX | CAZ | CFPM | CFPN | FMOX | MEP | GM | AMK | MINO | LVFX | ST |
|------------------------------------|-----|------|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| E.coli | 118 | 57% | 63% | 87% | 94% | 96% | 97% | 91% | 97% | 100% | 96% | 100% | 90% | 85% | 84% |
| E.coli ESBL | 14 | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% | 100% | 79% | 100% | 93% | 36% | 71% |
| K.pneumoniae | 66 | 3% | 46% | 82% | 85% | 83% | 100% | 79% | 86% | 100% | 100% | 100% | 85% | 99% | 72% |
| K.pneum ESBL | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| K.pneumoniae \times タロ β + | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| K.oxytoca ESBL | 42 | 10% | 43% | 55% | 100% | 100% | 100% | 98% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| K.oxytoca \times タロ β + | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| P.mirabilis | 12 | 58% | 75% | 83% | 92% | 100% | 100% | 92% | 92% | 100% | 100% | 100% | 8% | 100% | 75% |
| P. mirabilis ESBL | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| M.morganii | 9 | 0% | 89% | 0% | 100% | 89% | 100% | 89% | 100% | 100% | 89% | 100% | 67% | 100% | 78% |
| M.morganii \times タロ β + | 1 | 0% | 0% | 0% | - | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% | 100% | 0% | 100% | 0% |
| E.cloacae | 30 | 7% | 70% | 0% | 57% | 70% | 97% | 57% | 7% | 100% | 100% | 100% | 90% | 100% | 97% |
| E.aerogenes | 8 | 13% | 88% | 0% | 63% | 88% | 100% | 75% | 13% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |
| S.marcescens | 72 | 0% | 94% | 0% | 93% | 97% | 100% | 70% | 68% | 100% | 99% | 100% | 94% | 100% | 100% |

グラム陰性ブドウ糖非発酵菌

| 菌名 | 株数 | PIPC | P/T | CAZ | CFPM | MEP | MDRPM | S/C | GM | TOB | AMK | MINO | LVFX | CPFX | ST | FOM |
|-----------------------------------|-----|------|-----|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| Paeruginosa | 110 | 91% | 96% | 95% | 93% | 94% | 97% | 89% | 90% | 100% | 98% | - | 95% | 96% | - | 11% |
| Paeruginosa \times タロ β + | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| Paeruginosa MDRP | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| A.baumannii | 42 | 93% | - | 100% | 93% | 100% | 100% | 100% | 91% | 93% | 93% | 98% | 100% | 100% | 76% | - |
| A.lwoffii | 13 | 100% | - | 100% | 100% | 100% | - | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 92% | - |
| S.maltophilia | 13 | - | - | 39% | - | - | - | - | - | - | - | 100% | 100% | - | 100% | - |
| B.cepacia | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |

1患者1回のみ(重複なし)

27. 検査・放射線部（放射線部門）

1. 人事異動 平成 26 年 4 月 1 日付

| | | | |
|-------|---------|-------|--------------|
| 【退職者】 | 放射線技師長 | 佐藤 雅之 | 定年退職（再任用） |
| 【転出者】 | 主任放射線技師 | 山崎 敏弘 | 県立柏原病院へ |
| | 課長補佐 | 小田 敏彦 | 県立加古川医療センターへ |
| | 主任（再任用） | 松本 敏幸 | 退職 |
| 【転入者】 | 放射線技師長 | 芦原 龍彦 | 県立柏原病院より |
| | 主任放射線技師 | 吉野 朗 | 県立塚口病院より |
| | 課長補佐 | 沼田 憲作 | 県立がんセンターより |

2. 活動状況

1) 放射線検査業務実績

平成 26 年の放射線検査実績は、総検査件数 41,290 件で、ほぼ前年並み(41,489 件)の件数を維持している。ポータブル撮影と MRI 検査が若干増加したが、放射線治療が昨年末より減少している。詳細は後に掲載している「放射線検査人数」に示す。

2) 機器の更新

小児用 SENSE PEDIATRIC NEURO/SPINE Coil（フィリップス）の導入

今まで使用していた頭部・脊椎コイルは成人用コイルのため、目的部位に密着が困難であり画像劣化を招いていた。導入したコイルは、小児の体型に即した専用コイルであり、検査部位を MRI 装置の高磁場の中心に位置付けが容易となり、頭部から脊椎までカバーでき効率よく情報を得られるため検査精度が向上した。

3) 医療事故防止の取組み

患者間違いや撮影間違いは重大な事故に発展する可能性があるため、その防止に向けて取り組んでいる。本年は、MRI 室への医療スタッフのハサミ持ち込み事例を機に、新たな取組みをおこなった。MRI 室へ磁性体持ち込むことがないように入念な確認や担当看護師に対して講習会を開催した。今後も、重大な事故に発展する事がないように、看護部と連携しさらなる取組みを展開する予定である。

4) 資質向上と教育

職員の資質向上を図るため、学会・研修会への積極的な参加と研究発表を行っている。また専門認定資格取得にも取り組んでいる。

- ・学会・研修会発表 : 3 演題
- ・学会・研修会等への参加 : 放射線技術学会、小児放射線技術研究会、磁気共鳴医学会、核医学技術学会医療情報学会、県立病院部会等
- ・放射線部内勉強会の実施 : 9 回

<認定資格>

| | | | |
|-------------|----|------------|----|
| 第1種放射線取扱主任者 | 2名 | 医用画像情報管理士 | 1名 |
| 核医学専門技師 | 1名 | 放射線機器管理士 | 2名 |
| 放射線管理士 | 1名 | X線 CT 認定技師 | 1名 |
| Ai 認定放射線技師 | 1名 | 救急撮影認定技師 | 1名 |
| 第2種放射線取扱主任者 | 1名 | 第1種作業環境測定士 | 1名 |
| 日本 DMAT 隊員 | 1名 | | |

5) 新病院への取り組み

新病院への取り組みが進んでおり、照明やコンセント位置等の設備関連の具体的な決定が行われた。また、医療情報システムや MRI 装置の仕様策定を行った。

3. 次年度の課題

新築移転に向かって、放射線機器の仕様策定および機器の購入、RIS を含めた医療情報システムの決定に加え、新規導入機器の稼働トレーニング開始などの多数の課題に取り組む。また、法令上の手続きも必要となるであろう。医療事故防止については、安全な MRI 検査を目指した取り組みを引き続き進める。

(1) 放射線検査人数

| 区分 | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | |
|--------|----------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 単純撮影 | 胸部撮影 | 外来 | 700 | 561 | 785 | 696 | 637 | 659 | 783 | 886 | 749 | 695 | 582 | 672 | 8,405 |
| | | 入院 | 97 | 114 | 133 | 109 | 108 | 109 | 113 | 123 | 103 | 130 | 136 | 132 | 1,407 |
| | | 計 | 797 | 675 | 918 | 805 | 745 | 768 | 896 | 1,009 | 852 | 825 | 718 | 804 | 9,812 |
| | 外科撮影 | 外来 | 555 | 457 | 632 | 661 | 496 | 538 | 674 | 649 | 659 | 570 | 491 | 547 | 6,929 |
| | | 入院 | 106 | 120 | 110 | 109 | 94 | 119 | 143 | 138 | 108 | 140 | 114 | 154 | 1,455 |
| | | 計 | 661 | 577 | 742 | 770 | 590 | 657 | 817 | 787 | 767 | 710 | 605 | 701 | 8,384 |
| | ポータブル | 外来 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 入院 | 661 | 577 | 634 | 714 | 716 | 796 | 736 | 718 | 632 | 675 | 767 | 888 | 8,514 |
| | | 計 | 661 | 577 | 634 | 714 | 716 | 796 | 736 | 718 | 632 | 675 | 767 | 888 | 8,514 |
| | パノラマ・その他 | 外来 | 34 | 34 | 43 | 54 | 47 | 38 | 46 | 47 | 36 | 32 | 37 | 49 | 497 |
| | | 入院 | 1 | 1 | 0 | 2 | 3 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 | 2 | 1 | 14 |
| | | 計 | 35 | 35 | 43 | 56 | 50 | 38 | 48 | 48 | 48 | 36 | 33 | 39 | 50 |
| 単純撮影合計 | | 外来 | 1,289 | 1,052 | 1,460 | 1,411 | 1,180 | 1,235 | 1,503 | 1,582 | 1,444 | 1,297 | 1,110 | 1,268 | 15,831 |
| | | 入院 | 865 | 812 | 877 | 934 | 921 | 1,024 | 994 | 980 | 843 | 946 | 1,019 | 1,175 | 11,390 |
| | | 計 | 2,154 | 1,864 | 2,337 | 2,345 | 2,101 | 2,259 | 2,497 | 2,562 | 2,287 | 2,243 | 2,129 | 2,443 | 27,221 |
| 造影撮影 | 消化器 | 外来 | 16 | 10 | 4 | 5 | 16 | 9 | 13 | 13 | 7 | 8 | 8 | 21 | 130 |
| | | 入院 | 15 | 11 | 16 | 5 | 11 | 11 | 14 | 15 | 13 | 15 | 18 | 29 | 173 |
| | | 計 | 31 | 21 | 20 | 10 | 27 | 20 | 27 | 28 | 20 | 23 | 26 | 50 | 303 |
| | 脳血管 | 外来 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 入院 | 0 | 1 | 2 | 1 | 4 | 2 | 0 | 3 | 1 | 1 | 0 | 6 | 21 |
| | | 計 | 0 | 1 | 2 | 1 | 4 | 2 | 0 | 3 | 1 | 1 | 0 | 6 | 21 |
| | 心臓血管 | 外来 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 入院 | 16 | 17 | 22 | 24 | 14 | 22 | 17 | 31 | 24 | 25 | 20 | 16 | 248 |
| | | 計 | 16 | 17 | 22 | 24 | 14 | 22 | 17 | 31 | 24 | 25 | 20 | 16 | 248 |
| | その他の血管 | 外来 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 入院 | 3 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | 3 | 0 | 3 | 19 |
| | | 計 | 3 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | 3 | 0 | 3 | 19 |
| | 泌尿器系 | 外来 | 23 | 27 | 36 | 18 | 20 | 26 | 35 | 27 | 25 | 29 | 22 | 18 | 306 |
| | | 入院 | 0 | 1 | 0 | 8 | 3 | 4 | 4 | 2 | 2 | 2 | 0 | 3 | 29 |
| | | 計 | 23 | 28 | 36 | 26 | 23 | 30 | 39 | 29 | 27 | 31 | 22 | 21 | 335 |
| | その他の造影 | 外来 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 3 | 0 | 0 | 11 |
| | | 入院 | 1 | 3 | 0 | 5 | 8 | 2 | 1 | 2 | 2 | 3 | 4 | 2 | 33 |
| | | 計 | 1 | 5 | 1 | 5 | 8 | 3 | 2 | 4 | 3 | 6 | 4 | 2 | 44 |
| 造影撮影合計 | | 外来 | 39 | 39 | 41 | 23 | 36 | 36 | 49 | 42 | 33 | 40 | 30 | 39 | 447 |
| | | 入院 | 35 | 35 | 42 | 43 | 40 | 41 | 38 | 55 | 44 | 49 | 42 | 59 | 523 |
| | | 計 | 74 | 74 | 83 | 66 | 76 | 77 | 87 | 97 | 77 | 89 | 72 | 98 | 970 |
| CT撮影 | 外来 | 118 | 77 | 135 | 128 | 108 | 139 | 142 | 137 | 106 | 106 | 93 | 110 | 1,399 | |
| | 入院 | 114 | 106 | 141 | 125 | 99 | 99 | 130 | 142 | 121 | 129 | 99 | 110 | 1,415 | |
| | 計 | 232 | 183 | 276 | 253 | 207 | 238 | 272 | 279 | 227 | 235 | 192 | 220 | 2,814 | |
| MRI検査 | 外来 | 113 | 119 | 129 | 140 | 115 | 127 | 143 | 146 | 132 | 147 | 102 | 119 | 1,532 | |
| | 入院 | 58 | 44 | 50 | 60 | 63 | 54 | 60 | 50 | 54 | 60 | 48 | 58 | 659 | |
| | 計 | 171 | 163 | 179 | 200 | 178 | 181 | 203 | 196 | 186 | 207 | 150 | 177 | 2,191 | |
| 核医学検査 | 外来 | 24 | 21 | 18 | 21 | 12 | 16 | 35 | 41 | 17 | 20 | 9 | 21 | 255 | |
| | 入院 | 7 | 1 | 5 | 6 | 7 | 5 | 6 | 8 | 5 | 10 | 10 | 5 | 75 | |
| | 計 | 31 | 22 | 23 | 27 | 19 | 21 | 41 | 49 | 22 | 30 | 19 | 26 | 330 | |
| 放射線治療 | 外来 | 8 | 18 | 0 | 0 | 0 | 12 | 9 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 52 | |
| | 入院 | 67 | 58 | 62 | 61 | 39 | 27 | 5 | 30 | 91 | 73 | 57 | 33 | 603 | |
| | 計 | 75 | 76 | 62 | 61 | 39 | 39 | 14 | 30 | 91 | 78 | 57 | 33 | 655 | |
| 超音波検査 | 外来 | 250 | 282 | 350 | 325 | 277 | 296 | 372 | 473 | 334 | 334 | 243 | 319 | 3,855 | |
| | 入院 | 58 | 65 | 72 | 81 | 52 | 76 | 71 | 68 | 49 | 76 | 59 | 68 | 795 | |
| | 計 | 308 | 347 | 422 | 406 | 329 | 372 | 443 | 541 | 383 | 410 | 302 | 387 | 4,650 | |
| PACS処理 | 外来 | 188 | 199 | 190 | 239 | 174 | 193 | 220 | 234 | 205 | 206 | 145 | 185 | 2,378 | |
| | 入院 | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| | 計 | 188 | 199 | 190 | 239 | 174 | 193 | 220 | 234 | 205 | 206 | 145 | 185 | 2,378 | |
| 骨塩定量 | 外来 | 5 | 4 | 8 | 7 | 9 | 7 | 5 | 3 | 5 | 5 | 8 | 6 | 72 | |
| | 入院 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 9 | |
| | 計 | 5 | 5 | 8 | 8 | 10 | 9 | 6 | 4 | 6 | 6 | 8 | 6 | 81 | |
| 総合計 | | 外来 | 2,034 | 1,811 | 2,331 | 2,294 | 1,911 | 2,061 | 2,478 | 2,658 | 2,276 | 2,160 | 1,740 | 2,067 | 25,821 |
| | | 入院 | 1,204 | 1,122 | 1,249 | 1,311 | 1,222 | 1,328 | 1,305 | 1,334 | 1,208 | 1,344 | 1,334 | 1,508 | 15,469 |
| | | 計 | 3,238 | 2,933 | 3,580 | 3,605 | 3,133 | 3,389 | 3,783 | 3,992 | 3,484 | 3,504 | 3,074 | 3,575 | 41,290 |

(2) 機器別検査人数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-------|
| X線撮影装置(胸部) | 797 | 675 | 918 | 805 | 745 | 768 | 896 | 1,009 | 852 | 825 | 718 | 804 | 9,812 |
| X線撮影装置(外科) | 661 | 577 | 742 | 770 | 590 | 657 | 817 | 787 | 767 | 710 | 605 | 701 | 8,384 |
| ポータブルX線撮影装置 | 661 | 577 | 634 | 714 | 716 | 796 | 736 | 718 | 632 | 675 | 767 | 888 | 8,514 |
| 泌尿器用X線TV装置 | 24 | 33 | 37 | 31 | 31 | 33 | 41 | 33 | 30 | 37 | 26 | 23 | 379 |
| デジタルX線TV装置 | 31 | 21 | 20 | 10 | 27 | 20 | 27 | 28 | 20 | 23 | 26 | 50 | 303 |
| X線CT装置 | 232 | 183 | 276 | 253 | 207 | 238 | 272 | 279 | 227 | 235 | 192 | 220 | 2,814 |
| MRI装置 | 171 | 163 | 179 | 200 | 178 | 181 | 203 | 196 | 186 | 207 | 150 | 177 | 2,191 |
| 放射線治療装置(リニアック) | 75 | 76 | 62 | 61 | 39 | 39 | 14 | 30 | 91 | 78 | 57 | 33 | 655 |
| ガンマカメラ装置(RI) | 31 | 22 | 23 | 27 | 19 | 21 | 41 | 49 | 22 | 30 | 19 | 26 | 330 |
| 血管連続撮影装置 | 19 | 20 | 26 | 25 | 18 | 24 | 19 | 36 | 27 | 29 | 20 | 25 | 288 |

(3) 時間外 時間帯別検査人数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 日勤帯検査人数 | 198 | 134 | 185 | 152 | 174 | 159 | 172 | 181 | 151 | 151 | 225 | 249 | 2,131 |
| 業務時間(時) | 44 | 44 | 41 | 32 | 37 | 34 | 35 | 40 | 30 | 32 | 48 | 50 | 467 |
| 稼働日数 | 12 | 12 | 11 | 9 | 11 | 9 | 9 | 10 | 10 | 10 | 12 | 12 | 127 |
| 準夜帯検査人数 | 118 | 77 | 129 | 123 | 122 | 137 | 145 | 106 | 110 | 89 | 109 | 155 | 1,420 |
| 業務時間(時) | 42 | 42 | 45 | 41 | 44 | 46 | 50 | 37 | 45 | 32 | 12 | 52 | 489 |
| 稼働日数 | 29 | 29 | 31 | 28 | 26 | 29 | 30 | 29 | 28 | 28 | 28 | 30 | 345 |
| 深夜帯検査人数 | 34 | 19 | 25 | 51 | 47 | 37 | 37 | 21 | 19 | 43 | 44 | 39 | 416 |
| 業務時間(時) | 15 | 15 | 13 | 22 | 21 | 17 | 17 | 10 | 9 | 18 | 19 | 17 | 193 |
| 稼働日数 | 20 | 20 | 15 | 25 | 21 | 19 | 21 | 17 | 14 | 17 | 21 | 19 | 229 |
| 検査人数(計) | 350 | 230 | 339 | 326 | 343 | 333 | 354 | 308 | 280 | 283 | 378 | 443 | 3,967 |
| 業務時間(計) | 102 | 102 | 99 | 95 | 102 | 96 | 101 | 87 | 85 | 82 | 80 | 119 | 1,149 |

(4) 時間外 検査種別検査人数

| 区分 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| ポータブル | 228 | 162 | 218 | 231 | 234 | 239 | 236 | 217 | 205 | 199 | 295 | 330 | 2,794 |
| 一般撮影 | 65 | 42 | 64 | 55 | 52 | 44 | 61 | 47 | 35 | 39 | 56 | 63 | 623 |
| C T | 50 | 24 | 49 | 39 | 50 | 47 | 54 | 39 | 37 | 43 | 25 | 44 | 501 |
| T V | 3 | 1 | 7 | | 5 | 3 | 3 | 4 | 1 | 2 | 2 | 4 | 35 |
| アンギオ | 0 | 1 | 0 | | 1 | | | | 1 | | | | 3 |
| M R I | 4 | 0 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | 1 | | | 2 | 11 |
| エコー | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 350 | 230 | 339 | 326 | 343 | 333 | 354 | 308 | 280 | 283 | 378 | 443 | 3,967 |

(5) 時間外 病棟別検査人数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| H C U | 22 | 10 | 11 | 38 | 36 | 21 | 15 | 16 | 18 | 9 | 17 | 34 | 247 |
| N I C U | 74 | 61 | 52 | 55 | 45 | 71 | 87 | 43 | 53 | 60 | 98 | 110 | 809 |
| I C U | 61 | 43 | 61 | 60 | 66 | 55 | 52 | 75 | 70 | 62 | 84 | 73 | 762 |
| G C U | 12 | 5 | 3 | 4 | 4 | 8 | 7 | 5 | 2 | 7 | 5 | 9 | 71 |
| O P 室 | 16 | 13 | 16 | 14 | 14 | 19 | 19 | 17 | 22 | 14 | 21 | 27 | 212 |
| 産科 | 2 | 1 | 4 | 11 | 9 | 9 | 4 | 1 | 2 | 1 | 5 | 7 | 56 |
| 外来 | 0 | 0 | 1 | | | 2 | | 2 | 1 | | 3 | 2 | 11 |
| 救急 | 88 | 51 | 98 | 74 | 92 | 81 | 101 | 66 | 54 | 67 | 62 | 86 | 920 |
| P I C U | 51 | 29 | 69 | 48 | 53 | 56 | 34 | 44 | 42 | 47 | 54 | 56 | 583 |
| 一外4B | 4 | 4 | 10 | 4 | 4 | 4 | 13 | 11 | 4 | 2 | 14 | 10 | 84 |
| 循環器5A | 9 | 5 | 8 | 3 | 7 | 3 | 9 | 12 | 7 | 3 | 7 | 5 | 78 |
| 循環器5B | 2 | 3 | 2 | 9 | 6 | 3 | 5 | 7 | 2 | 3 | 5 | 6 | 53 |
| 混合A | 7 | 3 | 1 | | | | 1 | 1 | 1 | 3 | 2 | 4 | 23 |
| 混合B | 1 | 1 | 2 | 2 | 3 | 1 | 4 | 7 | | | | 6 | 27 |
| 血液7F | 1 | 1 | 1 | 4 | 4 | | 3 | 1 | 2 | 5 | 1 | 8 | 31 |
| 合計 | 350 | 230 | 339 | 326 | 343 | 333 | 354 | 308 | 280 | 283 | 378 | 443 | 3,967 |

28. 栄養管理部

1. 人事異動 平成 26 年 4 月 1 日付

| | | | |
|-------|--------|-------|--------------|
| (転出者) | 栄養指導課長 | 山本 和彦 | 退職 |
| | 技師 | 笥 宏之 | 県立加古川医療センターへ |
| | 技師 | 荻野 亮太 | 県立柏原病院へ |
| (転入者) | 栄養管理部長 | 前田 貢作 | 自治医科大学より |
| | (兼副院長) | | |
| | 栄養管理課長 | 徳田 慶造 | 県土整備部港湾課より |
| | 主任技師 | 小野 享男 | 県立西宮病院より |
| | 職員 | 本澤 俊浩 | 県立がんセンターより |

2. 平成 26 年度の活動

平成 26 年度県立病院事業組織改正により、栄養管理部の設置と栄養指導課の栄養管理課への改編が実施された。

(主な活動報告)

- ・ N S T (チーム医療) の円滑な稼働
- ・ 医療事故防止対策に関する取り組み。(ひやりはっと報告)
- ・ 褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- ・ I T 化の推進 (給食オーダーリングシステムの安定稼働)
- ・ 患者給食のサービス向上のための給食イベントの開催「クリスマス・デザートバイキング食等の提供」等
- ・ 知識や技能の資質を向上させるための調理・栄養関係研修会への参加と課内研修会の充実
- ・ 栄養管理業務に関する研究の成果として学術学会等への積極的な参加と発表

3. これからの展望

平成 27 年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養管理課の基盤業務と共に診療部門との更なる連携強化を図った栄養指導・相談を行うなど患者サービスの充実・向上に努める。

4. 給食

(1) 調製乳・食事月別延数

1) 患者

① 調製乳人数

(単位 人)

| 区分 | 月別 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 計 | % |
|--------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 調乳のみ人員(人) | | 1,729 | 1,669 | 1,625 | 1,877 | 1,879 | 1,848 | 1,973 | 1,986 | 1,873 | 1,626 | 1,593 | 1,739 | 21,417 | 68.5 |
| 調乳食事人員:調乳(人) | | 260 | 247 | 317 | 227 | 254 | 271 | 231 | 219 | 219 | 254 | 292 | 244 | 3,035 | 9.7 |
| 小計 | | 1,989 | 1,916 | 1,942 | 2,104 | 2,133 | 2,119 | 2,204 | 2,205 | 2,092 | 1,880 | 1,885 | 1,983 | 24,452 | 78.3 |
| 調乳・食事人員(食事) | | 528 | 471 | 591 | 546 | 619 | 700 | 666 | 448 | 533 | 625 | 594 | 473 | 6,794 | 21.7 |
| 計 | | 2,517 | 2,387 | 2,533 | 2,650 | 2,752 | 2,819 | 2,870 | 2,653 | 2,625 | 2,505 | 2,479 | 2,456 | 31,246 | 100.0 |

(注) 調乳・食事人員・・・調乳(人) 調製乳と食事が重複するもの

② 調製乳種類及び本数

(単位 本)

| 種類 | 月別 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 計 | % |
|--------------------------|----|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|------|
| 13% レーベンスミルク | | 9,290 | 9,914 | 10,063 | 11,523 | 12,554 | 12,114 | 13,560 | 12,313 | 11,417 | 10,515 | 10,345 | 10,287 | 133,895 | 56.9 |
| 15% LW | | 4,203 | 3,472 | 3,717 | 3,618 | 3,177 | 3,651 | 2,801 | 3,741 | 3,470 | 3,005 | 3,402 | 3,385 | 41,642 | 17.7 |
| 7% レーベンスミルク | | 217 | 196 | 217 | | | | | | | | 42 | 217 | 889 | |
| 14% レーベンスミルク | | | | | 48 | 64 | 45 | 63 | | | 15 | | 18 | 253 | |
| 15% レーベンスミルク | | 113 | 329 | 550 | 669 | 398 | 616 | 718 | 1,500 | 1,796 | 1,735 | 1,392 | 830 | 10,646 | |
| 16% レーベンスミルク | | 585 | 252 | 279 | | | 63 | 8 | | | 31 | 27 | | 1,245 | |
| 17% レーベンスミルク | | 149 | 621 | 527 | 307 | 237 | 54 | 6 | | | 79 | 155 | 99 | 2,234 | |
| 18% レーベンスミルク | | 206 | | | | | | | | | | | 126 | 332 | |
| 26% レーベンスミルク | | | | | | | | 92 | | | | | | 92 | |
| 13% LW | | | | | | | 43 | | | | | | | 43 | |
| 10% 滋養糖 | | 683 | 451 | 584 | 529 | 507 | 492 | 514 | 509 | 527 | 498 | 500 | 503 | 6,297 | |
| 10% MA -1 | | 203 | 189 | 189 | 36 | | | | | | | | 51 | 668 | |
| 13% MA -1 | | 36 | | | | | | 12 | | | | | | 48 | |
| 14% MA -1 | | | | | | | | 21 | | | | | | 21 | |
| 15% MA -1 | | | | 481 | | 18 | 73 | 36 | 210 | 146 | | 30 | 181 | 1,175 | |
| 17% MA -1 | | | | | | | | 300 | 16 | | | | | 316 | |
| 13% E赤ちゃん | | 133 | 76 | 101 | 367 | 346 | 296 | | 15 | 9 | 6 | 71 | 94 | 1,514 | |
| 15% E赤ちゃん | | 248 | 216 | 88 | | 12 | | 8 | 64 | | | | 208 | 844 | |
| 10% エレメンタルフォーミュラ | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| 13% エレメンタルフォーミュラ | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| 15% エレメンタルフォーミュラ | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| 17% エレメンタルフォーミュラ | | | 7 | 92 | 210 | 217 | 101 | 145 | 24 | | | | 66 | 862 | |
| 20% エレメンタルフォーミュラ | | | | | | | 90 | | | | | | | 90 | |
| 14% ガラクトース除去 | | | | | | | 58 | | | | | | | 58 | |
| 8% MCTフォーミュラ | | | | | | | | | 9 | | | | | 9 | |
| 14% MCTフォーミュラ | | 307 | 90 | 503 | 614 | 296 | 195 | 747 | 441 | 234 | 830 | 477 | 341 | 5,075 | |
| 15% MCTフォーミュラ | | 36 | | | | | | | | | | 9 | 9 | 54 | |
| 16% MCTフォーミュラ | | 27 | | | 45 | 180 | | | 162 | 270 | 135 | 9 | 18 | 846 | |
| 17% MCTフォーミュラ | | 45 | | | | | | | | | 186 | 239 | 279 | 749 | |
| 18% MCTフォーミュラ | | 117 | | | | | | | | | | | 423 | 540 | |
| 21% MCTフォーミュラ | | | | | | | | | 54 | | | | | 54 | |
| 13% MM-4 | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| 13% MC-2 | | | | | | | 8 | | | | | | | | |
| 17% 8806(低カリウム中リンフォーミュラ) | | 13 | 30 | 10 | | | | 184 | 160 | | | | | 397 | |
| 15% 8806(低カリウム中リンフォーミュラ) | | 110 | | | | | 66 | | 11 | 105 | | | 12 | 304 | |
| 15% 中蛋白低ナトリウム | | | | | | 6 | | | | | | | | 6 | |
| 14% 必脂 MCT(721) | | | | 117 | | | | | | | | | 72 | 189 | |
| 8% エレンタール | | | | | | 10 | | | | | | | | 10 | |
| 10% エレンタール | | | | | | 72 | 6 | | | | 8 | 28 | | 114 | |
| 13% エレンタール | | | 15 | 4 | | 79 | 54 | 39 | | | 8 | 42 | | 241 | |
| 16% エレンタール | | | | | 32 | 28 | | | | | | 6 | | 66 | |
| 20% エレンタール | | 9 | 12 | 30 | 250 | 331 | 318 | 303 | 18 | | | | | 1,271 | |
| 27% エレンタール | | 79 | 24 | 28 | 19 | | 72 | | 48 | | 28 | 30 | 88 | 416 | |
| 5% エレンタールP | | | | | | | | | | | | | 94 | 94 | |
| 10% エレンタールP | | | 4 | | | | | 154 | | | | 40 | 18 | 216 | |
| 13% エレンタールP | | | 9 | 27 | 41 | 6 | 10 | 45 | | | | 50 | | 188 | |
| 15% エレンタールP | | | | | | | | 72 | | | | | | 72 | |
| 16% エレンタールP | | | | | | | | | | | 30 | | | 30 | |
| 18% エレンタールP | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| 20% エレンタールP | | | | 45 | 64 | 8 | 18 | 116 | 4 | 100 | 54 | 28 | | 437 | |
| 23% エレンタールP | | | | | | | | | | | | 21 | | 21 | |
| 24% エレンタールP | | | | | | | | | | | | | | 0 | |
| 25% エレンタールP | | | | | | | | | | | | 56 | | 56 | |
| 26% エレンタールP | | | | | | | | 66 | | | | | | 66 | |
| 27% エレンタールP | | 403 | 328 | 600 | | 90 | | | | | | 49 | 326 | 1,796 | |
| マクトンオイル | | | | | 24 | 35 | 69 | 64 | | | | | | 192 | |
| 小計 | | 3,719 | 2,849 | 4,472 | 3,255 | 2,940 | 2,747 | 3,713 | 3,245 | 3,187 | 3,643 | 3,301 | 4,073 | 41,136 | 17.5 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|----------|--------|
| 濃厚流動食 | リソースジュニア | 178 | 248 | 102 | 149 | 226 | 337 | 155 | 94 | 172 | 178 | 178 | 12 | 2,029 | |
| | GFO | 62 | 34 | 47 | 38 | 62 | 48 | 40 | 71 | 52 | 61 | 93 | 108 | 716 | |
| | アイソカルジュニア | 826 | 603 | 707 | 477 | 468 | 519 | 633 | 462 | 665 | 670 | 624 | 656 | 7,310 | |
| | MA-8 プラス | 764 | 683 | 766 | 581 | 562 | 698 | 569 | 752 | 800 | 682 | 486 | 495 | 7,838 | |
| | 小計 | 1,830 | 1,568 | 1,622 | 1,245 | 1,318 | 1,602 | 1,397 | 1,379 | 1,689 | 1,591 | 1,381 | 1,271 | 17,893 | 7.6087 |
| 滅菌水 | | | | 94 | 93 | 94 | 93 | 84 | | 66 | 75 | | 599 | 0.25471 | |
| 計 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| 計 | 19,042 | 17,803 | 19,874 | 19,735 | 20,082 | 20,208 | 21,564 | 20,762 | 19,763 | 18,820 | 18,504 | 19,016 | 235,165 | 100.0 | |
| 空瓶 大 200 c c | 6,043 | 4,671 | 4,921 | 5,134 | 5,817 | 6,721 | 6,401 | 5,764 | 6,069 | 5,510 | 4,824 | 5,596 | 67,471 | 48.7022 | |
| 空瓶 小 100 c c | 7,512 | 7,248 | 6,888 | 4,920 | 5,424 | 5,064 | 5,499 | 6,072 | 5,328 | 4,800 | 5,496 | 6,816 | 71,067 | 51.29782 | |
| 計 | 13,555 | 11,919 | 11,809 | 10,054 | 11,241 | 11,785 | 11,900 | 11,836 | 11,397 | 10,310 | 10,320 | 12,412 | 138,538 | 100.0 | |

③ 患者食事数

(単位 食)

| 区 分 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 計 |
|---------------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|---------|--------|
| 常食 | 学 童 食 | 1,732 | 1,582 | 1,952 | 1,888 | 1,524 | 1,658 | 2,348 | 3,146 | 1,702 | 1,644 | 1,779 | 2,081 | 23,036 |
| | 妊 産 婦 食 | 1,396 | 1,346 | 1,486 | 1,884 | 1,626 | 2,145 | 2,278 | 2,480 | 2,678 | 2,378 | 1,930 | 1,664 | 23,291 |
| | 小 計 | 3,128 | 2,928 | 3,438 | 3,772 | 3,150 | 3,803 | 4,626 | 5,626 | 4,380 | 4,022 | 3,709 | 3,745 | 46,327 |
| 軟菜・幼児・離乳 | 幼 児 ・ 離 乳 食 | 2,759 | 2,831 | 2,656 | 2,230 | 2,270 | 2,507 | 1,969 | 2,220 | 2,839 | 2,754 | 2,766 | 2,797 | 30,598 |
| | 軟 菜 ・ 流 動 食 | 535 | 328 | 379 | 333 | 380 | 509 | 623 | 485 | 410 | 377 | 385 | 392 | 5,136 |
| | 小 計 | 3,294 | 3,159 | 3,035 | 2,563 | 2,650 | 3,016 | 2,592 | 2,705 | 3,249 | 3,131 | 3,151 | 3,189 | 35,734 |
| 非加算特別食 | ペ ー ス ト 食 | 142 | 139 | 106 | 223 | 223 | 282 | 259 | 172 | 177 | 254 | 157 | 143 | 2,277 |
| | ア レ ル ギ ー 食 | 626 | 672 | 914 | 795 | 991 | 852 | 832 | 585 | 523 | 830 | 656 | 713 | 8,989 |
| | 自 由 食 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 口 蓋 裂 食 | 27 | 7 | 49 | 14 | 4 | 40 | 110 | 130 | 23 | | 29 | 29 | 462 |
| | 扁 摘 術 後 食 | 150 | 126 | 143 | 148 | 121 | 154 | 186 | 110 | 122 | 141 | 204 | 93 | 1,698 |
| | 移 植 対 応 食 | 266 | 256 | 342 | 351 | 308 | 69 | 99 | 25 | 102 | 178 | 187 | 273 | 2,456 |
| | ク ロ ー ン 病 食 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 低 残 査 食 | | 10 | 17 | 14 | 3 | | 29 | | 3 | 38 | 96 | 19 | 229 |
| | 肥 満 食 | | | | | | 31 | | 12 | | | | | 43 |
| | ケ ト ン 食 | | | | | | | | | | | | 17 | |
| | 減 塩 食 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | そ の 他 特 別 食 | 414 | 240 | 322 | 269 | 180 | 246 | 189 | 464 | 321 | 459 | 480 | 400 | 3,984 |
| | 加算特別食 | 小 計 | 1,625 | 1,450 | 1,893 | 1,814 | 1,830 | 1,674 | 1,704 | 1,498 | 1,271 | 1,900 | 1,809 | 1,687 |
| 腎 臓 食 | | 1 | 26 | 261 | 295 | 51 | 62 | 228 | 212 | 145 | 16 | 106 | 76 | 1,479 |
| 肝 臓 食 | | 92 | 49 | 79 | 102 | 62 | 53 | 68 | 57 | 45 | 151 | 163 | 98 | 1,019 |
| 糖 尿 病 食 | | 43 | 64 | 148 | 113 | 194 | 64 | 79 | 77 | 69 | 91 | 119 | 173 | 1,234 |
| 乳 び 胸 食 | | 93 | 10 | | 21 | 13 | | 19 | | 17 | 29 | 28 | 16 | 246 |
| 心 臓 食 | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 低 ナ ト リ ウ ム 食 | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 検 査 食 (加) | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 妊 娠 中 毒 症 食 | | 257 | 340 | 146 | 121 | 117 | 114 | 168 | 31 | 18 | 72 | 222 | 66 | 1,672 |
| 妊 産 婦 糖 尿 病 食 | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 妊 産 婦 肝 臓 病 食 | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 高 尿 酸 血 症 食 | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 小 計 | | 486 | 489 | 634 | 652 | 437 | 293 | 562 | 377 | 294 | 359 | 638 | 429 | 5,650 |
| 計 | 8,533 | 8,026 | 9,000 | 8,801 | 8,067 | 8,786 | 9,484 | 10,206 | 9,194 | 9,412 | 9,307 | 9,050 | 107,866 | |
| 保存食 | 保 存 食 | 186 | 168 | 186 | 180 | 186 | 180 | 186 | 186 | 180 | 186 | 180 | 186 | 2,190 |
| | 検 査 食 | 188 | 170 | 188 | 182 | 188 | 182 | 188 | 188 | 182 | 188 | 182 | 188 | 2,214 |
| | 小 計 | 374 | 338 | 374 | 362 | 374 | 362 | 374 | 374 | 362 | 374 | 362 | 374 | 4,404 |
| 合計 | 8,907 | 8,364 | 9,374 | 9,163 | 8,441 | 9,148 | 9,858 | 10,580 | 9,556 | 9,786 | 9,669 | 9,424 | 112,270 | |

④ おやつ数

(単位 食)

| 月別 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 計 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 区分 | | | | | | | | | | | | | |
| おやつ数 | 3,798 | 3,634 | 3,786 | 3,398 | 3,139 | 3,529 | 3,579 | 3,715 | 3,575 | 3,674 | 3,885 | 3,836 | 43,548 |

2) 患者外 (保育食)

食事数

(単位 食)

| 種類 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 計 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 保育児食 | 463 | 456 | 507 | 391 | 325 | 321 | 335 | 307 | 296 | 340 | 322 | 337 | 4,400 |

(2) 栄養指導月別種類別件数

(単位 食)

| 種類 | 月別 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 合計 |
|-------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 1型糖尿病 | | 23 | 26 | 24 | 25 | 29 | 24 | 26 | 23 | 25 | 29 | 27 | 28 | 309 |
| 2型糖尿病 | | 12 | 10 | 13 | 12 | 14 | 10 | 10 | 13 | 8 | 13 | 9 | 9 | 133 |
| 耐糖能異常 | | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| ブラダーウィリー症候群 | | 1 | 2 | 1 | 1 | 3 | 1 | 2 | 2 | 1 | 3 | 1 | 1 | 19 |
| ターナー症候群 | | 8 | 7 | 10 | 7 | 6 | 7 | 9 | 7 | 9 | 9 | 7 | 10 | 96 |
| 肥満 | | 10 | 5 | 5 | 3 | 8 | 5 | 7 | 6 | 8 | 9 | 7 | 6 | 79 |
| 先天性心疾患(心不全) | | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 7 |
| 腎性尿崩症 | | 3 | 2 | 4 | 1 | 4 | 3 | 3 | 1 | 4 | 1 | 3 | 2 | 31 |
| 慢性腎不全 | | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 6 | 2 | 1 | 5 | 1 | 1 | 19 |
| フェニルケトン尿症 | | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 3 | 3 | 2 | 1 | 2 | 3 | 2 | 24 |
| ガラクトース血症 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 9 |
| 胆道閉鎖症 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 先天性胆道拡張症 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| 非アルコール性脂肪肝炎 | | 1 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 | 1 | 12 |
| 高アンモニア血症 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 膵炎 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| 脂質異常症 | | 0 | 3 | 3 | 0 | 1 | 2 | 2 | 2 | 0 | 2 | 1 | 1 | 17 |
| 高脂血症 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| 消化管障害 | | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 |
| 便秘 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ヒルシュスブルグ病 | | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 下痢 | | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 6 |
| 食物アレルギー | | 27 | 30 | 30 | 21 | 32 | 28 | 26 | 20 | 43 | 34 | 27 | 19 | 337 |
| 移植対応食 | | 0 | 2 | 1 | 3 | 3 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 1 | 10 | 24 |
| 摂食障害(偏食含む) | | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | 5 | 0 | 3 | 22 |
| 摂食嚥下機能障害 | | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| 体重増加不良 | | 6 | 1 | 2 | 5 | 5 | 3 | 8 | 3 | 3 | 3 | 4 | 2 | 45 |
| 低身長 | | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| ビタミンD欠乏症 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| くる病 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 妊娠糖尿病 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 12 |
| 妊娠高血圧症候群 | | 2 | 6 | 2 | 5 | 1 | 2 | 5 | 2 | 3 | 4 | 4 | 3 | 39 |
| 調乳(標準ミルク) | | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| 調乳(特殊ミルク) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 5 |
| 調乳(高濃度ミルク) | | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 5 | 1 | 15 |
| 離乳食 | | 0 | 0 | 2 | 2 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 11 |
| ペースト食 | | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 4 |
| ミキサー食(胃瘻) | | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | 0 | 1 | 3 | 2 | 15 |
| 食事調査 | | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 6 |
| その他 | | 4 | 6 | 4 | 3 | 5 | 4 | 2 | 2 | 3 | 2 | 5 | 1 | 41 |
| 件数 外来(件) | | 82 | 80 | 76 | 66 | 89 | 79 | 93 | 71 | 86 | 91 | 77 | 80 | 970 |
| 人数 外来(人) | | 157 | 154 | 138 | 121 | 173 | 147 | 182 | 149 | 171 | 183 | 152 | 152 | 1,879 |
| 件数 入院(件) | | 28 | 33 | 35 | 33 | 38 | 32 | 32 | 24 | 31 | 45 | 33 | 35 | 399 |
| 人数 入院(人) | | 57 | 65 | 70 | 66 | 76 | 68 | 61 | 47 | 60 | 88 | 55 | 60 | 773 |
| 合計(件) | | 110 | 113 | 111 | 99 | 505 | 435 | 493 | 386 | 465 | 543 | 427 | 442 | 4,129 |
| 合計(人) | | 214 | 219 | 208 | 187 | 249 | 215 | 243 | 196 | 231 | 271 | 207 | 212 | 2,652 |

29. 指導相談・地域医療連携部

I. 組織

26年は、新たに医療福祉相談員が1名増員され、MSW 2名が常勤配置となった。

| | | | |
|---------|-------------------------------|------|---------------------|
| 部長 | 宅見晃子（総合診療科医師） | | |
| 次長 | 橋本ひとみ（看護師） | | |
| 看護師 | 渡邊千恵(26年4月院内異動) | 藤定睦子 | 原田富士子(26年4月進学により休職) |
| 臨床心理判定員 | 宮崎美知恵 | 藤井美有 | 淀裕美子 |
| ケースワーカー | 野呂朝子（PSW） | | |
| | 小橋諒子（MSW） 長岡良樹（MSW 26年4月～11月） | | |
| | 阿部明日香（MSW・がん相談担当） | | |

予約センターでは、初診患者の予約と再診の電話予約（午後のみ）を委託業者が担当している。

II. 平成26年活動

<26年の主な活動>

1. 新たな紹介病院、診療所の登録
 - ① 病院訪問による紹介依頼
2. 広報活動の推進（ホームページ更新、年報作成、広報誌「げんきカエル」作成）
3. 在宅療養支援の推進
 - ① 訪問看護ステーションとの連携強化（カンファレンス開催・研修会開催）
 - ② 地域医療機関との連携強化（カンファレンス開催・病院訪問）
 - ③ 制度活用支援・医療機器等の購入支援
 - ④ 周産期センターからの退院児への支援
4. 院内各科の診療支援
 - ① 各科の発達フォロー支援（各種心理テスト）
 - ② 家族背景へのケースワーク
 - ③ 院内他部署への連絡調整・院外関係機関への連絡調整
5. 入院中の情緒不適応児への対応
 - ① 心理士の病棟への定期訪問・診療部回診・カンファレンスへの積極的参加
 - ② 児への心理評価・カウンセリング・遊戯療法
 - ③ 家族へのカウンセリング
 - ④ 病棟スタッフへの関わり方指導
6. 患者家族の不安への対応
7. 発達支援・養育支援
 - ① 虐待防止活動（委員会開催、地域との連携、家族支援）
 - ② 事故予防活動（外傷カンファレンス開催、症例集積、地域との連携）
 - ③ 発達相談、育児相談活動（評価、診断、関わり方指導）
8. 教育支援
 - ① わらび学級入級手続き
 - ② 教育機関とのカンファレンス

<今後の活動目標>

- ① 医療的ケアを必要とする児と家族が安心して在宅生活を送れるように支援する
- ② 高度専門医療機関としての役割の広報に務め、地域との連携を強化していく
- ③ 地域医療支援病院として、地域医療機関の研修に貢献するよう努める
- ④ 疾病を抱えた子どもと家族の育児支援に努める
- ⑤ 事故予防・虐待予防を含めた子育て支援に努める
- ⑥ 子どもと家族の心理的不安の解消に努める
- ⑦ 小児がん拠点病院としての責務を果たすための支援に努める

表1 支援内容別業務統計

| | 内 容 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 累計 | 2013年 |
|----|-----------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------|
| 1 | 療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助 | 486 | 422 | 471 | 350 | 391 | 388 | 352 | 330 | 370 | 408 | 368 | 393 | 4729 | 4716 |
| 2 | 退院援助 | 28 | 32 | 54 | 33 | 71 | 53 | 63 | 57 | 45 | 55 | 59 | 64 | 614 | 388 |
| 3 | 社会復帰援助 | 0 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 2 |
| 4 | 受診・受療援助 | 37 | 27 | 29 | 28 | 28 | 28 | 25 | 55 | 50 | 38 | 30 | 38 | 413 | 409 |
| 5 | 経済的問題の解決・調整援助 | 66 | 60 | 64 | 82 | 82 | 73 | 57 | 47 | 63 | 58 | 43 | 76 | 771 | 575 |
| 6 | 地域活動 | 1 | 2 | 2 | 1 | 3 | 5 | 2 | 0 | 2 | 4 | 7 | 2 | 31 | 22 |
| 7 | 発達外来 | 19 | 23 | 21 | 22 | 10 | 23 | 23 | 26 | 20 | 22 | 18 | 18 | 245 | 277 |
| 8 | 養育支援(虐待予防を省く) | 0 | 9 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 16 | 5 |
| 9 | 虐待・虐待予防関連 | 9 | 2 | 12 | 20 | 11 | 22 | 11 | 4 | 18 | 10 | 10 | 4 | 133 | 203 |
| 10 | 発達・発育指導 | 41 | 54 | 44 | 58 | 41 | 59 | 54 | 48 | 50 | 51 | 45 | 22 | 567 | 340 |
| 11 | わらび学級入級手続き | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 3 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 11 | 25 |
| 12 | 一時保護 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 |
| 13 | がん患者の社会的問題の解決・調整 | | | | 59 | 60 | 55 | 79 | 71 | 56 | 66 | 45 | 57 | 548 | 1に含む |
| 14 | その他 | 3 | 3 | 5 | 1 | 2 | 1 | 2 | 3 | 2 | 1 | 3 | 6 | 32 | 23 |
| | 合 計 | 691 | 637 | 704 | 657 | 702 | 711 | 674 | 641 | 678 | 715 | 629 | 681 | 8120 | 6988 |

表2 機関別延べ連絡調整数

| | 機 関 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 累計 | 2013年 |
|----|--------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|
| 15 | 院内他部門 | 498 | 472 | 470 | 520 | 572 | 553 | 521 | 478 | 527 | 546 | 472 | 558 | 6187 | 4753 |
| 16 | 家庭 | 456 | 395 | 454 | 371 | 381 | 386 | 396 | 412 | 413 | 421 | 403 | 430 | 4918 | 4593 |
| 17 | 教育関係機関 | 2 | 8 | 14 | 11 | 14 | 8 | 1 | 0 | 2 | 10 | 7 | 2 | 79 | 104 |
| 18 | 保健所・保健センター | 19 | 23 | 36 | 27 | 42 | 38 | 30 | 26 | 28 | 29 | 30 | 23 | 351 | 359 |
| 19 | 福祉事務所 | 17 | 24 | 30 | 31 | 41 | 26 | 29 | 17 | 18 | 13 | 17 | 15 | 278 | 260 |
| 20 | こどもセンター | 32 | 26 | 10 | 18 | 14 | 21 | 14 | 11 | 19 | 28 | 12 | 5 | 210 | 262 |
| 21 | 児童福祉施設 | 9 | 10 | 8 | 8 | 9 | 9 | 25 | 13 | 21 | 12 | 14 | 8 | 146 | 101 |
| 22 | 訪問看護ステーション | 64 | 48 | 51 | 54 | 86 | 46 | 56 | 47 | 41 | 55 | 41 | 62 | 651 | 583 |
| 23 | 地域医療機関 | 20 | 7 | 17 | 18 | 24 | 28 | 19 | 28 | 13 | 15 | 13 | 41 | 243 | 196 |
| 24 | その他(医療機器業者、装具関係など) | 33 | 40 | 66 | 45 | 64 | 73 | 59 | 43 | 47 | 54 | 70 | 54 | 648 | 437 |
| | 合 計 | 1150 | 1053 | 1156 | 1103 | 1247 | 1188 | 1150 | 1075 | 1129 | 1183 | 1079 | 1198 | 13711 | 11648 |

表3 心理療法・心理検査延べ数

| | 項 目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 累計 | 2013年 |
|----|------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------|
| 25 | カウンセリング | 17 | 12 | 15 | 17 | 14 | 10 | 9 | 9 | 14 | 19 | 16 | 14 | 166 | 84 |
| 26 | プレイセラピー | 4 | 4 | 4 | 8 | 10 | 11 | 10 | 9 | 4 | 3 | 9 | 16 | 92 | 46 |
| 26 | 発達検査 | 37 | 31 | 27 | 31 | 31 | 50 | 23 | 27 | 36 | 28 | 29 | 32 | 382 | 397 |
| 28 | 知能検査 | 27 | 37 | 31 | 37 | 37 | 33 | 35 | 26 | 29 | 33 | 31 | 32 | 388 | 383 |
| 29 | 性格検査 | 13 | 13 | 17 | 12 | 18 | 9 | 16 | 12 | 16 | 16 | 12 | 14 | 168 | 125 |
| 30 | その他の検査 | 9 | 14 | 8 | 18 | 16 | 15 | 12 | 6 | 14 | 20 | 9 | 11 | 152 | 140 |
| 31 | がん患者の心理的ケア | | | | 89 | 87 | 62 | 71 | 49 | 48 | 65 | 87 | 97 | 655 | |
| | 合 計 | 107 | 111 | 102 | 212 | 213 | 190 | 176 | 138 | 161 | 184 | 193 | 216 | 2003 | 1175 |

表4 関連機関カンファレンス延べ数

| | 項 目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 累計 | 2013年 |
|---|---------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 1 | 被虐待児等症例検討会 | 4 | 1 | 0 | 2 | 1 | 3 | 3 | 0 | 2 | 1 | 3 | 1 | 21 | 32 |
| 2 | 頭部外傷カンファレンス | 0 | 0 | 0 | 4 | 1 | 2 | 5 | 0 | 2 | 3 | 1 | 2 | 20 | 21 |
| 3 | 施設入所カンファレンス | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 |
| 4 | 在宅療養調整カンファレンス | 2 | 3 | 7 | 6 | 8 | 5 | 5 | 2 | 4 | 4 | 4 | 3 | 53 | 47 |
| 5 | 教育機関カンファレンス | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 1 |
| 6 | 臓器提供Aカンファレンス | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 合 計 | 8 | 4 | 8 | 13 | 11 | 12 | 14 | 4 | 8 | 8 | 8 | 6 | 104 | 104 |

表5 Aカンファレンス 外傷（疾患）別処遇

| | 一時保護 | 児童相談所 | 保健所 | 外来のみ | 他院外来 | 転院 | フォローなし | 合計 |
|--------------|------|-------|-----|------|------|----|--------|----|
| 頭蓋骨骨折 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 頭蓋骨骨折＋くも膜下出血 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 硬膜外血腫 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 硬膜外血腫＋頭蓋骨骨折 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 硬膜下血腫 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 硬膜下血腫＋頭蓋骨骨折 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 大腿骨骨折 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 全身打撲（転落） | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 頭部打撲 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 心肺停止 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ネグレクト | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 医療ネグレクト | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 誤飲（以前頭部打撲あり） | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 薬物中毒 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 合計 | 0 | 8 | 6 | 1 | 0 | 1 | 0 | 16 |

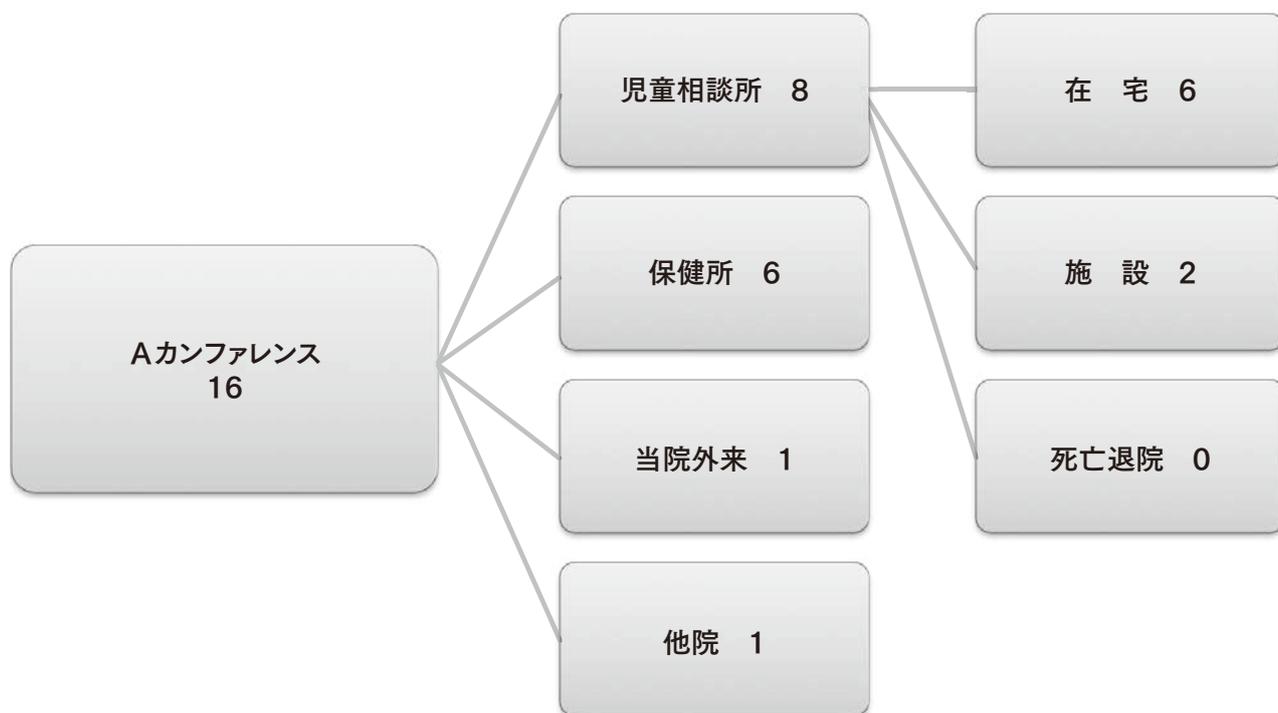


表6 頭部外傷カンファレンス 外傷（疾患）別処遇

| | 児童相談所 | 保健所 | 外来のみ | 他院外来 | フォローなし | 合計 |
|-------------|-------|-----|------|------|--------|----|
| 頭蓋骨骨折 | 0 | 0 | 7 | 1 | 0 | 8 |
| 硬膜外血腫 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 硬膜外血腫＋頭蓋骨骨折 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 4 |
| 硬膜下血腫 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 硬膜下血腫＋頭蓋骨骨折 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 硬膜下血腫＋基礎疾患 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 頭部打撲 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 3 |
| 帽状腱膜下血腫 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 縫合離解 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 合計 | 0 | 0 | 18 | 1 | 1 | 20 |

III. 退院調整

退院・在宅療養支援者

1月～3月までは各科の依頼書により退院・在宅療養支援を行い、4月から入院早期から効果的な退院支援を進めるためのシステムで退院支援・調整に取り組んだ。退院支援スクリーニングシートでの依頼が病院内で浸透し、チームで退院支援・在宅療養支援への意識が高まった。

退院支援スクリーニングシート兼依頼書で当部のスタッフが介入した結果、長期入院患者の減少につながり、在宅療養患者が増加した。

表7 依頼書件数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 2013年 |
|------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 依頼書(4月からは主に外来患者) | 12 | 6 | 7 | 5 | 4 | 5 | 5 | 7 | 6 | 1 | 1 | 4 | 63 | 42 |
| 退院支援スクリーニング兼依頼書 | | | | 17 | 13 | 20 | 14 | 16 | 21 | 26 | 18 | 32 | 177 | |
| 合計 | 12 | 6 | 7 | 22 | 17 | 25 | 19 | 23 | 27 | 27 | 19 | 36 | 240 | |

表8 診療科別依頼件数

| | 2014年 | | | 2013年 |
|---------|-------|---------|-----|-------|
| | 依頼書 | スクリーニング | 合計 | |
| 総合診療科 | 7 | 1 | 8 | 1 |
| 新生児科 | 3 | 23 | 26 | 15 |
| 脳神経内科 | 7 | 4 | 11 | 3 |
| 循環器内科 | 3 | 30 | 33 | 5 |
| 腎臓内科 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 代謝・内分泌科 | 2 | 1 | 3 | 0 |
| 血液・腫瘍科 | 12 | 12 | 24 | 1 |
| 救急集中治療科 | 16 | 28 | 44 | 2 |
| 小児外科 | 0 | 39 | 39 | 11 |
| 心臓血管外科 | 1 | 16 | 17 | 0 |
| 脳神経外科 | 8 | 18 | 26 | 3 |
| 形成外科 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 整形外科 | 0 | 2 | 2 | 0 |
| 精神科 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| 泌尿器科 | 1 | 1 | 2 | 0 |
| 産科 | 0 | 2 | 2 | 0 |
| 合計 | 63 | 177 | 240 | 42 |

2014年診療科別件数

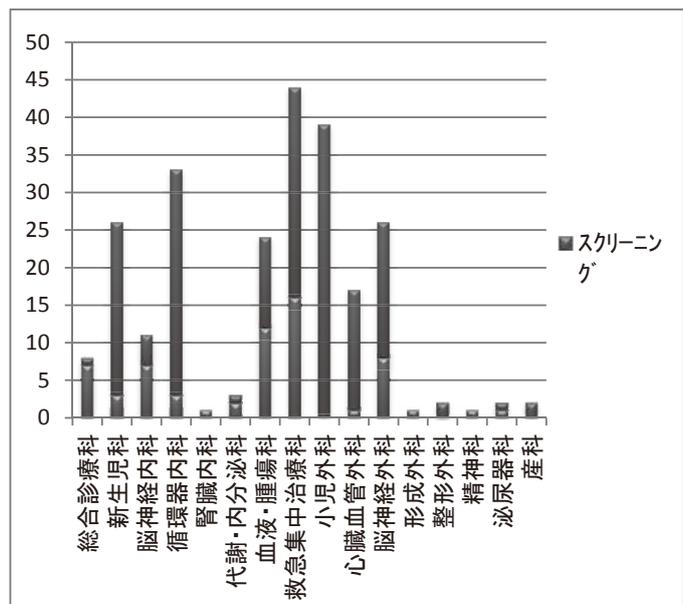


表9 新生児特定集中治療室の退院調整加算に関わった件数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 2013年 |
|-------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 加算1 (600点) | 5 | 8 | 9 | 12 | 16 | 8 | 7 | 15 | 11 | 16 | 14 | 9 | 130 | 126 |
| 加算2 (1200点) | 2 | 6 | 10 | 9 | 4 | 3 | 5 | 7 | 3 | 8 | 5 | 5 | 67 | 61 |
| 算定できず | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 8 | 5 |
| 退院していない | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 6 | 2 | 14 | 0 |
| 合計 | 8 | 15 | 20 | 24 | 21 | 12 | 13 | 22 | 15 | 28 | 25 | 16 | 219 | 192 |

219件の退院調整に関わったが、NICUから当日転室のために、支援計画書を作成したが診療報酬に結びつかない件数が8件あった。さらに、支援計画書作成したが、2015年1月に時点で14名が退院できていない。

Ⅳ. 長期入院患者

長期入院患者内訳（各月末人数）

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 4ヶ月～6ヶ月未満 | 3 | 7 | 10 | 10 | 10 | 8 | 4 | 2 | 2 | 6 | 7 | 4 |
| 6ヶ月～1年未満 | 8 | 7 | 7 | 10 | 9 | 9 | 10 | 10 | 9 | 7 | 6 | 8 |
| 1年～2年未満 | 6 | 7 | 5 | 4 | 3 | 6 | 6 | 5 | 5 | 7 | 6 | 6 |
| 2年～3年未満 | 4 | 4 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 3年～4年未満 | 3 | 2 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 4年～5年未満 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| 5年～10年未満 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 10年～20年未満 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 20年以上 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 合計 | 32 | 36 | 36 | 37 | 35 | 35 | 32 | 28 | 26 | 30 | 30 | 29 |
| 2013年 | 38 | 37 | 39 | 37 | 37 | 38 | 36 | 35 | 38 | 42 | 37 | 33 |

長期入院患者の退院人数

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|
| 4ヶ月～1年未満 | 2 | 2 | 4 | 5 | 6 | 5 | 6 | 6 | 2 | 2 | 5 | 5 | 50 |
| 1年～2年未満 | 0 | 0 | 2 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 8 |
| 2年～3年未満 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 3年～5年未満 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 5年以上 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 2 | 2 | 7 | 8 | 7 | 6 | 7 | 7 | 4 | 3 | 5 | 5 | 63 |
| 内訳 | | | | | | | | | | | | | |
| 在宅 | 2 | 2 | 5 | 6 | 7 | 5 | 7 | 5 | 4 | 2 | 5 | 4 | 54 |
| 転院 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 施設入所 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 死亡 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 5 |

Ⅴ. わらび学級

病気療養のため、学校に行けない子どもたちに、神戸市立友生支援学校病弱児訪問学級（わらび学級）の教師がベッドサイドに訪問し、教育が受けられるようになっている。当部署で入級の説明から手続きをはじめ、主治医との面談、学校との連絡調整を行っている。

表 10 2014年度わらび学級在籍状況

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 延べ人数 |
|------|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|------|
| 小学部 | 在籍数 | 11 | 11 | 11 | 11 | 10 | 13 | 13 | 15 | 17 | 19 | 19 | 17 | 167 |
| 中学部 | 在籍数 | 4 | 5 | 5 | 3 | 3 | 0 | 1 | 2 | 2 | 3 | 4 | 4 | 36 |
| 高等部 | 在籍数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 24 |
| 院内全体 | 在籍数 | 17 | 18 | 18 | 16 | 15 | 15 | 16 | 19 | 21 | 24 | 25 | 23 | 227 |

指導相談・地域医療連携部（予約センター）

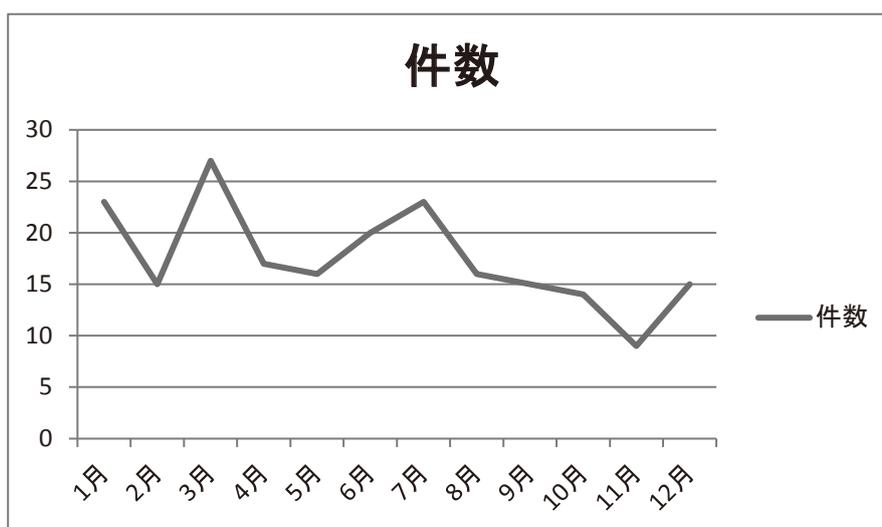
1. 業務内容

予約センターは委託職員が従事し、主に初診患者の予約業務と受診報告書の発送を行い、地域医療機関との連携を早く確実にしている。

| 延べ数 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 2013年 |
|--|-----|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|------|------|-------|-------|
| メール相談対応数 | 11 | 11 | 8 | 14 | 20 | 4 | 9 | 10 | 9 | 12 | 8 | 5 | 121 | 114 |
| （内訳）各科医師相談 | 0 | 4 | 2 | 4 | 6 | 2 | 2 | 2 | 4 | 4 | 4 | 0 | 34 | 32 |
| 地域医療連携で返答 | 11 | 7 | 6 | 10 | 14 | 2 | 7 | 8 | 5 | 8 | 4 | 5 | 87 | 82 |
| セカンドオピニオン数 | 4 | 2 | 3 | 2 | 2 | 4 | 2 | 3 | 6 | 2 | 2 | 4 | 36 | 30 |
| 受診報告書発送数 （紹介状件数） | 418 | 433 | 468 | 472 | 457 | 504 | 565 | 547 | 510 | 520 | 424 | 470 | 5788 | 5509 |
| 返書率 | 93 | 90.7 | 92.7 | 93.4 | 95.4 | 94.2 | 94.7 | 93.8 | 95 | 93.7 | 93.8 | 92.4 | 93.6% | 91.4% |
| 紹介医療機関新規登録件数 | 23 | 15 | 27 | 17 | 16 | 20 | 23 | 16 | 15 | 14 | 9 | 15 | 210 | 231 |
| 紹介状を持ち、直接来院 した患者の紹介元への文 書郵送件数（産科を省く） | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 2 | 3 | 1 | 1 | 0 | 14 | 19 |
| FAX 予約数（地域連携） | 430 | 402 | 454 | 460 | 424 | 464 | 514 | 496 | 467 | 457 | 365 | 401 | 5334 | 5174 |
| FAX 予約内のキャンセル数 | 8 | 7 | 8 | 7 | 10 | 5 | 7 | 9 | 8 | 9 | 9 | 6 | 93 | 86 |

2. 紹介元新規医療機関

紹介元医療機関の登録件数は210件であった。2005年から地域医療連携業務を行い、2014年12月末で累計は4102件になった。



30. ME 室

【スタッフ紹介】

主査 横山 真司 体外循環技術認定士

主任 岩崎 一崇 体外循環技術認定士

秋元 明日香

三坂 勇介

吉本 由衣

【業務実績】

医療機器管理業務

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 平均 |
|-----------|------|-----|------|------|------|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-------|------|
| 院内修理 | 25 | 13 | 21 | 18 | 27 | 14 | 27 | 10 | 13 | 20 | 16 | 19 | 223 | 18.5 |
| 依頼点検 | 32 | 19 | 19 | 24 | 37 | 27 | 16 | 12 | 9 | 21 | 18 | 12 | 246 | 20.5 |
| 定期点検 | 1042 | 987 | 1039 | 1051 | 1058 | 1063 | 968 | 908 | 971 | 1152 | 897 | 745 | 11881 | 990 |
| メーカー修理・点検 | 2 | 2 | 1 | 4 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 16 | 1.3 |
| 病棟ラウンド | 7 | 10 | 8 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 3 | 3 | 3 | 1 | 43 | 3.5 |
| アンビュバルブ点検 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 156 | 158 | 165 | 199 | 165 | 151 | 148 | 1142 | 95.1 |
| その他 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 14 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 22 | 1.8 |

臨床業務

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 平均 |
|----------------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|------|
| 体外循環 | 18 | 11 | 19 | 18 | 12 | 11 | 14 | 22 | 17 | 16 | 17 | 18 | 193 | 16 |
| ECMO | 2(1) | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 3 | 1 | 1 | 0 | 1 | 11 | 0.9 |
| 人工心臓・ECMOスタンバイ | 0 | 1 | 3 | 3 | 1 | 2 | 2 | 2 | 0 | 2 | 1 | 2 | 19 | 1.6 |
| 血液浄化療法 | 0 | 0 | 16 | 24 | 7 | 4 | 1 | 20 | 8 | 7 | 0 | 9 | 96 | 8 |
| 自己血回収 | 19 | 11 | 19 | 19 | 12 | 12 | 14 | 22 | 18 | 17 | 18 | 19 | 200 | 16.6 |
| MEP | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 5 | 0.4 |
| SPECTRA | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 | 8 | 0.7 |

※ ECMO：(回路交換回数)

各種委員会活動

仕様策定委員会

リスクマネジメント委員会

手術室運営委員会

呼吸ケア部会

31. 理学療法

理学療法は当院（本館、周産期医療センター、小児救急医療センター）に入院されている方を対象としている。現在、運動療法室が確保されておらず、理学療法に関しては診療報酬リハビリテーション施設基準が取得できていない状況であり、ベッドサイドや病棟プレイルームでの実施を中心としている。外来理学療法へのご要望も多く頂いているが、マンパワーの問題もあり対応が困難な状況である。

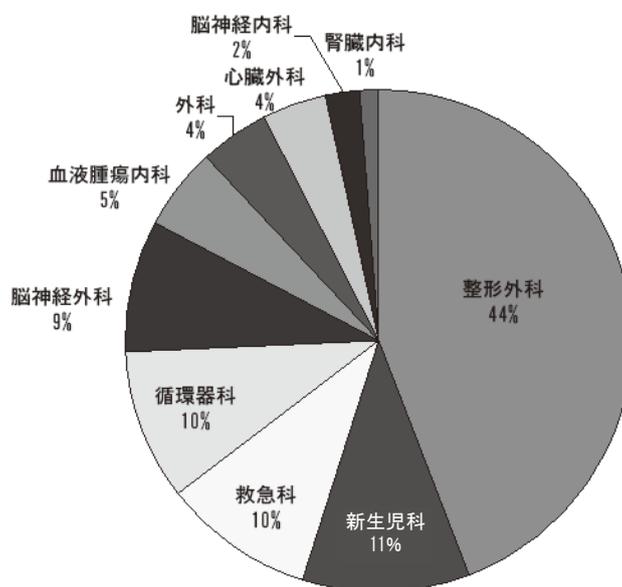
(表 1) 2014 年度 理学療法実施件数

| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 146 | 165 | 178 | 273 | 295 | 308 | 305 | 297 | 293 | 294 | 299 | 294 | 3147 |

■理学療法処方について

診療科別処方では整形外科が最も多く 44% を占め、次いで新生児科、救急科、循環器科、脳神経外科からの処方が各 10% 前後となっている。疾患別では股関節疾患・骨系統疾患など小児整形疾患が大きな割合を占め、他、超低出生体重、遺伝子疾患、中枢性疾患（頭部外傷、脳出血、脳腫瘍など）、血液腫瘍疾患（白血病など）、循環器疾患術後の運動発達支援や ADL 改善を目標に処方されている。

2016 年度に新病院移転後は運動療法・作業療法室が新設され、言語聴覚室も含めてリハビリテーション科として運営予定となる。現在、人員配置や診療体制も含め開設準備を進めており、より充実したリハビリテーションを提供できるよう努めていきたい。



32. 医療安全管理室

医療安全管理室は、医療安全対策担当副院長を室長、管理局長、看護部長を副室長、副院長、診療部長、薬剤部長、医療安全対策担当課長、実働メンバーとして8名の総括リスクマネージャーと総務部長、総務部次長で構成され、院内の安全管理を担っている。

主な活動内容

1. ヒヤリハット報告書に基づく評価・対策の検討

- 1) 総括リスクマネージャー会議を毎日11時から院長在室のもと院長室で開催し、送られてきたヒヤリハット報告書に基づき評価・分析、解決策の検討を行った。
- 2) 月1回のリスクマネジメント部会では、各部門が前月分のヒヤリハット内容と評価・対策を報告し、院内で起こったヒヤリハットについて集約し検討を行った。
- 3) リスクマネジメント部会での報告・検討結果を医療事故防止委員会に報告した。

2. Morbidity & Mortality カンファレンスの企画・運営を行った。

3. コード99症例の情報の共有化を行うために、医療安全管理室よりメール配信を行った。

4. ヒヤリハット報告

2014年のヒヤリハット報告件数は、2969件で前年より63件の増加であった。レベル別報告数の割合は例年と大きな変化はなかった。レベル3b以上のヒヤリハット報告は0件であった。部門別にみると看護部からの報告件数が87%をしめ、診療部は4%であった。診療部の報告件数は前年度より1.6倍に増加した。

各部門のリスクマネージャーの活動が職員のリスク感性の向上につながり、レベルの高いヒヤリハットの防止につながっている。

1) レベル別報告件数

| レベル0 | レベル1 | レベル2 | レベル3a | レベル3b |
|-------------|-------------|----------|-----------|---------|
| 1144件 (39%) | 1778件 (60%) | 40件 (1%) | 7件 (0.2%) | 0件 (0%) |

2) 部門別ヒヤリハット報告件数

| 診療部 | 看護部 | 検査部 | 放射線部 | 薬剤部 | リハビリ | 栄養指導課 | 医事課 |
|----------|------------|---------|----------|---------|-----------|---------|--------|
| 120 (4%) | 2601 (87%) | 39 (1%) | 106 (4%) | 31 (1%) | 13 (0.4%) | 59 (2%) | 0 (0%) |

5. 主な改善に向けた取り組み

- 1) 薬剤の処方間違いについて、薬剤部から科長及びリスクマネージャーに紙面で報告し、診療科内、及び全診療科で情報を共有した。
- 2) ピクシリンとピクシリンS製剤を薬剤部、診療部、ICTと協議の上、ピクシリンのみとした。
- 3) 診療部のヒヤリハットの情報共有、および解決策の周知に向けて安全ニュースとしてメール配信を行った。
- 4) 術後の鎮痛目的での神経ブロックラインの予定外抜去に関して、麻酔科で固定方法の統一をおこない、看護部に写真での掲示をおこなった。
- 5) FAXの誤送信に対して、院内統一の取り扱いとした。

6. 医療安全研修会、勉強会の開催

| | | |
|-----------------------------|-------------|----------|
| 各部門の安全への取り組み報告会 | 3月18日 | 参加者 123名 |
| Morbidity&Mortality カンファレンス | | |
| ①先天性心疾患を持つ新生児壊死性腸炎 | 1月21日 | 参加者 75名 |
| ②呼吸停止の状態で見送られた脳腫瘍の1事例 | 5月15日 | 参加者 61名 |
| ③術後腸炎に感染し、コード99にいたった1事例 | 6月27日 | 参加者 70名 |
| ④HCUで急変した2事例 | 9月12日 | 参加者 81名 |
| 新採用看護師、看護補助者への安全教育 | 4月3日、採用時に適宜 | |

7. 医療安全情報の提供

- 1) 日本機能評価機構からの医療安全情報の提供を月1回行った。
- 2) 院内、院外での重要なヒヤリハット事例を、医療安全ニュースとして発行し情報提供を行った。

33. 感染対策管理室

感染対策管理室は、感染対策委員会委員長を室長、診療部長、看護部次長を副室長とし、院長、総務部長、検査技師長、栄養指導課長、看護部長、医療安全対策担当課長、感染管理認定看護師の他、診療部6名、看護部4名、検査部4名、薬剤部1名、放射線部2名、医事企画課1名の計28名で構成され、院内の感染管理を担っている。このうち診療部5名、看護部3名、検査部1名、薬剤部1名の計10名が感染対策チーム(ICT)を結成し、実動部隊として活動している。

主な活動内容

1. 定期的な会議、ラウンドの実施

1) 院内感染対策委員会（毎月第2金曜日）

細菌・ウイルスの分離状況、抗菌薬（抗MRSA薬、カルバペネム系薬剤）の使用状況、ICT活動などについて報告し、検討が必要な事項について議論した。

2) ICT 会議（毎週木曜日）

1週間の細菌・ウイルスの分離状況、院内で発生している感染症、市中の感染症の動向などを中心に議論した。

3) ICT ラウンドの実施（毎週木曜日）

毎回2部署を対象とした。環境整備の状況、患者ケア場面の感染対策がマニュアルどおりに実施されているかチェックし、改善の必要な項目について毎週フィードバックした。第2週は抗菌薬の長期使用の状況を確認した。

2. 職員教育

| 研修会 | 開催日 | 参加人数 |
|---|-------------|-------|
| 委託職員向け感染対策研修会 「感染性胃腸炎」 | 1月（計2回） | 計44名 |
| 新規採用職員対象感染対策オリエンテーション（医師ほか） | 4月1日 | 42名 |
| 新規採用看護師対象感染対策オリエンテーション | 4月3日 | 60名 |
| 新規採用看護補助者対象感染対策オリエンテーション | 計9回 | 計14名 |
| 全職員対象感染対策研修会 「続 標準予防策。そして、感染経路別予防策。」 | 2月19日 | 127名 |
| | 2月28日 | 93名 |
| 清掃・リネン業務職員対象感染対策研修会「感染対策の基本」 | 5月（計2回） | 計21名 |
| 保育士対象感染対策研修会 「感染対策の基本」 | 7月16日 | 6名 |
| 全職員対象感染対策研修会 「からだで覚えよう！またまた、標準予防策」 | 8月1日 | 119名 |
| | 8月4日 | 102名 |
| 看護補助者研修② 感染防止「標準予防策と環境整備」 | 9月（計2回） | 計28名 |
| リンクナース対象 感染管理ミニレクチャー | 9月～12月（計4回） | 各回17名 |
| 新人看護師フォロー研修 「感染対策フォローアップ」 | 10月7日 | 60名 |
| 抗菌薬勉強会 | 10～12月（計3回） | 計139名 |
| 輸液ライン勉強会 「プラネクタとフィルターについて」 * 部署出前研修 | 11月11日 | 33名 |
| | 計4回 | 計30名 |
| トライやるウィーク 「感染予防講習」 | 11月13日 | 9名 |

3. サーベイランス情報の配信（毎週）

神戸市の定点サーベイランスの情報、院内の分離菌週報をまとめて配信した。

4. 各種サーベイランスの実施

NICU 病棟：VAP サーベイランス（11月～）、血培陽性者サーベイランス（4月～）、
全体：AUR サーベイランス

5. 流行性ウイルスなどの感染症発生時の対応

水痘の発生（6A:2月、5B:5月、7F:6月）、4B：ノロウイルスのアウトブレイク（1月）、4B：アデノウ
イルスのアウトブレイク（4月）、その他疑い患者発生時に適宜対応した。

6. 感染対策に関する各種コンサルテーションへの対応

VCM 長期使用患者への介入（3月～9月）、

7. 職業感染防止の活動

1) 行性ウイルス感染症ワクチンプログラムとして、委託業務職員を含む全新規採用職員の抗体検査とワ
クチン接種を実施した。

【2014年に接種した流行性ウイルス感染症ワクチン】

| | 新規医師 | 新規看護師 | 新規その他 | 委託業務職員 |
|------|------|-------|-------|--------|
| 抗体採血 | 18名 | 83名 | 38名 | 11名 |
| 麻疹 | 13名 | 38名 | 13名 | 7名 |
| 水痘 | 0 | 1名 | 1名 | 2名 |
| 風疹 | 0 | 3名 | 4名 | 0 |
| ムンプス | 11名 | 17名 | 13名 | 5名 |
| M R | 2名 | 7名 | 3名 | 1名 |

2) 職員対象のインフルエンザワクチンの接種を行った。（11月）

965名に接種。接種率：病院職員 98.6%、委託職員 74.6%

3) 職員対象の百日咳（DPT）ワクチンの接種を行った。（12月）

患者に直接的ケアを実施する職員を中心に、751名に接種した。

4) 職員対象のB型肝炎ワクチンの接種を行った。

1クール（3回）接種：84名、ブースター（1回）接種：22名

5) 血液媒介ウイルス感染防止のため、針刺し・切創、血液・体液曝露について啓発活動を行うとともに、
これらの事象発生時に迅速に対応した。

【2014年に発生した針刺し・切創、血液・体液曝露】

| 総件数：16件（日勤帯：9件、夜勤帯：7件） | | | | | | | | |
|------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|----|
| 内容 | 針刺し | 12件 | 切創 | 2件 | 擦過傷 | 1件 | 咬創 | 1件 |
| 発生部署 | 手術室 | 3件 | 病棟 | 13件 | | | | |
| 受傷者 | 医師 | 7名 | 看護師 | 9名 | | | | |
| 原因器材 | 注射針 | 7件 | メス | 2件 | 留置針 | 3件 | その他 | 2件 |

3. 啓発活動の実施

ICT NEWS の作成（1月、6月）、神戸市内の麻疹発生の注意喚起（9月）、マスク着用令（12月）

4. ファシリティマネジメントとして、ファシリティ部門への助言と感染対策の強化

各種業務（清掃、リネン、滅菌）の定例会の開催、中材におけるアンビューバルブの洗浄開始（6月）、
ステラッドのBIの出荷遅延への対応（5月～9月）、温水便座の清掃の徹底（8月～）、清掃ラウンドの実
施（10～12月）

5. 感染防止対策加算に係る院外活動

加算1：神戸市立医療センター中央市民病院、神戸医療センターと連携。

相互ラウンド実施（10月、11月）

加算2：みどり病院と連携。施設間カンファレンス（9月）、中央市民病院グループとの合同カンファレンス（11月）実施

6. その他

予定入院時感染症スクリーニングシートの運用開始（1月）、新型インフルエンザ等発生時における業務継続計画の策定（2月）、感染対策マニュアルの定期改訂（3月）、清拭用ディスポタオルの導入（7月）、導尿および尿道留置カテーテル挿入時の消毒の変更（9月）、予定入院患者向け水痘ワクチン接種のお願い文書作成（11月）

34. 褥瘡管理室

褥瘡対策委員会は、委員長を形成外科医師、副委員長を看護部次長とし、委員として小児外科医師、17名の看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士、医事課職員により構成され、院内の褥瘡対策及び創傷ケアを検討し、トータルケアを行うことにより、創傷ケアの効果的な推進を図ることを目的としている。平成24年度より褥瘡管理者を置き、褥瘡ハイリスクケア患者ケア加算を導入した。

主な活動内容

1. 褥瘡対策状況

会議を月に1回行い、褥瘡対策に関する報告を行い、褥瘡対策委員で情報を共有し、褥瘡ケアの評価や対策の検討をおこなう。

1) 褥瘡発生率

3.2% (過去12年で5番目に高い値 過去の発生率は2.6%～4.0%)

褥瘡発生率 = 褥瘡発生数 ÷ 総新規入院数

2) 褥瘡推定発生率

1.8% (過去8年で1番低い値 過去の発生率は1.8～2.7%)

月の1日を調査日とし、

褥瘡推定発生率 = (調査日に褥瘡を保有する患者数 - 院外発生患者数) ÷ 調査日の入院患者数

3) 褥瘡リスクアセスメント実施数 7566件 (月平均630.5件)

4) 褥瘡ハイリスク患者特定数 945件 (月平均78.8件)

5) 褥瘡予防治療計画件数 2842件 (月平均236.8件)

6) 褥瘡ハイリスク患者ケア実施件数 1407件 (月平均117.3件)

7) 褥瘡発生詳細

褥瘡発生件数 170件

褥瘡発生個数 219個 (体圧による褥瘡は57個、医療機器関連圧迫創は162個)

褥瘡発生件数の多い部署 ICU (43件) 救急センター (39件) 混合B病棟 (17件)

2. 褥瘡回診状況

全褥瘡対策対象患者の回診(総合褥瘡回診)を週1回、褥瘡ハイリスク患者ケア加算対象者の回診を毎日行い、褥瘡予防治療計画書をもとに、褥瘡予防、治療方法を評価・検討し、必要時カンファレンスを実施している。

1) 総合褥瘡回診 回診回数45回 患者数2678名(のべ)

2) 褥瘡ハイリスク回診数 回診回数123回 患者数2732名(のべ)

3) カンファレンス実施数 46回(月平均3.8回)

3. 新人看護師対象の褥瘡講義の実施

4. 領域別看護ケア向上委員会における事例検討と勉強会の実施

5. 各部署カンファレンスや病棟会における褥瘡勉強会の実施

35. がん相談支援室

がん相談支援室は、小児がん拠点病院の指定を受け、平成 25 年より設置された。小児がんセンター長のもと、血液腫瘍内科医師、小児看護専門看護師、医療ソーシャルワーカー、医師クラークの 4 名が小児がんに関する相談に応じている。

スタッフ

- 医師 石田敏章（血液腫瘍内科医師）
- 看護師 中谷扶美（小児看護専門看護師）
- ケースワーカー 阿部明日香（MSW）
- 医師クラーク 今吉春奈

平成 26 年 主な活動内容

1. 院内外の小児がんと診断された子どもと家族に対する対面相談、電話相談
 - ・小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供
 - ・地域の医療機関及び医療従事者に関する事例の情報の収集、提供
 - ・小児がん患者の発育、教育及び療養上の相談
 - ・地域における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供
 - ・その他の相談支援
2. 院内外の医療従事者への小児がんに関する情報提供
3. 小児がんを対象とする患者会との調整窓口
4. 相談支援室会議
 - ・月 1 回開催、小児がんに関する情報の共有、相談支援室の活動の評価・検討
5. 小児がん中央機関、その他の小児がん拠点病院、地域の小児がん連携病院との連携体制強化
 - ・国立がん研究センターがん情報対策センター主催のがん相談支援センター相談員基礎研修、院内がん登録実務初級者研修の修了
 - ・小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会への出席、メーリングリストへの参加

平成 26 年 がん相談支援室相談対応件数

| | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|--------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| がん相談件数 | 対 面 | 6 | 11 | 9 | 26 | 14 | 23 | 14 | 16 | 19 | 37 | 27 | 24 | 226 |
| | 電 話 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 2 | 2 | 11 |
| | 総 数 | 6 | 11 | 9 | 27 | 16 | 23 | 14 | 18 | 19 | 39 | 29 | 26 | 237 |

| 相談内容内訳 | 内容別相談件数 | | | | | | | | | | | | | |
|---|---------|----|---|----|---|----|----|----|----|----|----|----|-----|--|
| 小児がんの病態・小児がんに関する一般的な情報の提供 | 0 | 0 | 0 | 1 | 4 | 5 | 1 | 0 | 1 | 3 | 0 | 2 | 17 | |
| 診療実績・専門分野経歴など地域の医療機関・従事者に関する情報の収集・健児 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 7 | |
| セカントオピニオンの提示が可能な医師の紹介 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 小児がん患者の発育、教育及び療養上の相談 | 6 | 10 | 9 | 22 | 8 | 15 | 11 | 18 | 15 | 33 | 27 | 23 | 197 | |
| 地域の医療機関及び医療従事者等における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、復供 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 7 | |
| 地域の医療機関に対して相談支援に関する支援を行うこと | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | |
| その他の支援に関すること | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 | |

IV 学会・研究・教育活動

1) 書籍

| テーマ | 所属科 | 発行者名 | 単著、共著の別 | 編者名 | 書籍名 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|-------------------------------------|---------|-------------|---------|------------------|--------------------------------|-----|-----|--------------------|-----------|
| 幹細胞移植と低栄養 | 血液・腫瘍内科 | 神崎愛子、長谷川大一郎 | | | 臨床栄養別冊 JCN セレクト9 | 160 | 166 | 小児の臨床栄養エビデンスとトピックス | 2014 |
| 各論 C 胃 4 肥厚性幽門狭窄症 | 小児外科 | 前田貢作 | 共著 | 日本小児栄養消化器肝臓学会 | 小児栄養消化器肝臓病学 | 205 | 207 | 診断と治療社 | 2014.1 |
| 肝臓瘍 | 小児外科 | 横井暁子 | 共著 | 日本小児栄養消化器肝臓学会 | 小児栄養消化器肝臓病学 | 483 | 484 | 診断と治療社 | Oct-14 |
| 小児胃食道逆流症に対する腹腔鏡下噴門形成術は推奨できるか？ | 小児外科 | 福澤宏明 | 共著 | 一般社団法人 日本内視鏡外科学会 | 技術認定取得者のための内視鏡外科診療ガイドライン2014年版 | 100 | 102 | 一般社団法人 日本内視鏡外科学会 | 2014.9.15 |
| 神経症候群(第2版)その他の神経疾患を含めて | | | | | | | | | |
| 先天異常/先天奇形 先天性形態形成異常 其他 キアリ奇形(解説/特集) | 脳神経外科 | 長嶋達也 | | 日本臨床 | 別冊神経症候群 IV | 212 | 216 | | 2014年 |
| 手術療法—前方法— | 整形外科 | 薩摩眞一 | 共著 | 尾崎敏文、赤澤啓史 | 先天性股関節脱臼の診断と治療 | 88 | 93 | メディカルビュー社 | 2014 |
| 遺残性亜脱臼に対する手術—Salter 骨盤骨切り術— | 整形外科 | 薩摩眞一 | 共著 | 尾崎敏文、赤澤啓史 | 先天性股関節脱臼の診断と治療 | 124 | 130 | メディカルビュー社 | 2014 |
| Larsen 症候群 | 整形外科 | 薩摩眞一 | 共著 | 瓦谷秀治 | 神経症候群IV—その他の神経疾患を含めて—[第2版] | 591 | 593 | 日本臨床社 | 2014 |
| A・V型斜視の手術と適応 | 眼科 | 野村耕治 | 単著 | 不二門 尚 | 眼科診療クオリファイ | 203 | 209 | 中山書店 | 2014.6 |
| 精巣捻転 | 泌尿器科 | 久松英治 | 共著 | 五十嵐隆 | 当直医のための小児救急ポケットマニュアル | 248 | 251 | 中山書店 | 2014.4 |
| 先天性水腎症(腎盂尿管移行部狭窄症) | 泌尿器科 | 久松英治 | 共著 | 赤座英之 関戸哲利 | 明解!! 必携 泌尿器科診療の手引き | 169 | 170 | 医学図書出版 | 2014.4 |
| 小児尿路感染・膀胱尿管逆流 | 泌尿器科 | 久松英治 | 共著 | 赤座英之 関戸哲利 | 明解!! 必携 泌尿器科診療の手引き | 171 | 173 | 医学図書出版 | 2014.4 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 単著、共著の別 | 編者名 | 書籍名 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|-------------------------------|-------|------|---------|-----------|----------------------------|-----|-----|--------|--------|
| 異所開口尿管・尿管瘤 | 泌尿器科 | 久松英治 | 共著 | 赤座英之 関戸哲利 | 明解!! 必携 泌尿器科診療の手引き | 174 | 175 | 医学図書出版 | 2014.4 |
| 尿道下裂 | 泌尿器科 | 久松英治 | 共著 | 赤座英之 関戸哲利 | 明解!! 必携 泌尿器科診療の手引き | 176 | 177 | 医学図書出版 | 2014.4 |
| 病態別急性血液浄化療法 | 新生児科 | 芳本誠司 | 共著 | 茨 聡 | 体外循環による新生児急性血液浄化療法マニュアル | 101 | 105 | メディカ出版 | 2014.1 |
| 脳性麻痺の臨床と栄養管理 | 栄養管理課 | 鳥井隆志 | 共著 | 雨海照祥 | 小児の臨床栄養 エビデンスとトピックス | 137 | 143 | 医歯薬出版 | 2014.2 |
| 循環器疾患 心不全 | 栄養管理課 | 鳥井隆志 | 共著 | 丹羽利充 | 臨床栄養実践ガイド | 189 | 193 | 中外医学社 | 2014.8 |
| 複雑心奇形に腹部臓器異常を合併し体重増加不良をきたした症例 | 栄養管理課 | 鳥井隆志 | 共著 | 雨海照祥 | 臨床栄養別冊 栄養力UP NST 症例集(4) | 73 | 76 | 医歯薬出版 | 2014.1 |

2) 雑誌発表

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|--|---------|---|-----------------------------|------|------|------|------|-----------------------------|------------------------------|
| 近畿地方における小児気管支喘息増悪に伴う入院の実態 | アレルギー科 | 井上壽茂、岡藤郁夫 亀田 誠、末廣 豊 南部光彦、野々村和男 廣田常夫、三好麻里 山岡孝司、吉田 晃 | 日本小児アレルギー雑誌 | 第28巻 | 第1号 | 126 | 134 | 日本小児アレルギー雑誌 | 2014 |
| 乳児期に発症し冠動脈瘤を伴った高安動脈炎の1例 | リウマチ科 | 水田麻雄、笠井和子 中岸保夫、三好麻里 | 小児リウマチ学会誌 | 第5巻 | 第1号 | 48 | 51 | 日本小児リウマチ学会雑誌 | 2014 |
| Successful therapy of macrophage activation syndrome with dexamethasone palmitate. | リウマチ科 | Nakagishi Y, Shimizu M, Kasai K, Miyoshi M, Yachie A | MODERN RHEUMATOLOGY | | | | | MODERN RHEUMATOLOGY | Posted online on 23 Apr 2014 |
| Serum interleukin 18 as a diagnostic remission criterion in systemic juvenile idiopathic arthritis. | リウマチ科 | Shimizu M, Nakagishi Y, Yoshida A, Yachie A. | The Journal of Rheumatology | 第41巻 | 第11号 | 2328 | 2330 | The Journal of Rheumatology | 2014 Nov |
| Midazolam fails to prevent neurological damage in children with convulsive refractory febrile status epilepticus. | 脳神経内科 | Nagase H, Nishiyama M, Nakagawa T, Fujita K, Saji Y, Maruyama A. | Pediatr Neurol. | 51 | 1 | 78 | 84 | | 2014 |
| Two cases of traumatic head injury mimicking acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion. | 脳神経内科 | Nishiyama M, Fujita K, Maruyama A, Nagase H. | Brain Dev. | 36 | 10 | 928 | 931 | | 2014 |
| ピボキシル基含有抗菌薬3日間投与によるカルニチン欠乏が関与した急性脳症の1例 | 脳神経内科 | 西山将広、田中 司 藤田杏子、丸山あずさ 永瀬裕朗、竹田洋樹 上谷良行、重松陽介 | 日本小児科学会雑誌 | 118 | 5 | 812 | 818 | | 2014 |
| 遷延性熱性発作を呈した小児における非けいれん性発作 | 脳神経内科 | 丸山あずさ、西山将広 藤田杏子、永瀬裕朗 | 日本小児科学会雑誌 | 118 | 10 | 1475 | 1480 | | 2014 |
| Outcome of TCF3-PBX1 positive pediatric acute lymphoblastic leukemia patients in Japan: a collaborative study of Japan Association of Childhood Leukemia Study (JACLS) and Children's Cancer and Leukemia Study Group (CCLSG). | 血液・腫瘍内科 | Asai D, Imamura T, Yamashita Y, Suenobu S, Moriya-Saito A, Hasegawa D, Deguchi T, Hashii Y, Endo M, Hatakeyama N, Kawasaki H, Hori H, Horibe K, Yumura-Yagi K, Hara J, Watanabe A, Kikuta A, Oda M, Sato A; Japan Association of Childhood Leukemia Study (JACLS) & Children's Cancer and Leukemia Study Group (CCLSG). | Cancer Med. | 3 | 3 | 623 | 631 | | 2014 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|---------|--|---------------------------|----------|-----|------|------|-----|------|
| The first report of adolescent TAFRO syndrome, a unique clinicopathologic variant of multicentric Castleman's disease. | 血液・腫瘍内科 | Kubokawa I, Yachie A, Hayakawa A, Hirase S, Yamamoto N, Mori T, Yanai T, Takeshima Y, Kyo E, Kageyama G, Nagai H, Uehara K, Kojima M, Iijima K | BMC Pediatr. | 2 | 14 | 139 | | | 2014 |
| An overall characterization of pediatric acute lymphoblastic leukemia with 2 overexpression. | 血液・腫瘍内科 | Yano M, Imamura T, Asai D, Moriya-Saito A, Suenobu S, Hasegawa D, Deguchi T, Hashii Y, Kawasaki H, Hori H, Kosaka Y, Kato K, Horibe K, Yumura-Yagi K, Hara J, Matsumoto K, Kiyokawa N, Oda M, Sato A; Japan Association of Childhood Leukemia Study. | Genes Chromosomes Cancer. | 53 | 10 | 815 | 823 | | 2014 |
| Biallelic DICER1 mutations in sporadic pleuropulmonary blastoma. | 血液・腫瘍内科 | Seki M, Yoshida K, Shiraishi Y, Shimamura T, Sato Y, Nishimura R, Okuno Y, Chiba K, Tanaka H, Kato K, Kato M, Hanada R, Nomura Y, Park MJ, Ishida T, Oka A, Igarashi T, Miyano S, Hayashi Y, Ogawa S, Takita J. | Cancer Res. | 74 | 10 | 2742 | 2749 | | 2014 |
| Allogeneic haematopoietic stem cell transplantation for infant acute lymphoblastic leukaemia with KMT2A (MLL) rearrangements: a retrospective study from the paediatric acute lymphoblastic leukaemia working group of the Japan Society for Haematopoietic Cell Transplantation. | 血液・腫瘍内科 | Kato M, Hasegawa D, Koh K, Kato K, Takita J, Inagaki J, Yabe H, Goto H, Adachi S, Hayakawa A, Takeshita Y, Sawada A, Atsuta Y, Kato K. | Br J Haematol. | in press | | | | | 2014 |
| Comparison of a fludarabine and melphalan combination-based reduced toxicity conditioning with myeloablative conditioning by radiation and/or busulfan in acute myeloid leukemia in Japanese children and adolescents. | 血液・腫瘍内科 | Ishida H, Adachi S, Hasegawa D, Okamoto Y, Goto H, Inagaki J, Inoue M, Koh K, Yabe H, Kawa K, Kato K, Atsuta Y, Kudo K. | Pediatr Blood Cancer | in press | | | | | 2014 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|---------|--|---------------------------|----------|-----|------|------|-----------|------|
| Involvement of aldehyde dehydrogenase 1A2 in the regulation of cancer stem cell properties in neuroblastoma. | 血液・腫瘍内科 | Tri Budi Hartomo, , Thi Van Huyen Pham, Yamamoto N, Hirase S, Hasegawa D, Kosaka Y, Matsuo M, Hayakawa A, Takeshima Y, Iijima K, Nishio H, and Nishimura N. | Int J Oncol. | in press | | | | | 2014 |
| Differential expression of minimal residual disease markers in peripheral blood and bone marrow samples from high-risk neuroblastoma patients. | 血液・腫瘍内科 | Yamamoto N, Kozaki A, Tri Budi Hartomo, Yanai T, Hasegawa D, Kawasaki K, Kosaka Y, Matsuo M, Hirase S, Mori T, Hayakawa A, Iijima K, Nishio H, and Nishimura N. | Oncology Report | in press | | | | | 2014 |
| Successful treatment with allogeneic hematopoietic stem cell transplantation of a severe congenital neutropenia patient harboring a novel ELANE mutation. | 血液・腫瘍内科 | Kawaguchi K, Matsubara K, Uchida Y, Saito A, Miyata K, Hasegawa D, Kosaka Y, Iwata A, Nigami H, Kobayashi M. | Rinsho Ketsueki. | 55 | 11 | 2294 | 2299 | | 2014 |
| Comparison of transplantation with reduced and myeloablative conditioning for children with acute lymphoblastic leukemia. | 血液・腫瘍内科 | Kato K, Kato M, Hasegawa D, Kawasaki H, Ishida H, Okamoto Y, Koh K, Innoue M, Inagaki J, Kato K, Sakamaki H, Yabe H, Kawa K, Suzuki R, Atsuta Y. | Blood | in press | | | | | 2014 |
| III 循環器疾患 35 PA sling | 循環器内科 | 城戸佐知子 | 小児内科 | 46 | | 343 | 346 | 東京医学社 | 2014 |
| 先天性心疾患児の精神心理発達 (座談会) | 循環器内科 | 城戸佐知子 | Fetal & Neonatal Medicine | 6 | 1 | 8 | 17 | メジカルレビュー社 | 2014 |
| 観血的治療を要した腎血管性高血圧の検討 | 循環器内科 | 古賀千穂 | 日本小児循環器学会雑誌 | 30 | 3 | 273 | 278 | | |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|------|---|---------------------------------------|-----|-----|------|------|-----|------|
| Cyclosporine C2 monitoring for the treatment of frequently relapsing nephrotic syndrome in children: A multicenter randomized phase II trial. | 腎臓内科 | Iijima K, Sako M, Saito Oba M, Hataya H, Tanaka R, Ohwada Y, Kamei K, Ishikura K, Yata N, Nozu K, Honda M, Nakamura H, Nagata M, Ohashi Y, Nakanishi K, Yoshikawa N, for the Japanese Study Group of Kidney Disease in Children. | Clin J Am Soc Nephrol | 9 | | 271 | 278 | | 2014 |
| Rituximab for childhood-onset, complicated, frequently relapsing nephrotic syndrome or steroid-dependent nephrotic syndrome: a multicenter, double-blind, randomized, placebo-controlled trial. | 腎臓内科 | Iijima K, Sako M, Nozu K, Mori R, Kamei K, Miura K, Aya K, Nakanishi K, Ohtomo Y, Takahashi S, Tanaka R, Kaito H, Nakamura H, Ishikura K, Ito S, Ohashi Y, on behalf of the Rituximab for Childhood-onset Refractory Nephrotic Syndrome (RCRNS) Study Group | Lancet | 384 | | 1273 | 1281 | | 2014 |
| Candidate gene analysis using genomic quantitative PCR: identification of ADAMTS13 large deletions in two patients with Upshaw-Schulman syndrome. | 腎臓内科 | Eura Y, Kokame K, Takafuta T, Tanaka R, Kobayashi H, Ishida F, Hisanaga S, Matsumoto M, Fujimura Y, Miyata T. | Molecular Genetics & Genomic Medicine | 2 | | 240 | 244 | | 2014 |
| Progression to end-stage kidney disease in Japanese children with chronic kidney disease: results of a nationwide prospective cohort study. | 腎臓内科 | Ishikura K, Uemura O, Hamasaki Y, Ito S, Wada N, Hattori M, Ohashi Y, Tanaka R, Nakanishi K, Kaneko T, Honda M | Nephrol Dial Transplant | 29 | | 878 | 884 | | 2014 |
| 16q12 microdeletion syndrome: Report of two Japanese boys. | 腎臓内科 | Morisada N, Sekine T, Ishimori S, Tsuda M, Adachi M, Nozu K, Nakanishi K, Tanaka R, Iijima K. | Pediatrics International | 56 | | 75 | 78 | | 2014 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|------|---|-----------------------|---------|-----|------|------|--------------|---------|
| 急性腎傷害から無尿となり間質性肺炎を合併した乳児ネフローゼ症候群の1例 | 腎臓内科 | 花田卓也、梶原伸介、橋本興人、辻真之介、山中 司、楠元真由美、山口善道、福原信一、竹田洋樹、上谷良行、中川 拓、神田香子、田中亮二郎 | 日本小児腎不全学会雑誌 | 34 | | 313 | 315 | | 2014 |
| Treatment of postoperative tracheal granulation tissue with inhaled budesonide in congenital tracheal stenosis. | 小児外科 | Yokoi A, Nakao M, Bitoh Y, Arai H, Oshima Y, Nishijima E. | J Pediatr Surg | 49 | 2 | 293 | 295 | Elsevier | 2014 |
| 【ビジュアル小児外科疾患のフォローアップ・プログラム - 手術直後から遠隔期の問題点まで】小児嚢胞性肺疾患フォローアップ上の問題点 | 小児外科 | 横井暁子、谷本光隆、西島栄治 | 小児外科 | 46 | 11 | 1133 | 1137 | 東京医学社 | 2014 |
| 右肺低形成・left pulmonary artery sling・bridging bronchusを合併した先天性気管狭窄症に対してスライド気管形成術を施行した1例 | 小児外科 | 大片祐一、横井暁子、尾藤祐子、中尾 真、園田真理、谷本光隆、吉田拓哉、長谷川智巳、大嶋義博、西島栄治 | 日本小児外科学会雑誌 | 50 | 5 | 890 | 894 | 日本小児外科学会 | 2014.08 |
| 【直腸肛門奇形術後遠隔期の評価と再手術】便失禁に対する手術治療および排便管理法 | 小児外科 | 大片祐一、西島栄治、尾藤祐子、福澤宏明、中尾 真、横井暁子、鎌田直子 | 雑誌小児外科 | 46 | 1 | 53 | 56 | 東京医学社 | 2014.01 |
| Efficacy and histopathological esophageal wall damage of biodegradable esophageal stents for treatment of severe refractory esophageal anastomotic stricture in a child with long gap esophageal atresia. | 小児外科 | Okata YI, Hisamatsu C, Bitoh Y, Yokoi A, Nishijima E, Maeda K, Yoshida M, Ishida T, Azuma T, Kutsumi H. | Clin J Gastroenterol. | 7 | 6 | 496 | 501 | Springer | 2014.12 |
| ダブルバルーン小腸内視鏡にて診断し得た小児メッケル憩室の2症例 | 小児外科 | 薄井佳子、前田貢作、小野 滋、柳澤智彦、馬場勝尚、辻由 貴 | 日本小児外科学会雑誌 | 50 | 2 | 223 | 225 | 日本小児外科学会 | 2014 |
| 小児気管切開患者における気管孔閉鎖への対応 | 小児外科 | 笹村佳美、前田貢作、市村 恵一 | 小児耳鼻咽喉科 | 35 | 1 | 51 | 56 | 日本小児耳鼻咽喉科学会 | 2014 |
| 新生時期に発見された先天性気管狭窄症の治療方針 | 小児外科 | 馬場勝尚、薄井佳子、辻由貴 | 日本周産期・新生児医学会雑誌 | 50 | 1 | 125 | 128 | 日本周産期・新生児医学会 | 2014 |
| 小児外科専門医制度の現状と展望 | 小児外科 | 前田貢作、日本小児外科学会専門医制度委員会 | 日本小児外科学会雑誌 | 50周年記念号 | | 264 | 266 | 日本小児外科学会 | 2014 |
| 胆道閉鎖症術後生体肝移植後に発見された先天性気管狭窄症の1例 | 小児外科 | 関根沙知、前田貢作、田附裕子、柳澤智彦、辻由貴 | 日本小児外科学会雑誌 | 50 | 4 | 814 | 817 | 日本小児外科学会 | 2014 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|--------|---|------------------------------|-----|-----|------|------|----------------------------|---------|
| 喉頭・気管軟化症の手術適応とタイムイング | 小児外科 | 前田貢作、小野 滋 馬場勝尚 | 小児外科 | 45 | 8 | 788 | 792 | 東京医学社 | 2014 |
| 小児急性虫垂炎の治療成績と起因菌当施設における5年間の検討 | 小児外科 | 柳澤智彦、前田貢作 小野 滋、辻由 貴 | 日本小児外科学会雑誌 | 50 | 5 | 873 | 878 | 日本小児外科学会 | 2014 |
| Currarino 症候群の1例 | 小児外科 | 藤井裕之、宇賀神敦 木村有喜男、古川理恵子 相原敏則、前田貢作 五味 玲、杉本英治 | 臨床放射線 | 59 | 9 | 1239 | 1242 | 金柄出版 | 2014 |
| A new paradigm of scarless abdominal surgery in children: transumbilical minimal incision surgery. | 小児外科 | Tsuji Y, Maeda K, Ono S, Yanagisawa S, Baba K, Usui Y. | J Pediatr Surg. | 49 | 11 | 1605 | 1609 | Elsevier | 2014 |
| Surgical reconstruction and endoscopic pancreatic stent for traumatic pancreatic duct disruption. | 小児外科 | Kawahara I, Maeda K, Ono S, Kawashima H, Deie R, Yanagisawa S, Baba K, Usui Y, Tsuji Y, Fukuta A, Sekine S. | Pediatr Surg Int. | 30 | 9 | 951 | 956 | Springer | 2014 |
| Balloon tracheoplasty as initial treatment for neonates with symptomatic congenital tracheal stenosis. | 小児外科 | Ono S, Maeda K, Baba K, Usui Y, Tsuji Y, Kawahara I, Fukuta A, Sekine S. | Pediatr Surg Int. | 30 | 9 | 957 | 960 | Springer | 2014 |
| New operative strategy for refractory microcystic lymphangioma. | 小児外科 | Ono S, Tsuji Y, Baba K, Usui Y, Yanagisawa S, Maeda K. | Surg Today. | 44 | 6 | 1184 | 1187 | Springer | 2014 |
| Innominate artery compression of the trachea in patients with neurological or neuromuscular disorders. | 心臓血管外科 | Hasegawa T, Oshima Y, Hisamatsu C, Matsuhisa H, Maruo A, Yokoi A, Bitoh Y, Nishijima E, Okita Y. | Eur J Cardiothorac Surg | 45 | 2 | 305 | 311 | Oxford University Press | 2014.2 |
| Pediatric cardiothoracic surgery in patients with unilateral pulmonary agenesis or aplasia. | 心臓血管外科 | Hasegawa T, Oshima Y, Maruo A, Matsuhisa H, Yokoi A, Okata Y, Nishijima E, Yamaguchi M. | Ann Thorac Surg | 97 | 5 | 1652 | 1658 | Elsevier Inc. | 2014.5 |
| Aortic arch augmentation using a pulmonary artery autograft patch and a reversed left subclavian artery flap for an interrupted aortic arch type B complex. | 心臓血管外科 | Hasegawa T, Oshima Y, Kadowaki T. | Cardiol Young | 24 | 3 | 559 | 562 | Cambridge University Press | 2014.6 |
| Intraoperative tranexamic acid in pediatric bloodless cardiac surgery. | 心臓血管外科 | Hasegawa T, Oshima Y, Maruo A, Matsuhisa H, Tanaka A, Noda R, Yokoyama S, Iwasaki K. | Asian Cardiovasc Thorac Ann. | 22 | 9 | 1039 | 1045 | SAGE | 2014.11 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|--------|--|---------------------------------|-----|-----|------|------|----------------------------------|----------|
| The left anterior extra-pleural approach for innominate artery transection in a patient with tracheostomy and a neurological disorder | 心臓血管外科 | Hasegawa T, Oshima Y, Bitoh Y, Iwaki R | Interact Cardiovasc Thorac Surg | | | | | Oxford University Press | in press |
| Mini-Konno procedure using a 10 mm handmade valve for pulmonary atresia with intact ventricular septum and severe aortic stenosis. | 心臓血管外科 | Matsuhisa H, Oshima Y, Tanaka A, Kamei N. | Interact Cardiovasc Thorac Surg | 18 | 3 | 404 | 406 | Oxford University Press | 2014.3 |
| Pacing therapy in children. | 心臓血管外科 | Matsuhisa H, Oshima Y, Maruo A, Hasegawa T, Tanaka A, Noda R, Iwaki R, Matsushima S, Tanaka T, Kido S. | Circulation Journal | 78 | 12 | 2972 | 2978 | The Japanese Circulation Society | 2014.11 |
| Staged Biventricular Repair for Absent Aortic Valve in a Neonate | 心臓血管外科 | Iwaki R, Oshima Y, Maruo A, Hasegawa T, Matsuhisa H, Noda R, Matsushima S | Ann Thorac Surg | | | | | Elsevier Inc. | in press |
| Beating-Heart Surgery for Hypoplastic Left Heart Syndrome With Coronary Artery Fistulas | 心臓血管外科 | Matsushima S, Oshima Y, Maruo A, Hasegawa T, Matsuhisa H, Noda R, Iwaki R | Ann Thorac Surg | 98 | 5 | e103 | e105 | Elsevier Inc. | 2014.11 |
| Repair of unbalanced atrioventricular septal defect with small right ventricle. | 心臓血管外科 | Oshima Y, Maruo A, Hasegawa T, Matsuhisa H | Asian Cardiovasc Thorac Ann. | | | | | SAGE | in press |
| Mid-term results of mitral valve repair with autologous pericardium in pediatric patients | 心臓血管外科 | Takahashi H, Kadowaki T, Maruo A, Yutaka O, Oshima Y | J Heart Valve Dis | 23 | 3 | 302 | 309 | ICR Publishers | 2014.5 |
| Mitral commissural repair with autologous fresh pericardium in an infant. | 心臓血管外科 | Takahashi H, Kadowaki T, Maruo A, Okita Y, Oshima Y. | Ann Thorac Surg | 97 | 3 | 1064 | 1066 | Elsevier Inc. | 2014.3 |
| 上行大動脈-腹部大動脈バイパス・大動脈弁置換を同時に施行した遺残大動脈縮窄症・大動脈閉鎖不全症の1例 | 心臓血管外科 | 門脇 輔、大嶋義博 圓尾文子、長谷川智巳 松久弘典、野田 怜 | 日本心臓血管外科学会雑誌 | 43 | 1 | 1 | 2 | 日本心臓血管外科学会 | 2014.1 |
| Optimized surgical approach to third ventricular choroid plexus papillomas of young children based on anatomical variations | 脳神経外科 | Mizowaki T, Nagashima T, Yamamoto K, Kawamura A, Yoshida M, Kohmura E | World Neurosurg | 82 | 5 | e12 | e15 | | 2014 |
| 小児脳神経外科領域におけるトピック ス 小児悪性脳腫瘍の集学的治療（解説 / 特集） | 脳神経外科 | 長嶋達也、河村淳史 山元一樹、長嶋宏明 | 脳神経外科ジャーナル | 23 | 5 | 409 | 417 | | 2014 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|-------|------------------------------|--|-----------|------|------|------|-------------|-----------|
| 神経症候群（第2版）その他の神経疾患を含めて先天異常 / 先天奇形 先天形態形成異常その他 キアリ奇形（解説 / 特集） | 脳神経外科 | 長嶋達也 | 日本臨床 | 別冊神経症候群IV | | 212 | 216 | | 2014 |
| 小児中枢神経感染の外科的治療（解説） | 脳神経外科 | 長嶋達也、山元 一樹 | NEUROINFECTION | 19 | 1 | 25 | 31 | | 2014 |
| 頭部外傷 | 脳神経外科 | 山元一樹 | 小児内科 | 46 | 9 | 1315 | 1318 | 東京医学社 | .2014.9 |
| A novel pre-surgical maxillary orthodontic device using b-titanium wire for wide unilateral cleft lip. | 形成外科 | Taniguchi M, Oyama T, Kiya K | J Plast Reconstr Aesthet Surg | 67 | 2 | 167 | 172 | Elsevier | 2014 |
| Simultaneous correction of deviated columella and wide nostril floor using the Y-V advancement in unilateral cleft lip nasal deformities. | 形成外科 | Kiya K, Oyama T, Taniguchi M | J Plast Reconstr Aesthet Surg | 67 | 5 | 721 | 724 | Elsevier | 2014 |
| 合趾症術後に生じた足趾ケロイドの1例 | 形成外科 | 木矢孝一郎、大山知樹 谷口真貴 | 日本形成外科学会誌 | 34 | 2 | 119 | 123 | 春恒社 | 2014 |
| 片側唇裂初回手術における鼻基底・鼻柱・鼻孔形成について | 形成外科 | 大山知樹 | PEPARS | 89 | | 35 | 42 | 全日本病院出版社 | 2014 |
| Charcot-Marie-Tooth 病に伴う尖足に対する術後、凹足が進行し再手術が必要となった1例 | 整形外科 | 武岡由樹、薩摩眞一、 小林大介、衣笠真紀 | 近畿小児整形外科 | 27 | | 25 | 27 | 近畿小児整形外科懇話会 | 2014.12.1 |
| 小児科医が知っておきたい整形外科疾患 | 整形外科 | 薩摩眞一 | 兵庫小児科医会報 | | | 2 | 4 | 兵庫小児科医会 | 2014 |
| Clinical manifestations and treatment of retinoblastoma in Kobe Children's Hospital for 16 years | 眼科 | Okimoto S, Nomura K | J Pediatric Ophthalmology & Strabismus | 51 | 4 | 222 | 229 | Slack Inc. | 2014 |
| 追加手術が必要となった乳児内斜視症例についての検討 | 眼科 | 金井友範、野村耕治、 阪田紘奈、井上結香子 | 臨床眼科 | 68 | 3 | 345 | 350 | 医学書院 | 2014 |
| 弱視・斜視と視機能 Q2 乳児内斜視の手術時期について教えて下さい | 眼科 | 野村耕治 | あたらしい眼科 | 31 | 臨時増刊 | 180 | 181 | メヂカル菱出版 | 2014 |
| 未熟児網膜症のアップデート 眼科的管見と光凝固 | 眼科 | 野村耕治 | 日本の眼科 | 85 | 128 | 13 | 18 | 日本眼科医会 | 2014 |
| Question & Answer: 小児の花粉症治療におけるポイントと注意点について教えて下さい。 | 耳鼻咽喉科 | 阪本浩一 | 鼻アレルギーフロンティア | 14 | 1 | 38 | 39 | メジカルレビュー社 | 2014.1 |
| 喉頭アレルギーへの薬物治療 | 耳鼻咽喉科 | 阪本浩一 | 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 86 | 3 | 238 | 244 | 医学書院 | 2014.3 |
| 小児睡眠時無呼吸症候群の手術前後におけ QOL 質問表 (OSA-18: 日本語版) の有用性と問題点 | 耳鼻咽喉科 | 阪本浩一、大津雅秀 | 口腔・咽頭科 | 27 | 2 | 191 | 197 | 日本口腔咽頭科学会 | 2014 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|-------|---|---------------------------------|-----|-----|------|-----|-------------------------|---------|
| Subgroups of enlarged vestibular aqueduct in relation to SLC26A4 mutations and hearing loss. | 耳鼻咽喉科 | Okamoto Y, Mutai H, Nakano A, Arimoto Y, Sugiuchi T, Masuda S, Morimoto N, Sakamoto H, Ogahara N, Takagi A, Taiji H, Kaga K, Ogawa K, Matsunaga T | Laryngoscope | 124 | 4 | 134 | 140 | | 2014 |
| Vaginal reconstruction in female cloacal exstrophy patients. | 泌尿器科 | Hisamatsu E, Nakagawa Y, Sugita Y | Urology | 84 | 3 | 681 | 684 | Elsevier | 2014.9 |
| 腹腔鏡下精巢固定術 | 泌尿器科 | 杉多良文、奈良健平 中川賢清、清末晶子 久松英治 | Japanese Journal of Endourology | 27 | 2 | 293 | 298 | 日本泌尿器内視鏡学会 | 2014.9 |
| こどもの抜管 | 麻酔科 | 香川哲郎 | Anet | 18 | 2 | 3 | 6 | 丸石製薬 | 2014 |
| 術中血圧管理に難渋した腹部神経芽細胞腫摘出術の麻酔経験 | 麻酔科 | 小嶋大樹、土居ゆみ 香川哲郎 | 日本臨床麻酔学会雑誌 | 34 | 3 | 416 | 422 | 日本臨床麻酔学会 | 2014.5 |
| 小児の末梢神経ブロック | 麻酔科 | 香川哲郎 | LISA | 21 | 9 | 864 | 869 | メデイカルサイエンス インターナショナル | 2014.9 |
| 兵庫県立こども病院における日帰り手術 | 麻酔科 | 土居ゆみ、香川哲郎 | 日本小児麻酔学会誌 | 20 | 1 | 215 | 221 | 日本小児麻酔学会誌 | 2014.9 |
| 食道異物によって気管食道瘻をきたした小児の麻酔経験 | 麻酔科 | 野々村智子、古賀聡人 香川哲郎 | 日本小児麻酔学会誌 | 20 | 1 | 227 | 230 | 日本小児麻酔学会誌 | 2014.9 |
| N-Terminal pro-brain natriuretic peptide levels in dichorionic diamniotic twins with selective intrauterine growth restriction. | 新生児科 | Fujioka K, Mizobuchi M, Sakai H, Iwatani S, Wada K, Yoshimoto S, Nakao H. | Kobe J Med Sci. | 59 | 4 | E141 | 148 | | 2014.3 |
| Neonatal leukemoid reaction associated with Candida albicans chorioamnionitis. | 新生児科 | Iwatani S, Mizobuchi M, Sofue T, Tanaka S, Sakai H, Yoshimoto S, Nakao H. | Pediatr Int. | 56 | 2 | 277 | 279 | | 2014.2 |
| Three-dimensional computed tomographic findings of bridging bronchus with pulmonary artery compression. | 新生児科 | Iwatani S, Mizobuchi M, Yoshimoto S, Bitoh Y, Nakao H. | J Pediatr. | 165 | 1 | 203 | | | 2014.7 |
| Patterns of increases in interleukin-6 and C-reactive protein as predictors for white matter injury in preterm infants. | 新生児科 | Inomata K, Mizobuchi M, Tanaka S, Iwatani S, Sakai H, Yoshimoto S, Nakao H. | Pediatr Int. | 56 | 6 | 851 | 855 | | 2014.12 |
| Increased levels of interleukin-6 in tracheal aspirate fluid are indicative of fetal inflammation in ventilated extremely low gestational age newborns. | 新生児科 | Iwatani S, Mizobuchi M, Tanaka S, Fujioka K, Wada K, Sakai H, Yoshimoto S, Nakao H. | Kobe J Med Sci. | 60 | 1 | E19 | 24 | | 2014.6 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|------|---|--|-----------------|-----|-----------|------|-----|---------|
| Successful management of an extremely premature infant with congenital candidiasis. | 新生児科 | Iwatani S, Murakami Y, Mizobuchi M, Fujioka K, Wada K, Sakai H, Yoshimoto S, Nakao H. | AJP Rep. | 4 | 1 | 5 | 8 | | 2014.5 |
| Survival of Newborns with Thanatophoric Dysplasia | 新生児科 | Wada K, Fujioka K, Nakao H. | JMPI. | 1 | 4 | 1 | 4 | | 2014 |
| Congenital adrenal hyperplasia: A possible risk factor for neonatal adrenal hemorrhage. | 新生児科 | Iwatani S, Takeoka E, Mizobuchi M, Yoshimoto S, Nakao H. | J Med Cases. | 5 | 9 | 486 | 487 | | 2014 |
| Trisomy 8 mosaicism with pyloric atresia and situs ambiguus. | 新生児科 | Iwatani S, Takeoka E, Mizobuchi M, Yoshimoto S, Iwaki R, Bitoh Y, Nakao H. | Pediatr Int. | 56 | 6 | 938 | 939 | | 2014.12 |
| Kasabach-Merritt 症候群を合併した巨大肝血管腫にビンクリスチンが奏効した早産児例. | 新生児科 | 田中 聡、岩谷壮太 藤岡一路、和田佳子 坂井仁美、溝淵雅巳 芳本誠司、中尾秀人 | 日本小児科学会雑誌 | 118 | 1 | 52 | 56 | | 2014.1 |
| 人工呼吸管理を要する超早産児における気管内吸引液分析の有用性. | 新生児科 | 溝淵雅巳、岩谷壮太 田中 聡、藤岡一路 和田佳子、坂井仁美 芳本誠司、中尾秀人 | 近畿新生児研究会誌 | 22 | | 12 | 16 | | 2014 |
| 神経管閉鎖障害を合併した脊椎肋骨異形成症の2例. | 新生児科 | 和田佳子、坂井仁美 芳本誠司、田中 聡 藤岡一路、岩谷壮太 溝淵雅巳、中尾秀人 | 近畿新生児研究会誌 | 22 | | 29 | 32 | | 2014 |
| 第3次周産期医療センターで対応したドバイからの帰国超早産児の1例 | 新生児科 | 藤岡一路、上村和也 中尾秀人 | 日本産科医学雑誌 | 7 | 1 | 40 | 42 | | 2014 |
| 当新生児科で経験した仙尾部奇形腫17例の臨床経過. | 新生児科 | 岩谷壮太、武岡恵美子 浅野貴大、和田佳子 坂井仁美、溝淵雅巳 芳本誠司、中尾秀人 | 日本周産期・新生児医学会雑誌 50巻3号 Page945-951, 2014. | 50 | 3 | 945 | 951 | | 2014.9 |
| 一絨毛二羊膜性双胎における出生時血清NT-pro BNP濃度と生後早期心不全との関連性に関する研究. | 新生児科 | 藤岡一路、坂井仁美 中尾秀人 | 神緑会学術誌 | 30 | | 55 | 57 | | 2014 |
| 広範囲型Hirschsprung病と前頭部白毛症から診断したWaaerdenburg症候群IV型の1例. | 新生児科 | 祖父江俊樹、岩谷壮太 坂井仁美、溝淵雅巳 芳本誠司、中尾秀人 | 周産期医学 | 44 | 9 | 1259 | 1262 | | 2014.9 |
| Low total IgM values and high cytomegalovirus loads in the blood of newborns with symptomatic congenital cytomegalovirus infection. | 産科 | Kobayashi Y, Morioka I, Koda T, Nakamachi Y, Okazaki Y, Noguchi Y, Ogi M, Chikahira M, Tamamura K, Ebina Y, Funakoshi T, Ohashi M, Iijima K, Inoue N, Kawano S, Yamada H. | J Perinat Med[Epub ahead of print] | doi:10.1515/jpm | | 2014-0071 | | | 2014 |

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 書籍名 | 第○巻 | 第○号 | 開始頁 | 終了頁 | 発行元 | 発行年月 |
|---|-------|--|------------------------------|-----|-----|------|------|--------------|--------|
| Intraoperative red cell salvage during obstetric surgery in 50 Japanese women | 産科 | Morikawa M, Kuramoto A, Nakayama M, Oguchi H, Hasegawa M, Funakoshi T, Furukawa S, Hirayama E, Kanagawa T, Kaji T, Kasai M, Konishi Y, Yamamoto S, Itakura A, Maeda M, Kobayashi T, Minakami H | Int J Gynaecol Obstet | 128 | 3 | 256 | 259 | | 2014 |
| 当院で管理した一絨毛一羊膜双胎6例の検討 | 産科 | 葉 宜慧、船越 徹 牧志 綾、高松祐幸 喜吉賢二、佐本 崇 | 産婦人科の進歩 | 66 | 2 | 163 | 168 | 近畿産科婦人科学会 | 2014 |
| 平成25年度神緑会研究事業年間報告書妊娠中期以降に超音波画像診断で胎児形態異常を指摘された症例の背景、妊娠転機と児の予後 | 産科 | 山崎峰夫、房 正規 船越 徹、左右田裕生 西島光浩、森田宏紀 | 神緑会学術誌 | 30 | | 10 | 14 | 一般社団法人神緑会 | 2014 |
| 【異常の早期発見 胎児心拍数モニタリングの読み方 医師との共通認識、冷静な判断につながる最新知識】分娩中に正常から異常に移行した事例 | 産科 | 船越 徹 | 臨床助産ケア | 6 | 5 | 7 | 11 | 日総研出版 | 2014 |
| 常位胎盤早期剥離 一発症予知と対策 一娩出時の母児救命 一超緊急帝王切開 | 産科 | 船越 徹 | 産婦人科の実際 | 63 | 12 | 1973 | 1978 | 金原出版株式会社 | 2014 |
| 第66回日本産科婦人科学会学術講演会ランチョンセミナー27 「当科における切迫早産管理」 | 産科 | 船越 徹 | メデikalトリビューン 2014年7月21日特別企画” | | | 2 | 4 | メデikalトリビューン | 2014 |
| 胎児診断された腹腔内腫瘍の一例 | 病理診断科 | 吉田牧子、谷本光隆 福澤宏明、横井暁子 西島栄治、小阪嘉之 和田佳子、牧志 綾 赤坂好宣、杉岡勇典 | 日本小児血液・がん学会雑誌 | 51 | 1 | 82 | 82 | 日本小児血液・がん学会 | 2014 |
| 小児の嘔吐下痢症患者の看護 | 看護部 | 鳴滝由佳 | Nursing Canvas | 3 | 1 | | | 学研メデikal | 2014 |
| 特殊ユニット、他のチーム医療から考える褥瘡ケア～小児専門病院 | 看護部 | 鎌田直子 | WOC Nursing | 2 | 4 | 39 | 46 | 医学出版 | 2014.4 |
| HIT(ヘパリン起因性血小板減少症) | 検査部 | 松尾 美也子 | 救急・集中治療D I Cのすべて | 26 | 5・6 | 963 | 970 | | |
| 特殊ミルクおよび経腸栄養剤使用時の微量栄養素欠乏について | 栄養管理課 | 鳥井隆志 | 臨床栄養 | 125 | 7 | 790 | 791 | 医歯薬出版 | 2014 |

3) 学会発表

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|---------|---|--------|----------------------|-------|------------|
| SLEにTTPを合併し、血漿交換、ステロイドパルス療法が奏功した1例 | 救急集中治療科 | 上村和也、梶原伸介、辻真之介、楠元真由美、中岸保夫、山口義道、福原信一、 | 第261回 | 日本小児科学会兵庫県 地方会 | 西宮 | 2014.2.15 |
| 急激な経過を辿ったEBウイルス関連血球貪食症候群 (EBVAHS) の一例 | 救急集中治療科 | 日外祐理、中岸保夫、辻真之介、山口義道、竹田洋樹 | 第261回 | 日本小児科学会兵庫県 地方会 | 西宮 | 2014.2.15 |
| 集中治療を要した重症広範囲熱傷の一例 | 救急集中治療科 | 梶原伸介、橋本興人、辻真之介、田中司、楠元真由美、花田卓也、山口義道、竹田洋樹、上谷良行 | 第27回 | 近畿小児科学会 | 奈良 | 2014.3.9 |
| 当院小児救急医療センターを受診した小児外傷性腎損傷の臨床的検討 | 救急集中治療科 | 辻真之介、梶原伸介、楠元真由美、山口道、福原信一、竹田洋樹、杉多良文、田中亮二郎、上谷良行 | 第49回 | 日本小児腎臓病学会 | 秋田 | 2014.6.5-7 |
| 集中治療を要した重症広範囲熱傷の一例 | 救急集中治療科 | 梶原伸介、橋本興人、辻真之介、田中司、楠元真由美、花田卓也、山口義道、竹田洋樹、上谷良行 | 第28回 | 日本小児救急医学会学術集会 | 横浜 | 2014.6.6-7 |
| 超音波検査(エコー)による肺間質性病変検出 | 救急集中治療科 | 福原信一、辻真之介、楠元真由美、梶原伸介、山口義道、竹田洋樹、上谷良行 | 第28回 | 日本小児救急医学会学術集会 | 横浜 | 2014.6.6-7 |
| 小児の重症度評価、軽度外傷 | 救急集中治療科 | 上谷良行 | 平成25年度 | 兵庫県医師会小児初期救急医療研修会 | 神戸 | 2014.2.23 |
| 小児の重症度評価、軽度外傷 | 救急集中治療科 | 上谷良行 | 平成26年度 | 兵庫県医師会小児初期救急医療研修会 | 神戸 | 2014.11.16 |
| TBX1遺伝子にフレームシフト変異を認めた副甲状腺機能低下症の1例 | 代謝内分泌科 | 日外祐理、谷口紫野、野村安隆、尾崎佳代、郷司克己、飯島一誠 | 第87回 | 日本内分泌学会学術総会 | 福岡 | 2014.4.24 |
| 偽性低アルドステロン症1型と肥大型心筋症が併存した家系における遺伝子解析 | 代謝内分泌科 | 尾崎佳代、日外祐理、飯島一誠、郷司克己 | 第48回 | 日本小児内分泌学会 | 浜松 | 2014.9.27 |
| 偽性低アルドステロン症1型と肥大型心筋症が併存した家系 | 代謝内分泌科 | 尾崎佳代、郷司克己 | 第3回 | KOBE内分泌・代謝スキルアップセミナー | 神戸 | 2014.8.23 |
| 若年性特発性関節炎のドブライ併用超音波検査とMRIの比較 | リウマチ科 | 二野菜々子 | 第117回 | 日本小児科学会学術集会 | 名古屋 | 2014.4.11 |
| 全身型若年性特発性関節炎からマクロプロアノーシ活性化症候群への連続的な変化について | リウマチ科 | 中岸保夫 | 第58回 | 日本リウマチ学会総会・学術集会 | 東京都 | 2014.4.24 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第〇回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|-------------------|---|-------|-----------------------------------|---------|--------------|
| 乳幼児期に発症した高安静脈炎の3例の検討 | リウマチ科 | 水田麻雄 | 第24回 | 日本小児リウマチ学会 総会・学術集会 | 仙台市 | 2014.10.4 |
| NCS in children with prolonged febrile seizures | 脳神経内科 | Masahiro Nishiyama, Tsukasa Tanaka, Kyoko Fujita, Azusa Maruyama and Hiroaki Nagase | | ACNS2014 annual meeting & courses | Atlanta | 2014.2.4-9 |
| 重症熱性けいれん概念を用いた急性脳症後ろ向きコホート研究(第4報) 急性脳症治療を旨指した一般人口研究のための予備的研究 | 脳神経内科・ 救急集中治療科 | 佐々木香織、永瀬裕朗、丸山あずさ、 藤田杏子、西山将広、田中司、上谷良行、 貫名貞之、宅見徹、西山敦史、親里嘉展、 河田知子、佐伯啓介、高見勇一、佐竹恵理子 | 第56回 | 日本小児神経学会総会 | 浜松 | 2014.5.29-31 |
| 重症熱性けいれん概念を用いた急性脳症後ろ向きコホート研究(第3報) 発症早期にAST上昇のない症例の臨床像と脳平温療法の有効性 | 脳神経内科 | 西山将広、 永瀬裕朗 | 第56回 | 日本小児神経学会総会 | 浜松 | 2014.5.29-31 |
| 重症熱性けいれん概念を用いた急性脳症後ろ向きコホート研究(第2報) 発症6時間以内のASTは劇症型急性脳症、重度後遺症と関連する | 脳神経内科 | 田中司、西山将広、藤田杏子、丸山あずさ、 永瀬裕朗 | 第56回 | 日本小児神経学会総会 | 浜松 | 2014.5.29-31 |
| 重症熱性けいれん概念を用いた急性脳症後ろ向きコホート研究(第1報) 重症熱性けいれん概念導入前後での神経学的予後の変化 | 脳神経内科 | 永瀬裕朗、田中司、西山将広、藤田杏子、 丸山あずさ | 第56回 | 日本小児神経学会総会 | 浜松 | 2014.5.29-31 |
| 神経学的基礎疾患を有する症例における急性脳症での神経学的後遺症の予測 | 脳神経内科 | 西山将広、 永瀬裕朗 | 第117回 | 日本小児科学会学術集会 | 名古屋 | 2014.4.11 |
| 熱性けいれんと急性脳症 いつ、どのように見分けるか? | 脳神経内科 | 永瀬裕朗 | 第1回 | 神戸西地域小児疾患 研究会 | 神戸 | 2014.11.15 |
| 熱性けいれんと急性脳症 いつ・どのように見分けるか | 脳神経内科 | 永瀬裕朗 | 第48回 | 丹波小児臨床懇話会 | 柏原 | 2014.07.10 |
| シンポジウム7 「神経救急における臨床脳波の有用性」小児救急・集中治療領域における連続脳波モニタリング | 脳神経内科 | 丸山あずさ | 第44回 | 日本臨床神経生理学会 ・学術大会 | 福岡 | 2014.11.20 |
| 小児てんかん重積状態 | 脳神経内科 | 永瀬裕朗 | | 北播磨てんかん カンファレンス | 西脇 | 2014.07.03 |
| 同種造血幹細胞移植併用 II31-MIBG 内照射療法を施行した再発神経芽腫の3例 | 血液・腫瘍内科 | 高藤哲、長谷川大一郎、宮田憲二、越智聡史、 齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、矢内友子、 川崎圭一郎、小阪嘉之、同外科 横井曉子、 同放射線科 杉岡勇典、副島俊典、赤坂好宣、 同病理診断科 吉田牧子、金沢大学医薬保健 研究領域医学系核医学 若林大志、萱野大樹、 絹谷清剛 | | 近畿小児がん研究会 | 滋賀 | 2014.2.15 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第〇回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|-------------------------------|--|------|---|-----------|-----------------|
| 当院における網膜芽細胞腫治療の現状と課題—眼球温存を目指して— | 血液・腫瘍内科 | 越智聡史、長谷川大一郎、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、矢内友子、川崎圭一郎、小坂嘉之、同眼科 野村耕治 | | 西日本小児がんセミナー | 大阪 | 2014.3.1 |
| 持続する消化器症状を呈する造血細胞移植後小児患者における消化管内視鏡検査の有用性 | 血液・腫瘍内科 1, 小児外科 2, 病理診断科 3 | 宮田憲二、齋藤敦郎 1、長谷川大一郎 1、越智聡史 1、神前愛子 1、石田敏章 1、矢内友子 1 川崎圭一郎 1、福澤宏明 2、尾藤祐子 2、横井暁子 2、吉田牧子 3、小坂嘉之 1 | | 造血細胞移植学会 | 沖縄 | 2014.3.8 |
| 第一寛解期の中間リスク小児急性骨髄性白血病に対する造血幹細胞移植の意義を検証する臨床決断分析 | 血液・腫瘍内科 | 長谷川大一郎、他 | | 造血細胞移植学会 | 沖縄 | 2014.3.8 |
| 「Ph-like ALL について」 | 血液・腫瘍内科 | 齋藤敦郎 | | 日本小児白血病研究会 総会 | 大阪 | 2014.5.17 |
| 高リスク骨髄異形成症候群に対する同種骨髄移植 | 血液・腫瘍内科 | 長谷川大一郎 | | 小児再生不良性貧血/ 骨髄異形成症候群研究 会総会 | 名古屋 | 2014.6.1 |
| High dose topotecan, melphalan, and cyclophosphamide (TMC) with autologous peripheral blood stem cell transplant for advanced medulloblastoma, supratentorial primitive neuroectodermal tumors, and pineoblastoma | 血液・腫瘍内科 | Toshiaki Ishida, Daiichiro Hasegawa, Kenji Miyata, Satoshi Ochi, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Tomoko Yanai, Keiichiro Kawasaki, Kazuki Yamamoto, Atsufumi Kawamura, Tatsuya Nagashima, Yoshinobu Akasaka, Toshinori Soejima, Makiko Yoshida, and Yoshiyuki Kosaka. | | International Symposium Pediatric Oncology, 2014 | Singapore | 2014.6.28-7.2 |
| Risk adapted-postoperative chemotherapy and attempt to optimize a dose of cranial irradiation for childhood medulloblastoma | 血液・腫瘍内科 | Toshiaki Ishida, Daiichiro Hasegawa, Kenji Miyata, Satoshi Ochi, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Tomoko Yanai, Keiichiro Kawasaki, Atsushi Kawamura, Tatsuya Nagashima, Yoshinobu Akasaka, Toshinori Soejima, Maiko Yoshida, and Yoshiyuki Kosaka. | | 日本臨床腫瘍学会 | 福岡 | 2014.7.17-7.19 |
| 右心房内進展を伴った肝芽腫の一例 | 血液・腫瘍内科 | 高藤哲、二野菜々子、植村優、横井健人、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、矢内友子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小坂嘉之 | | 兵庫県小児科地方会 | 姫路 | 2014.9.27 |
| Aggressiveness of End of Life care for Neuroblastoma Patients | 血液・腫瘍内科 | Tomoko Yanai, Kenji Miyata, Satoshi Ochi, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Toshiaki Ishida, Daiichiro Hasegawa, Keiichiro Kawasaki, Yoshiyuki Kosaka | | International Society of Pediatric Oncology, 2014 | Toronto | 2014.9.21-24 |
| Prognostic impact of absolute lymphocyte counts at the end of induction in pediatric non-T cell acute lymphoblastic leukemia. | 血液・腫瘍内科 | Hirase Satoshi, Hasegawa Daiichiro, Yanai Tomoko, Saito Atsuro, Tanaka-Kozaki Aiko, Ishida Toshiaki, Kawasaki Keiichiro, Yamamoto Noriyuki, Kubokawa Ikuo, Mori Takeshi, Akira Hayakawa, Iijima Kazumoto, and Kosaka Yoshiyuki. | 第76回 | 日本血液学会総会 | 大阪 | 2014.10.31-11.2 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|---------|---|------|-------------|-------|------------------|
| Clonal expansion of an inv (11) (q21q23) in the absence of leukemia. | 血液・腫瘍内科 | Ochi Satoshi, Hasegawa Daiichiro, Ishida Toshiaki, Mori Takeshi, Nino Nanako, Takafuji Satoshi, Miyata Kenji, Saito Atsuro, Kozaki-Tanaka Aiko, Kawasaki Keichiro, and Kosaka Yoshiyuki | 第76回 | 日本血液学会総会 | 大阪 | 2014.10.31-11.2 |
| Pediatric AML with FLT3-ITD/WT, NUP98-NSD1, NPM1, and WT1 mutations affected the clinical outcome | 血液・腫瘍内科 | Akira Shimada, Yuka Yamashita, Daisuke Tomizawa, Norio Shiba, Akio Tawa, Tomoyuki Watanabe, Toshiya Yokozawa, Hideki Nakayama, Takashi Taga, Shotaro Iwamoto, Kiminari Terui, Hiroshi Moritake, Akitoshi Kinoshita, Hiroyuki Takahashi, Hideki Nakayama, Katsuyasu Koh, Hiroaki Goto, Yoshiyuki Kosaka, Akiko Saito, Junichiro Fujimoto, Keizo Horibe, Yusuke Hara, Kentaro Oki, Yasuhide Hayashi, Souich Adachi. | 第76回 | 日本血液学会総会 | 大阪 | 2014.10.31-11.2 |
| Long-term outcome of 100 children with moderate aplastic anemia | 血液・腫瘍内科 | Hiroshi Yagasaki, Hiromasa Yabe, Akira Ohara, Yoshiyuki Kosaka, Kazuko Kudo, Roji Kobayashi, Shoutchi Ohga, Akira Morimoto, Kenichiro Watanabe, Hideki Muramatsu, Yoshiyuki Takahashi, Seiji Kojima | 第76回 | 日本血液学会総会 | 大阪 | 2014.10.31-11.2 |
| JAK2, MPL and CALR mutations in children with essential thrombocytopenia | 血液・腫瘍内科 | Yuko Sekiya, Yusuke Okuno, Hideki Muramatsu, Ismael Olfat, Nozomu Kawashima, Atsushi Narita, Xinan Wan, Yuyi Xu, Atsahito Hama, Hiroyuki Fujisaki, Imamura Toshihiro, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka, Shousuke Sunami, Yoshitoshi Ohtsuka, Shouichi Ohga, Yoshiyuki Takahashi, Seiji Kojima, Akira Shimada | 第76回 | 日本血液学会総会 | 大阪 | 2014.10.31-11.2 |
| Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for infants with acute lymphoblastic leukemia | 血液・腫瘍内科 | Motohiro Kato, Daiichiro Hasegawa, Katsuyasu Koh, Jiro Inagaki, Keisuke Kato, Hiroaki Goto, Junko Takita, Hiromasa Yabe, Akhisa Sawada, Yoshiko Atsuta, Koji Kato | 第76回 | 日本血液学会総会 | 大阪 | 2014.10.31-11.2 |
| ビノレルビン+シクロホスファミドによる低侵襲外来治療にて長期間無瘤生存を維持している primitive neuroectodermal tumor の一例 | 血液・腫瘍内科 | 植村 優、宮田 薫二、長谷川 大 一 郎、二野 菜 々 子、横 井 健 人、高 藤 哲、越 智 聡 史、齋 藤 敦 郎、神 前 愛 子、石 田 敏 章、矢 内 友 子、川 崎 圭 一 郎、小 阪 嘉 之、同 脳 神 経 外 科 山 元 一 樹、河 村 淳 史、長 嶋 達 也、同 放 射 線 科 杉 岡 勇 典、副 島 俊 典、赤 坂 好 宣、同 病 理 診 断 科 吉 田 牧 子 | 第56回 | 小児血液・がん学会総会 | 岡山 | 2014.11.26-11.30 |
| 自己免疫性溶血性貧血の経過中に再燃を契機として自己免疫性好中球減少症を発症した1例 | 血液・腫瘍内科 | 横井健人、石田敏章、二野菜々子、高藤哲、植村優、齋藤敦郎、神前愛子、矢内友子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之 | 第56回 | 小児血液・がん学会総会 | 岡山 | 2014.11.26-11.30 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|---------|--|----------|---|---------------|------------------|
| 性早熟により発見された若年性顆粒膜細胞腫の一例 | 血液・腫瘍内科 | 二野菜々子、長谷川大一郎、植村優、高藤哲、横井健人、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、矢内友子、川崎圭一郎、小坂嘉之、同小児外科 横井暁子、園田真理、同放射線科 杉岡勇典、赤坂好宣、同病理診断科 吉田敦子 | 第56回 | 小児血液・がん学会総会 | 岡山 | 2014.11.26-11.30 |
| JACLS ALL-02 研究登録急性リンパ性白血病症例における L-asparaginase 関連高血糖発症のリスク因子の検討 | 血液・腫瘍内科 | 吉田秀樹、今村俊彦、齋藤明子、高橋良博、米延総一、長谷川大一郎、出口隆生、橋井佳子、河崎裕英、遠藤幹也、堀吉樹、鈴木信寛、小坂嘉之、加藤剛二、八木啓子、原純一、小田慈、堀部敏三、佐藤篤 | 第56回 | 小児血液・がん学会総会 | 岡山 | 2014.11.26-11.30 |
| 神経芽腫幹細胞の発生・分化における細胞内小輸送の制御因子 Rab6B の役割 | 血液・腫瘍内科 | 西村範行、フアマテイフアンヒェン、ハルトモトリブダイ、山本暢之、平瀬敏志、早川晶、矢内友子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小坂嘉之、松尾雅文、飯島一誠、西尾久英 | 第56回 | 小児血液・がん学会総会 | 岡山 | 2014.11.26-11.30 |
| Absolute lymphocyte counts at the end of induction is a prognostic indicator in childhood acute lymphoblastic leukemia. | 血液・腫瘍内科 | Hasegawa D, Hirase S, Takahashi Y, Saito A, Tanaka-Kozaki A, Ishida T, Yanai T, Kawasaki K, Yamamoto N, Kubokawa I, Mori T, Hayakawa A, Nishimura N, Iijima K, and Kosaka Y. | The 56th | Annual Meeting of Maerican Society of Hematology, San Francisco, 2014 | San Francisco | 2014.12.5-12.8 |
| Comparison of Stem Cell Transplantation with Reduced Intensity Conditioning (RIC) and Myeloablative Conditioning (MAC) for Children with Acute Lymphoblastic Leukemia | 血液・腫瘍内科 | Kato K, Kato M, Hasegawa D, Kawasaki H, Ishida H, Okamoto Y, Koh K, Innoue M, Inagaki J, Kato K, Sakamaki H, Yabe H, Kawa K, Suzuki R, Aisuta Y | The 56th | Annual Meeting of Maerican Society of Hematology, San Francisco, 2014 | San Francisco | 2014.12.5-12.8 |
| Clinical Significance of LNK (SH2B3) Expression in Pediatric B Cell Precursor Acute Lymphoblastic Leukemia. | 血液・腫瘍内科 | Yano M, Imamura T, Sakamoto K, Asai D, Kano G, Hosoi H, Deguchi T, Hashii Y, Endo M, Sato A, Kawasaki H, Kosaka Y, Kato K, Hori H, Yumura K, Hara J, Oda M, Stephen T, Oh, and Horibe K. | The 56th | Annual Meeting of Maerican Society of Hematology, San Francisco, 2014 | San Francisco | 2014.12.5-12.8 |
| Differentiating Burkitt Lymphoma from Burkitt-like Lymphoma in Pediatrics: Report from the Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group B-NHL03 Study | 血液・腫瘍内科 | Osumi T, Sekimizu M, MD, Mori T, Fukano R, Koga Y, Ueyama J, Tanaka F, Ohki K, Mitsui T, Mori T, MD, Sunami S, Kada A, Saito A, Horibe K, Koh K, Komada Y, Kosaka Y, Ohshima I, Nakazawa A, Tsurusawa M, Kobayashi R, Adachi S. | The 56th | Annual Meeting of Maerican Society of Hematology, San Francisco, 2014 | San Francisco | 2014.12.5-12.8 |
| High Event-Free Survival Rate with Minimum-Dose-Anthracycline Treatment in Childhood Acute Promyelocytic Leukemia: A Nationwide Prospective Study By the Japanese Pediatric Leukemia / Lymphoma Study Group (JPLSG) | 血液・腫瘍内科 | Takahashi H, MD, Watanabe T, Kinoshita A, Yuza Y, Moritake H, Terui K, Iwamoto S, Nakayama H, Shimada A, Kudo K, Taki T, Yabe M, Matsushita H, Yamashita Y, Koike K, Ogawa A, Kosaka Y, Tomizawa D, Taga T, Saito A, Horibe K, Nakahata T, Miyachi H, Tawa A, MD, and Adachi S | The 56th | Annual Meeting of Maerican Society of Hematology, San Francisco, 2014 | San Francisco | 2014.12.5-12.8 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第〇回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|---------|--|-----|---|-------------|----------------|
| 腹部膨満を来した両側網膜芽細胞腫の一例 | 血液・腫瘍内科 | 越智聡史、長谷川大一郎、齋藤敦郎、 宮田憲二、神前愛子、石田敏章、矢内友子、 川崎圭一郎、杉岡勇典、赤坂好宣、横井暁子、 野村耕治、小阪嘉之 | | 兵庫県 tumor board | 神戸 | 2014.1.17 |
| ビノレルビン+シクロホスファミドによる低侵襲外来治療にて長期間無増悪生存を維持している primitive neuroectodermal tumor の一例 | 血液・腫瘍内科 | 宮田憲二、長谷川大一郎、高藤哲、越智聡史、 齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、 | | 平成 25 年度 JPBTC 総 会・研究会 | 東京・ 慶応大学 | 2014.1.26 |
| EBV 関連リンパ腫用肉芽腫症の一例 | 血液・腫瘍内科 | 齋藤敦郎、長谷川大一郎、高藤哲、宮田憲二、 越智聡史、神前愛子、石田敏章、矢内友子、 川崎圭一郎、小阪嘉之 | | 神戸血液病研究会 | 神戸 | 2014.2.22 |
| “ 関西における小児がん拠点病院の役割 ” | 血液・腫瘍内科 | 小阪嘉之 | | 小児がん拠点病院と地域 サポート シンポジウム 神戸ポータルアイランド臨 床研究センター | 神戸 | 2014.3.16 |
| t (11;19) AML の一例 | 血液・腫瘍内科 | 上村和也、矢内友子、高藤哲、二野菜々子、 植村優、横井健人、齋藤敦郎、神前愛子、 石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、 小阪嘉之 | | 兵庫県小児血液疾患症 例検討会（神戸大学） | 神戸 | 2014.6.6 |
| “ 小児がんの治療と新ことも病院について ” | 血液・腫瘍内科 | 小阪嘉之 | | リレーフォーライフ講 演会 | 神戸 | 2014.6.7 |
| 自然寛解傾向を認めた血友病 B の兄弟例 | 血液・腫瘍内科 | 植村優、二野菜々子、横井健人、高藤哲、 齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、矢内友子、 長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之 | | 血友病研究会 | 大阪 | 2014.6.14 |
| 「臍帯血移植後、静脈閉塞性肝疾患及び移植関連非典 型溶血性尿毒症候群など多彩な合併症を合併して いる家族性血球貪食性リンパ組織球症 3 型の一例」 | 血液・腫瘍内科 | 二野菜々子、長谷川大一郎、齋藤敦郎、 上村和也、高藤哲、植村優、横井健人、 神前愛子、石田敏章、矢内友子、川崎圭一郎、 小阪嘉之、京都大学医学部発生発達医学講座 発達小児科学 八角高裕 | | PID 研究会 | 大阪 | 2014.7.19 |
| MTX 関連白質脳症を合併し、極早期中枢神経単独再 発を来した BCP-ALL の一例 | 血液・腫瘍内科 | 高藤哲、長谷川大一郎、二野菜々子、植村優、 横井健人、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、 矢内友子、川崎圭一郎、小阪嘉之 | | JACLS セミナー | 盛岡 | 2014.7.12-7.13 |
| “ 兵庫県立こども病院における小児がん治療 ” | 血液・腫瘍内科 | 小阪嘉之 | | 小児がんに対する粒子 線治療を考えるフォー ラム 兵庫県看護協会 ハーモニーホール | | 2014.7.13 |
| 右心房内進展を伴った肝芽腫の一例 | 血液・腫瘍内科 | 高藤哲、二野菜々子、植村優、横井健人、 齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、矢内友子、 長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之 | | 小児がんカンファレンス | 大阪 | 2014.8.2 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|---------|--|------|---|-------|--------------|
| 「臍帯血移植後、静脈閉塞性肝疾患及び移植関連非典型溶血性尿毒症候群など多彩な合併症を合併している家族性血球貪食性リンパ組織球症3型の一例」 | 血液・腫瘍内科 | 長谷川大一郎、二野菜々子、齋藤敦郎、上村和也、高藤哲、植村優、横井健人、神前愛子、石田敏章、矢内友子、川崎圭一郎、小坂嘉之、京都大学医学部発生発達医学講座発達小児科学 八角高裕 | | 神戸血液病研究会 | 神戸 | 2014.9.13 |
| 予防接種施行にも関わらず同種骨髄移植後に肺炎球菌性髄膜炎を発症したJMMLの一例 | 血液・腫瘍内科 | 長谷川大一郎、高藤哲、二野菜々子、植村優、横井健人、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、矢内友子、川崎圭一郎、小坂嘉之、西神戸医療センター小児科 仁紙宏之、松原康策 | | 兵庫県白血病懇話会 | 神戸 | 2014.11.15 |
| “当院における自家造血細胞移植について” | 血液・腫瘍内科 | 小坂嘉之 | 第6回 | 北海道小児血液・腫瘍講演会 | 札幌 | 2014.11.21 |
| G-CSFを含む再寛解導入療法としてFLAG-IDA土GOを施行した再発急性骨髄性白血病の3症例 | 血液・腫瘍内科 | 横井健人、石田敏章、二野菜々子、高藤哲、植村優、齋藤敦郎、神前愛子、矢内友子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小坂嘉之 | | 兵庫県小児がんセミナー | 神戸 | 2014.12.12 |
| 動脈管形態からみたADO治療成績の検討 | 循環器内科 | 雪本千恵、田中敏克、三木康暢、亀井直哉、古賀千穂、小川禎治、佐藤有美、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第25回 | 日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会 | 松本 | 2014.1.23-25 |
| バルーン心房中隔裂開術施行時に判明した先天性下大静脈狭窄の1例 | 循環器内科 | 藤田秀樹、雪本千恵、古賀千穂、三木康暢、亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、田中敏克、城戸佐知子 | 第25回 | 日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会 | 松本 | 2014.1.23-25 |
| Static Balloon Atrial Septostomy (BAS) 施行例の検討 | 循環器内科 | 三木康暢、田中敏克、雪本千恵、古賀千穂、亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第25回 | 日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会 | 松本 | 2014.1.23-25 |
| 低体重のため卵円孔狭小化に対する段階的インターベンションにてノーウッド手術まで待機し得た、三心房心を伴うHLHSの1例 | 循環器内科 | 佐藤有美、田中敏克、三木康暢、雪本千恵、古賀千穂、亀井直哉、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第25回 | 日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会 | 松本 | 2014.1.23-25 |
| CTO用ガイドワイヤを用いたPA/IVSに対する肺動脈弁穿通 | 循環器内科 | 田中敏克、三木康暢、雪本千恵、古賀千穂、亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第25回 | 日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会 | 松本 | 2014.1.23-25 |
| 先天性第四因子欠乏症を合併したフロー四徴術後の経皮的バルーン肺動脈形成術 | 循環器内科 | 古賀千穂、田中敏克、城戸佐知子、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川禎治、亀井直哉、雪本千恵、三木康暢 | 第25回 | 日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会 | 松本 | 2014.1.23-25 |
| 3Fr シースと3Fr JR カテを用いたAPCAに対するコイル塞栓術 | 循環器内科 | 亀井直哉、田中敏克、三木康暢、雪本千恵、古賀千穂、佐藤有美、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第25回 | 日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会 | 松本 | 2014.1.23-25 |
| 完全房室ブロックによる著明な胎児水腫を合併した左側相同心の1例 | 循環器内科 | 佐藤有美、城戸佐知子、三木康暢、雪本千恵、亀井直哉、古賀千穂、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、田中敏克 | 第20回 | 日本胎児心臓病学会学術集会 | 浜松 | 2014.2.14-15 |
| 出生前診断の有無による左心低形成症候群の経過に関する検討 | 循環器内科 | * 佐藤有美、城戸佐知子、三木康暢、雪本千恵、亀井直哉、古賀千穂、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、田中敏克 | 第20回 | 日本胎児心臓病学会学術集会 | 浜松 | 2014.2.14-15 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|------------------|---|-------|--------------------|-------|--------------|
| 新生児特発性心室頻拍の1例 | 循環器内科 | 三木康暢、田中敏克、雪本千恵、古賀千穂、 亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、 藤田秀樹、城戸佐知子 | 第261回 | 日本小児科学会兵庫県 地方会 | 西宮 | 2014.2.15 |
| 右側大動脈弓に異型左鎖骨下動脈と左側動脈管を伴った先天性心疾患の3例 | 循環器内科 | 藤田秀樹、雪本千恵、古賀千穂、三木康暢、 亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、 田中敏克、城戸佐知子 | 第117回 | 日本小児科学会学術集会 | 名古屋 | 2014.4.11-13 |
| 肺分画症に対してコイル塞栓術を施行した2例 | 循環器内科 | 三木康暢、田中敏克、雪本千恵、古賀千穂、 亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、 藤田秀樹、城戸佐知子 | 第117回 | 日本小児科学会学術集会 | 名古屋 | 2014.4.11-13 |
| 段階的心房中隔欠損閉鎖を施行した僧帽弁低形成を伴う Holt-Oram 症候群の1例 | 循環器内科 | 古賀千穂、三木康暢、田中敏克、雪本千恵、 亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、 藤田秀樹、城戸佐知子 | 第117回 | 日本小児科学会学術集会 | 名古屋 | 2014.4.11-13 |
| 循環器内科、 脳神経内科、 腎臓内科、 耳鼻咽喉科、 総合診療科 | 循環器内科 | 小川禎治、田中敏克、城戸佐知子、藤田杏子、 丸山あずさ、永瀬裕朗、神田杏子、 田中亮二郎、阪本浩一、大津雅秀、上谷良行 | 第117回 | 日本小児科学会学術集会 | 名古屋 | 2014.4.11-13 |
| 胎児診断をもとに出生直後に外科的介入を行い救命できた重症 Ebstein 奇形の1例 | 循環器内科 | 二野菜々子、佐藤有美、田中敏克、 祖父江俊樹、雪本千恵、古賀千穂、亀井直哉、 小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第262回 | 日本小児科学会兵庫県 地方会 | 神戸 | 2014.5.24 |
| 急速に低酸素血症が進行した肺動静脈瘻の2例 | 循環器内科 | 三木康暢、田中敏克、雪本千恵、古賀千穂、 亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、 藤田秀樹、城戸佐知子 | 第32回 | 西日本小児循環器 HOT研究会 | 大阪 | 2014.6.7 |
| 先天性心疾患の出産は適切な施設で行われているか？ | 循環器内科 | 城戸佐知子、雪本千恵、佐藤有美、古賀千穂、 三木康暢、亀井直哉、富永健太、 藤田秀樹、小川禎治、田中敏克 | 第50回 | 日本小児循環器学会学 術集会 | 岡山 | 2014.7.3-5 |
| 心理的問題を抱えた先天性心疾患患者への介入時 | 循環器内科 | 城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、 佐藤有美、雪本千恵、小川禎治、亀井直哉、 古賀千穂、雪本千恵、三木康暢 | 第50回 | 日本小児循環器学会学術 集会 | 岡山 | 2014.7.3-5 |
| 完全閉鎖した fenestration に対するカテーテル治療の経験 | 循環器内科、 心臓血管外科 | 田中敏克、三木康暢、雪本千恵、古賀千穂、 亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、 藤田秀樹、城戸佐知子、大嶋義博 | 第50回 | 日本小児循環器学会学 術集会 | 岡山 | 2014.7.3-5 |
| Amplatzer Duct Occluder を用いた動脈管閉鎖術 - Bump 形成を認めた症例の検討- | 循環器内科 | 田中敏克、雪本千恵、三木康暢、古賀千穂、 亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、 藤田秀樹、城戸佐知子 | 第50回 | 日本小児循環器学会学 術集会 | 岡山 | 2014.7.3-5 |
| 出生前診断が予後に与えるインパクト | 循環器内科、 心臓血管外科 | 藤田秀樹、城戸佐知子、田中敏克、富永健太、 佐藤有美、古賀千穂、小川禎治、亀井直哉、 雪本千恵、三木康暢、大嶋義博 | 第50回 | 日本小児循環器学会学 術集会 | 岡山 | 2014.7.3-5 |
| 心臓カテーテル検査 / 治療施行による合併症として 気道出血を来した症例の危険因子と予後の検討 | 循環器内科 | 富永健太、城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、 佐藤有美、小川禎治、亀井直哉、古賀千穂、 雪本千恵、三木康暢、祖父江俊樹 | 第50回 | 日本小児循環器学会学 術集会 | 岡山 | 2014.7.3-5 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|--------------|---|-------|---------------------------|-------|---------------|
| 胎児期における肺静脈狭窄重症度評価の試み | 循環器内科 | 佐藤有美、城戸佐知子、祖父江俊樹、三木康暢、雪本千恵、古賀千穂、亀井直哉、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、田中敏克 | 第50回 | 日本小児循環器学会学術集会 | 岡山 | 2014.7.3-5 |
| 当院で卵円孔早期閉鎖 / 狭小化が疑われた症例の臨床像の検討 | 循環器内科 | 亀井直哉、佐藤有美、三木康暢、雪本千恵、古賀千穂、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、田中敏克、城戸佐知子 | 第50回 | 日本小児循環器学会学術集会 | 岡山 | 2014.7.3-5 |
| PA with IVS における冠動脈異常の合併と予後に関する検討 | 循環器内科、心臓血管外科 | 雪本千恵、田中敏克、三木康暢、古賀千穂、亀井直哉、佐藤有美、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子、大嶋義博 | 第50回 | 日本小児循環器学会学術集会 | 岡山 | 2014.7.3-5 |
| 18トリソミー一児に対する心臓手術は生命予後を改善させるのか | 循環器内科、心臓血管外科 | 三木康暢、田中敏克、城戸佐知子、雪本千恵、古賀千穂、亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、藤田秀樹、大嶋義博 | 第50回 | 日本小児循環器学会学術集会 | 岡山 | 2014.7.3-5 |
| 急速に低酸素血症が進行した肺動静脈瘻の2例 | 循環器内科 | 三木康暢、田中敏克、雪本千恵、古賀千穂、亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第263回 | 日本小児科学会兵庫県地方会 | 姫路 | 2014.9.27 |
| 先天性心疾患女性患者の妊娠・出産における問題点 | 循環器内科 | 城戸佐知子、佐藤有美、雪本千恵 | 第62回 | 日本心臓病学会学術舟化会 | 仙台 | 2014.9.26-28 |
| 先天性心疾患を持って子どもから大人になるということ | 循環器内科 | 城戸佐知子 | 第11回 | 日本循環器看護学会 | 東京 | 2014.10.5 |
| 急性心筋炎症例における心電図変化に関する検討 | 循環器内科 | 雪本千恵、田中敏克、三木康暢、古賀千穂、亀井直哉、小川禎治、佐藤有美、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子 | 第19回 | 日本小児心電学会学術集会 | 札幌 | 2014.11.28-29 |
| 心理的問題を抱えた先天性心疾患患者への介入について考える | 循環器内科 | 城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、雪本千恵、小川禎治、亀井直哉、古賀千穂、雪本千恵、三木康暢、祖父江俊樹 | 第11回 | 先天性心疾患心理研究会 | 神戸 | 2014.12.6 |
| 心疾患を持つ児童の学校生活について — 学校生活管理指導表はとどこまで有用か? — | 循環器内科 | 城戸佐知子 | 第7回 | 兵庫県学校・保健セミナー | 神戸 | 2014.7.19 |
| 自立に向けて患者・家族が心がけたいこと | 循環器内科 | 城戸佐知子 | 第52回 | 全国心臓病の子どもを守る会全国大会 | 東京 | 2014.10.26 |
| 先天性心疾患患者の自律と移行に向けて私たちができること— 発達・心理の側面から — | 循環器内科 | 城戸佐知子 | | abbvie シナジスインターネットライブセミナー | 神戸 | 2014.11.13 |
| シスチン尿症の兄妹例 | 腎臓内科 | 白鳥孝俊、中川拓 神田杏子、田中亮二郎 | 第48回 | 近畿小児腎臓病研究会 | 大阪 | 2014.3.29 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|------|---|-------|--------------------|-------|--------------|
| 診断時に急性腎障害を合併した小児全身性エリテマトーデス患者の腎予後に関する検討 | 腎臓内科 | 石森真吾、貝藤裕史 神岡一郎、島友子 野津寛大、濱平陽史 田中亮二郎 中西浩一、飯島一誠 吉川徳茂、飯島一誠 | 第117回 | 日本小児科学会 | 名古屋 | 2014.4.11 |
| 微量蛋白尿を呈する小児 IgA 腎症の長期予後 | 腎臓内科 | 比嘉明日美、島友子 浜武継、佐藤匡 向山弘展、戸川寛子 田中亮二郎、貝藤裕史 野津寛大、飯島一誠 中西浩一、吉川徳茂 | 第49回 | 日本小児腎臓病学会 | 秋田 | 2014.6.5-7 |
| 先天性腎尿路奇形 (CAKUT) における尿中 L 型脂脂肪酸結合蛋白の臨床的有用性に関する前方視・後方視研究 | 腎臓内科 | 田中亮二郎、白鳥孝俊 中川拓、神田杏子 | 第49回 | 日本小児腎臓病学会 | 秋田 | 2014.6.5-7 |
| 自己免疫疾患に血栓性血栓減少性紫斑病を合併した稀な 2 症例の臨床経過 | 腎臓内科 | 中川拓、白鳥孝俊 神田杏子、田中亮二郎 | 第49回 | 日本小児腎臓病学会 | 秋田 | 2014.6.5-7 |
| 当院小児救急医療センターを受診した小児外傷性腎損傷の臨床的検討 | 腎臓内科 | 辻真之介、梶原伸介 楠元真由美、山口善道 福原信一、竹田洋樹 杉多良文、田中亮二郎 上谷良行 | 第49回 | 日本小児腎臓病学会 | 秋田 | 2014.6.5-7 |
| HNF1β 遺伝子異常が判明した先天性腎尿路奇形の 2 例 | 腎臓内科 | 白鳥孝俊、中川拓 神田杏子、郷司克己 森貞直哉、飯島一誠 田中亮二郎 | 第49回 | 日本小児腎臓病学会 | 秋田 | 2014.6.5-7 |
| 小児期に発見され成人に至った Dent 病の患者 4 例の検討 | 腎臓内科 | 中川拓、神田杏子 田中亮二郎、松山壮一郎 吉矢邦彦 | 第59回 | 日本透析医学会学術集会 会総会 | 神戸 | 2014.6.12-15 |
| 各種治療に難渋したステロイド抵抗性ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ療法の検討 | 腎臓内科 | 中川拓、白鳥孝俊 神田杏子、田中亮二郎 | 第57回 | 日本腎臓学会学術総会 | 横浜 | 2014.7.4-6 |
| CyA 投与後も再発を繰り返す頻回再発型ネフローゼ症候群に対する MZB、MMF の治療に関する臨床的検討 | 腎臓内科 | 神田杏子、白鳥孝俊 中川拓、田中亮二郎 | 第57回 | 日本腎臓学会学術総会 | 横浜 | 2014.7.4-6 |
| 本邦における CAKUT 包括的原因遺伝子解析システムの構築 | 腎臓内科 | 森貞直哉、庄野朱美 忍頂寺毅史、貝藤裕史 野津寛大、亀井宏一 伊藤秀一、田中亮二郎 飯島一誠 | 第57回 | 日本腎臓学会学術総会 | 横浜 | 2014.7.4-6 |
| 自己免疫疾患に血栓性血小板減少性紫斑病を合併した稀な 2 症例の臨床経過 | 腎臓内科 | 中川拓、白鳥孝俊 神田杏子、田中亮二郎 | 第18回 | 兵庫県腎疾患治療懇話会 | 神戸 | 2014.7.25 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第〇回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|------|---|----------|---|---------------|------------------|
| 網羅的遺伝子解析法を用いたヒトCAKUTの原因遺伝子解析 | 腎臓内科 | 森貞直、野津寛大、亀井宏一、伊藤秀一、田中亮二郎、飯島一誠 | 第23回 | 発達腎研究会 | 東京 | 2014.8.31 |
| BAT1 遺伝子異常が判明したシスチン尿症の兄妹例 | 腎臓内科 | 白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、田中亮二郎 | 第263回 | 日本小児科学会兵庫県地方会 | 姫路 | 2014.9.27 |
| The comprehensive genetic analysis of CAKUT in Japan | 腎臓内科 | Naoya Morisada, Kandai Nozu Akemi Shono, Takeshi Ninchoji Hiroshi Kaito, Koichi Kamei Shuichi Ito, Ryojiro Tanaka Kazumoto Iijima | 47th | Annual scientific meeting of the European Society for Pediatric Nephrology, | Porto | 2014.9.18-20 |
| 家族内で同時期に紫斑病性腎炎を発症した3症例 | 腎臓内科 | 神田杏子、白鳥孝俊、中川拓、田中亮二郎 | 第49回 | 近畿小児腎臓病研究会 | 大阪 | 2014.10.11 |
| The comprehensive genetic analysis of congenital anomalies of kidney and urinary tract (CAKUT) in Japan | 腎臓内科 | Naoya Morisada, Mariko Taniguchi-Ikeda Kandai Nozu, Akemi Shono Koichi Kamei, Shuichi Ito Ryojiro Tanaka, Kazumoto Iijima | The 64th | Annual Meeting of the American Society of Human Genetics | San Diego | 2014.10.18-22 |
| 家族性血球貪食性リンパ球固有組織球症3型に対し臍帯血移植後、移植関連非典型的溶血性尿毒症症候群を発症した1例 | 腎臓内科 | 神田杏子、白鳥孝俊、中川拓、田中亮二郎 | 第36回 | 日本小児腎不全学会 | 松江 | 2014.10.30-31 |
| 染色体構造異常による syndromic CAKUT の原因遺伝子についての検討 | 腎臓内科 | 森貞直、野津寛大、亀井宏一、伊藤秀一、田中亮二郎、石川智朗、足立昌夫、野田俊輔、石黒利佳、関根孝司、小崎健次郎、飯島一誠 | 第59回 | 日本人類遺伝学会 | 東京 | 2014.11.19-11.22 |
| 専門医制度における現状と今後の課題 小児外科専門医制度の現状と今後の課題 施設認定委員会から | 小児外科 | 前田 眞作), 日本小児外科学会専門医制度委員会 | 第51回 | 日本小児外科学会学術集会 | 大阪市 | 2014.5.10 |
| 難治性声門下狭窄症に対する外科治療 | 小児外科 | 前田 眞作、小野滋、馬場勝尚、辻由貴、薄井佳子、河原仁守、福田篤久、関根沙知 | 第51回 | 日本小児外科学会学術集会 | 大阪市 | 2014.5.9 |
| 小児外科領域における NCD の立ち上げと小児救急医療体制における役割 | 小児外科 | 前田 眞作 | 第51回 | 日本小児外科学会学術集会 | 大阪市 | 2014.5.10 |
| 気管・気管支軟化症の治療 気管軟化症に対する大動脈胸骨固定術 | 小児外科 | 前田 眞作 | 第24回 | 日本小児呼吸器外科研究会 | 東京都 | 2014.10.25 |
| Balloon Tracheoplasty for Congenital Tracheal Stenosis in Neonates - Six Years' Experience | 小児外科 | Maeda K, Ono S, Baba K, Kawahara I, Fukuta A, | 第47回 | Pacific association of Pediatric Surgeons | Banff, Canada | 2014..5.28 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|---|--|-------|--------------------|-------|--------------|
| 外傷性肝損傷の5例 | 小児外科 | 横井暁子 岩城隆馬 吉田拓哉 園田真理 谷本光隆 岩出珠幾 大片祐一 福澤宏明 尾藤祐子 中尾 真 | 第51回 | 日本小児外科学会 | 大阪市 | 2014.5 |
| EXITにて出生した巨大顔面奇形腫の1例 | 1) 小児外科、 2) 岡山大学 小児外科、 3) 産科、 4) 新生児科、 5) 麻酔科、 6) 脳外科、 7) 愛仁会高槻病 院 小児外科 | 横井暁子 1)、 福澤宏明 1)、 尾藤祐子 1)、 谷本光隆 2)、 武本淳吉 1)、 玉城昭彦 1)、 森田圭一 1)、 岩出珠幾 1)、 大片祐一 1)、 遠藤耕介 1)、 前田貢作 1)、 菅吉賢二 3)、 芳本誠司 4)、 大西弘泰 5)、 河村敦史 6)、 長嶋達也 6)、 西島栄治 7) | | 秋季シンポジウム | 神戸 | 2014.10. |
| 先天性気管狭窄症の病態とその治療 | 小児外科 | 横井暁子 | | 日本気管食道科学会 | 高知 | 2014.11. |
| 食道静脈瘤に対してEVLが有効であった特発性門脈 圧亢進症の1例 | 小児外科 | 横井暁子 岩城隆馬、 吉田拓哉、 谷本光隆、 園田真理、 岩出珠幾、 大片祐一、 福澤宏明、 尾藤祐子 中尾 真 | | 小児脾臓研究会 | 熊本 | 2014.13. |
| 胆道閉鎖症Ⅲ型における予後因子の検討 | 小児外科 1) 愛仁会高槻病院 小児外科 2) 京都大学医療統 計 3) 病理診断科 4) | 横井暁子 1)、 武本淳吉 1)、 玉城昭彦 1)、 森田圭一 1)、 岩出珠幾 1)、 大片祐一 1)、 遠藤耕介 1)、 福澤宏明 1)、 尾藤祐子 1)、 前田貢作 1)、 西島栄治 2) 佐藤俊哉 3)、 吉田牧子 4) | | 日本胆道閉鎖研究会 | 熊本 | 2014.11. |
| 致死的になり得る小児の良性腫瘍に対する治療戦略 | 外科 1) 愛仁会高槻病院 小児外科 2) | 横井暁子 1)、 岩城隆馬 1)、 吉田拓哉 1)、 谷本光隆 1)、 園田真理 1) 岩出珠幾 1)、 大片祐一 1)、 福澤宏明 1)、 尾藤祐子 1)、 中尾、真 1) 西島栄治 2) | | 日本外科学会 | 京都 | 2014.4. |
| 当院の先天性胆道拡張症の晩期合併症 | 小児外科 | 福澤宏明、 吉田拓哉、 岩城隆馬、 谷本光隆、 園田真理、 岩出珠幾、 大片祐一、 尾藤祐子、 中尾、真、 横井暁子 | 第51回 | 日本小児外科学会総会 | 大阪 | 2014.5.8-10 |
| アンケート調査による研修システムの再評価 | 小児外科 | 福澤宏明、 吉田拓哉、 岩城隆馬、 谷本光隆、 園田真理、 岩出珠幾、 大片祐一、 尾藤祐子、 中尾、真、 横井暁子 | 第51回 | 日本小児外科学会総会 | 大阪 | 2014.5.8-10 |
| 胎児期・新生児期に診断がついた先天性胆道拡張症 の臨床検討 | 小児外科 | 福澤宏明、 玉城昭彦、 森田圭一、 岩出珠幾、 大片祐一、 武本淳吉、 遠藤耕介、 尾藤祐子、 横井暁子、 前田貢作、 畠山理 | 第37回 | 日本膵・胆管合流異常研 究会 | 横浜 | 2014.9.13 |
| 胆道穿孔の危険性のある先天性胆道拡張症に対する 緊急胆道ドレナージ術の重要性 | 小児外科 | 福澤宏明、 玉城昭彦、 森田圭一、 岩出珠幾、 大片祐一、 武本淳吉、 遠藤耕介、 尾藤祐子、 横井暁子、 前田貢作、 | 第262回 | 日本小児科学会兵庫 県地方会 | 神戸 | 2014.5.24 |
| 胎児期・新生児期に診断がついた先天性胆道拡張症 の臨床検討 | 小児外科 | 福澤宏明、 玉城昭彦、 森田圭一、 岩出珠幾、 大片祐一、 武本淳吉、 遠藤耕介、 尾藤祐子、 横井暁子、 前田貢作、 | 第50回 | 日本周産期・新生児医 学界総会 | 幕張 | 2014.7.13-14 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|---------------------------|--|------|------------------|-------|-----------------|
| Gerota 筋膜を用いた新生児横隔膜ヘルニアに対する胸腔鏡下根治術 | 小児外科 | 福澤宏明、玉城昭彦、森田圭一、岩出珠幾、大片祐一、武本淳吉、遠藤耕介、尾藤祐子、横井暁子、前田貢作、 | 第27回 | 日本内視鏡外科学会総会 | 盛岡 | 2014.10.2-4 |
| 5年間長期介在した肉芽に埋もれた気管支異物の1例 | 小児外科 | 福澤宏明、玉城昭彦、森田圭一、岩出珠幾、大片祐一、武本淳吉、遠藤耕介、尾藤祐子、横井暁子、前田貢作、 | 第25回 | 日本小児呼吸器外科学会 | 東京 | 2014.10.25 |
| 胸腔鏡下に切除しえた上縦隔発生の限局型小児キヤッスルマン病の1例 | 小児外科 | 福澤宏明、玉城昭彦、森田圭一、岩出珠幾、大片祐一、武本淳吉、遠藤耕介、尾藤祐子、横井暁子、前田貢作、 | 第56回 | 日本小児血液・がん学会学術集会 | 岡山 | 2014.11.28-30 |
| 先天性気管狭窄症に対する気管形成術後に気管切開管理を要する因子の検討 | 小児外科 | 大片祐一、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、福澤宏明、岩出珠幾、園田真理、谷本光隆、吉田拓哉、岩城隆馬、西島栄治 | 第51回 | 日本小児外科学会総会 | 東京 | 2014.05.08 |
| EZ アクセスを用いた単孔式腹腔鏡補助下胃瘻造設術の経験 | 小児外科 | 大片祐一、谷本光隆、園田真理、福澤宏明、尾藤祐子、中尾真、岩出珠幾、吉田拓哉、横井暁子 | 第28回 | 日本小児ストーマ・排泄管理研究会 | 東京 | 2014.05.24 |
| 多嚢胞性肺病変を伴った気管重複症の1例 | 小児外科 | 大片祐一、尾藤祐子、中尾真、福澤宏明、横井暁子 | 第50回 | 日本周産期新生児医学学会 | 浦安市 | 2014.07.13 |
| 多嚢胞性肺病変を伴った気管重複症と考えられた1例 | 小児外科、 1小児外科、2病 理診断科 | 大片祐一、尾藤祐子、吉田牧子、岩出珠幾、武本淳吉、玉城昭彦、森田圭一、遠藤耕介、福澤宏明、横井暁子、前田貢作 | 第25回 | 日本小児呼吸器外科学会 | 新宿 | 2014.10.25 |
| A case of Epstein-Bar virus related smooth muscle tumor after renal transplantation | 小児外科 | 遠藤耕介、玉城昭彦、森田圭一、岩出珠幾、大片祐一、武本淳吉、福澤宏明、尾藤祐子、横井暁子、前田貢作、 | 第56回 | 日本小児血液・がん学会 | 岡山 | 2014.11.28 |
| 胃瘻周囲の皮膚潰瘍に対してGJチューブによる管理で著明な改善が得られた一例。 | 小児外科 | 遠藤耕介、玉城昭彦、森田圭一、岩出珠幾、大片祐一、武本淳吉、福澤宏明、尾藤祐子、横井暁子、前田貢作、 | | 近畿ストマ創傷治癒研究会 | 京都 | 2014.12.14 |
| ヒルシユスブルング病病理診断におけるカルレチニン免疫染色の検討 | 小児外科 | 岩出珠幾、吉田牧子、岩城隆馬、吉田拓哉、谷本光隆、園田真理、大片祐一、福澤宏明、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第51回 | 日本小児外科学会学術集会 | 大阪 | 2014.5.8 ~ 10 |
| 小腸閉鎖を伴う腹壁破裂術後の短腸症候群に発症したD型乳酸アシドーシスの1例 | 小児外科 | 岩出珠幾、福澤宏明、岩城隆馬、吉田拓哉、谷本光隆、園田真理、大片祐一、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、前田貢作 | 第51回 | 日本小児外科学会学術集会 | 大阪 | 2014.5.8 ~ 10 |
| 胆道穿孔の危険性のある先天性胆道拡張症に対する緊急胆道ドレナージ（胆嚢瘻）の有用性 | 小児外科 | 岩出珠幾、福澤宏明、武本淳吉、玉城昭彦、森田圭一、大片祐一、遠藤耕介、尾藤祐子、横井暁子、前田貢作 | 第28回 | 日本小児救急医学会学術集会 | 横浜 | 2014.6.6 ~ 7 |
| S状結腸捻転に小腸捻転を合併した1例 | 小児外科 | 岩出珠幾、杉岡勇典、大片祐一、福澤宏明、尾藤祐子、横井暁子、赤坂好宣、前田貢作 | 第50回 | 日本小児放射線学会学術集会 | 神戸 | 2014.6.27 ~ 28 |
| 急性胃腸炎に続発した十二指腸潰瘍穿孔に対して腹腔鏡観察下の保存的治療が可能であった一幼児例 | 小児外科 | 岩出珠幾、武本淳吉、玉城昭彦、森田圭一、大片祐一、遠藤耕介、福澤宏明、尾藤祐子、横井暁子、前田貢作 | 第34回 | 日本小児内視鏡外科手術研究会 | 淡路 | 2014.10.30 ~ 31 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|--------|--|-------|--|------------------|-----------------|
| 帝王切開時に絞扼性イレウスを認めた1例 | 小児外科 | 岩出珠幾、武本淳吉、玉城昭彦、森田圭一、 大片祐一、遠藤耕介、福澤宏明、尾藤祐子、 横井暁子、前田貢作、南谷智之、船越徹 | 第76回 | 日本臨床外科学会総会 | 郡山 | 2014.11.20～22 |
| 胆道穿孔の可能性がある先天性胆道拡張症に対する 胆嚢瘻による胆道トレナージの経験 | 小児外科 | 岩出珠幾、武本淳吉、玉城昭彦、森田圭一、 大片祐一、遠藤耕介、福澤宏明、尾藤祐子、 横井暁子、前田貢作 | 第51回 | 日本腹部救急医学会総 会 | 京都 | 2015.3.5～6 |
| 胆道穿孔を合併した先天性胆道拡張症の隣・胆管合 流形態 | 小児外科 | 森田圭一、福澤宏明、横井暁子、尾藤祐子、 大片祐一、岩出珠幾、遠藤耕介、武本淳吉、 玉城昭彦、前田貢作 | 第37回 | 日本胆管合流異常研 究会 | 横浜 | 2014.9.13 |
| 右側大動脈弓の気管圧迫による気管支軟化症 | 小児外科 | 森田圭一、横井暁子、尾藤祐子、福澤宏明、 大片祐一、岩出珠幾、遠藤耕介、武本淳吉、 玉城昭彦、大嶋義博、前田貢作 | 第25回 | 日本小児呼吸器外科研 究会 | 東京 | 2014.10.25 |
| 膵臓瘍を合併した胆道閉鎖症術後肺症候群の1例 | 小児外科 | 森田圭一、福澤宏明、横井暁子、尾藤祐子、 大片祐一、岩出珠幾、遠藤耕介、武本淳吉、 玉城昭彦、前田貢作 | 第41回 | 日本胆道閉鎖症研究会 | 熊本 | 2014.11.15 |
| 胃瘻造設予定部位よりアプローチした単孔式腹腔鏡 補助下胃瘻造設術の経験 | 小児外科 | 玉城昭彦、大片祐一、遠藤耕介、武本淳吉、 森田圭一、岩出珠幾、福澤宏明、尾藤祐子、 横井暁子、前田貢作 | 第34回 | 日本小児内視鏡外科・ 手術手技研究会 | 神戸 | 2014.10.31 |
| ショック状態で搬送された小腸軸捻転の1救命例 | 小児外科 | 玉城昭彦1)、大片祐一1)、尾藤祐子1)、 武本淳吉1)、森田圭一1)、遠藤耕介1)、 岩出珠幾1)、福澤宏明1)、横井暁子1)、 前田貢作1)、永瀬裕朗2)、梶原伸介2)、 竹田洋樹2) | 第264回 | 日本小児科学会兵庫 地方会 | 尼崎 | 2015. 2.14 |
| 血便を契機に発見された腸管重複症と結腸ポリープ を合併した1例 | 小児外科 | 武本淳吉、尾藤祐子、大片祐一、玉城昭彦、 森田圭一、岩出珠幾、遠藤耕介、福澤宏明、 横井暁子、前田貢作 | 第50回 | 日本小児外科学会近畿 地方会 | 大阪 | 2014.8.23 |
| 臍上部弧状切開にて手術を行った新生児腸回転異常 症の2例 | 小児外科 | 武本淳吉、岩出珠幾、玉城昭彦、森田圭一、 大片祐一、遠藤耕介、福澤宏明、尾藤祐子、 横井暁子、前田貢作 | 第34回 | 日本小児内視鏡外科・ 手術手技研究会(第 30回日本小児外科学 会秋季シンポジウム/ PSJM2014) | 淡路 | 2014.10.30～11.1 |
| 胃瘻造設予定部位よりアプローチした単孔式腹腔鏡 補助下胃瘻造設術の経験 | 小児外科 | 玉城昭彦、大片祐一、遠藤耕介、武本淳吉、 森田圭一、岩出珠幾、福澤宏明、尾藤祐子、 横井暁子、前田貢作 | 第34回 | 日本小児内視鏡外科・ 手術手技研究会 | 神戸 | 2014.10.31 |
| ショック状態で搬送された小腸軸捻転の1救命例 | 小児外科 | 玉城昭彦1) 大片祐一1) 尾藤祐子1) 武本淳吉1) 森田圭一1) 遠藤耕介1) 岩出珠幾1) 福澤宏明1) 横井暁子1) 前田貢作1) 永瀬裕朗2) 梶原伸介2) 竹田洋樹2) | 第264回 | 日本小児科学会兵庫 地方会 | 尼崎 | 2015. 2.14 |
| Current strategies in surgical management of congenital heart disease associated with tracheal stenosis | 心臓血管外科 | Yoshihiro Oshima | 第6回 | BIT's 6th Annual International Congress of Cardiology-2014 | Hainan, China | 2014.11.14 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第〇回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|-----------------|--|-------|------------------------|-------|------------|
| 両側肺動脈絞扼術を選択した二心室修復症例の検討 | 心臓血管外科 | 圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、野田 伶、岩城隆馬、松島峻介 | 第44回 | 日本心臓血管外科学会 学術総会 | 熊本 | 2014.2.19 |
| フォンタン手術の現状と課題 心房内導管フォンタン手術の見直しの観点から | 心臓血管外科 | 圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、野田 伶、岩城隆馬、松島峻介 | 第44回 | 日本心臓血管外科学会 学術総会 | 熊本 | 2014.2.21 |
| Norwood 型手術大動脈弓再建における小弯側 glutaraldehyde 処理自己心膜補填の有用性 | 心臓血管外科 | 長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、田中重紀子、野田 伶、松島峻介 | 第44回 | 日本心臓血管外科学会 学術総会 | 熊本 | 2014.2.19 |
| 小児 ECMO 症例の検討 - 長期補助からの離脱を目指して - | 心臓血管外科 | 松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、野田 伶、岩城隆馬、松島峻介 | 第44回 | 日本心臓血管外科学会 学術総会 | 熊本 | 2014.2.20 |
| 機能的単心室症例における房室弁置換術の成績 | 心臓血管外科 | 野田 伶、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、田中重紀子、松島峻介 | 第44回 | 日本心臓血管外科学会 学術総会 | 熊本 | 2014.2.20 |
| 胃食道逆流症を合併した先天性心疾患症例に対する噴門形成術の有効性の検討 | 心臓血管外科、 小児外科 | 岩城隆馬、大嶋義博、松島峻介、野田 伶、田中重希子、松久弘典、長谷川智巳、圓尾文子、福澤宏明、尾藤祐子、中尾、横井暁子、西島栄治 | 第44回 | 日本心臓血管外科学会 学術総会 | 熊本 | 2014.2.20 |
| 大動脈縮窄症における僧帽弁低形成例の形態別治療成績 | 心臓血管外科 | 松島 峻介、大嶋 義博、圓尾 文子、長谷川 智巳、松久 弘典、田中 重紀子、野田 伶 | 第44回 | 日本心臓血管外科学会 学術総会 | 熊本 | 2014.2.19 |
| 小児開心術後鎮静におけるデクスメタデミジンの有用性 | 心臓血管外科 | 長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、田中重紀子、野田 伶、松島峻介 | 第41回 | 日本集中治療医学会学術集会 | 京都 | 2014.2.28 |
| シンポジウム 心筋疾患に対する非薬物療法 座長 | 心臓血管外科 | 白石 公、大嶋義博 | 第28回 | 日本小児循環器学会 近畿・中四国地方会 | 大阪 | 2014.03.02 |
| ベースメーカー移植後心機能低下に対する至適心室ベーンシングへの改善 | 心臓血管外科、 循環器科 | 松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、野田 伶、松島峻介、田中敏克、城戸佐知子 | 第28回 | 日本小児循環器学会近畿・中四国地方会 | 大阪 | 2014.3.2 |
| 自己心膜による大動脈弁尖置換術の一例 | 心臓血管外科 | 松島 峻介、大嶋 義博、圓尾 文子、長谷川 智巳、松久 弘典、野田 伶 | 第28回 | 日本小児循環器学会近畿・中四国地方会 | 大阪 | 2014.3.2 |
| 左室 - 冠動脈瘻を有する HLHS に対する心拍動下 Norwood 型手術の一例 | 心臓血管外科 | 松島 峻介、大嶋 義博、圓尾 文子、長谷川 智巳、松久 弘典、野田 伶 | 第28回 | 日本小児循環器学会近畿・中四国地方会 | 大阪 | 2014.3.2 |
| Aortic arch geometry after Norwood operation: efficacy of arch angle augmentation | 心臓血管外科 | 長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、田中重紀子、松島峻介 | 第78回 | 日本循環器学会学術集会 | 東京 | 2014.3.22 |
| Seattle Children's Hospital における小児心臓移植 | 心臓血管外科 | 長谷川智巳、Cohen Godon, Permut Lester, McMullan Michael、大嶋義博 | 第114回 | 日本外科学会定期学術集会 | 京都 | 2014.4.3 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|-------------|---|-------|---------------|-------|------------|
| 右腋窩小切開による心房中隔欠損閉鎖手術 | 心臓血管外科 | 圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、野田怜、岩城隆馬、松島峻介 | 第262回 | 日本小児科学会兵庫県地方会 | 神戸 | 2014.5.24 |
| 右室依存性冠循環を伴った縮型肺動脈閉鎖症に対する腹腔鏡剪刀を用いた Closed Atrial Septectomy | 心臓血管外科、循環器科 | 松島峻介、雪本千恵、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、野田怜、岩城隆馬、田中敏克、城戸佐知子、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川禎治、古賀千穂、亀井直哉、三木康暢、祖父江俊樹 | 第23回 | 小児循環器病カンファレンス | 京都 | 2014.6.7 |
| Nikaidoh 法の 1 例． | 心臓血管外科 | 松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、野田怜、岩城隆馬、松島峻介 | 第57回 | 神戸心臓外科研究会 | 神戸 | 2014.6.11 |
| 2 度の左室トレーニング術後に Double Switch 手術を施行した修正大血管転位症の 1 例 | 心臓血管外科 | 野田怜、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、松島峻介 | 第63回 | 兵庫県心臓外科懇話会 | 神戸 | 2014.6.13 |
| シンボジウム V 長期成績からみたフアロー四徴症に対する術式の検討 座長 | 心臓血管外科 | 大嶋義博、坂本喜三郎 | 第57回 | 関西胸部外科学会学会集會 | 大阪 | 2014.06.20 |
| Pulmonary coarctation に対する main PA translocation 法による左肺動脈形成 | 心臓血管外科 | 圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、野田怜、岩城隆馬、松島峻介 | 第57回 | 関西胸部外科学会学会集會 | 大阪 | 2014.6.19 |
| 術式別にみたフアロー四徴症根治術の長期遠隔成績 | 心臓血管外科 | 長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、野田怜、岩城隆馬、松島峻介 | 第57回 | 関西胸部外科学会学会集會 | 大阪 | 2014.6.20 |
| Nikaidoh 法の 1 例． | 心臓血管外科 | 松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、野田怜、岩城隆馬、松島峻介 | 第57回 | 関西胸部外科学会学会集會 | 大阪 | 2014.6.20 |
| 左冠動脈開口部狭窄を自己奇静脈パッチで拡大した supra valvular AS 患児の一例 | 心臓血管外科 | 野田怜、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、松島峻介 | 第57回 | 関西胸部外科学会学会集會 | 大阪 | 2014.6.19 |
| 気管狭窄に対するバルーン拡張下に Rastelli 手術を行った一例 | 心臓血管外科 | 岩城隆馬、大嶋義博、松島峻介、野田怜、松久弘典、長谷川智巳、圓尾文子 | 第57回 | 関西胸部外科学会学会集會 | 大阪 | 2014.6.19 |
| 二心室修復し得た僧帽弁底形成の 2 例 | 心臓血管外科 | 松島峻介、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、野田怜、野田怜、岩城隆馬 | 第57回 | 関西胸部外科学会学会集會 | 大阪 | 2014.6.19 |
| 右室依存性冠循環を伴った縮型肺動脈閉鎖症に対する腹腔鏡剪刀を用いた Closed Atrial Septectomy | 心臓血管外科、循環器科 | 松島峻介、雪本千恵、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、野田怜、岩城隆馬、田中敏克、城戸佐知子、藤田秀樹、富永健太、佐藤有美、小川禎治、古賀千穂、亀井直哉、三木康暢、祖父江俊樹 | 第66回 | 近畿心臓外科研究会 | 大阪 | 2014.6.28 |
| 両側肺動脈形成を要し、flap valve VSD を伴った Fallot 四徴症の一例 | 心臓血管外科 | 圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、野田怜、岩城隆馬、松島峻介 | 第14回 | 手術手技研究会 | 岡山 | 2014.7.3 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|--------|--|------|-----------------|-------|------------|
| 一般口演 11 外科その他② 座長 | 心臓血管外科 | 大嶋義博、金子幸裕 | 第50回 | 日本小児循環器学会総会 | 岡山 | 2014.7.3 |
| 教育講演 緊急・準緊急姑息術の Point | 心臓血管外科 | 大嶋義博 | 第11回 | 教育セミナー | 岡山 | 2014.7.5 |
| 弁機能温存の観点から見た Heterotaxy 症候群の治療戦略 | 心臓血管外科 | 圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、野田怜、岩城隆馬、松島峻介 | 第50回 | 日本小児循環器学会総会学術集会 | 岡山 | 2014.7.3 |
| 先天性心疾患における術前 3D-MDCT 検査の有用性 | 心臓血管外科 | 長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、野田怜、岩城隆馬、松島峻介 | 第50回 | 日本小児循環器学会総会学術集会 | 岡山 | 2014.7.5 |
| 逆流制御を旨とした右室流出路再建術の変遷と中期成績 | 心臓血管外科 | 松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、野田怜、岩城隆馬、松島峻介 | 第50回 | 日本小児循環器学会総会学術集会 | 岡山 | 2014.7.4 |
| 当院における failed Fontan 症例の検討 | 心臓血管外科 | 野田怜、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、松島峻介 | 第50回 | 日本小児循環器学会総会学術集会 | 岡山 | 2014.7.3-5 |
| 遠隔成績から見た Ross 手術の適応 | 心臓血管外科 | 圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、野田怜、岩城隆馬、松島峻介 | 第67回 | 日本胸部外科学会定期学術集会 | 福岡 | 2014.10.2 |
| 心血管関連気道圧排による気管・気管支軟化症に対する小児外科治療 | 心臓血管外科 | 長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、野田怜、岩城隆馬、松島峻介 | 第67回 | 日本胸部外科学会定期学術集会 | 福岡 | 2014.10.2 |
| 本邦における新生児心臓手術の現況 | 心臓血管外科 | 長谷川智巳 | 第67回 | 日本胸部外科学会定期学術集会 | 福岡 | 2014.10.2 |
| Loeys-Dietz 症候群、大動脈基部拡大の小児に対する自己弁温存基部置換術 | 心臓血管外科 | 松久弘典、大北裕、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、野田怜、岩城隆馬、松島峻介、森崎隆幸、森崎裕子 | 第67回 | 日本胸部外科学会定期学術集会 | 福岡 | 2014.10.1 |
| 当院における部分肺静脈還流異常症手術の早期及び遠隔期成績 | 心臓血管外科 | 岩城隆馬、大嶋義博、松島峻介、野田怜、松久弘典、長谷川智巳、圓尾文子 | 第67回 | 日本胸部外科学会定期学術集会 | 福岡 | 2014.10.3 |
| 大動脈弁欠損を伴った大動脈弓離断 B 型に対する段階的 Yasui 手術にて 2 心室修復し得た 1 例 | 心臓血管外科 | 岩城隆馬、大嶋義博、松島峻介、野田怜、松久弘典、長谷川智巳、圓尾文子 | 第67回 | 日本胸部外科学会定期学術集会 | 福岡 | 2014.10.1 |
| 左心低形成症候群における弓部、冠動脈、気管支の閉塞・狭窄の回避を目的とした弓部再建上の工夫 | 心臓血管外科 | 松島峻介、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、野田怜、岩城隆馬 | 第67回 | 日本胸部外科学会定期学術集会 | 福岡 | 2014.10.3 |
| 小児大動脈弁疾患に対する当院の取り組み | 心臓血管外科 | 松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、野田怜、岩城隆馬、松島峻介 | 第18回 | 心臓外科研究懇話会 | 滋賀 | 2014.10.12 |
| Root Reinforcement 法による Ross 手術 | 心臓血管外科 | 松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、野田怜、岩城隆馬、松島峻介 | 第64回 | 兵庫県心臓外科懇話会 | 神戸 | 2014.11.21 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|----------------------------|--|------|---|-----------|---------------|
| 術中に単冠動脈肺動脈起始が診断され移植を要した総肺動脈還流異常の一例 | 心臓血管外科 | 岩城隆馬、大嶋義博、松島俊介、野田怜、松久弘典、長谷川智巳、圓尾文子 | 第58回 | 神戸心臓血管外科研究会 | 神戸 | 2014.11.5 |
| 乳児期に骨延長器による頭蓋・顔面手術を施行した一例 | 脳神経外科 | 山元一樹、河村淳史、長嶋達也 | 第42回 | 日本小児神経外科学会 | 仙台 | 2014.5.29 |
| 小児脳神経外科におけるナビゲーション手術（ランチョンセミナー講演） | 脳神経外科 | 長嶋達也 | 第42回 | 日本小児神経外科学会 | 仙台 | 2014.5.29 |
| 当施設における AT/RT 5 例の治療経験 | 脳神経外科 | 河村淳史、藤本陽介、山元一樹、長嶋達也 | 第42回 | 日本小児神経外科学会 | 仙台 | 2014.5.29 |
| The experience of treatment for 5 Atypical teratoid / rhabdoid tumor under 3-year-old in Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital | Department of Neurosurgery | A. Kawamura K. Yamamoto T. Nagashima | 16th | International Symposium on Pediatric Neuro-Oncology | Singapore | 2014.6.28-7.2 |
| 前駆症状のない感染症心内膜炎による小児脳梗塞の1例 | 脳神経外科 | 藤田祐一、河村淳史、阿久津宣行、山元一樹、長嶋達也 | 第44回 | 兵庫県脳神経外科医懇話会 | 神戸 | 2014.7.13 |
| Castleman 病を呈する稀少な小児第3脳室内 choldoid meningioma の1例 | 脳神経外科 | 藤田祐一、河村淳史、阿久津宣行、山元一樹、長嶋達也 | 第68回 | 日本脳神経外科学会近畿支部学術集会 | 大阪 | 2014.9.6 |
| AT/RT に対する治療方針 | 脳神経外科 | 河村淳史、阿久津宣行、藤田祐一、山元一樹、長嶋達也 | 第73回 | 日本脳神経外科学会学術総会 | 東京 | 2014.10.10 |
| 非もやもや病頭蓋内血管狭窄による小児脳梗塞の4例 | 脳神経外科 | 藤田祐一、阿久津宣行、河村淳史、山元一樹、長嶋達也 | 第73回 | 日本脳神経外科学会学術総会 | 東京 | 2014.10.11 |
| 二分脊椎、水頭症とシャントシステム | 脳神経外科 | 河村淳史 | | 日本二分脊椎症協会兵庫支部 40周年記念講演 | 神戸 | 2014.10.11 |
| 当院における乳幼児頭部外傷における虐待判定の現状 | 脳神経外科 | 山元一樹、藤田祐一、阿久津宣行、河村淳史、長嶋達也 | 第73回 | 日本脳神経外科学会総会 | 東京 | 2014.10.11 |
| 当施設における髄芽腫治療と考察 | 脳神経外科 | 河村淳史、阿久津宣行、藤田祐一、山元一樹、長嶋達也 | 第32回 | 日本こども病院神経外科医会 | 静岡 | 2114.11.22 |
| 当施設における AT/RT に対する治療 | 脳神経外科 | 河村淳史、藤田祐一、阿久津宣行、山元一樹、長嶋達也 | 第31回 | 日本脳腫瘍学会学術総会 | 千葉 | 2014.11.30 |
| 当院における裂幅の広い片側唇顎口蓋裂に対する術前顎矯正につて | 形成外科 | 谷口真貴、大山知樹、木矢孝一郎 | 第57回 | 日本形成外科学会学術集会 | 長崎 | 2014.4.9-4.11 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第〇回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|------|---|-------|---------------------------|------------------|---------------|
| 扁桃腺摘出後鼻咽腔狭窄の1例 | 形成外科 | 進来壘、大山知樹、森本萌恵 | 第108回 | 関西形成外科学会学術集会 | 大阪 | 2014.12.21 |
| こどもの足の特徴と疾患の鑑別 | 整形外科 | 薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、蒲田悦子 | 第12回 | 第12回日本フットケア学会 | 奈良 | 2014.3.7-8 |
| 歩行開始後に診断されたDDHの治療成績 | 整形外科 | 薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、蒲田悦子、武岡由樹 | 第53回 | 53th 日本小児股関節研研究会 | 滋賀 | 2014.6.20-21 |
| 脊髄腫瘍患者に対する新生児期からの整形外科的アプローチ | 整形外科 | 薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、武岡由樹 | 第31回 | 第31回日本二分脊椎研究会 | 東京 | 2014.7.5 |
| Radiographic Evaluation of the Neonate with Clubfoot | 整形外科 | Shinichi Satsuma, Daisuke Kobayashi, Maki kinugasa, Yoshiki Takeoka | 第18回 | 18th APOA 2014 | Pattaya (パタヤ・タイ) | 2014.10.23-25 |
| 先天性内反足治療における Ponseti 法と従来法の比較 | 整形外科 | 薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、武岡由樹 | 第25回 | 第25回日本小児整形外科学会 | 千葉 | 2014.11.27-28 |
| Two cases of severe flat foot | 整形外科 | Shinichi Satsuma, Daisuke Kobayashi, Maki kinugasa, Yoshiki Takeoka | 第1回 | JPOA 2014 Case Discussion | 千葉 | 2014.11.29 |
| 先天性内反足の病態と Ponseti 法の実際 | 整形外科 | 薩摩真一 | 第53回 | 第53回近畿小児整形外科懇話会 | 大阪 | 2014.1.25 |
| 先天性股関節脱臼の診かたとその対応 | 整形外科 | 薩摩真一 | 第1回 | 第1回兵庫県股関節症例検討会 | 神戸 | 2014.2.6 |
| 小児整形外科診療におけるピットフォール | 整形外科 | 薩摩真一 | 第3回 | 第3回明石整形外科連絡会 | 明石 | 2014.2.15 |
| 小児科医が知っておきたい整形外科疾患 | 整形外科 | 薩摩真一 | 第61回 | 第61回小児医学講座(兵庫県小児科医会) | 神戸 | 2014.3.1 |
| 年齢別に見た小児足部疾患とその治療 | 整形外科 | 薩摩真一 | 第87回 | 第87回日本整形外科学会 | 神戸 | 2014.5.23 |
| 小児の足部変形 —先天性内反足を中心に— | 整形外科 | 薩摩真一 | 第6回 | 中国四国小児整形外科研修会 | 岡山 | 2014.11.16 |
| 大腿骨延長後、2年以上にわたる創外固定器装着を要した仮骨形成不良の1例 | 整形外科 | 衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、蒲田悦子 | 第53回 | 近畿小児整形外科懇話会 | 大阪 | 2014.1.25 |
| 骨延長後の骨折症例についての検討 | 整形外科 | 衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、蒲田悦子 | 第27回 | 日本創外固定・骨延長学会学術集会 | 大阪 | 2014.3.7-8 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|------|---|------|---|-----------------|-----------------|
| Can Glucose Level of Joint Fluid Predict Diagnosis of Septic Arthritis? A Preliminary Report | 整形外科 | Maki Kinugasa, Daisuke Kobayashi, Shinichi Satsuma, Yoshiyuki Shinada | | The Pediatric Orthopaedic Society of North America (POSNA) Annual Meeting | Hollywood (USA) | 2014.4.30-5.03 |
| 大腿骨頭すべり症—肥満患者と標準体型患者の比較— | 整形外科 | 衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、武岡由樹 | 第53回 | 日本小児股関節研究会 | 滋賀 | 2014.06.20-21 |
| Can Glucose Level of Joint Fluid Predict Diagnosis of Septic Arthritis? | 整形外科 | 衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、武岡由樹 | 第25回 | 日本小児整形外科学会学術集会 | 千葉 | 2014.11.27-28 |
| FOP の 2 症例 | 整形外科 | 衣笠真紀、薩摩真一、小林大介、武岡由樹 | 第26回 | 日本整形外科学会骨系統疾患研究会 | 千葉 | 2014.11.28 |
| Charcot-Marie-Tooth 病に伴う尖足に対する術後、凹足が進行し再手術が必要となった 1 例 | 整形外科 | 武岡由樹、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀 | 第54回 | 近畿小児整形外科懇話会 | 大阪 | 2014.7.26 |
| Charcot-Marie-Tooth 病に伴う足部変形に対する手術加療 | 整形外科 | 武岡由樹、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀 | 第39回 | 足の外科学会 | 宮崎 | 2014.11.13-14 |
| 軽微な外力により頸椎不安定性を生じた 1 例 | 整形外科 | 武岡由樹、宇野耕吉*、薩摩真一、小林大介、鈴木哲平*、衣笠真紀 (* = 神戸医療センター) | 第55回 | 近畿小児整形外科懇話会 | 奈良 | 2015.1.24 |
| 不安定型大腿骨頭すべり症の治療方針 — 可及的早期の愛護的整復とピンニング — | 整形外科 | 小林大介、薩摩真一、衣笠真紀 | 第87回 | 日本整形外科学会学術集会 シンポジウム | 神戸 | 2014. 5.21 — 25 |
| 高度遺残亜脱臼に対する Salter 骨盤骨切り術と関節内操作の長期治療成績 | 整形外科 | 小林大介、薩摩真一、衣笠真紀 | 第87回 | 日本整形外科学会学術集会 | 神戸 | 2014. 5.21 — 26 |
| 不安定型大腿骨頭すべり症の治療方針 — 可及的早期の整復、ピンニング、除圧 — | 整形外科 | 小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、武岡由樹 | 第25回 | 日本小児整形外科学会学術集会 | 千葉 | 2014.11.27-28 |
| 不安定型すべり症 整復するべきか? ディベート | 整形外科 | 小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、武岡由樹 | 第53回 | 日本小児股関節研究会 | 滋賀 | 2014.06.20-21 |
| 大腿骨延長術施行中に骨形成が不良であった 2 症例の検討 | 整形外科 | 小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、蒲田悦子 | 27回 | 日本創外固定・骨延長学会学術集会 | 大坂 | 2014.03.07-08 |
| Salter 骨盤骨切り術後の骨盤の Retroversion について | 整形外科 | 小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、蒲田悦子 | 第53回 | 近畿小児整形外科懇話会 | 大坂 | 2014.01.25 |
| 小児整形外科疾患の鑑別と治療 | 整形外科 | 小林大介 | | 神戸市整形外科医会 | 神戸 | 2014.8. 2 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|------|---|-------|--|-----------------|----------------|
| Acetabular retroversion after Salter Innominate Osteotomy in the patients with developmental dysplasia of the hip | 整形外科 | D Kobayashi S Satsuma M Kinugasa | | POSNA Annual Meeting, | Hollywood (USA) | 2014.4.30-5.03 |
| Pseudarthrosis of the fibula after lower limb lengthening | 整形外科 | D Kobayashi S Satsuma M Kinugasa | | POSNA Annual Meeting, | Hollywood (USA) | 2014.4.30-5.04 |
| 生下時より15年の経過を経て治療目標に近づいた先天性下腿偽関節の1例 | 整形外科 | 蒲田悦子、小林大介、薩摩真一、衣笠真紀 | 27回 | 日本創外固定・骨延長学会学術集会 | 大坂 | 2014.3..7-8 |
| 乳児内斜視一本態性でもここまで直せるー | 眼科 | 野村耕治 | 第13回 | 近畿弱視斜視セミナー | 大阪 | 2014.2.22 |
| Long term outcomes of strabismus surgery in 2cases of Moebius syndrome | 眼科 | Nakano S, Nomura K | 第34回 | World Ophthalmology Congress | 東京 | 2014.4.2 |
| 教育講演 21 小児の眼疾患で小児科医が知っておくべきこと | 眼科 | 野村耕治 | 第117回 | 日本小児科学会 | 名古屋 | 2014.4.13 |
| 小児眼科ならびに弱視斜視のアップデート | 眼科 | 野村耕治 | 第30回 | 日本視能訓練士協会講演会 | 大阪 | 2014.6.8 |
| 弱視の診断と治療 | 眼科 | 野村耕治 | 第1回 | 播州眼科セミナー | 姫路 | 2014.7.19 |
| 遠視に起因する弱視の治療ならびに眼位管理 | 眼科 | 野村耕治 | 第2回 | 呉西眼疾患研究会 | 高岡 | 2014.8.23 |
| 遠視に起因する弱視の診断と治療 | 眼科 | 野村耕治 | | 近畿眼科医会連合夏季講習会 | 神戸 | 2014.8.31 |
| みんなで救おう子どもの眼 | 眼科 | 野村耕治 | | 三田市眼の愛護デー | 三田 | 2014.9.28 |
| 小児の眼疾患で小児科医が知っておくべきこと | 眼科 | 野村耕治 | 第6回 | 神戸市西部小児科JOINT会 | 神戸 | 2014.10.4 |
| シンポジウム 2 健診と学校保健を考える：外傷 | 眼科 | 野村耕治 | 第39回 | 日本小児眼科学会総会 | 京都 | 2014.11.29 |
| Progress of enucleated eye in retinoblastoma: Case report | 眼科 | Yanagisawa S, Nomura K, Maeda Y, Hirose M | 第39回 | 日本小児眼科学会総会 JASA-JAPO-AAPOS Joint Meeting | 京都 | 2014.11.29 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|-------------------------|---|--------|---|-------|---------------|
| Long term outcome of Anderson procedure for nystagmus with abnormal head posture | 眼科 | Maeda Y, Nomura K, Yanagisawa S, Hirose M | 第12回 | Meeting of the International Strabismological Association | 京都 | 2014.12.1 |
| 遠視に起因する弱視の治療ならびに眼位管理 | 眼科 | 野村耕治 | 第97回 | 秋田県眼科集談会 | 秋田 | 2014.12.14 |
| 言語聴覚士業務拡充における検証～院内リハビリテーション開始から2年の動向～ | 耳鼻咽喉科 | 住友亜佐子、小松 岳、仲宗根幸子、今村菜帆子、阪本浩一、大津雅秀 | 第12回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸市 | 2014.9.6 |
| 無舌症と口峽の狭小化を呈した乳児に対する哺乳援助の経緯 | 耳鼻咽喉科 新生児科 GCU 病棟 | 小松岳、住友亜佐子、高木のぶ子、安田江里、和田佳子、阪本浩一、大津雅秀 | 第12回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸市 | 2014.9.6 |
| 精密聴力検査の実際と難聴の治療 | 耳鼻咽喉科 | 大津雅秀 | 平成25年度 | 新生児聴覚検査医師等研修会 | 尼崎市 | 2014.2.8 |
| 精密聴力検査の実際と難聴の治療 | 耳鼻咽喉科 | 大津雅秀 | 平成25年度 | 新生児聴覚検査医師等研修会 | 姫路市 | 2014.2.16 |
| 精密聴力検査の実際と難聴の治療 | 耳鼻咽喉科 | 大津雅秀 | 平成25年度 | 新生児聴覚検査医師等研修会 | 神戸市 | 2014.2.22 |
| 兵庫県における新生児聴覚スクリーニング検査の現状～難聴診断後の措置と療育まで | 耳鼻咽喉科 | 大津雅秀 | 第39回 | 吉馴学術記念講演会 | 神戸市 | 2014.7.19 |
| 喉頭アレルギー鑑別診断におけるFスケール問診票の有用性と問題点 | 耳鼻咽喉科 | 阪本浩一 | 第26回 | 日本喉頭科学会 | 那覇市 | 2014.3.6-7 |
| 心理発達検査よりみたり小児心因性難聴の動向 | 耳鼻咽喉科 | 阪本浩一、大津雅秀 | 第115回 | 日本耳鼻咽喉科学会 | 福岡市 | 2014.5.14-17 |
| 5症例からみた小児心因性難聴の現況 | 耳鼻咽喉科 | 阪本浩一、大津雅秀、松永達雄 | 第59回 | 日本聴覚医学会 | 下関市 | 2014.11.27-28 |
| 心理検査よりみたり小児心因性難聴の考察 | 耳鼻咽喉科 | 阪本浩一、大津雅秀 | 第9回 | 日本小児耳鼻咽喉科学会 | 浜松市 | 2014.6.6-7 |
| 先天性無舌症児の一例 | 耳鼻咽喉科 | 阪本浩一 | 第27回 | 日本口腔咽喉頭科学会 | 札幌市 | 2014.9.11-12 |
| 当科における小児摂食嚥下障害への対応 | 耳鼻咽喉科 | 阪本浩一、大津雅秀 | 第66回 | 日本気管食道科学会 | 高知市 | 2014.11.13-14 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|-------|---|-----------|---|-----------------|---------------|
| 中等度難聴児における補聴と言語発達における療育の重要性-4症例の検討から | 耳鼻咽喉科 | 阪本浩一 | 第59回 | 日本音言語医学会 | 福岡市 | 2014.10.11 |
| 中等度難聴児における補聴そして療育の重要性 | 耳鼻咽喉科 | 阪本浩一 | 第12回 | 東播耳鼻科研究会 | 加古川市 | 2014.10.29 |
| 小児持続性咳嗽に伴う耳鼻咽喉科医の対応とその周辺疾患 | 耳鼻咽喉科 | 阪本浩一 | 第13回 | 岡崎喘息アレルギークンファレンス | 岡崎市 | 2014.6.21 |
| 耳鼻咽喉科における持続性咳嗽の諸相-喉頭軟弱症から喉頭アレルギーまで | 耳鼻咽喉科 | 阪本浩一 | 平成26年度第2回 | 加古川市医師会臨床懇話会 | 加古川市 | 2014.8.7 |
| Adenotonsillectomy for obstructive sleep apnea in children:outcome evaluated by pre-and postoperative OSA-18 quality of life instrument in japan | 耳鼻咽喉科 | H.Sakamoto, M.Otsu | 第12回 | International Conference of European Society of Paediatric Otorhinolaryngology. | Dublin, Ireland | 2014.5.31-6.3 |
| 嚙下障害はどんな病気？どうすればいい？ | 耳鼻咽喉科 | 阪本浩一 | 平成26年度 | 川西市健康大学 | 川西市 | 2014.7.17 |
| 次世代シーケンシングで LOXHD1 遺伝子変異が認められた先天性難聴1家系の報告 | 耳鼻咽喉科 | 南修司郎、松永達雄、阪本浩一、加我君孝 | 第115回 | 日本耳鼻咽喉科学会 | 福岡市 | 2014.5.14-17 |
| 両側低音障害型感音難聴の分子遺伝学的検討 | 耳鼻咽喉科 | 笠倉奈津子、増田正次、増田佐和子、阪本浩一、小河原昇、三澤逸人、甲能直幸、松永達雄 | 第59回 | 日本聴覚医学会 | 下関市 | 2014.11.27-28 |
| 閉鎖陰圧療法を用いた深頸部膿瘍の一例 | 耳鼻咽喉科 | 梶本康幸、古閑紀雄、阪本浩一 | 第115回 | 日本耳鼻咽喉科学会 | 福岡市 | 2014.5.14-17 |
| 小児急性陰嚢症の臨床的検討 - 当科における10年の経験 - | 泌尿器科 | 久松英治、清末晶子、中川賀清、杉多良文 | 第102回 | 日本泌尿器科学会総会 | 神戸市 | 2014.4.27 |
| 頬粘膜を用いた腔形成術の経験 | 泌尿器科 | 杉多良文、久松英治、中川賀清、神野雅 | 第102回 | 日本泌尿器科学会総会 | 神戸市 | 2014.4.27 |
| 腹壁導尿管路作成11年目に導尿管難を認めた症例 | 泌尿器科 | 中川賀清、神野雅、久松英治、杉多良文 | 第51回 | 日本小児外科学会学会集 | 大阪市 | 2014.5.8 |
| One-Stage hypospadias repair with free skin graft wrapped with preputial dartos flap | 泌尿器科 | 杉多良文、中川賀清、久松英治、神野雅 | 第25回 | Annual Congress of Asia-Pacific Association of Pediatric Urologists | Innsbruck | 2014.5.10 |
| 腹壁導尿管路作成11年目に導尿管難を認めた症例 | 泌尿器科 | 中川賀清 | 第28回 | 日本小児泌尿器科学会・排泄管理研究会 | 東京都 | 2014.05.24 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|------|------------------------------|------|---|--------------|------------|
| Covered cloacal exstrophy に伴う膀胱内陰茎に対する手術経験 | 泌尿器科 | 清末晶子、久松英治、奈良健平、中川賀清、杉多良文 | 第23回 | 日本小児泌尿器科学会 総会 | 横浜市 | 2014.7.10 |
| 犬咬傷による両側精巣欠損の1例 | 泌尿器科 | 奈良健平、久松英治、清末晶子、中川賀清、杉多良文 | 第23回 | 日本小児泌尿器科学会 総会 | 横浜市 | 2014.7.10 |
| 頬粘膜を用いた脛形成術 | 泌尿器科 | 杉多良文、久松英治、中川賀清、奈良健平、清末晶子 | 第23回 | 日本小児泌尿器科学会 総会 | 横浜市 | 2014.7.10 |
| 小児急性陰嚢腫の臨床的検討 - 当科における10年の経験 - | 泌尿器科 | 久松英治、清末晶子、奈良健平、中川賀清、杉多良文 | 第23回 | 日本小児泌尿器科学会 総会 | 横浜市 | 2014.7.11 |
| 当科で過去10年間に経験した腹腔内精巣の臨床的検討 | 泌尿器科 | 奈良健平、清末晶子、久松英治、中川賀清、杉多良文 | 第79回 | 日本泌尿器科学会東部 総会 | 横浜市 | 2014.10.12 |
| Inguinal ectopic renal tissue associated with cryptorchidism: a case report | 泌尿器科 | 中川賀清、清末晶子、神野雅、奈良健平、久松英治、杉多良文 | 第14回 | Meeting of Korean Japanese Society of Pediatric Urologists | 日光市 | 2014.11.19 |
| Vaginoplasty utilizing buccal mucosal graft | 泌尿器科 | 杉多良文、中川賀清、久松英治、清末晶子、奈良健平 | 第16回 | Annual Congress of Asia-Pacific Association of Pediatric Urologists | 日光市 | 2014.11.20 |
| Genital mobilization of intravesical phallus associated with covered cloacal exstrophy | 泌尿器科 | 清末晶子、久松英治、奈良健平、中川賀清、杉多良文 | 第16回 | Annual Congress of Asia-Pacific Association of Pediatric Urologists | 日光市 | 2014.11.22 |
| Anesthetic management of children with trisomy 18: 71-case series of 35 patients. | 麻酔科 | 末田彩、土居ゆみ | | Pediatric Anesthesiology 2014 (米国小児麻酔学会) | 米国、 フロリダ州 | 2014.3.7 |
| 小児臍ヘルニア手術に対する腹直筋鞘ブロックの有効性 | 麻酔科 | 香川哲郎、鈴木毅、上北郁男、池島典之 | 1 | 日本区域麻酔学会 | 岡山 | 2014.4.25 |
| 18トリソミー患児68症例の麻酔経験 | 麻酔科 | 末田彩、土居ゆみ、高辻小枝子、鈴木毅、法華真衣、香川哲郎 | 61 | 日本麻酔科学会 | 横浜 | 2014.5.16 |
| 抜管の strategy | 麻酔科 | 香川哲郎 | 61 | 日本麻酔科学会 | 横浜 | 2014.5.17 |
| 帝王切開時のボルペン使用症例 | 麻酔科 | 山根悠 | 4 | 神戸麻酔科研究会 | 神戸 | 2014.6.28 |
| 小児内反足手術における神経ブロック | 麻酔科 | 上北郁男 | 6 | PNB 登竜門 | 大阪 | 2014.6.27 |
| 小児麻酔というサブスペシャリティー | 麻酔科 | 池島典之 | 11 | 麻酔科学サマーマーセミナー | 沖縄 | 2014.6.27 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第〇回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|------|--|-------|-------------------|-----------|--------------|
| ダウン症候群患児の麻酔管理 | 麻酔科 | 上北郁男 | 20 | 小児麻酔学会 | 札幌 | 2014.9.23 |
| 局所麻酔下に胃瘻から逆行性に気管食道瘻へカテーテルを挿入した後全身麻酔を導入したC型食道閉鎖の一症例 | 麻酔科 | 土居ゆみ、高辻小枝子、法華真衣、香川哲郎 | 20 | 小児麻酔学会 | 札幌 | 2014.9.22 |
| 特殊Y型気管切開チューブ留置中でECMO下にチューブ抜去を行ったPfeiffer症候群の児の麻酔管理 | 麻酔科 | 野々村哲子、池島典之、鈴木毅、香川哲郎 | 20 | 小児麻酔学会 | 札幌 | 2014.9.22 |
| Loeys-Dietz症候群に対して自己弁温存大動脈基部手術と漏斗胸手術を同時に行った小児の麻酔経験 | 麻酔科 | 山根悠、池島典之、青木保尚、齋田昌史、香川哲郎 | 20 | 小児麻酔学会 | 札幌 | 2014.9.22 |
| 超音波画像診断により仙骨硬膜外麻酔の適否を判断した1例 | 麻酔科 | 山島 佑輔、香川 哲郎、池島 典之、白神 豪太郎 | 20 | 小児麻酔学会 | 札幌 | 2014.9.22 |
| 硬膜外カテーテール留置時の下部胸髄損傷で術後に下腿の感覚低下を残した症例 | 麻酔科 | 大西広泰、鈴木毅、香川哲郎 | 20 | 小児麻酔学会 | 札幌 | 2014.9.22 |
| 術中血圧管理に難渋した腹部神経芽細胞腫摘出術の麻酔経験 | 麻酔科 | 小嶋大樹、土居ゆみ、香川哲郎 | 20 | 小児麻酔学会 | 札幌 | 2014.9.23 |
| 兵庫県立こども病院における麻酔後回診 — Android端末を使用した取り組み | 麻酔科 | 池島典之、川瀬太助、末田彩、香川哲郎 | 20 | 小児麻酔学会 | 札幌 | 2014.9.23 |
| アセトアミノフェン静注薬が小児斜視手術術後の覚醒時興奮に与える影響の検討 | 麻酔科 | 法華真衣、上北郁男、加藤啓洋、山路寛人、香川哲郎 | 20 | 小児麻酔学会 | 札幌 | 2014.9.23 |
| Do antenatal steroids suppress the pulmonary inflammation (interleukin-6 levels) in ventilated extremely premature infants? | 新生児科 | Sota Iwatani, Masami Mizobuchi, Okito Hashimoto, Emiko Takeoka, Atsutoshi Shiratori, Keiko Wada, Hitomi Sakai, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao | | 2014 PAS meetings | Vancouver | 2014.5 |
| The effect of hourly feeding intervals on very low birth weight infants | 新生児科 | Kazumichi Fujioka, Masami Mizobuchi, Sota Iwatani, Hitomi Sakai, Keiko Wada, Seiji Yoshimoto, Hideto Nakao | | 2014 PAS meetings | Vancouver | 2014.5 |
| 総合周産期母子医療センターでの低アプガースコア値児の病態と低体温療法への適応 | 新生児科 | 芳本誠司、岩谷壮太、坂井仁美、和田佳子、溝淵雅巳、中尾秀人 | 第117回 | 日本小児科学会 | 名古屋 | 2014.4.11-13 |
| 第三次周産期医療センターにおける気管切開症例の検討 | 新生児科 | 上村和也、藤岡一路、岩谷壮太、坂井仁美、和田佳子、和田佳子、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人 | 第117回 | 日本小児科学会 | 名古屋 | 2014.4.11-13 |
| 当院で経験した仙尾部奇形腫の17例 | 新生児科 | 岩谷壮太、上村和也、坂井仁美、和田佳子、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人 | 第117回 | 日本小児科学会 | 名古屋 | 2014.4.11-13 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|------|--|-------|---------------|-------|---------------|
| 体内治療的帝王切開術 (Ex utero intrapartum treatment:EXIT) による気道確保を行った胎児頸部腫瘍の1例 | 新生児科 | 藤岡一路、日外祐理、三木康暢、田聡、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、大西広泰、喜吉賢二、横井暁子、中尾秀人 | 第262回 | 日本小児科学会兵庫県地方会 | | 2014.5.24 |
| 新生児慢性肺疾患 (CLD) に対する吸入ステロイド中止後にステロイド全身投与は増加するか | 新生児科 | 三木康暢、溝淵雅巳、田中聡、藤岡一路、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、芳本誠司、中尾秀人 | 第262回 | 日本小児科学会兵庫県地方会 | | 2014.5.24 |
| 完全大血管転位を合併した先天性風疹症候群の1例 | 新生児科 | 上村和也、藤岡一路、梶笑美子、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人 | 第262回 | 日本小児科学会兵庫県地方会 | | 2014.5.24 |
| 第三次周産期医療センターにおける気管切開症例の検討 | 新生児科 | 上村和也、藤岡一路、梶笑美子、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人 | 第262回 | 日本小児科学会兵庫県地方会 | | 2014.5.24 |
| 出生前診断におけるカウセンリング こんな場合どうすればよいか? 胎児期に四肢短縮を指摘された骨系統疾患の児の周産期臨床像 | 新生児科 | 和田佳子、浅野貴大、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人 | 第50回 | 日本周産期新生児医学会 | 浦安 | 2014.7.13-15 |
| 極低出生体重児の正期産相当時頭部MRIにおける脳室拡大の評価 | 新生児科 | 溝淵雅巳、浅野貴大、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、芳本誠司、中尾秀人 | 第50回 | 日本周産期新生児医学会 | 浦安 | 2014.7.13-15 |
| 胎児水腫で発症した家族性血球貪食性リンパ組織球症の一例 | 新生児科 | 岩谷壮太、浅野貴大、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人 | 第50回 | 日本周産期新生児医学会 | 浦安 | 2014.7.13-15 |
| 重症性肺炎合併極低出生体重児に対する肺高血圧クローゼ予防目的の sildenafil 投与効果について | 新生児科 | 芳本誠司、浅野貴大、溝淵雅巳、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人 | 第50回 | 日本周産期新生児医学会 | 浦安 | 2014.7.13-15 |
| 当科で経験した全前脳胞症 27 例の臨床像 | 新生児科 | 武岡恵美子、浅野貴大、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人 | 第50回 | 日本周産期新生児医学会 | 浦安 | 2014.7.13-15 |
| 新生児病棟内の MRSA 保菌児に対するムピロシニンによる長期除菌 | 新生児科 | 溝淵雅巳、山口宏、生田寿彦、和田佳子、坂井仁美、芳本誠司、中尾秀人 | 第58回 | 日本未熟児新生児学会 | 愛媛 | 2014.11.10-12 |
| 超早産児への NO 吸入療法における体血圧への影響について | 新生児科 | 芳本誠司、山口宏、生田寿彦、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人 | 第58回 | 日本未熟児新生児学会 | 愛媛 | 2014.11.10-12 |
| 片側の進行性肺炎腫に対し呼吸理学療法が有効であった Wilson Mikity 症候群の一例 | 新生児科 | 坂井仁美、山口宏、生田寿彦、和田佳子、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人 | 第58回 | 日本未熟児新生児学会 | 愛媛 | 2014.11.10-12 |
| SGA 児における経静脈栄養の安全性の検討 | 新生児科 | 和田佳子、山口宏、生田寿彦、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人 | 第58回 | 日本未熟児新生児学会 | 愛媛 | 2014.11.10-12 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第〇回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|------|--|--------|---|------------------|--------------|
| 極低出生体重児の正期産相当時頭部MRIにおける側腹室拡大の評価法 | 新生児科 | 生田寿彦、山口宏、坂井仁美、和田佳子、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人 | 第58回 | 日本未熟児新生児学会 | 愛媛 | 2014.1.10-12 |
| 一絨毛膜性双胎は未熟児動脈管開存症の危険因子か？ | 新生児科 | 山口宏、生田寿彦、坂井仁美、和田佳子、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人 | 第58回 | 日本未熟児新生児学会 | 愛媛 | 2014.1.10-12 |
| The study of the floating omental image in meconium peritonitis | 産科 | T.Minamitani, K.Kiyoshi, H.Nakazawa, A.Makishi, Y.Takamatsu, T.Samoto, T.Funakoshi | 24th | World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology | Barcelona, Spain | 2014.9.14-17 |
| Acute hemodynamic deterioration of fetal intra-abdominal umbilical vein varix: case report | 産科 | Makishi, H.Nakazawa, T.Minamitani, Y.Takamatsu, K.Kiyoshi, T.Samoto, T.Funakoshi | 24th | World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology | Barcelona, Spain | 2014.9.14-17 |
| 第1回兵庫県産科産期医療協議会の報告 | 産科 | 船越 徹 | 平成25年度 | 日本産婦人科医会近畿ブロック協議会 | 草津 | 2014.1.19 |
| 平成24年兵庫県産科産期医療システム母体紹介・搬送情報提供書集計結果について | 産科 | 船越 徹 | 平成25年度 | 家族計画・母体保護法指導者講習会に伴う伝達講習会 | 神戸 | 2014.2.23 |
| 平成24年兵庫県産科産期医療システム母体紹介・搬送情報提供書集計結果について | 産科 | 船越 徹 | 平成25年度 | 家族計画・母体保護法指導者講習会に伴う伝達講習会 | 尼崎 | 2014.3.6 |
| 当科での破水後 長期管理症例の検討 | 産科 | 中澤浩志、南谷智之、牧志 綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹 | 第191回 | こども病院症例検討会 | 神戸 | 2014.3.13 |
| 体内治療的帝王切開術 (Ex utero intrapartum treatment:EXIT) による気道確保を行った胎児頭部腫瘍の1例 | 産科 | 藤岡一路、日外祐理、三木康暢、田中聡、岩谷壮太、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、大西広泰、喜吉賢二、横井暁子、中尾秀人 | 第117回 | 日本小児科学会学術集会 | 名古屋 | 2014.4.11-13 |
| [ランチョンセミナー] 当科における切迫早産管理 | 産科 | 船越 徹 | 第66回 | 日本産科婦人科学会学術集会 | 東京 | 2014.4.18-20 |
| 妊娠 22 ~ 26 週に分娩となった207 妊娠の分析 | 産科 | 船越 徹、上田萩子、中澤浩志、南谷智之、牧志 綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇 | 第66回 | 日本産科婦人科学会学術集会 | 東京 | 2014.4.18-20 |
| 既往子宮体部縦切開後妊娠の周産期管理に関する検討 | 産科 | 喜吉賢二、上田萩子、中澤浩志、南谷智之、牧志 綾、高松祐幸、佐本 崇、船越 徹 | 第66回 | 日本産科婦人科学会学術集会 | 東京 | 2014.4.18-20 |
| 妊娠 23 週で分娩となった母児の短期予後—経膈分娩と帝王切開分娩における比較— | 産科 | 上田萩子、中澤浩志、南谷智之、牧志 綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹 | 第66回 | 日本産科婦人科学会学術集会 | 東京 | 2014.4.18-20 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|-----|---|------|-----------------|-------|--------------|
| 切迫早産に対する硫酸マグネシウム投与量と母体ならびに臍帯血中マグネシウム濃度における検討—胎と双胎妊娠における比較— | 産科 | 中澤浩志、上田稜子、南谷智之、牧志 綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹 | 第66回 | 日本産科婦人科学会学術集会 | 東京 | 2014.4.18-20 |
| [多施設共同研究] 妊娠前 BMI 別の妊娠糖尿病の妊娠予後に関する後方視的多施設共同研究 | 産科 | 杉山隆、目時弘仁、西郡秀和、齋藤昌利、菅原準一、八重樫伸生、西川鑑、水沼英樹、小林康祐、久保田俊郎、吉村泰典、松田義雄、左合治彦、荒田尚子、野平知良、田中守、高橋恒男、齋藤滋、塩沢丹里、吉田好雄、土田達、池田智明、西村公宏、小西郁生、北脇城、村上節、木村正、光田信明、小林浩、山田秀人、船越 徹、赤松信雄、平松祐司、多田克彦、工藤美樹、原田省、阿部恵美子、堀大蔵、種原久司、増崎英明、安日一郎、飯島浩、石松順嗣、橋口幹夫、佐川典正、糖代謝異常妊娠全国多施設調査委員会 | 第66回 | 日本産科婦人科学会学術集会 | 東京 | 2014.4.18-20 |
| [多施設共同研究] I型および2型糖尿病合併妊娠の妊娠予後に関する比較検討 | 産科 | 佐藤孝洋、杉山隆、目時弘仁、西郡秀和、齋藤昌利、菅原準一、八重樫伸生、西川鑑、水沼英樹、小林康祐、吉田純、久保田俊郎、吉村泰典、松田義雄、左合治彦、荒田尚子、野平知良、田中守、高橋恒男、齋藤滋、塩沢丹里、吉田好雄、土田達、池田智明、西村公宏、小西郁生、北脇城、村上節、木村正、光田信明、小林浩、山田秀人、船越 徹、赤松信雄、平松祐司、多田克彦、工藤美樹、原田省、那波明宏、阿部恵美子、堀大蔵、種原久司、増崎英明、安日一郎、飯島浩、石松順嗣、橋口幹夫、佐川典正、糖代謝異常妊娠全国多施設調査委員会 | 第66回 | 日本産科婦人科学会学術集会 | 東京 | 2014.4.18-20 |
| [多施設共同研究] 重症発育不全児の生後18ヵ月における予後および周産期予後因子に関する後方視的コホート研究 | 産科 | 笹原淳、梅原永能、吉田彩、小澤克典、田中啓、種元智洋、市塚清健、石川浩史、村越毅、喜吉賢二、左合治彦、石井桂介 | 第66回 | 日本産科婦人科学会学術集会 | 東京 | 2014.4.18-20 |
| [多施設共同研究] 重症発育不全児の日齢28における予後および周産期予後因子に関する後方視的コホート研究 | 産科 | 吉田彩、梅原永能、笹原淳、石井桂介、小澤克典、田中啓、種元智洋、市塚清健、石川浩史、村越毅、喜吉賢二、左合治彦 | 第66回 | 日本産科婦人科学会学術集会 | 東京 | 2014.4.18-20 |
| シンポジウム 産婦人科胎児超音波検査：胎児はどこまでチェックすべきか 胎児スクリーニング レビュー | 産科 | 牧志 綾 | 第87回 | 日本超音波医学会学術集会 | 横浜 | 2014.5.9-11 |
| 当院で経験した先天性風疹症候群の2例 | 産科 | 南谷智之、中澤浩志、牧志 綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹 | 第31回 | 日本産科婦人科学会感染症研究会 | 神戸 | 2014.6.7-8 |
| 破水後長期管理を行った単胎 pPROM 症例の周産期予後の検討 | 産科 | 中澤浩志、南谷智之、牧志 綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹 | 第31回 | 日本産科婦人科学会感染症研究会 | 神戸 | 2014.6.7-8 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|-----|---|--------|-----------------------------------|-------|---------------|
| 血友病 A 保因者の妊娠・分娩管理の経験 | 産科 | 南谷智之、内田明子、中澤浩志、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹 | 第88回 | 兵庫県産科婦人科学会 学術集会 | 神戸 | 2014.6.22 |
| Mirror 症候群を発生した 2 症例の検討 | 産科 | 中澤浩志、喜吉賢二、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、佐本 崇、船越 徹 | 第130回 | 近畿産科婦人科学会 学術集会 | 大阪 | 2014.6.28-29 |
| 胎児期に一過性骨髄異常増殖症 (TAM) を発生した 1 例 | 産科 | 南谷智之、中澤浩志、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹 | 第130回 | 近畿産科婦人科学会 学術集会 | 大阪 | 2014.6.28-29 |
| 当院で管理した臍帯ヘルニア 24 例の検討 | 産科 | 船越 徹、中澤浩志、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇 | 第50回 | 日本周産期新生児医学会 | 浦安 | 2014.7-13-15 |
| 破水後 7 日間以上の長期管理を行った単胎 pPROM 症例の周産期予後の検討 | 産科 | 中澤浩志、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹 | 第50回 | 日本周産期新生児医学会 | 浦安 | 2014.7-13-15 |
| 異なる経過をたどった胎児腹腔内臍帯静脈瘤の 2 例 | 産科 | 牧志綾、中澤浩志、南谷智之、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹 | 第50回 | 日本周産期新生児医学会 | 浦安 | 2014.7-13-15 |
| [多施設共同研究] 重症発育不全児の年齢 28 における予後および周産期予後因子に関する後ろ視的コホート研究 | 産科 | 吉田 彩、梅原永能、笹原 淳、石井圭介、市塚清健、喜吉賢二、左合治彦 | 第50回 | 日本周産期新生児医学会 | 浦安 | 2014.7-13-15 |
| [多施設共同研究] 重症発育不全児の長期予後および周産期予後因子 | 産科 | 笹原 淳、梅原永能、吉田 彩、田中 啓、小澤克典、喜吉賢二、種元智洋、市塚清健、石川浩史、村越 毅、左合治彦 | 第50回 | 日本周産期新生児医学会 | 浦安 | 2014.7-13-15 |
| [多施設共同研究] 臍帯付着部異常のあった重症胎児発育不全児の 3 歳時の神経学的予後 | 産科 | 仲村輝光、市塚清健、長谷川潤一、石井圭介、笹原 淳、田中 啓、喜吉賢二、小澤克典、石川浩史、村越 毅、左合治彦 | 第50回 | 日本周産期新生児医学会 | 浦安 | 2014.7-13-15 |
| pPROM 症例児の出生時血中 IL-6 濃度は短期予後を定量的に増悪させる | 産科 | 中澤浩志、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹 | 平成26年 | 位育会臨床セミナー | 神戸 | 2014.8.9 |
| [依頼講演] CTG 判読と胎児管理方法 | 産科 | 船越 徹 | | 院内助産所・助産師外来開設のための管理者および助産師研修 2014 | 神戸 | 2014.9.3 |
| 兵庫県生殖周産期協議会アンケート調査結果 | 産科 | 船越 徹 | 第2回 | 兵庫県生殖周産期協議会 | 神戸 | 2014.11.22 |
| 胎児期発症の血球貪食症候群の一例 | 産科 | 南谷智之、中澤浩志、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹 | 第12回 | 日本胎児治療学会 | 久留米 | 2014.11.29-30 |
| 当院における胎児治療 | 産科 | 喜吉賢二 | 平成26年度 | 兵庫県周産期医療研修会 | 神戸 | 2014.12.13 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第〇回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|-------|--|-------|--------------------|-------|--------------|
| 小児の片側性大陰唇腫大 - 似たような症例のご経験はありますか？ - | 放射線科 | 赤坂好宣 | 71 | 小児外科わからん会 | 大阪 | 2014.3.15 |
| Pelvic imaging in children: Five non-genital disorders | 放射線科 | 赤坂好宣 | 73 | 日本医学放射線学会 総会 | 横浜 | 2014.4.13 |
| 小児科医の放射線研修 | 放射線科 | 赤坂好宣 | 10 | 前期研修医のための画像診断セミナー | 西宮 | 2014.6.29 |
| 画像を通じた小児呼吸器診療 | 放射線科 | 赤坂好宣 | 62 | 兵庫小児アレルギー・呼吸器懇話会 | 神戸 | 2014.7.10 |
| 泌尿生殖器 - 明日からの読影に役立つ奇形の知識 - | 放射線科 | 赤坂好宣 | 42 | 日本磁気共鳴医学会大会 | 京都 | 2014.9.19 |
| イメージングアプリケーション - 小児 | 放射線科 | 赤坂好宣 | 50 | 日本医学放射線学会秋季臨床大会 | 神戸 | 2014.9.27 |
| Medulloblastoma28 例の免疫組織化学的検討 | 病理診断科 | 吉田牧子、河村淳史、長嶋達也、山元一樹、石田敏章、川崎圭一郎、長谷川大一郎、矢内友子、神前愛子、斎藤敦郎、越智聡史、宮田篤二、小阪嘉之、赤坂好宣、杉岡勇典、副島俊典、川畑順子、入野博文 | 第103回 | 日本病理学会総会 | 広島 | 2014.4.24-26 |
| Medulloblastoma28 例の免疫組織化学的検討 | 病理診断科 | 吉田牧子、河村淳史、長嶋達也、山元一樹、石田敏章、川崎圭一郎、長谷川大一郎、矢内友子、神前愛子、斎藤敦郎、越智聡史、宮田篤二、小阪嘉之、赤坂好宣、杉岡勇典、副島俊典、川畑順子、入野博文 | 第71回 | 関西小児病理研究会 | 大阪 | 2014.6.28 |
| 左卵巢腫瘍の一例 | 病理診断科 | 吉田牧子、大川祐一、横井暁子、前田眞作、二野菜々子、斎藤敦郎、長谷川大一郎、小阪嘉之、金井美智子、柳沢翠芳、野村耕治、上原栄理子、赤坂好宣 | | 2014年小児腫瘍症例 検討会 | 岡山 | 2014.9.5 |
| 子宮内胎児嚥性血栓症候群と考えられる1剖検例 | 病理診断科 | 吉田牧子、伊東恭子、武岡恵美子、芳本誠司、中尾秀人 | 第34回 | 日本小児病理研究会 | 岡山 | 2014.9.6 |
| EBV 関連 lymphoproliferative disorder の1例 | 病理診断科 | 吉田牧子、齋藤敦郎、長谷川大一郎、小阪嘉之、横井暁子、赤坂好宣 | 第72回 | 関西小児病理研究会 | 大阪 | 2014.12.20 |
| 慢性活動性EBV 感染症の1剖検例 | 病理診断科 | 吉田牧子、川崎圭一郎、小阪嘉之、赤坂好宣 | 第72回 | 関西小児病理研究会 | 大阪 | 2014.12.20 |
| 脊柱管内腫瘍の1例 | 病理診断科 | 吉田牧子、山川 皓、河村淳史、山元一樹、長嶋達也、赤坂好宣、上原栄理子、矢内友子、小阪嘉之 | 第72回 | 関西小児病理研究会 | 大阪 | 2014.12.20 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|--|---------|---------------------------|--------|----------------------------|--------|--------------------|
| 退院支援に家族看護エンバナーメントモデルを活用して-CNSの役割の評価- | 看護部 | 熊谷智子、堀場里美 | 平成26年度 | 西部支部看護実践報告会 | 神戸市 | 2015.1.24 |
| ダウン症の赤ちゃん体操を入院児に行う取り組み | 看護部7階 | 奥田早苗、佐藤温子、長澤君子 | 第11回 | 兵庫県立病院学会分科会 | 神戸市 | 2014.9.6 |
| 一般病室で臍帯血移植を受ける児と環境調整 | 血液主体病棟 | 妹尾舞香、近藤友海、鞠美幸、長澤君子 | 第12回 | 小児がん看護学会 | 岡山市 | 2014.11.30 |
| ピーズカレッジプログラム導入による学童期の小児がん患児、家族の思いと行動の変化 | 血液主体病棟 | 碓定永里雅 c 長澤君子 | 第12回 | 小児がん看護学会 | 岡山市 | 2014.11.30 |
| 無舌症の経口哺乳に対する支援 | GCU 病棟 | 高木のぶ子、森岡江里、内海祐子 | 第24回 | 日本新生児看護学会学術集会 | 愛媛県松山市 | 2014.11.10 ~ 11.11 |
| 肺葉性肺炎腫を合併した超低出生体重児1例に行った呼吸理学療法の有効性と安全性の検討 | NICU | 伊達尚美 小泉仁美 和久望美 竹井朋子 | 第24回 | 日本新生児看護学会学術集会 | 愛媛 | 2014.11.10 ~ 11 |
| 助産師による中学生を対象とした性教育活動～看護の出前授業「いのちの大切さ」を実施して | 産科 | 中西亜希子、谷口道子 | 第55回 | 母性衛生学会 | 千葉県 | 2014.9.13 |
| 医療者がかかえるジレンマを乗り越えるための取り組み～双胎の中期中絶をした母親への関わりをとおして(予定) | 産科 | 原田加奈子、杉友ユリ | 平成25年度 | 周産期事例検討会 | 神戸市 | 2014.3.22 |
| チームダイナミクスを取り入れた初療シミュレーションの効果～オリジナル評価表による分析から～ | 看護部 | 金子大輔、二星淳吾、栗田香奈子、清水称喜 | 第28回 | 日本小児救急医学会学術集会 | 横浜 | 2014. 6.6/7 |
| 小児専門病院の新卒看護師に対する成人医療機関でのコミュニケーション実地研修の評価 | 看護部 | 濱田米紀、中谷扶美、竹井朋子、凧真貴子、藤久保真季 | 第12回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸 | 2014.09.06 |
| 側湾症手術を受ける患児の体位固定に関する取り組み | 手術室 | 白川潤一郎、坂本郁子、藤原由香、田原エリカ | 第25回 | 日本小児整形外科学会学術集会 | 千葉 | 2014.11.27 ~ 28 |
| 小児脳外科の腹臥位手術における頭部支持器使用時の皮膚発赤及び褥瘡発生率と要因調査 | 手術室 | 穂満茜、高橋紫、橋口ゆかり、鎌田直子、田原エリカ | 第28回 | 日本手術看護学会年次大会 | 福岡 | 2014.10.10 ~ 11 |
| 先天性風疹症候群の児の感染対策を経験して | 感染対策委員会 | 鳴滝由佳、竹田 洋樹 | 第29回 | 日本環境感染症学会学術集会 | 東京 | 2014.2.15 |
| 小児消化管ストーマケア | 看護部 | 鎌田直子 | 第51回 | 日本小児外科学会小児ストーマケアアハンスオンセミナー | 大阪 | 2014.5.9 |
| 創傷管理の実際(褥瘡予防・治癒過程・ドレッシング材) | 看護部 | 鎌田直子 | 第19回 | 日本小児ストーマ・排泄管理セミナー | 府中 | 2014. 5.23 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第〇回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|---|--------------|--|--------|--------------------|-------|--------------|
| 総排泄腔外反症患者への皮膚・排泄ケアの現状と今後の課題～セクシユアリティ支援 | 看護部 | 鎌田直子 | 第23回 | 日本小児泌尿器科学会 | 横浜 | 2014.7.11 |
| 小児のストーマケア | 看護部 | 鎌田直子 | 平成26年度 | 山陽学園皮膚・排泄ケア認定看護師研修 | 岡山 | 2014. 9.20 |
| 小児の失禁ケア | 看護部 | 鎌田直子 | 平成26年度 | 山陽学園皮膚・排泄ケア認定看護師研修 | 岡山 | 2014. 10.9 |
| 小児ストーマケア | 看護部 | 鎌田直子 | 第36回 | 関西ストーマケア講習会 | 神戸 | 2014.10. 26 |
| 重症心身障害児と二分脊椎児の褥瘡ケア | 看護部 | 鎌田直子 | 第5回 | 近畿小児WOCケア勉強会 | 京都 | 2014. 12. 13 |
| 小児に対するバンコマイシンの使用状況調査～抗菌薬TDMガイドライン発表前後の比較～ | 薬剤部 | 廣瀬晃子 | 第35回 | 日本病院薬剤師会近畿学術大会 | 京都 | 2014.2.1～2 |
| 散薬経口抗がん剤調剤過程における汚染防止対策の検討（第二報） | 薬剤部 | 愛甲佳未 | 第12回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸 | 2014.9.6 |
| 吸入薬の混合調製後の安全性について | 薬剤部 | 粉井佳奈 | 第12回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸 | 2014.9.6 |
| 散薬抗がん剤による環境汚染対策－飛散防止と散薬分包機清掃方法の検討－ | 薬剤部 | 永井浩章 | 第24回 | 日本医療薬学会年会 | 名古屋 | 2014.9.27～28 |
| 検査部門における人材育成について～研修施設の拠点病院構想～ | 検査放射線部 | 千田園子、駒井隆夫、入野博文、真田浩一、上田真澄、戸田圭三、笹川のせ子、谷後美鈴、三村喜彦、八杉秀美、芳賀由美、松尾美也子、中山亮一、石橋万龍朗（検査放射線部長会議教育研修委員会） | 第12回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸市 | 2014.9.6 |
| こども病院における分割血液製剤の使用状況～院内分割導入後の新たな取り組み～ | 検査放射線部 | 野口啓子、溝根尚子、瀧本良実、戸田照美、千田園子、松尾美也子 | 第12回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸市 | 2014.9.6 |
| こども病院における新生児聴覚検査の取り組み | 検査放射線部 | 山本正子、大島佳那子、四元春江、藤本直子、井手敦子、今井眞理子、石川妙子、戸田照美、松尾美也子 | 第12回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸市 | 2014.9.6 |
| アンビエント使用によるアメニティー向上効果について | 検査・放射線部（放射線） | 射場智美 | 第37回 | 日本小児放射線技術研究会 | 横浜市 | 2014.4.12 |
| チーム医療における放射線技師の役割 | 検査・放射線部（放射線） | 射場智美 | 平成26年度 | 兵庫県立病院放射線技師研修会 | 神戸市 | 2014.6.20 |

| 演題名 | 所属科 | 発表者名 | 第○回 | 学会名 | 開催都市名 | 開催年月日 |
|-------------------------------|------------------|---|------|------------------------------|-------|------------------|
| 小児核医学検査における新たなコンセンサスガイドラインの導入 | 検査・放射線部 (放射線) | 北坂佳之 | 第12回 | 兵庫県立病院学会 | 神戸市 | 2014.9.6 |
| 小児科領域におけるNST活動 | 栄養管理課 | 鳥井隆志 | 第61回 | 日本栄養改善学会学術 総会 | 横浜 | 2014. 8. 20 |
| 小児領域における補助循環管理の実際 | 診療器材管理室 | 横山真司、 吉本由衣 | 第24回 | 日本経皮的心肺補助 (PCPS) 研究会 | 京都 | 2013. 3.1 |
| 出生後早期に緊急手術を要する新生児体外循環の経 験 | 診療器材管理室 | 横山真司、 吉本由衣 | 第40回 | 日本体外循環技術医学 会大会 | 広島 | 2013. 10. 10. 11 |
| 横隔膜ヘルニアに対して V-VECMO を施行した一例 | 診療器材管理室 | 三坂勇介、 横山真司、 岩崎一崇、 秋元明日香、 吉本由衣 | 第9回 | Kobe Perfusion Conference | 神戸 | 2013.12.5 |

4) 報道

| テーマ | 所属科 | 発表者名 | 報道媒体 | 報道年月日 |
|------------------------|-----|------|---------|------------|
| 目に関するQ&A「子どもの白色瞳孔」について | 眼科 | 野村耕治 | 神戸新聞 第号 | 2014.10.10 |

5) 実習生・研修生受け入れ状況 (2014年)

①実習生

診療部

| 学 校 名 | 実 習 名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|------------------------------|---------------|------|------------------|----------------------------------|
| 神戸大学医学部 | 6年次学外実習 | 2 | 5.12～23、7.7～18 | 小児救急医療センター |
| 神戸赤十字病院 | 初期研修医 | 1 | 7.1～8.31 | 小児救急医療センター |
| 兵庫県立西宮病院 | 初期研修医 | 1 | 9.1～11.30 | 小児救急医療センター |
| 兵庫県立塚口病院 | 初期研修医 | 1 | 11.1～1.31 | 小児救急医療センター |
| 神戸大学医学部医学科・保健学科 神戸薬科大学薬学部 | 1年次学生合同初期体験実習 | 6 | 9.17 | 小児救急医療センター・指導相談地域連携部・薬剤部・検査部・看護部 |
| 宝塚三田病院 | 精神科 | 1 | 4.1～3.31(1/月) | 精神科外来 |
| 神戸総合医療専門学校 | 言語聴覚士学生実習 | 1 | 2.6～2.14 | 耳鼻咽喉科および形成外科外来手術室見学 |
| 神戸総合医療専門学校 | 言語聴覚士学生実習 | 1 | 10.27～11.28 | 耳鼻咽喉科および形成外科外来手術室見学 |
| 兵庫県立総合衛生学院 歯科衛生学科 | | 2名 | H26年1月20日～2月13日 | 歯科外来・他 |
| 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科 | | 2名 | H26年4月17日～5月16日 | 歯科外来・他 |
| 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科 | | 2名 | H26年6月10日～6月27日 | 歯科外来・他 |
| 兵庫歯科学院専門学校 歯科衛生学科 | | 2名 | H26年7月1日～7月30日 | 歯科外来・他 |
| 兵庫歯科学院専門学校 歯科衛生学科 | | 2名 | H26年10月1日～10月28日 | 歯科外来・他 |

看護部

| 学 校 名 | 実 習 名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|------------|------------------|------|-------------|----------------------------|
| 兵庫県立大学看護学部 | 総合看護 (小児) | 10 | 5/26～6/20 | 病棟 (7F、5A、5B、4B、HCU) |
| | 総合看護 (健康行動・生涯学習) | 6 | 5/26～6/20 | 病棟 (6A、6B) |
| | 総合看護 (母性) | 3 | 5/26～6/20 | 産科病棟、GCU |
| | 生涯広域看護 | 21 | 6/30～7/11 | 病棟 (7F、6A、6B、5A、5B、4B) |
| | 生涯広域看護 | 21 | 7/14～7/25 | 病棟 (7F、6A、6B、5A、5B、4B) |
| | 生涯広域看護 | 8 | 6/30～7/11 | 産科病棟、GCU |
| | 生涯広域看護 | 8 | 7/14～7/25 | 産科病棟、GCU |
| | 実践研究 (4回生) | 12 | 8/18～9/21 | 病棟 (7F、6B、5A、5B、4B、HCU、産科) |
| | 生涯広域看護 | 17 | 10/6～10/17 | 病棟 (7F、6A、6B、5A、5B、4B) |
| | 生涯広域看護 | 17 | 10/20～10/31 | 病棟 (7F、6A、6B、5A、5B、4B) |

| 学校名 | 実習名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|------------|--------------------|------|-----------------------|------------------------|
| 兵庫県立大学看護学部 | 生涯広域看護 | 17 | 11/4～11/14 | 病棟 (7F、6A、6B、5A、5B、4B) |
| | 生涯広域看護 | 9 | 10/6～10/17 | 産科病棟、GCU |
| | 生涯広域看護 | 9 | 10/20～10/31 | 産科病棟、GCU |
| | 生涯広域看護 | 9 | 11/4～11/14 | 産科病棟、GCU |
| | 総合看護技術 | 21 | 12/9～12/11 | 病棟 (7F、6A、6B、5A、5B、4B) |
| | 総合看護技術 | 21 | 12/15～12/17 | 病棟 (7F、6A、6B、5A、5B、4B) |
| | 小児看護学 (看護学科全日制) | 12 | 9/2～9/12 | 病棟 (7F、6A、6B、4B) |
| | 小児看護学 (看護学科定時制) | 6 | 5/13～5/23 | 病棟 (6A、6B) |
| | 小児看護学 (看護学科定時制) | 5 | 9/2～9/12 | 病棟 (5A、5B) |
| | 小児看護学 (看護学科定時制) | 11 | 9/16～9/26 | 病棟 (7F、5A、5B、4B) |
| 兵庫県立総合衛生学院 | 母性看護学 (看護学科定時制) | 5 | 7/28～7/30 | 産科病棟 |
| | 母性看護学 (看護学科定時制) | 5 | 9/1～9/3 | 産科病棟 |
| | 母性看護学 (看護学科定時制) | 5 | 9/29～10/1 | 産科病棟 |
| | 助産学科 | 4 | 9/30～10/2 | GCU |
| | 助産学科 | 4 | 1/14～1/16 | GCU |
| | 助産学科 | 4 | 1/21～1/23 | GCU |
| | 課題別総合実習 (4回生) | 8 | 8/18～8/31 | 病棟 (7F、6A) |
| | 短期大学通信制課程 | 8 | 8/7～8/8 | 病棟 (7F、6A、6B、4B) |
| | 統合実習 | 6 | 8/18～8/29 | 病棟 (6B、5A、5B、4B) |
| | こども看護 | 2 | 9/22～9/26 | 病棟 (6B) |
| 近大姫路大学 | こども看護 | 2 | 9/29～10/3 | 病棟 (6A) |
| | こども看護 | 10 | 11/17～11/21 | 病棟 (6A、6B、5A、5B) |
| | こども看護 | 4 | 11/24～11/28 | 病棟 (6A、6B) |
| | こども看護 | 6 | 12/1～12/5 | 病棟 (6A、6B) |
| | ウィメンズヘルス看護 | 24 | 11/18～12/12(2日間、3名ずつ) | GCU |
| | 母性高度実践看護実習Ⅲ | 1 | 10/1～2/31 | 産科病棟 |
| | 小児高度実践実習ⅡⅢ小児治療看護実習 | 2 | 5月～12月 | 病棟 (HCU、ICU、5B、6B、外来) |
| | 大学院博士前期課程小児看護学特講演習 | 1 | 6/9～3/31 | GCU、HCU、外来 |
| | 大学院研究科小児看護学博士前期課程 | 1 | 5/12～8/8 | 病棟 (NICU、GCU、6A) |
| | 大学院研究科小児看護学博士前期課程 | 1 | 8月～11月 | 外来インタビュー |
| 神戸市看護大学 | | | | |
| 兵庫県立大学 | | | | |
| 神戸市看護大学 | | | | |
| 大阪府立大学 | | | | |

| 学校名 | 実習名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|----------|---------|------|-----------|------------|
| 川崎医療短大 | 保育学科 | 2 | 8/18～8/29 | 病棟 (7F、4B) |
| | 保育学科 | 2 | 9/1～9/12 | 病棟 (6A、5B) |
| 姫路獨協大学 | こども保健学科 | 1 | 2/2～2/13 | 5B |
| 阪奈中央看護学校 | 看護学科 見学 | 39 | 2/20 | |

薬剤部

| 学校名 | 実習名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|--------|---------|------|------------|----------|
| 神戸学院大学 | 薬学生実務実習 | 1 | 9.26～12.12 | 薬剤部と主な部署 |
| 神戸薬科大学 | 薬学生実務実習 | 1 | 9.26～12.12 | 薬剤部と主な部署 |

検査・放射線部 (検査)

| 学校名 | 実習名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|-------------|------|------|------------|------|
| 神戸常盤大学保健科学部 | 臨地実習 | 2 | 1.14～3.7 | 検査部 |
| 香川県立保健医療大学 | 臨地実習 | 1 | 3.19 | 検査部 |
| 神戸学院大学 | 臨地実習 | 1 | 8.4～8.15 | 検査部 |
| 岡山大学医学部保健学科 | 臨地実習 | 1 | 8.25～8.26 | 検査部 |
| 神戸大学医学部保健学科 | 臨地実習 | 2 | 11.4～11.21 | 検査部 |

栄養管理課

| 学校名 | 実習名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|----------|---------------------|------|-----------|-------|
| 兵庫県立大学 | 臨床栄養臨地実習、給食経営管理臨地実習 | 4 | 2/16～2/27 | 栄養指導課 |
| 同志社女子大学 | 臨床栄養学臨地・校外実習 | 3 | 3/3～3/14 | 栄養指導課 |
| 武庫川女子大学 | 臨床栄養学実習 | 2 | 6/2～6/13 | 栄養管理課 |
| 神戸松蔭女子大学 | 臨床栄養学臨地実習 | 2 | 6/16～6/27 | 栄養管理課 |
| 神戸女子大学 | 臨床栄養学臨地実習 | 3 | 6/30～7/11 | 栄養管理課 |
| 神戸女子大学 | 臨床栄養学臨地実習 | 4 | 8/4～8/15 | 栄養管理課 |
| 神戸女子大学 | 臨床栄養学臨地実習 | 2 | 8/18～8/29 | 栄養管理課 |
| 神戸女子大学 | 臨床栄養学臨地実習 | 4 | 9/1～9/12 | 栄養管理課 |
| 神戸学院大学 | 管理栄養士臨地実習 | 2 | 6/30～7/11 | 栄養管理課 |
| 神戸学院大学 | 管理栄養士臨地実習 | 2 | 8/18～8/29 | 栄養管理課 |

| 学校名 | 実習名 | 実習生数 | 実習期間 | 実習場所 |
|---------|---------|------|--------------------|-------|
| 武庫川女子大学 | 臨床栄養学実習 | 2 | 7/7~7/18、9/8~9/19 | 栄養管理課 |
| 武庫川女子大学 | 臨床栄養学実習 | 2 | 7/22~8/1、9/22~10/3 | 栄養管理課 |

②研修生
診療部

| 依頼元 | 研修科 | 研修生数 | 研修期間 | 研修場所 |
|----------------------|------|------|-------|------------------|
| 尼崎病院 | 放射線科 | 2 | 2ヶ月 | 読影室、超音波室、透視検査室など |
| 塚口病院 | 放射線科 | 3 | 4か月 | 読影室、超音波室、透視検査室など |
| 卒後臨床研修委員会 神戸赤十字病院 | 産科 | 6 | 1ヶ月ずつ | 産科病棟、外来、手術室など |

看護部

| 依頼元 | 研修科 | 研修生数 | 研修期間 | 研修場所 |
|-----------------------------|-------------|------|-----------|--------------|
| 山陽学園大学看護研修センター認定 看護師教育課程 | 失禁外来実習 | 2 | 12月2日 | ストーマ・排泄外来 病棟 |
| 山陽学園大学看護研修センター認定 看護師教育課程 | 失禁外来実習 | 2 | 12月9日 | ストーマ・排泄外来 病棟 |
| 山陽学園大学看護研修センター認定 看護師教育課程 | 失禁外来実習 | 2 | 12月15日 | ストーマ・排泄外来 病棟 |
| 山陽学園大学看護研修センター認定 看護師教育課程 | 失禁外来実習 | 2 | 12月16日 | ストーマ・排泄外来 病棟 |
| 山陽学園大学看護研修センター認定 看護師教育課程 | 失禁外来実習 | 2 | 12月22日 | ストーマ・排泄外来 病棟 |
| 県立西宮病院 | NICU | 3 | 8/4~8/15 | NICU |
| | NICU | 3 | 8/18~8/29 | NICU |
| | 産科・NICU・GCU | 2 | 8月~9月 | 産科・NICU・GCU |
| 中国福利会国際和平婦児保健院 | 産科・NICU・GCU | 2 | 10月~11月 | 産科・NICU・GCU |
| | 産科・NICU・GCU | 2 | 12月~1月 | 産科・NICU・GCU |

6) 長期院外研修 (2014年)

| 研修先施設名 | 所属部署 | 研修者名 | 研修期間 | 研修内容 |
|----------------|------|-------|---------------------|---|
| 福井大学 | 看護部 | 高橋 紫 | 2014.5.30～2015.1.15 | 手術看護認定看護師教育課程 |
| 岡山大学 | 看護部 | 泊 菊子 | 2014.6.4～2015.1.5 | 糖尿病看護認定看護師教育課程 |
| 日本看護協会神戸研修センター | 看護部 | 刈谷 友紀 | 2014.9.1～2015.3.6 | 緩和ケア認定看護師教育課程 |
| シアトル小児病院 | 看護部 | 坂本 郁子 | 2014.3.3～2014.3.28 | 周手術期の看護 |
| | 診療部 | 喜吉 賢二 | 2014.3.3～2014.3.28 | 周産期医療、出生前診断の病院間協力体制 |
| | 診療部 | 中川 拓 | 2014.3.3～2014.3.28 | <ul style="list-style-type: none"> ・入院診療、『外来診療、検査・治療 ・慢性維持血液透析、腎移植 ・教育システム |
| | 診療部 | 水田 麻雄 | 2014.3.3～2014.3.28 | リウマチ科研修 |
| | | | | |

6. 研修（2014年）

1) 公開研修会

| 名称 | 主催 | 開催日 | 時間 | 場所 | 院内参加数 | 院外参加数 | 合計 | テーマ | 発表者 / 担当 |
|---------------------|---------|--------|-------------|--------|-------|-------|----|---|-----------------|
| 第187回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 1月9日 | 17:45～18:30 | 研修室A B | 20 | | 20 | 『巨大頸部奇形腫の胎児に対してEXIT法で気道確保を施行した症例～麻酔上の問題点～』 | 大西 広泰 |
| 第188回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 1月23日 | | | 22 | | 22 | 『新生児科入院となった全前脳胞症の臨床的特徴と問題点』 | 武岡 恵美子 |
| 第189回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 2月13日 | | | 20 | | 20 | 『歯の外傷 - 成長期における治療例-』 | 曾根 由美子 |
| 第190回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 2月27日 | | | 23 | | 23 | 『I131-MIBGMIBG 内照射療法を施行した再発神経芽腫の3例』 | 神前 愛子 |
| 第191回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 3月13日 | | | 20 | 2 | 22 | 『当科での破水後長期管理症例の検討』 | 中澤 浩志 |
| 第192回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 4月10日 | | | 22 | 4 | 26 | 『小児の便秘について』 | 岩出 珠幾 |
| 第193回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 4月24日 | | | 9 | 5 | 14 | 『日常診療で役立つアレルギーマニエラの知識～アナフィラキシー症例にエビエンを正しく使えますか？～』 | 笠井 和子 |
| 第194回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 5月8日 | | | 30 | 1 | 31 | 『当院における新生児聴覚スクリーニング検査の現状』 | 大津 雅秀 |
| 第195回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 5月22日 | | | 37 | 7 | 44 | 『点滴漏れの対応～マニュアル作成に向けて～』 | 木矢 孝一郎 |
| 第196回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 6月12日 | | | 24 | 1 | 25 | 『こどもの事故（予防のために事例を知ることから）』 | 宅見 晃子 |
| 第197回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 6月26日 | | | 17 | | 17 | 『難治性ネフローゼ症候群に対する多施設共同研究の報告』 | 白鳥 孝俊 田中 亮二郎 |
| 第198回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 9月11日 | | | 21 | | 21 | 『他科からの紹介事例について～当院における精神科コンサルテーションリエゾンの現状～』 | 関口 典子 |
| 第199回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 9月25日 | | | 28 | 7 | 35 | 『停留精巣・遊走精巣 アップデート』 | 清末 晶子 |
| 第200回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 10月9日 | | | 29 | 2 | 31 | 『小児科医のための小児整形外科健診』 | 武岡 由樹 |
| 第201回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 10月23日 | | | 29 | 1 | 30 | 『小児の脳梗塞』 | 阿久津 直行 |
| 第202回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 11月13日 | | | 23 | 2 | 25 | 『乳児とヨードと甲状腺 おまけにアミオダロン』 | 日外 祐理 |
| 第203回こども病院 症例検討会 | 研修教育委員会 | 11月27日 | | | 41 | | 41 | 『心室中隔欠損症 外科治療の実際』 | 松島 峻介 |

| | | | | | | | | | |
|-----------------------|---------|--------|-------------|-------------|----|----|-----|---|---|
| NST 勉強会 | 栄養管理課 | 1月27日 | 17:30～19:00 | 研修室AB | 14 | 1 | 15 | ペプチド栄養剤について | 鳥井 隆志 |
| NST 勉強会 | 栄養管理課 | 2月24日 | 18:00～19:00 | 研修室AB | 12 | 3 | 15 | 嚥下調整食分類2013について | 鳥井 隆志 |
| NST 勉強会 | 栄養管理課 | 3月19日 | 18:00～19:00 | 研修室AB | 10 | 0 | 10 | シンバイオティクス療法の最近の話題 | 鳥井 隆志 |
| NST 勉強会 | 栄養管理課 | 4月23日 | 18:00～19:00 | 研修室AB | 23 | 33 | 56 | 経腸栄養剤の基本について | 鳥井 隆志 |
| NST 勉強会 | 栄養管理課 | 6月18日 | 18:00～19:00 | 研修室AB | 7 | 2 | 9 | 新生児外科の栄養管理 | 鳥井 隆志 |
| NST 勉強会 | 栄養管理課 | 6月20日 | 18:00～19:00 | 研修室AB | 10 | 1 | 11 | 腸管不全に対する栄養管理の新しい展開 | 鳥井 隆志 |
| NST 勉強会 | 栄養管理課 | 6月24日 | 18:00～19:00 | 研修室AB | 15 | 2 | 17 | 重症心身障がい者の経腸栄養管理 | 鳥井 隆志 |
| NST 勉強会 | 栄養管理課 | 7月16日 | 18:00～19:00 | 研修室AB | 20 | 0 | 20 | 病態別経腸栄養剤について | 鳥井 隆志 |
| NST 勉強会 | 栄養管理課 | 8月20日 | 18:00～19:00 | 研修室AB | 9 | 7 | 16 | 半固形化栄養剤について | 鳥井 隆志 |
| NST 勉強会 | 栄養管理課 | 9月19日 | 18:00～19:00 | 研修室AB | 4 | 0 | 4 | ARミルクについて | 松田重由美 |
| NST 勉強会 | 栄養管理課 | 11月19日 | 18:00～19:00 | 研修室AB | 15 | 0 | 15 | 特殊ミルク、経腸栄養剤使用時の微量栄養素欠乏について | 鳥井 隆志 |
| 平成26年度兵庫県 周産期医療研修会 | 産科・新生児科 | 12月14日 | 14:30～17:30 | 兵庫県医師 会館 | 34 | 86 | 120 | 1) 当院における胎児治療 2) 在宅医療を必要とする 児への退院支援について 3) 特別講演「ウイルス母 子感染の臨床～インフルエンザウイルスとサイトメ ガロウイルス～」 | 1) 喜吉賢二 (産科) 2) 熊本裕美 (看護部) 3) 森岡一朗 (神戸大学医学研 究科特命教授) |

2) 院内全体研修

| 名称 | 主催 | 開催日 | 時間 | 場所 | 参加数 | テーマ | 講師 / 発表者 |
|---|----------------------|--------------|----------------------------|-------|-------|--|---------------------------------------|
| 平成26年度 小児がん勉強会 | 小児がんセンター | 11月20日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | | 小児がんところこのケア | 関口 典子 藤井 美有 |
| 平成26年度放射線安全研修会 | 放射線安全委員会 | 5月30日 | 15:30～17:00 | 研修室AB | 55 | ①放射線の人体への影響 ②MRI検査の安全性について ③核医学検査について ④放射線被ばくについて ⑤放射線治療について | 赤坂 好宣 服部 真吾 大谷 幸広 原 誠 原 誠 |
| Morbidity & Mortalityカンファレンス | リスクマネジメント部会 | 5月15日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 61 | 呼吸停止の状態で救急搬送された脳腫瘍の1事例 | 河村 淳史 竹田 洋樹 矢内 友子 |
| Morbidity & Mortalityカンファレンス | リスクマネジメント部会 | 6月27日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 70 | 術後腸炎に感染し、コード999にいたった1事例 | 辻 真之助 大川 祐一 宮武みよ子 |
| Morbidity & Mortalityカンファレンス | リスクマネジメント部会 | 9月12日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 81 | HCU病棟で急変した2事例 | 富永 健太 圓尾 文子 |
| 医療安全研修会 | リスクマネジメント部会 | 3月10日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 80 | 各部門の安全への取り組み報告 | 各部門の リスクマネージャー |
| 全職員対象感染対策研修会 | 感染対策委員会 | 2月19日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 127 | 続 標準予防策。そして、感染経路別予防策。 | 感染対策チーム |
| 全職員対象感染対策研修会 | 感染対策委員会 | 2月28日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 93 | 続 標準予防策。そして、感染経路別予防策。 | 感染対策チーム |
| 全職員対象感染対策研修会 | 感染対策委員会 | 8月1日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 119 | からだで覚えよう!またまた、標準予防策 | 感染対策チーム 看護部感染対策 委員会 |
| 全職員対象感染対策研修会 | 感染対策委員会 | 8月4日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 102 | からだで覚えよう!またまた、標準予防策 | 感染対策チーム 看護部感染対策 委員会 |
| 抗菌薬勉強会 | 感染対策委員会 | 10月28日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 64 | 基礎編 | 梶原 伸介 |
| 抗菌薬勉強会 | 感染対策委員会 | 11月10日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 31 | 実践編 | 梶原 伸介 |
| 抗菌薬勉強会 | 感染対策委員会 | 12月1日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 44 | 重症感染症編 | 梶原 伸介 |
| 輸液ライン勉強会 | 感染対策委員会 医療安全対策委員会 | 11月11日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 33 | プラネクタとフィルタについて | 吉村 貴彦 熊澤 茂 |
| 輸血療法委員会研修会 | 輸血療法委員会 | 1月30日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 67 | 輸血用血液製剤の取り扱いと輸血副作用の現状について | 千田 園子 |
| 第1回 検査部研修会 | 検査部 | 2月10日 | 17:30～18:50 | 研修室AB | 44 | こども病院の病理検査について | 吉田 牧子 入野 博文 |
| 血液培養研修会 | 検査部 | 10月2日 | 17:30～18:50 | 研修室AB | 50 | 血流感染症の基礎～血液培養検査のポイント～ フィジカルアセスメントについて | 細菌検査 |
| 全病棟(リーダークラス)の看護師を 対象としたフィジカルアセスメント・救 急蘇生勉強会 | 看護部 | 8月7日 9月4日 | 17:30～18:50 17:30～19:00 | 研修室AB | 15名程度 | 救急蘇生について | 藤原 健太 |

| | | | | | | | |
|---------------------------|--------------|---------------|---------------------------|----------------|----------------|--|-------------------------|
| 平成26年度スキルアップ研修 | 教育委員会 | 7月2日 | 8:30～12:30 | 研修室AB 4A | 7名 | フィジカルアセスメントについて 救急蘇生について | 藤原 健太 |
| 平成26年度訪問看護師研修 | 地域連携委員会 | 9月2日 1月16日 | 12:45～23:30 | 研修室AB | 20名程度 | 在宅でいかにせる小児呼吸管理の基礎 | |
| ラダーⅡ/Ⅲ研修 | 看護部 | 5月2日 9月4日 | 9:00～12:00 13:00～17:15 | 研修室AB 研修室AB | 20名程度 20名程度 | 量的研究 プレゼンテーションの方法 | 二星 淳吾 |
| 第1回小児がん勉強会 | 看護部・緩和ケアチーム | 6月10日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 47 | 最新の小児がん治療と看護 | 小阪 嘉之 後藤 恵美 中谷 扶美 |
| 第2回小児がん勉強会 | 看護部・緩和ケアチーム | 9月18日 | 17:30～18:45 | 研修室AB | 38 | がん化学療法と看護 | 植村 優 後藤 恵美 永井 浩章 |
| 第3回小児がん勉強会 | 看護部・緩和ケアチーム | 10月16日 | 17:30～18:45 | 研修室AB | 53 | 緩和ケアの概念 | 池島 典之 矢内 友子 永井 浩章 |
| 第4回小児がん勉強会 | 看護部・緩和ケアチーム | 11月20日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 30 | 小児がんところこのケア | 関口 典子 藤井 美有 |
| 第5回小児がん勉強会 | 看護部・緩和ケアチーム | 12月11日 | 17:30～19:00 | 研修室AB | 32 | 症状マネジメントとケア | 菅野由美子 |
| 第6回小児がん勉強会 | 看護部・緩和ケアチーム | 1月15日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 41 | 造血幹細胞移植とケア | 横井 健人 鞠 美幸 |
| 第7回小児がん勉強会 | 看護部・緩和ケアチーム | 2月19日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 20 | 長期フォローアップ | 矢内 友子 |
| 平成26年度 第1回CNS/CN 主催勉強会 | 専門看護師・認定看護師会 | 1月29日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 37 | 家族看護：家族の意思決定支援 | 浅井 桃子 |
| 平成26年度 第2回CNS/CN 主催勉強会 | 専門看護師・認定看護師会 | 2月16日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 31 | 集中ケア：バイタルサインのミカタ～体温を見る～ | 坂本佳津子 |
| 院内講演会 | 研修教育委員会 | 7月17日 | 17:30～19:00 | 研修室AB | 80 | カナダにおける小児集中治療の現状 | 川口 敦 |
| 院内講演会 | 研修教育委員会 | 10月20日 | 17:30～19:00 | 研修室AB | 85 | 重篤な患児をすくうシステム ～PICUと病棟のギャップを埋めるための工夫～ | 黒澤 寛史 |

3) 複数科合同カンファレンス

| 名称 | 対象科 | 開催日 | 時間 | 場所 | 参加数 | テーマ |
|-------------------------|---------------------------------------|-------|-------------|----------------|-----|---|
| 麻酔科・心臓外科・循環器科合同カンファレンス | 麻酔科、心臓外科、循環器内科、看護師、臨床工学技士 | 通年、毎日 | 7:55～8:10 | ICU | 15 | 当日の心臓外科症例についてのカンファレンス |
| 二分脊椎外来カンファレンス | 脳神経外科 整形外科 泌尿器科 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 2月7日 | 15:35～16:45 | 整形外科 ギブス室 | 16 | 二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者20名 |
| 二分脊椎外来カンファレンス | 脳神経外科 整形外科 泌尿器科 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 4月18日 | 15:40～16:30 | 整形外科 ギブス室 | 9 | 二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者19名 |
| 二分脊椎外来カンファレンス | 脳神経外科 整形外科 泌尿器科 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 8月8日 | 15:35～16:40 | 整形外科 ギブス室 | 13 | 二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者7名 |
| 二分脊椎外来カンファレンス | 脳神経外科 整形外科 泌尿器科 皮膚・排泄ケア認定看護師 | 12月5日 | 15:35～16:50 | 整形外科 ギブス室 | 20 | 二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者14名 |
| 心臓血管外科・麻酔科・ME 合同カンファレンス | 心臓血管外科・麻酔科・ME | 毎日 | 7:55～8:10 | ICU | 12 | 当日の心臓外科症例についてカンファレンス |
| 心臓血管外科・ME 術前カンファレンス | 心臓血管外科・ME | 毎週月曜日 | 8:15～9:00 | 本館4Fカンファレンスルーム | 12 | 各週の手術症例の術前検討 |
| 心臓血管外科・ME 術後カンファレンス | 心臓血管外科・ME | 毎週金曜日 | 8:15～9:00 | 本館4Fカンファレンスルーム | 12 | 各週の手術症例の術後検討 |
| 麻酔科・心臓外科合同カンファレンス | 麻酔科・心臓外科 | 毎日 | 7:55～8:10 | ICU | 約10 | 当日の心臓外科症例についてのカンファレンス |
| ICU カンファレンス | 心臓外科・ICU 患者関連部署 | 毎日 | 10:30～11:00 | ICU | 約10 | ICU 患者についてのカンファレンス |
| 心臓外科術前症例検討会 | 心臓外科・臨床工学技士・手術室看護師 | 毎週月曜日 | 8:15～9:00 | 本館4階カンファレンスルーム | 約10 | その週の心臓外科手術症例についての術前カンファレンス |
| 循環器カンファレンス | 循環器科・心臓外科・麻酔科 | 毎週月曜日 | 17:00～ | 本館4階カンファレンスルーム | 約15 | 心臓カテーテル検査症例や手術検討症例についてのカンファレンス |
| 循環器抄読会 | 循環器科・心臓外科 | 隔週木曜日 | 8:30～9:00 | 本館4階カンファレンスルーム | 約15 | 最近の小児循環器関連の文献より |
| 心臓外科術後症例検討会 | 心臓外科・臨床工学技士 | 毎週金曜日 | 8:15～9:00 | 本館4階カンファレンスルーム | 約10 | 一週間の心臓外科手術症例についての術後カンファレンス |

| | | | | | | |
|----------------|---------------------------------|-------------------|-------------|-------------|-------|----------------------------|
| 周産期カンファレンス | 産科、新生児科、小児外科、病理診断科、看護師、検査技師、薬剤部 | 毎月 (月が休日の場合は火) | 16:30～16:55 | 産科外来 指導室 | 18～21 | 未分娩の症例提示と新生児の経過報告 |
| ウィークエンドカンファレンス | 産科、看護師、薬剤部 | 毎金 (金が休日の場合は木) | 16:00～16:25 | 産科病棟 詰所 | 8～10 | 産科入院症例の検討 |
| MRI カンファレンス | 産科、放射線科 | 隔月の最終 週の月か金 | 17:00～17:40 | 放射線科 読影室 | 10～12 | 胎児 MRI 撮影症例の提示と読影、新生児の画像紹介 |

4) 部署別勉強会・カンファレンス

| 名称 | 主催 | 開催日 | 時間 | 場所 | 参加数 | テーマ | 発表者/担当 |
|--------------|---------|-------|----|----------------------|-----|---|--------|
| journal club | 救急集中治療科 | 1月7日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 18 | Incidence of rash after amoxicillin treatment in children with infectious mononucleosis | 越智 聡史 |
| journal club | 救急集中治療科 | 1月14日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 15 | Validation of the Cardiac Children's Hospital Early Warning Score : An Early Warning Scoring Tool to Prevent Cardiopulmonary Arrests in Children with Heart Disease | 竹田 洋樹 |
| journal club | 救急集中治療科 | 1月21日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 12 | A Randomized Trial of Hyperglycemic Control in Pediatric Intensive Care | 中西 啓太 |
| journal club | 救急集中治療科 | 1月28日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 15 | Vaccine for Prevention of Mild and Moderate-to-Severe Influenza in Children | 神前 愛子 |
| journal club | 救急集中治療科 | 2月4日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 16 | Rates of Medical Errors and Preventable Adverse Events Among Hospitalized Children Following Implementation of a Resident Handoff Bundle | 石田 敏章 |
| journal club | 救急集中治療科 | 2月18日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 13 | Long-term Cardiovascular Outcomes in Survivors of Kawasaki Disease | 高藤 哲 |
| journal club | 救急集中治療科 | 3月4日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 15 | Influenza-Associated Pediatric Deaths in the United States, 2004-2012 | 山口 善道 |
| journal club | 救急集中治療科 | 3月11日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 14 | Effect of prehospital induction of mild hypothermia on survival and neurological status among adults with cardiac arrest : a randomized clinical trial | 藤田 杏子 |
| journal club | 救急集中治療科 | 3月18日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 13 | Association of body temperature and antipyretic treatments with mortality of critically ill patients with and without sepsis : multi-centered prospective observational study | 上村 和也 |
| journal club | 救急集中治療科 | 3月25日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 15 | Hospital-Associated Venous Thromboembolism in Children : Incidence and Clinical Characteristics | 白鳥 孝俊 |
| journal club | 救急集中治療科 | 5月13日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 16 | Stimulus-triggered fate conversion of somatic cells into pluripotency | 田中亮二郎 |
| journal club | 救急集中治療科 | 5月19日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 17 | Ammonia triggers neuronal disinhibition and seizures by impairing astrocyte potassium buffering | 永瀬 裕明 |

| | | | | | | | |
|--------------|---------|--------|--|----------------------|----|---|-------|
| journal club | 救急集中治療科 | 5月27日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 18 | Infliximab Plus Plasma Exchange rescue Therapy in Kawasaki Disease | 中岸 保夫 |
| journal club | 救急集中治療科 | 6月3日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 14 | Efficacy and safety of everolimus for subependymal giant cell astrocytomas associated with tuberous sclerosis complex (EXIST-1) : a multicentre, randomised, placebo-controlled phase 3 trial | 丸山あずさ |
| journal club | 救急集中治療科 | 6月10日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 15 | Guidance for diagnosis and treatment of disseminated intravascular coagulation from harmonization of the recommendations from three guidelines | 梶原 伸介 |
| journal club | 救急集中治療科 | 6月17日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 13 | Risk factors of ventilator-associated pneumonia in pediatric intensive care unit : a systematic review and meta-analysis | 石田 悠介 |
| journal club | 救急集中治療科 | 6月24日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 12 | Intussusception Risk after Rotavirus Vaccination in U.S. Infants/Risk of Intussusception after Monovalent Rotavirus Vaccination | 二野菜々子 |
| journal club | 救急集中治療科 | 9月2日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 17 | Infliximab for intensification of primary therapy for Kawasaki disease a phase 3 randomised, double-blind, placebo-controlled trial | 水田 麻雄 |
| journal club | 救急集中治療科 | 9月16日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 15 | Antimicrobial Prophylaxis for Children with Vesicoureteral Reflux | 雷岡 和美 |
| journal club | 救急集中治療科 | 9月30日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 15 | A Randomized Trial of Protocol-Based Care for Early Septic Shock | 辻 真之介 |
| journal club | 救急集中治療科 | 10月7日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 12 | Combined Angiotensin Inhibition for the Treatment of Diabetic Nephropathy | 神田 杏子 |
| journal club | 救急集中治療科 | 10月14日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 14 | End-of-Life Care Decisions in the PICU : Roles Professionals Play | 矢内 友子 |
| journal club | 救急集中治療科 | 10月20日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 12 | Predicting outcome from dengue | 桶元真由美 |
| journal club | 救急集中治療科 | 10月28日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 14 | Lower versus Higher Hemoglobin Threshold for Transfusion in Septic Shock | 植村 優 |
| journal club | 救急集中治療科 | 11月4日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 17 | Association Between Early Administration of High-Dose Erythropoietin in Preterm Infants and Brain MRI Abnormality at Term-Equivalent Age | 神納 幸治 |
| journal club | 救急集中治療科 | 11月11日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 15 | Effect of Inhaled Glucocorticoids in Childhood on Adult Height | 笠井 和子 |

| | | | | | | | |
|---------------------|---------|------------|-------------|----------------------|----|--|-------|
| journal club | 救急集中治療科 | 11月18日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 13 | A review of the management of childhood immune thrombocytopenia : how can we provide an evidence-based approach? | 川崎圭一郎 |
| journal club | 救急集中治療科 | 11月25日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 12 | Clinical Illness and Outcome in Patients with Ebola in Sierra Leone | 瓦野 昌大 |
| journal club | 救急集中治療科 | 12月2日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 15 | Effect of Prehospital Induction of Mild Hypothermia on Survival and Neurological Status Among Adults With Cardiac Arrest | 田中 司 |
| journal club | 救急集中治療科 | 12月9日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 14 | Targetable Kinase-Activating Lesions in Ph-like Acute Lymphoblastic Leukemia | 齋藤 敦郎 |
| journal club | 救急集中治療科 | 12月16日 | | 救急センター カンファレンスルーム | 14 | Impact of Disaster Drills on Caregiver Perception and Satisfaction in the Pediatric Emergency Department | 福原 信一 |
| 麻酔科カンファレンス | 麻酔科 | 毎日 | 8:30-9:00 | 手術室内麻酔科医控室 | 16 | 毎日の麻酔症例についての検討 | 麻酔科統括 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/1/6 | 16:00-17:30 | NICU カンファレンスルーム | 9 | 2014 研究計画 | 溝渕 雅巳 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/1/8 | 16:00-17:30 | NICU カンファレンスルーム | 9 | 2014 研究計画 | 坂井 仁美 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/1/13 | 16:00-17:30 | NICU カンファレンスルーム | 9 | 仙尾部奇形種 | 岩谷 壮太 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/1/15 | 16:00-17:30 | NICU カンファレンスルーム | 9 | 2014 研究計画 | 芳本 誠司 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/1/16 | 16:00-17:30 | NICU カンファレンスルーム | 9 | 24 週先天性敗血症 | 溝渕 雅巳 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/1/20 | 16:00-17:30 | NICU カンファレンスルーム | 9 | 全前脳症 | 武岡恵美子 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/1/22 | 16:00-17:30 | NICU カンファレンスルーム | 9 | TAM に対する化学療法 | 橋本 興人 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/1/27 | 16:00-17:30 | NICU カンファレンスルーム | 9 | 周産期医学会抄録 四肢短縮症まとめ | 和田 佳子 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2014/1/230 | 16:00-17:30 | NICU カンファレンスルーム | 9 | 周産期医学会抄録 超早産児の MRI ADC | 浅野 貴弘 |

| | | | | | | | |
|---------------------|------|-----------|-------------|----------------|----|-------------------------------------|-------|
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/2/3 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 周産期医学会抄録 家族性血球貪食症候群 | 岩谷 壮太 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/2/5 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 地方会予演会 一過性骨髄異常増殖症 | 橋本 興人 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/2/17 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | CoAを伴った超低出生体重児 | 岩谷 壮太 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/2/17 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 周産期医学会抄録 極低出生体重児のMRI 脳室拡大 | 溝渕 雅巳 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/2/19 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 周産期医学会抄録 重症 CLD に対する sildenafil の効果 | 芳本 誠司 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/2/24 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 周産期医学会抄録 全前脳胞症 | 武岡恵美子 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/2/25 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 研究総括 | 岩谷 壮太 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/2/26 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 母体 MgSO4 投与と低 Ca 血症 | 橋本 興人 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/3/3 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 2014 研究計画 | 浅野 貴弘 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/3/5 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | refeeding 症候群 | 和田 佳子 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/4/7 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | ルーチン PDA | 芳本 誠司 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/4/9 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | ルーチン 病棟感染対策 | 溝渕 雅巳 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/4/14 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | ルーチン 蘇生 | 和田 佳子 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/4/16 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | ルーチン 黄疸 | 坂井 仁美 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/4/21 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | ルーチン 輸液 | 浅野 貴弘 |

| | | | | | | | |
|---------------------|------|-----------|-------------|----------------|----|-----------------------|----------------|
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/4/23 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | PAS 予演会 | 溝渕 雅巳 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/4/30 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | ルーチン iNO | 芳本 誠司 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/5/7 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 地方会予演会 MD 双胎一児死亡 | 生田 寿彦 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/5/12 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 周産期医学会予演会 胎盤因子による FGR | 渋谷 昇平 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/5/14 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | E.Coli 髄膜炎 | 山口 宏 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/5/19 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 18 トリノミー | 瓦野 昌大 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/5/21 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | CLD/PH の管理 | 芳本 誠司 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/5/26 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | PAS 報告 | 溝渕 雅巳 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/6/2 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 早期抜管 | 和田 佳子 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/6/9 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 先天性乳糜胸 | 渋谷 昇平 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/6/11 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 小頭症 | 山口 宏 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/6/16 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | メチルマロン酸血症 | 瓦野 昌大 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/6/18 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 臨床研究総論 | 溝渕 雅巳 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/6/23 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 周産期医学会予演会 | 和田 佳子 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/6/25 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 周産期医学会予演会 | 溝渕 雅巳 芳本 誠司 |

| | | | | | | | |
|---------------------|------|-----------|-------------|----------------|---|-----------------------|-------|
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/6/30 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | CDH | 生田 寿彦 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/7/2 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 常位胎盤早期剥離 | 渡川 昇平 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/7/7 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | MD 双胎における PDA | 山口 宏 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/7/8 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 周産期医学会予演会 | 岩谷 壮太 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/7/9 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 高インスリン血症 | 瓦野 昌大 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/7/16 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 未熟児学会抄録 MRSA 長期除菌 | 溝渕 雅巳 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/7/21 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 未熟児学会抄録 超早産児におけるiNO | 芳本 誠司 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/7/23 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 未熟児学会抄録 片側PIEに対する理学療法 | 坂井 仁美 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/7/28 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 未熟児学会抄録 refeeding 症候群 | 和田 佳子 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/7/30 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 未熟児学会抄録 VLBW 児のMRI | 生田 寿彦 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/8/4 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | DCH | 渡川 昇平 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/8/6 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | MD 双胎はsPDAのリスクファクターか | 山口 宏 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/8/13 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | MSC 研究進捗 | 溝渕 雅巳 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/8/18 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 晩期循環不全により死亡した高度SFD児 | 坂井 仁美 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/8/20 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | 早期抜管 | 和田 佳子 |

| | | | | | | | |
|---------------------|------|------------|-------------|----------------|----|---------------------|-------|
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/8/25 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 9 | HLH | 生田 寿彦 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/9/1 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | セラチア肺炎による死亡例 | 山口 宏 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/9/8 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | PAS抄録計画 | 溝渕 雅巳 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/9/8 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 小児科学会抄録 胎児心疾患のまとめ | 芳本 誠司 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/9/10 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 黄疸管理 | 坂井 仁美 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/9/17 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 研究総括 | 浅川 昇平 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/9/24 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 出血性ショックで死亡した22週児 | 山口 宏 |
| 新生児ク リニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/9/24 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 研究総括 | 山口 宏 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/10/1 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 脳低温療法 | 生田 寿彦 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/10/6 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | refeeding 症候群 | 和田 佳子 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/10/8 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 疾患特異的 MSC | 溝渕 雅巳 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/10/13 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 未受診妊婦より出生の児 | 芳本 誠司 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/10/15 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | Palister Kilian 症候群 | 坂井 仁美 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/10/20 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | CLD に対する STA 洗浄投与 | 秋田 大輔 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/10/22 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | VLBW 児の MRI 研究 | 生田 寿彦 |

| | | | | | | | |
|---------------------|------|------------|-------------|----------------|----|---------------|-------|
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/10/27 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | MRSA 敗血症 | 角 健司 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/10/29 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 胎内感作ミルクアレルギー | 江口 武志 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/11/3 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 抜管後のnCPAP | 和田 佳子 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/11/5 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | VAP サーマーベイ | 溝渕 雅巳 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/11/5 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 未熟児学会予演 | 溝渕 雅巳 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/11/6 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 未熟児学会予演 | 坂井 仁美 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/11/12 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | HFOと呼吸機能 | 秋田 大輔 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/11/17 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 黄疸管理 | 坂井 仁美 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/11/19 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 近畿小児科学会抄録 HLH | 生田 寿彦 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/11/24 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 晚期循環不全 | 角 健司 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/11/26 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 胎児胸水の2例 | 江口 武志 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/12/3 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 乳糜胸の管理 | 浅野 貴弘 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/12/8 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 副腎出血による精巣血腫 | 和田 佳子 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/12/10 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | CLD/PHの管理 | 芳本 誠司 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/12/15 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 研究総括 | 溝渕 雅巳 |

| | | | | | | | |
|---------------------------------|---------|------------|------------------------------|----------------|-------------|---------------------------|----------------|
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/12/17 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 未熟児無呼吸発作に対するカフエイン療法 | 秋田 大輔 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/12/23 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 母体 ARB 使用による先天性腎低形成 | 生田 寿彦 |
| 新生児 クリニカルカンファレンス | 新生児科 | 2010/12/24 | 16:00-17:30 | NICUカンファレンスルーム | 10 | 黄疸管理 | 坂井 仁美 |
| 産科抄読会 | 産科 | 毎金 | 8:20~8:40 | 産科病棟医師控え室 | 7~8 | 英文医学雑誌から産科関連論文の紹介 | |
| 産科症例検討会 | 産科 | 年に数回 | 8:20~8:40 | 産科病棟医師控え室 | 7~8 | 管理に難渋した症例の検討 | |
| 産科勉強会 1 | 産科 | 年に数回 | 17:30~18:30 | 産科外来指導室 | 12~15 | 若手医師による看護師に対する産科代表的疾患の総説 | |
| 産科勉強会 2 | 産科 | 年に数回 | 17:30~18:30 | 産科外来指導室 | 12~15 | 医師による看護師に対する CTG や切迫早産の講義 | |
| 委託職員向け感染対策研 修会 | 感染対策委員会 | 1月22日 | ①13:00~13:30 ②17:00~17:30 | 研修室 AB | ① 2 ② 17 | 感染性胃腸炎 | 鳴滝 由佳 |
| 委託職員向け感染対策研 修会 | 感染対策委員会 | 1月27日 | 11:30~ 12:00 | 研修室 AB | 25 | 感染性胃腸炎 | 鳴滝 由佳 |
| 新規採用医師 感染対策オリエンテーシ ョン | 感染対策委員会 | 4月1日 | 9:30~ 10:00 | 研修室 A | 26 | 感染対策の基本 | 小坂 鳴滝 由佳 |
| 新規採用コメディカル 感染対策オリエンテーシ ョン | 感染対策委員会 | 4月1日 | 15:30~ 15:50 | 応接室 | 13 | 感染対策の基本 | 鳴滝 由佳 |
| 清掃・リネン業務職員対 象 感染対策研修会 | 感染対策委員会 | 5月12日 | 11:00~ 11:30 | 研修室 C | 5 | 感染対策の基本 | 鳴滝 由佳 |
| 清掃・リネン業務職員対 象 感染対策研修会 | 感染対策委員会 | 5月13日 | 11:00~ 11:30 | 研修室 C | 16 | 感染対策の基本 | 鳴滝 由佳 |

| | | | | | | | | |
|--------------|-----------|------------------------------|--------|---|-----------------|--------------------------|--|--------------------------------|
| 輸液ライン 勉強会 | 医師 看護師 | 感染対策 委員会 医療安全対策委 員会 | 11月26日 | ①7F 12:30～13:00 ②7F 13:30～14:00 ③4B 14:00～14:30 ④HCU 14:30～15:00 | 7F 4B HCU | ① 8 ② 7 ③ 8 ④ 7 | プラネクタについて | 株式会社 ジェイ・エム・ エス 吉村 貴彦 |
| 薬剤部勉強会 | | 薬剤部 | 1月22日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 10 | 製品勉強会 「フェブリック錠」 | |
| 薬剤部勉強会 | | 薬剤部 | 1月29日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 9 | 製品勉強会 「ルネスタ錠」 | |
| 薬剤部勉強会 | | 薬剤部 | 2月4日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 10 | 製品勉強会 「ゾトリエント錠」 | |
| 薬剤部勉強会 | | 薬剤部 | 2月6日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 10 | 症例報告会 NST 「小児TPN 評価シートについて」 薬剤師専門教育研修報告（がん領域） | |
| 薬剤部勉強会 | | 薬剤部 | 2月19日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 8 | 製品勉強会 「ボルペン輸液」 | |
| 薬剤部勉強会 | | 薬剤部 | 3月3日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 9 | 製品勉強会 「ミルリーラ注」 | |
| 薬剤部勉強会 | | 薬剤部 | 3月5日 | 17:30～18:00 | 薬剤部 | 10 | 症例報告会 腎臓内科 「食事状況の確認によって服用時点を変更した症例」 | |
| 薬剤部勉強会 | | 薬剤部 | 3月6日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 10 | 部内勉強会 「後発医薬品について」 | |
| 薬剤部勉強会 | | 薬剤部 | 4月10日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 9 | 製品勉強会 「シダトレンスギ花粉舌下液」 | |
| 薬剤部勉強会 | | 薬剤部 | 4月23日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 9 | 製品勉強会 「トビエース錠」 | |
| 薬剤部勉強会 | | 薬剤部 | 5月28日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 6 | 製品勉強会 「ソリリス点滴静注」 | |
| 薬剤部勉強会 | | 薬剤部 | 6月4日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 10 | 製品勉強会 「ハイゼントラ 20%皮下注」 | |

| | | | | | | |
|--------|-----|--------|-------------|-----|----|--|
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 6月6日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 10 | 製品勉強会「アドセトリルス点滴静注用」 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 6月11日 | 17:30～18:00 | 薬剤部 | 11 | 症例報告会「循環器科患者教室に参加しコンブライアンス向上につなげた症例」 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 6月12日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 9 | 製品勉強会「ノボエイト静注用」 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 6月25日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 9 | 製品勉強会「リオナ錠」 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 7月9日 | 17:30～18:00 | 薬剤部 | 11 | 症例報告会「AML再発した小児の疼痛コントロール」 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 7月16日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 7 | 製品勉強会「アデムパ錠」 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 8月6日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 9 | 製品勉強会「アロキシ点滴静注パック」 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 8月13日 | 17:30～18:00 | 薬剤部 | 9 | 症例報告会「ファイファイア-症候群患者のMRSA髄膜炎に対してICTとして介入を行った症例」 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 8月18日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 8 | 製品勉強会「ホスレノール顆粒」 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 9月9日 | 17:30～18:00 | 薬剤部 | 8 | 症例報告会「NICUにおける薬剤管理指導について」 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 10月1日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 9 | 製品勉強会「レスピア静注・経口液」 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 10月8日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 8 | 症例報告会「小児卵黄嚢腫瘍治療に用いたシスプラチンにより聴覚障害が発現した症例」 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 10月15日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 6 | 部内勉強会「テバ抗がん剤調製用閉鎖式システム」 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 11月11日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 7 | 症例報告会「アルファロール過量投与を未然に防いだ症例」 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 11月26日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 8 | 薬剤師専門教育研修報告（感染制御領域） |

| | | | | | | | |
|---------|------|--------|-------------|--------|----|-------------------------------------|----------------|
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 12月3日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 7 | 製品勉強会「バイクロット配合静注用」 | 山本 正子 |
| 薬剤部勉強会 | 薬剤部 | 12月9日 | 17:30～18:30 | 薬剤部 | 7 | 症例報告会「胎児徐脈性不整脈への薬物治療に対して服薬指導を行った症例」 | |
| 検査部内研修会 | 検査部 | 6月11日 | 17:00～17:30 | 検査部控え室 | 11 | AABR について | 山本 正子 |
| 検査部内研修会 | 検査部 | 6月24日 | 16:30～17:30 | 検査部控え室 | 15 | 血中薬物について | 合田 泰志 (薬剤部) |
| 検査部内研修会 | 検査部 | 7月22日 | 16:30～17:30 | 検査部控え室 | 14 | ミニバイダスの活用法と新しいアレルギーマーカーについて | |
| 検査部内研修会 | 検査部 | 9月4日 | 16:30～17:30 | 検査部控え室 | 10 | 県立病院学会予演会 | 千田、野口、 山本 |
| 検査部内研修会 | 検査部 | 10月28日 | 16:30～17:30 | 検査部控え室 | 9 | XN-2000 について | |
| 検査部内研修会 | 検査部 | 11月25日 | 16:30～17:30 | 検査部控え室 | 12 | 国立成育医療研究センターを見学して | 吉田 牧子 |
| 検査部内研修会 | 検査部 | 12月9日 | 16:30～17:30 | 検査部控え室 | 14 | 臨床におけるプロカルシトニン検査について | |
| 放射線部勉強会 | 放射線部 | 5月16日 | 16:30～17:30 | 放射線技師室 | 8 | 最新 MRI 技術について | シーメンス |
| 放射線部勉強会 | 放射線部 | 6月12日 | 16:30～17:30 | 放射線技師室 | 7 | 最新 XCT について | 東芝 |
| 放射線部勉強会 | 放射線部 | 6月20日 | 16:30～17:30 | 放射線技師室 | 7 | フラットパネルを用いたネットワーク構築 | 富士フイルム |
| 放射線部勉強会 | 放射線部 | 7月4日 | 16:30～17:30 | 放射線技師室 | 7 | 最新 XTV 装置について | 島津 |
| 放射線部勉強会 | 放射線部 | 7月25日 | 16:30～17:30 | 放射線技師室 | 8 | 最新 MRI 技術について | フィリップス |
| 放射線部勉強会 | 放射線部 | 9月4日 | 16:30～17:30 | 放射線技師室 | 10 | 小児核医学検査における新たなコンセンサスガイドラインの導入について | 北坂 佳之 |

| | | | | | | | |
|---------------|------------------|--------|-------------|--------|----|--|-------|
| 放射線部勉強会 | 放射線部 | 9月5日 | 16:30～17:30 | 放射線技師室 | 8 | 一般撮影装置について | 島津 |
| 放射線部勉強会 | 放射線部 | 9月25日 | 16:30～17:30 | 放射線技師室 | 10 | 最新MRI技術について | GE |
| MRI検査の安全対策研究会 | 放射線部 | 11月13日 | 17:30～19:00 | 研修室D | 32 | MRI検査担当看護師へのMRI検査の安全対策 | 沼田 憲作 |
| 勉強会 | 指導相談・ 地域医療連携部 | 9月25日 | 14:30～15:00 | こあらの部屋 | 8 | 虐待対応の流れ | 宅見 晃子 |
| 勉強会 | 指導相談・ 地域医療連携部 | 10月21日 | 14:30～15:00 | こあらの部屋 | 6 | 医療制度について | 長岡 良樹 |
| 勉強会 | 指導相談・ 地域医療連携部 | 11月18日 | 14:30～15:00 | こあらの部屋 | | 心理検査 | 淀 裕美子 |
| MEカンファレンス | ME | 毎日 | 8:30～9:00 | ME室 | 5 | 臨床業務、医療機器管理業務についての検討、情報交換 | |
| 心外・ME合同勉強会 | ME | 3月19日 | 8:15～9:10 | 研修室AB | 10 | 人工肺の安全について | 岩崎 一崇 |
| 心外カンファレンス | 心外 | 3月26日 | 8:15～8:35 | 心外医局 | 11 | 小児開心術におけるメラ高分子コーティング (SEC) 人工心肺回路の有用性の検討 | 長谷川智巳 |
| ME勉強会 | ME | 5月15日 | 8:30～9:00 | ME室 | 5 | 第24回日本臨床工学会報告会 | 秋元明日香 |
| ME勉強会 | ME | 5月16日 | 8:30～9:00 | ME室 | 5 | 第24回日本臨床工学会報告会 | 秋元明日香 |
| ME勉強会 | ME | 5月21日 | 8:15～8:50 | ME室 | 5 | モニタ心電図 | 吉本 由衣 |
| ME勉強会 | ME | 5月28日 | 8:15～8:50 | ME室 | 5 | 持続的血液濾過透析に使用する膜の選択について～PS膜とPMMA膜の有効性についての比較～ | 三坂 勇介 |
| ME勉強会 | ME | 6月3日 | 8:15～8:50 | ME室 | 5 | カプノメーター | 秋元明日香 |
| ME勉強会 | ME | 6月12日 | 8:15～9:00 | ME室 | 5 | ECMOの生理学 | 岩崎 一崇 |

| | | | | | | | | |
|---------------------------------|---------|--------|--------------------------------------|--------|--|-------------|-------------------------------|-----------------|
| ME 勉強会 | ME | 6月18日 | 8:15～9:00 | ME 室 | | 5 | ECMO-Up date 新生児・小児に対する手技的問題点 | 横山 真司 |
| ME 勉強会 | ME | 6月25日 | 8:15～9:00 | ME 室 | | 5 | 人工心肺の合併症と対策 | 横山 真司 |
| ME 勉強会 | ME | 7月20日 | 8:20～9:00 | ME 室 | | 5 | 体外循環におけるヘパリン濃度の適正管理に関する研究 | 岩崎 一崇 |
| ME 勉強会 | ME | 7月30日 | 8:15～8:50 | ME 室 | | 5 | 急性肝不全に対する血漿交換療法の実施法 | 秋元明日香 |
| ME 勉強会 | ME | 8月14日 | 8:15～8:50 | ME 室 | | 5 | 心房中隔欠損症に対する手術と体外循環法 | 三坂 勇介 |
| ME 勉強会 | ME | 8月20日 | 8:15～8:50 | ME 室 | | 5 | 心室中隔欠損症に対する手術と体外循環法 | 吉本 由衣 |
| ME 勉強会 | ME | 10月15日 | 8:15～9:00 | ME 室 | | 5 | 第40回日本体外循環技術医学会大会報告会 | 横山 真司、 岩崎 一崇 |
| ME 勉強会 | ME | 10月22日 | 8:15～9:00 | ME 室 | | 5 | 第40回日本体外循環技術医学会大会報告会 | 横山 真司、 岩崎 一崇 |
| ME 勉強会 | ME | 10月23日 | 8:15～9:00 | ME 室 | | 5 | 第40回日本体外循環技術医学会大会報告会 | 横山 真司、 岩崎 一崇 |
| 委託職員向け感染対策研修会 | 感染対策委員会 | 1月22日 | ① 13:00～13:30 ② 17:00～17:30 | 研修室 AB | | ① 2 ② 17 | 感染性胃腸炎 | 鳴滝 由佳 |
| 委託職員向け感染対策研修会 | 感染対策委員会 | 1月27日 | 11:30～12:00 | 研修室 AB | | 25 | 感染性胃腸炎 | 鳴滝 由佳 |
| 新規採用医師 感染対策 オリエンテーション | 感染対策委員会 | 4月1日 | 9:30～10:00 | 研修室 A | | 26 | 感染対策の基本 | 小阪 嘉之 鳴滝 由佳 |
| 新規採用コメディカル 感染対策 オリエンテーション | 感染対策委員会 | 4月1日 | 15:30～15:50 | 応接室 | | 13 | 感染対策の基本 | 鳴滝 由佳 |

| | | | | | | | |
|-------------------------|------------------------------|--------|---|-----------------|--------------------------|-----------|--------------------------------|
| 清掃・リネン業務職員対象 感染対策研修会 | 感染対策委員会 | 5月12日 | 11:00～11:30 | 研修室 C | 5 | 感染対策の基本 | 鳴滝 由佳 |
| 清掃・リネン業務職員対象 感染対策研修会 | 感染対策委員会 | 5月13日 | 11:00～11:30 | 研修室 C | 16 | 感染対策の基本 | 鳴滝 由佳 |
| 輸液 ライン 勉強会 | 感染対策 委員会 医療安全対策委 員会 | 11月26日 | ①7F 12:30～13:00 ②7F 13:30～14:00 ③4B 14:00～14:30 ④HCU 14:30～15:00 | 7F 4B HCU | ① 8 ② 7 ③ 8 ④ 7 | プラネクタについて | 株式会社 ジェイ・エム・ エス 吉村 貴彦 |

看護部部署内勉強会（2014年度）

| 名称 | 主催 | 開催日 | 時間 | 場所 | 参加数 | テーマ | 発表者/担当 |
|-----|--------------|-------|-------------|-------------|-----|---------------|-------------------------|
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 5月16日 | 17:30～18:30 | 4 A側会 議室 | 5 | 吸引、気切ケア | 丸山、細川 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 5月26日 | 17:30～18:30 | 4 A側会 議室 | 5 | IV管理 | 山口、朴・東 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 6月17日 | 17:30～18:30 | 4 A側会 議室 | 4 | CV管理 | 山口、松本 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 6月24日 | 17:30～18:30 | 4 A側会 議室 | 3 | 救急蘇生 | 朴、山口、 丸山、中津、 細川、東 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 6月25日 | 17:30～18:30 | 4 A側会 議室 | 5 | 呼吸管理①気管切開 | 桑畑、廣富 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 7月9日 | 14:00～15:00 | 4 B | 8 | 防災訓練 | 丸山、宮 武、島 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 7月16日 | 17:00～17:15 | 4 B | 7 | プレパレーションについて | 黒木 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 8月14日 | 15:00～15:30 | 4 A側会 議室 | 4 | 胸腔ドレナージ | 藤原、村上 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 8月20日 | 14:30～15:00 | 4 B | 10 | 医療保険制度について | 橋本看護次 長/島、 高松、廣富 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 8月25日 | 14:30～15:00 | 4 B | 7 | 在宅指導管理料について | 橋本看護次 長/島、 高松、廣富 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 8月28日 | 17:30～18:00 | 4 A側会 議室 | 4 | アンピュー、TBTについて | 朴、本田 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 9月30日 | 17:40～18:30 | 研修室D | 12 | 鎖肛について | 玉城医師/ 細川、高田、東 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 10月8日 | 17:30～18:30 | 4 A側会 議室 | 4 | 呼吸器 | 丸山、高松、 高田 |

| | | | | | | | |
|-----|--------------|--------|-------------|------------|----|-----------------|-------------------------------------|
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 10月28日 | 17:30～18:30 | 研修室D | 14 | VUR・水腎症 | 久松医師/ 高田、細川、東 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 11月19日 | 17:30～18:30 | 4A側会 議室 | 7 | ヒルシユスプルング氏病について | 武本医師/ 細川、高田、東 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 12月22日 | 17:30～18:30 | 研修室D | 12 | 尿道下裂 | 久松医師/ 細川、高田、東 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 1月13日 | 14:30～15:00 | 4B | 9 | 言語発達について | 仲宗根言語聴 覚士/島 |
| 勉強会 | 一般外科主体 病棟 | 1月22日 | 17:35～18:00 | 研修室C | 11 | ピボナについて | スミスメデ イ カル・宮野 医療器/教育 委員 |
| 勉強会 | 循環器A病棟 | 6月6日 | 14:30～15:00 | 研修室C | 11 | 心不全 | 勉強会係 |
| 勉強会 | 循環器A病棟 | 7月22日 | 14:30～15:00 | 4F演習室 | 4 | ドレーン管理について | 勉強会係 |
| 勉強会 | 循環器A病棟 | 8月26日 | 14:30～15:00 | 5A | 6 | 骨髄移植 | 勉強会係 |
| 勉強会 | 循環器A病棟 | 9月25日 | 14:30～15:00 | 5A | 8 | 循環器A病棟の内服薬の知識 | 勉強会係 |
| 勉強会 | 循環器A病棟 | 9月18日 | 14:30～15:00 | 5A | 6 | GVHDについて | 勉強会係 |
| 勉強会 | 循環器A病棟 | 10月24日 | 14:30～15:00 | 5A | 3 | 移植対応食について | 勉強会係 |
| 勉強会 | 循環器A病棟 | 10月30日 | 14:30～15:00 | 5A | 7 | 骨髄移植後の看護 | 勉強会係 |
| 勉強会 | 循環器B病棟 | 6月28日 | 18:15～18:45 | 7F会議室 | 26 | ベビーマッサージ | 佐藤 |
| 勉強会 | 循環器B病棟 | 7月4日 | 17:45～19:00 | 7F会議室 | 4 | 社会人基礎力① | 中村 |
| 勉強会 | 循環器B病棟 | 7月18日 | 17:45～19:00 | 7F会議室 | 6 | 心不全 | 刈谷 |

| | | | | | | | |
|-----|--------|--------|-------------|-------|----|-----------------------|-------|
| 勉強会 | 循環器B病棟 | 7月29日 | 18:05～19:20 | 研修室D | 7 | グレン手術前の看護 | 植山・石塚 |
| 勉強会 | 循環器B病棟 | 7月30日 | 18:20～20:00 | 5 B病棟 | 2 | 日勤リーダーの役割を踏まえた遺養症児の看護 | 小林 |
| 勉強会 | 循環器B病棟 | 9月19日 | 17:45～19:00 | 7F会議室 | 6 | ドレーン管理 | 林 |
| 勉強会 | 循環器B病棟 | 10月17日 | 17:45～18:45 | 7F会議室 | 4 | 新生児看護 | 佐藤・林 |
| 勉強会 | 循環器B病棟 | 11月18日 | 17:45～18:15 | 7F会議室 | 21 | RCA分析 | 植山 |
| 勉強会 | 循環器B病棟 | 11月21日 | 17:45～18:45 | 研修室D | 4 | 不整脈 | 藤原・古川 |
| 勉強会 | 循環器B病棟 | 11月26日 | 18:10～19:05 | 5 B病棟 | 6 | グレン術後の看護 | 石塚 |
| 勉強会 | 循環器B病棟 | 12月10日 | 17:45～19:00 | 5 B病棟 | 4 | 社会人基礎力② | 中村 |
| 勉強会 | 循環器B病棟 | 12月22日 | 17:45～19:00 | 7F会議室 | 4 | ペースメーカー | 植山 |
| 勉強会 | 混合A病棟 | 6月9日 | 14:30～15:00 | 6 A | 8 | 救急シミュレーション | 襲代チーム |
| 勉強会 | 混合A病棟 | 6月11日 | 14:30～15:00 | 6 A | 6 | 救急シミュレーション | 襲代チーム |
| 勉強会 | 混合A病棟 | 6月12日 | 14:30～15:00 | 6 A | 9 | 救急シミュレーション | 襲代チーム |
| 勉強会 | 混合A病棟 | 7月10日 | 17:30～18:30 | 7階会議室 | 19 | RCA分析 | 安全委員 |
| 勉強会 | 混合A病棟 | 8月20日 | 14:00～15:00 | 6 A | 17 | 化学療法の副作用と看護 | 東 |
| 勉強会 | 混合A病棟 | 8月27日 | 14:30～15:00 | 6 A | 11 | 倫理について | 岡本 |

| | | | | | | | |
|--------------|-------|--------|-------------|-------|----|---------------------|--------|
| 勉強会 | 混合A病棟 | 9月26日 | 17:30～18:30 | 7階会議室 | 16 | 流行性感症発症時の対応 | 感染委員 |
| 勉強会 (医師・看護師) | 混合A病棟 | 10月11日 | 17:30～18:30 | 研修室D | 10 | 最近の糖尿病治療の動向 | 宮崎チーム |
| 勉強会 (医師・看護師) | 混合A病棟 | 10月27日 | 17:30～18:30 | 研修室D | 15 | 腎内Yさんの入院経過と今後の問題点 | 宮崎チーム |
| 勉強会 | 混合A病棟 | 11月28日 | 17:30～18:30 | 7階会議室 | 16 | 呼吸器に関して | 呼吸ケア部会 |
| 勉強会 | 混合B病棟 | 5月27日 | 17:45～18:45 | 会議室1 | 14 | 呼吸器 トリロジー説明会 | フィリップス |
| 勉強会 | 混合B病棟 | 6月9日 | 17:30～18:30 | 会議室1 | 4 | 呼吸器 HT50/HT70 | キンキ酸器 |
| 勉強会 | 混合B病棟 | 6月16日 | 17:30～18:30 | 会議室1 | 7 | 脳の解剖と脳腫瘍の症状・観察点 | 河村医師 |
| 勉強会 | 混合B病棟 | 6月21日 | 17:30～18:30 | 混合B病棟 | 12 | 救急蘇生1 | プリセプター |
| 勉強会 | 混合B病棟 | 6月27日 | 17:30～18:30 | 会議室1 | 8 | 呼吸器 HT50/HT70 | キンキ酸器 |
| 勉強会 | 混合B病棟 | 7月14日 | 17:30～18:30 | 会議室1 | 10 | 小児の脳腫瘍その2 | 河村医師 |
| 勉強会 | 混合B病棟 | 8月20日 | 14:05～14:30 | 混合B病棟 | 8 | 脳機能障害による摂食嚥下障害とその対応 | ST小松 |
| 勉強会 | 混合B病棟 | 9月14日 | 17:30～18:30 | 会議室1 | 6 | 緩和治療とは | 河村医師 |
| 勉強会 | 混合B病棟 | 1月14日 | 17:30～18:30 | 4A病棟 | 10 | 救急蘇生2 | プリセプター |
| 勉強会 | 混合B病棟 | 2月3日 | 14:30～15:00 | 混合B病棟 | 19 | ケーススタディ | Bチーム |
| 勉強会 | 混合A病棟 | 10月29日 | 17:30～18:30 | 研修室D | 4 | 糖尿病について | 神納医師 |

| | | | | | | | |
|-----|--------|--------|-------------|-------|----|------------------|-----------|
| 勉強会 | 混合B病棟 | 11月19日 | 17:30～18:30 | 混合B病棟 | 7 | プレパレーションについて | プレパレーション係 |
| 勉強会 | 血液主体病棟 | 4月25日 | 17:45～18:45 | 7F | 9 | 化学療法概論 | 後藤CN |
| 勉強会 | 血液主体病棟 | 5月19日 | 17:45～18:45 | 7F | 5 | 脳腫瘍・白血病 | 厚田・井戸 |
| 勉強会 | 血液主体病棟 | 5月20日 | 18:00～19:00 | 7F | 12 | 化学療法副作用 | 後藤CN |
| 勉強会 | 血液主体病棟 | 5月21日 | 17:45～18:45 | 7F | 21 | 悪心・嘔吐の支持療法 | 後藤CN |
| 勉強会 | 血液主体病棟 | 5月28日 | 17:30～18:15 | 7F | 5 | 歯科衛生士について | 歯科衛生士 |
| 勉強会 | 血液主体病棟 | 6月12日 | 17:30～18:15 | 7F | 8 | 放射線療法について | 高藤医師 |
| 勉強会 | 血液主体病棟 | 6月18日 | 17:45～18:45 | 7F | 7 | 疼痛コントロール | 本庄NS |
| 勉強会 | 血液主体病棟 | 6月24日 | 17:30～18:15 | 7F | 20 | SOAP記録について | 内山NS |
| 勉強会 | 血液主体病棟 | 6月26日 | 18:00～18:30 | 7F | 15 | 肺炎 | 上村医師 |
| 勉強会 | 血液主体病棟 | 6月27日 | 17:45～18:45 | 7F | 4 | 抗がん剤暴露について | 後藤CN |
| 勉強会 | 血液主体病棟 | 7月16日 | 18:00～18:30 | 7F | 15 | クリニカルパスバリアンスについて | 内山NS |
| 勉強会 | 血液主体病棟 | 7月16日 | 18:00～18:30 | 7F | 15 | 看護倫理 | 川田・近藤NS |
| 勉強会 | 血液主体病棟 | 9月17日 | 15:00～15:45 | 7F | 4 | 放射線看護 | 田中NS |
| 勉強会 | 血液主体病棟 | 10月21日 | 17:45～18:45 | 7F | 6 | 移植看護 | 長谷NS |

| | | | | | | | |
|------------|-----------------|----------|-------------|----------------------|----|----------------------|----------------|
| 救急蘇生勉強会 | ICU | 7月1日 | 17:30～18:30 | ICU | 28 | 救急蘇生の基本 | Cチーム |
| 救急蘇生勉強会 | ICU | 9月29日 | 17:30～18:30 | ICU | 24 | ECMO導入シミュレーション | Bチーム |
| 救急蘇生勉強会 | ICU | 1月28日 | 17:30～18:30 | ICU | 26 | ECMO導入シミュレーション | Aチーム |
| 腓骨神経麻痺勉強会 | ICU | 10月9～21日 | 14:30～15:00 | ICU | 22 | 腓骨神経麻痺予防の手法 | 坂本佳津子 |
| 心エコー勉強会 | ICU | 2月10日 | 17:30～18:30 | ICU | 14 | 先天性心疾患の循環動態の理解 | 祖父江Dr、 補佐 |
| 勉強会 | HCU | 7月2日 | 17:30～18:45 | 研修室AB | 23 | 痙攣重積 | 田中医師/前 島・浅井 |
| 勉強会 | HCU | 6月23日 | 17:30～18:30 | 研修室C | 16 | 先天性気管狭窄症 | 横井/ |
| 勉強会 | HCU | 10月8日 | 17:30～18:30 | 4階カン ファレン ス室 | 20 | 先天性心疾患（総論） | 祖父江/西村 |
| 勉強会 | HCU | 10月24日 | 17:30～18:30 | 5階カン ファレン ス室 | 13 | 先天性心疾患（総論） | 祖父江/西村 |
| 勉強会 | HCU | 10月29日 | 17:30～18:15 | HCU (BCR) | 12 | 救急シミュレーション | /下山・奥野 |
| 勉強会 | HCU | 11月18日 | 17:30～18:30 | 研修室C | 16 | 18トリソミーの患者の看護 | 井谷CN/浅井 |
| 勉強会 | HCU | 12月3日 | 17:30～19:00 | 4階カン ファレン ス室 | 16 | 先天性心疾患（各論） | 祖父江/西村 |
| 勉強会 | HCU | 12月12日 | 17:30～18:30 | 5階カン ファレン ス室 | 11 | 先天性心疾患（各論） | 祖父江/西村 |
| 勉強会 | HCU | 2月 | 17:30～19:30 | 4A | 10 | フィジカルアセスメント・急変時対応勉強会 | 藤原 |
| NICU1年目勉強会 | NICU アプリセター会 | 6月27日 | 17:30～19:00 | 病棟カン ファレン スルーム | 10 | NICUにおける救急蘇生 | 和久・田村・ 安部 |

| | | | | | | | |
|------------|------------------|----------|-------------|----------------------|----|-------------------|-------------|
| NICU1年目勉強会 | NICU アプリセミナー会 | 7月17日 | 17:30～19:00 | 病棟カン ファレン スルーム | 10 | 呼吸管理中の児のケア | 石井・吉田 |
| NICU1年目勉強会 | NICU アプリセミナー会 | 8月15日 | 17:30～19:00 | 病棟カン ファレン スルーム | 10 | ファミリーケア | 井谷・米村 |
| NICU1年目勉強会 | NICU アプリセミナー会 | 9月19日 | 17:30～19:00 | 病棟カン ファレン スルーム | 10 | 呼吸ウイニングする児の看護 | 井谷・田村 |
| NICU1年目勉強会 | NICU アプリセミナー会 | 10月17日 | 17:30～19:00 | 病棟カン ファレン スルーム | 10 | 入院受け | 石井・安部 |
| NICU1年目勉強会 | NICU アプリセミナー会 | 11月18日 | 17:30～19:00 | 病棟カン ファレン スルーム | 10 | 経験の少ない日常生活援助技術の習得 | 吉田・米村 |
| NICU1年目勉強会 | NICU アプリセミナー会 | 12月10日 | 17:30～19:00 | 病棟カン ファレン スルーム | 11 | 安全 (KYT) | 安全委員 |
| NICU1年目勉強会 | NICU アプリセミナー会 | 2月27日 | 17:30～19:00 | 病棟カン ファレン スルーム | 10 | 入院受け振り返り | 安部 |
| NICU1年目勉強会 | NICU アプリセミナー会 | 3月4日 | 17:30～19:00 | 病棟カン ファレン スルーム | 10 | 看護観 | 田村・安部 |
| カンガルーケア勉強会 | カンガルーケ アワーキング | 2月23日 | 17:30～18:30 | 病棟カン ファレン スルーム | 10 | カンガルーケアについて | 田村 |
| ラダー勉強会 | NICU | 1月14日 | 17:30～19:00 | 研修室D | 10 | 事例検討会 | 梁 |
| 救急蘇生勉強会 | NICU | 6月14・15日 | 17:30～19:00 | 4A | 10 | 救急蘇生シミュレーション | 和久 石井 大元 |
| 救急蘇生勉強会 | NICU | 3月21日 | 17:30～19:00 | 研修室AB | 10 | 救急蘇生シミュレーション | 和久 石井 |
| グリーンフケア勉強会 | NICU Aチーム | 11月15日 | 17:30～19:00 | 病棟カン ファレン スルーム | 6 | グリーンフケアファレンス | 柳川頼 |
| 勉強会 | GCU | 5月30日 | 17:30～18:30 | GCU指 導室 | 11 | 1年目対象 直母指導 | 佐竹・田中は |
| 勉強会 | GCU | 6月20日 | 17:30～18:30 | GCU沐 浴室 | 10 | 1年目対象 沐浴指導 | 森脇・田口 |

| | | | | | | | | |
|-----|----------|--|--------|-------------|--------------|----|-----------------------|---------------|
| 勉強会 | GCU | | 6月27日 | 17:30～18:30 | 研修室D | 15 | 1年目対象 第1回救急蘇生 | 岩本・田口・森岡・小松 |
| 勉強会 | GCU | | 7月18日 | 17:30～18:30 | 病棟カンファレンスルーム | 10 | 1年目対象 お話会 | 中谷・岩本 |
| 勉強会 | GCU | | 8月27日 | 17:30～18:30 | 病棟カンファレンスルーム | 10 | ラダーⅠ勉強会 CLDの児の看護 事例検討 | 田中は |
| 勉強会 | GCU | | 8月29日 | 17:30～18:30 | 病棟カンファレンスルーム | 9 | 看護倫理 | 森脇・佐竹・森本 |
| 勉強会 | GCU | | 9月18日 | 17:30～18:30 | 病棟カンファレンスルーム | 8 | ラダーⅢ以上対象 デベロッパメンタルケア | 伊達CN |
| 勉強会 | GCU | | 9月19日 | 17:30～18:30 | 研修室D | 12 | 1年目対象 第2回救急蘇生 | 岩本・田口・森岡・小松 |
| 勉強会 | GCU | | 10月17日 | 17:30～18:30 | 病棟カンファレンスルーム | 10 | 1年目対象 CLDの看護 | 伊達CN |
| 勉強会 | GCU | | 10月20日 | 17:30～18:30 | 研修室C | 10 | ラダーⅡ勉強会 輸血療法時の看護 | 森脇 |
| 勉強会 | GCU | | 11月28日 | 17:30～18:30 | 病棟カンファレンスルーム | | ラダーⅡ勉強会 心疾患のある児の看護 | 佐竹 |
| 勉強会 | GCU | | 1月 | 17:30～18:30 | 病棟カンファレンスルーム | | ラダーⅠ勉強会 | 古賀 |
| 勉強会 | GCU | | 2月5日 | 17:30～18:30 | 本館4階 | | 救急蘇生勉強会 | N:和久/森脇・大川・日高 |
| 勉強会 | GCU | | 3月4日 | 17:30～18:30 | 病棟カンファレンスルーム | | ラダーⅠ勉強会 | 高瀬・辻本・尾上 |
| 勉強会 | NICU・GCU | | 5月27日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 26 | 周産期医療入門～元気な赤ちゃんを育てよう～ | 芳本医師 |
| 勉強会 | NICU・GCU | | 7月3日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 41 | 感染について | 溝淵医師・福田 |
| 勉強会 | NICU・GCU | | 7月23日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | | 最新の新生児看護について | 伊達CN |

| | | | | | | | |
|-------|----------|--------|-------------|--------|----|-------------------|--------------|
| 勉強会 | NICU・GCU | 9月17日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 13 | 呼吸器について | 和久 |
| 勉強会 | NICU・GCU | 10月22日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 33 | 循環器疾患について | 田中医師 |
| 勉強会 | NICU・GCU | 12月16日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 27 | 退院支援 | 藤定・平井し |
| 勉強会 | NICU・GCU | 1月20日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 29 | 内分泌について | 和田医師 |
| 勉強会 | NICU・GCU | 2月24日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | | 看護手順について | 段野 |
| 勉強会 | 産科病棟 | 7月18日 | 15:30～16:30 | 病棟・手術室 | 20 | 超緊急帝王切開シミュレーション | 永柴・寺嶋・谷口ち |
| 勉強会 | 産科病棟 | 9月 | 15:30～16:00 | 病棟・手術室 | 20 | 手術室見学ツアー | 瀬尾・寺嶋 |
| 勉強会 | 産科病棟 | 11月20日 | 15:30～16:30 | 病棟・手術室 | 14 | 超緊急帝王切開シミュレーション | 永柴・谷川・寺澤 |
| 勉強会 | 産科病棟 | 1月21日 | 17:30～18:30 | 外来指導室 | 15 | RCA勉強会 | 永柴・寺澤・谷川 |
| 勉強会 | 産科病棟 | 2月6日 | 17:30～18:30 | 分娩室 | 14 | 救急蘇生 | 瀬尾・南谷Dr・喜吉Dr |
| 勉強会 | 産科病棟 | 2月13日 | 17:30～18:30 | 外来指導室 | 20 | 切迫早産の管理について | 瀬尾・船越Dr |
| 新人勉強会 | 産科病棟 | 4月9日 | 15:00～16:00 | 処置室 | 7 | エコー勉強会 | 大亀・南谷Dr |
| 新人勉強会 | 産科病棟 | 5月12日 | 15:00～16:00 | 外来指導室 | 6 | 乳房ケアの基礎 | 網干 |
| 新人勉強会 | 産科病棟 | 5月22日 | 15:00～16:00 | 外来指導室 | 11 | 帝王切開勉強会 | 津田・島山 |
| 新人勉強会 | 産科病棟 | 6月17日 | 17:30～18:30 | 分娩室 | 10 | 経膈分娩時のベビーキャッチについて | 荒川 |

| | | | | | | | |
|----------------|------|---------------------------|--------------------|-----------|----|--------------------|---------------|
| 新人勉強会 | 産科病棟 | 7月24日 | 17:30～19:30 | 分娩室 | 7 | 分娩介助（直接介助について） | 木村・中埜 |
| 新人勉強会 | 産科病棟 | 8月26日 | 17:30～18:30 | 外来指 導室 | 7 | 輸血療法について | 木村・中埜 |
| 新人勉強会 | 産科病棟 | 10月31日 | 17:30～18:50 | 外来指 導室 | 9 | グリーンケアについて | 瀬尾・池口 |
| 新人勉強会 | 産科病棟 | 11月29日 | 17:30～18:30 | 処置室 | 5 | 抗生投与シミュレーション | 瀬尾・日浅・ 大亀 |
| 新人勉強会 | 産科病棟 | 12月26日 | 17:30～18:30 | 外来指 導室 | 7 | 入院受け・羊水穿刺オリエンテーション | 木村・中埜 |
| 新人勉強会 | 産科病棟 | 2月3日 | 17:30～18:30 | 外来指 導室 | 10 | PIH病態勉強会 | 大亀・金 子Dr |
| 新人勉強会 | 産科病棟 | 2月23日 | 17:30～18:30 | 外来指 導室 | 10 | PIH看護勉強会 | 木村・中埜・ 金山 |
| 心外・開心オリエンテーション | 手術室 | ①4月28日 ②5月9日 ③5月13日 | ①②③ 14:30～16:00 | 手術室 | 5 | 開心オリエンテーション | Aチーム |
| 心外・開心シミュレーション | 手術室 | 5月15日 | 13:00～15:00 | 手術室 | 5 | カニュレーションシミュレーション | Aチーム |
| 新人オリエンテーション | 手術室 | 5月15日 | 10:30～11:30 | 手術室 | 5 | 手術室についていっばい器械があるね | 教育・ME |
| 新人オリエンテーション | 手術室 | 5月16日 | 9:30～10:30 | 手術室 | 9 | 洗浄・消毒・滅菌 | 宮野医療器 |
| 新人オリエンテーション | 手術室 | 5月29日 | 15:00～16:00 | 手術室 | 2 | 斜視器械出し | Aチーム |
| 側彎器械 | 手術室 | 6月9日 | 16:30～17:00 | 手術室 | 8 | 側彎手術使用器械を理解する | サージカルス パイン |
| 家族看護 | 手術室 | 7月10日 | 17:00～18:00 | 手術室 | 15 | 手術を受ける患児の家族への看護 | 浅井CNS |
| 新人オリエンテーション | 手術室 | 7月18日 | 15:30～16:30 | 手術室 | 5 | 超緊急カイザーシミュレーション | Aチーム |

| | | | | | | | |
|---------------|-----|----------|-------------|-----|----|--------------------------|--------------|
| ラテックスアレルギー勉強会 | 手術室 | 7月25日 | 17:30～18:30 | 手術室 | 12 | ラテックスアレルギー | JMS |
| 内反足勉強会 | 手術室 | 8月21日 | 17:00～17:30 | 手術室 | 11 | 内反足について | Aチーム 衣笠 |
| 新人オリエンテーション | 手術室 | 9月16日 | 14:00～16:00 | 手術室 | 2 | 斜視外回り | Aチーム |
| マイマスク運動 | 手術室 | 10月2日・3日 | 16:00～17:15 | 手術室 | 14 | 「マイマスクとは」 「マイマスク導入にあたって」 | Bチーム |
| 家族看護 | 手術室 | 10月24日 | 17:00～17:30 | 手術室 | 12 | 家族看護カンファレンス① | Bチーム |
| 新人オリエンテーション | 手術室 | 11月13日 | 15:00～16:00 | 手術室 | 5 | 白内障器械出し | Aチーム |
| 伝達講習 | 手術室 | 12月5日 | 17:00～17:30 | 手術室 | 12 | 新人の置かれている教育環境・新人について | 三好 |
| 術後訪問 | 手術室 | 12月11日 | 17:00～17:15 | 手術室 | 23 | 術後訪問について | Aチーム |
| 腹腔鏡勉強会 | 手術室 | 12月12日 | 17:00～17:30 | 手術室 | 11 | 腹腔鏡使用器械準備使用方法説明 | 八光 |
| 家族看護 | 手術室 | 12月15日 | 17:00～18:00 | 手術室 | 12 | 家族看護カンファレンス② | Bチーム、 CNS |
| 腹腔鏡勉強会 | 手術室 | 12月17日 | 17:00～17:30 | 手術室 | 12 | 腹腔鏡使用器械準備使用方法説明 | コビディエン |
| 臓器提供勉強会 | 手術室 | 1月15日 | 17:00～18:00 | 手術室 | 9 | 臓器提供について | 橋口 |
| 記録勉強会 | 手術室 | 1月30日 | 17:00～17:20 | 手術室 | 10 | 看護基準 | 橋口 |
| 家族看護 | 手術室 | 2月27日 | 16:45～17:45 | 手術室 | 17 | 家族看護カンファレンス③ | Bチーム、 CNS |
| 勉強会 | 外来 | 5月19日 | 16:30～17:00 | | 5 | 糖尿病の子どもと家族の看護 | 泊看護師 |

| | | | | | | | |
|-----|------|------------------|-------------|-------|----|----------------------------------|--------------|
| 勉強会 | 外来 | 5月26日 | 16:25～17:15 | | 10 | 看護相談外来の役割と実際 | 泊看護師 |
| 勉強会 | 外来 | 6月2日 | 17:50～18:55 | | 12 | 最新の糖尿病治療：インスリンポンプ | 業者 |
| 勉強会 | 外来 | 11月13日 | 17:30～18:30 | | 30 | MRIの安全管理 CT造影剤 | 放射線技師・ 業者 |
| 勉強会 | 外来 | 12月4日 | 16:30～17:30 | | 7 | 移植をうけた子どもと家族の看護 血友病 ノバクトM製剤説明 | 小児看護師・ 業者 |
| 勉強会 | 救急病棟 | 1月27日 | 17:30～18:30 | 救急病棟 | 22 | ECMOシミュレーション | 担当チーム |
| 勉強会 | 救急病棟 | 5月14日 5月20日 | 17:30～18:30 | 救急病棟 | 30 | 鎮痛・鎮静勉強会 | 吉村・藤原 |
| 勉強会 | 救急病棟 | 7月29日 | 8:30～12:30 | 救急病棟 | 6 | PICU勉強会「呼吸」 | 藤原 |
| 勉強会 | 救急病棟 | 11月7日 11月18日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 10 | 救急病棟スキルトレーニング「外傷」 | 看護師長補佐 |
| 勉強会 | 救急病棟 | 11月7日 11月18日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 12 | 救急病棟スキルトレーニング「外傷」 | 看護師長補佐 |
| 勉強会 | 救急病棟 | 11月29日 12月10日 | 17:30～18:30 | 研修室AB | 8 | 救急病棟スキルトレーニング「外傷」 | 看護師長補佐 |

| | | | | | | | |
|-----|------|--------|-------------|-----|----|------------------|------|
| 勉強会 | 救急病棟 | 6月11日 | 18:00～19:00 | 初療室 | 15 | 初療シミュレーション (痙攣) | Aチーム |
| 勉強会 | 救急病棟 | 6月18日 | 18:00～19:00 | 初療室 | 18 | 初療シミュレーション (痙攣) | Aチーム |
| 勉強会 | 救急病棟 | 7月16日 | 18:00～19:00 | 初療室 | 19 | 初療シミュレーション (外傷) | Aチーム |
| 勉強会 | 救急病棟 | 7月24日 | 18:00～19:00 | 初療室 | 18 | 初療シミュレーション (外傷) | Aチーム |
| 勉強会 | 救急病棟 | 8月7日 | 18:00～19:00 | 初療室 | 24 | 初療シミュレーション (外傷) | Aチーム |
| 勉強会 | 救急病棟 | 8月20日 | 18:00～19:00 | 初療室 | 18 | 初療シミュレーション (外傷) | Aチーム |
| 勉強会 | 救急病棟 | 9月4日 | 18:00～19:00 | 初療室 | 19 | 初療シミュレーション (CPA) | Aチーム |
| 勉強会 | 救急病棟 | 9月17日 | 18:00～19:00 | 初療室 | 24 | 初療シミュレーション (CPA) | Aチーム |
| 勉強会 | 救急病棟 | 10月8日 | 18:00～19:00 | 初療室 | 11 | 初療シミュレーション (痙攣) | Aチーム |
| 勉強会 | 救急病棟 | 10月23日 | 18:00～19:00 | 初療室 | 18 | 初療シミュレーション (痙攣) | Aチーム |
| 勉強会 | 救急病棟 | 12月4日 | 18:00～19:00 | 初療室 | 19 | 初療シミュレーション (外傷) | Aチーム |
| 勉強会 | 救急病棟 | 12月17日 | 18:00～19:00 | 初療室 | 20 | 初療シミュレーション (外傷) | Aチーム |
| 勉強会 | 救急病棟 | 1月8日 | 18:00～19:00 | 初療室 | 19 | 初療シミュレーション (外傷) | Aチーム |
| 勉強会 | 救急病棟 | 2月5日 | 18:00～19:00 | 初療室 | 19 | 初療シミュレーション (外傷) | Aチーム |
| 勉強会 | 救急病棟 | 2月18日 | 18:00～19:00 | 初療室 | 24 | 初療シミュレーション (外傷) | Aチーム |

| | | | | | | | |
|--|---------|--------|-------------|-------|-------|----------------------------|---------|
| 勉強会 | 救急病棟 | 6月24日 | 17:30～18:30 | 救急病棟 | 11 | 呼吸器「SIPAPの基礎知識」勉強会 | 金子 |
| 全病棟（リーダークラス）の看護師を対象としたデジタルアセスメント・救急蘇生勉強会 | 看護部 | 8月7日 | 17:30～18:50 | 研修室AB | 15名程度 | デジタルアセスメントについて 救急蘇生について | 藤原健太 |
| | | 9月4日 | 17:30～19:00 | | | | |
| 看護補助者研修 | 看護師長補佐会 | 7月25日 | 13:45～14:30 | 研修室AB | 16 | 守秘義務・接遇・倫理 | 平井/大納 |
| 看護補助者研修 | 看護師長補佐会 | 7月30日 | 13:45～14:30 | 研修室AB | 15 | 守秘義務・接遇・倫理 | 平井/大納 |
| 看護補助者研修 | 看護師長補佐会 | 9月22日 | 13:45～14:30 | 研修室AB | 15 | 感染防止 | 鳴滝CN/坂本 |
| 看護補助者研修 | 看護師長補佐会 | 9月26日 | 13:45～14:30 | 研修室AB | 13 | 感染防止 | 鳴滝CN/坂本 |
| 看護補助者研修 | 看護師長補佐会 | 11月5日 | 13:45～14:30 | 研修室AB | 15 | 特殊浴室の介助 | 東谷 |
| 看護補助者研修 | 看護師長補佐会 | 11月25日 | 13:45～14:30 | 研修室AB | 11 | 特殊浴室の介助 | 東谷 |
| 看護補助者研修 | 看護師長補佐会 | 1月7日 | 13:45～14:30 | 研修室AB | 16 | 患者確認・移動・移送 | 大納 |
| 看護補助者研修 | 看護師長補佐会 | 1月26日 | 13:45～14:30 | 研修室AB | 18 | 患者確認・移動・移送 | 大納 |
| 看護補助者オリエンテーション | 感染対策委員会 | 2月3日 | 11:15～12:00 | 看護部長室 | 1 | 感染対策の基本 | 鳴滝由佳 |
| 看護補助者オリエンテーション | 感染対策委員会 | 2月17日 | 11:15～12:00 | 研修室AB | 3 | 感染対策の基本 | 鳴滝由佳 |
| 看護補助者オリエンテーション | 感染対策委員会 | 3月31日 | 11:00～11:45 | 研修室AB | 3 | 感染対策の基本 | 鳴滝由佳 |
| 看護補助者オリエンテーション | 感染対策委員会 | 4月16日 | 11:00～11:45 | 研修室A | 2 | 感染対策の基本 | 鳴滝由佳 |

| | | | | | | | |
|----------------|---------|--------|-------------|-------|----|-------------|--------------|
| 看護補助者オリエンテーション | 感染対策委員会 | 5月1日 | 11:00～11:45 | 研修室C | 1 | 感染対策の基本 | 鳴滝由佳 |
| 看護補助者オリエンテーション | 感染対策委員会 | 6月2日 | 11:00～12:00 | 研修室C | 1 | 感染対策の基本 | 鳴滝由佳 |
| 看護補助者オリエンテーション | 感染対策委員会 | 7月1日 | 11:00～12:00 | 研修室B | 1 | 感染対策の基本 | 鳴滝由佳 |
| 看護補助者オリエンテーション | 感染対策委員会 | 9月1日 | 15:30～16:30 | 研修室AB | 1 | 感染対策の基本 | 鳴滝由佳 |
| 看護補助者オリエンテーション | 感染対策委員会 | 11月17日 | 15:45～16:30 | 看護部長室 | 1 | 感染対策の基本 | 鳴滝由佳 |
| 保育士対象感染対策勉強会 | 感染対策委員会 | 7月16日 | 14:15～15:00 | 7F食堂 | 6 | 感染対策の基本 | 鳴滝由佳 |
| 感染管理ミニレクチャー | 看護部 | 9月25日 | 15:30～15:50 | 研修室C | 17 | 病原微生物について | 鳴滝由佳 |
| 感染管理ミニレクチャー | 看護部 | 10月23日 | 15:30～15:50 | 研修室C | 17 | 抗菌薬について | 鳴滝由佳 |
| 感染管理ミニレクチャー | 看護部 | 11月27日 | 15:30～15:50 | 研修室C | 17 | 培養結果の見方について | 鳴滝由佳 |
| 感染管理ミニレクチャー | 看護部 | 12月25日 | 15:30～15:50 | 研修室C | 17 | 消毒薬について | 福田理香 鳴滝由佳 |
| トライやるウィーク 講習 | 看護部 | 11月13日 | 9:30～11:00 | 研修室AB | 9 | 感染予防講習 | 鳴滝由佳 |

V ボランティア

ボランティア受け入れ状況 (2014年)

ボランティアの状況

| ボランティア名 | 内容 | 活動人数 | 活動日 | 活動場所 |
|-------------------------------|---|------|-------|--------------------|
| 神戸市生活指導研究会 こども病院ボランティアグループ | 看護用品、医療材料、保育材料の作成 | 19 | 毎週月・金 | ボランティア室で毎回3名が交代で活動 |
| こども病院ボランティアグループ | 子どもの遊び相手、本の読み聞かせ、 外来での患者・家族の受診介助(案内・移動の介助) | 14 | 毎週月～金 | 病棟・外来 |

イベントボランティアの状況

| | | | | |
|----------------------------------|--|-----|------------------|-----------------------------|
| アロマセラピー | 妊産褥婦のリラクゼーションセラピーマーマッサージ (代表: 田中 美早) | 22名 | 11回 | 産科外来 |
| クリニックラウン | 笑いやユーモアを届けるコミュニケーション (NPO法人日本コミュニケーション協会) | 12名 | 6回/年 | 本館病棟・HCU・外来 |
| ストリートオルガン演奏 | 外来待合フロアでの演奏 (演奏: 洲尾 佳栄) | 1名 | 20回 | 内科外来受付前 |
| NPO ここに劇場こうバママ | 人形劇「こうバママがやってくる」 | 6名 | 5月15日 | 4F・7F病棟プレイルーム |
| 神戸女子大学キッズリーダー部 | 紙人形劇「たなばた」 (代表: 清水 絵里香) | 10名 | 7月3日 | 研修室 AB |
| NPO 兵庫県こども文化振興協会 | てんたん人形劇場「たっかた」 他人形劇 (代表: 宮武 裕美) | 6名 | 7月22日 7月23日 | 本館病棟プレイルーム (7F・6F・5F・4F) |
| 神戸大学児童文化研究会 | 人形劇「だれのだるろう?」 | 9名 | 9月9日 | 研修室 AB |
| フルートコンサート | フルートとピアノの調べ (代表: 竹内 倫美子) | 2名 | 10月29日 | 周産期センター玄関ホール |
| NPO 兵庫県こども文化振興協会 | 北島愛子のおりがみ劇場 | 5名 | 11月18日 11月19日 | 本館病棟プレイルーム (7F・6F・5F・4F) |
| クリスマスコンサート (神戸ハーバーライオンズクラブ主催) | 歌と音楽コンサート (代表: 桂田 秀子) | 12名 | 12月11日 | 周産期センター玄関ホール |

| | | | | |
|---|-------------------------------------|-----|----------------|----------------------------|
| 神戸女子大学キッズリーダー部 | 紙人形劇「みんなのクリスマスツリー」 (代表：清水 絵里香) | 20名 | 12月24日 | 研修室 AB |
| LINE サンタクロース | クリスマスパーティー at 兵庫県立こども病院 | 4名 | 12月25日 | 研修室 AB |
| バルーンアート (神戸須磨ロータリークラブ主催) (神戸女子大学 RAC・滝川高校 IAC 協力) | 奉仕戦隊アクトレンジャー 「みんなでバルーンアートをたのしもう」 | 30名 | 3月9日 | 研修室 AB |
| 院内コンサート (音楽療法士主催) | みんないっしょに音楽会 | 4名 | 3月17日 | 研修室 AB |
| NPO 兵庫県こども文化振興協会 | 絵本パフォーマンス (代表：宮武 裕美) | 5名 | 3月22日 3月23日 | 本館棟プレイルーム (7F・6F・5F・4F) |